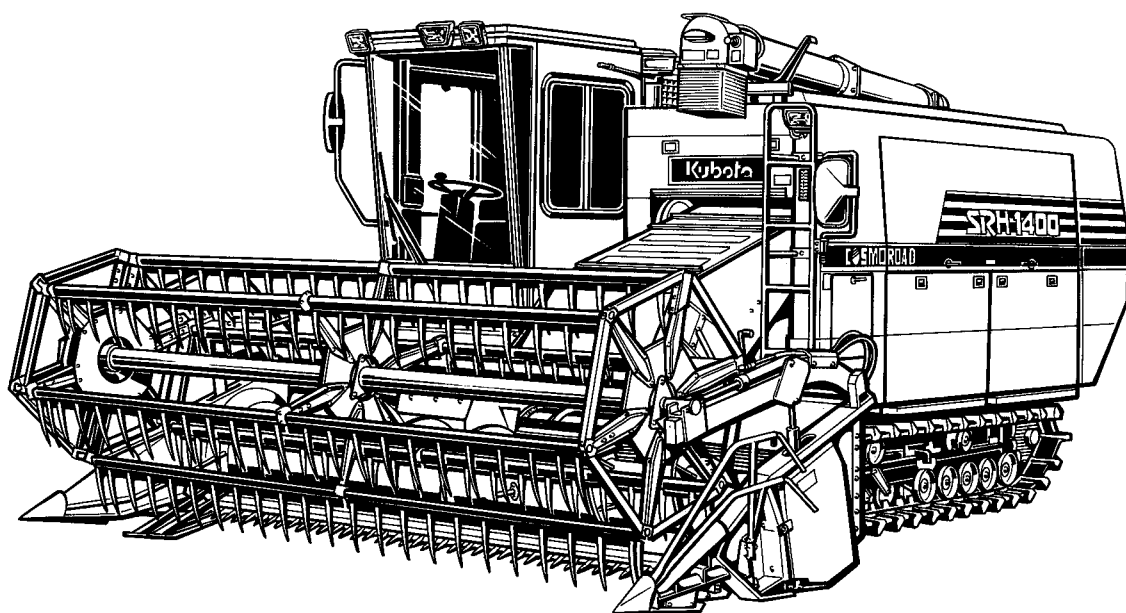


クボタ 大型汎用 コンバイン

取扱説明書

コスモロード SRH1400



M-7781



ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので、よく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

1 	ヘッドランプ+車幅灯点灯		燃料計
2 	ヘッドランプ+車幅灯+作業灯点灯		水温計
	ホーン(警笛)		エンジン回転数 “低速”
	ウィンカの操作方向		エンジン回転数 “高速”
	ウィンカの作動と点滅を示す		アンローダの移動方向、車高調整の方向
	エンジンオイルランプ(エンジン油圧)		シガレットライター
	ワイパ		

専門用語の説明

Rヘッダ	……………	自脱形コンバインのように作物を引起した後、株元を約23cmカット（2段刈り）し、こぎ胴負荷を下げることでできる刈取部
アンローダ	……………	グレンタンクからこく粒を排出する筒・排出装置の総称
イージーチェツカ	……………	詰まりなどのトラブルの箇所を表示する部分
1 番	……………	選別部で精選されたこく粒及びその搬送体
HST	……………	油圧式の無段変速装置
オーガ(プラットホームオーガ)	…	円筒にラセンを巻いてある部品。刈取った作物を中央へ寄せフィーダへ供給する部分
グレンシーブ	……………	こく粒を精選するあみ
グレンタンク	……………	こく粒を一時的に貯留するタンク
こぎ胴	……………	脱こくするドラム
こぎ残し	……………	こぎ胴から排出されるこく粒損失のうち穂に残っているこく粒
コンケーブ	……………	こぎ胴の下方にある受あみ
ササリロス	……………	こぎ胴から排出されるこく粒損失のうちワラの中にさきついているこく粒

シーブケース	…………… 揺動運動してこく粒を搬送しながら選別する装置
主変速レバー	…………… “前進” “後進” の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
ステアリングハンドル	…………… 左右のHSTを操作するハンドル
スピントーン	…………… 左右のクローラが互いに反対方向に駆動される旋回
送ジン弁	…………… こぎ胴での脱こく力を調節する板 脱こくしにくい作物は“閉”側に、脱こくしやすい作物は“開”側に調節する。
ソフトターン	…………… 左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
タイン	…………… リールに取付けられている樹脂製の黒い爪
チャフシーブ(チャフ)	…………… コンケーブから漏下したこく粒とワラくずを粗選する棧状の板
チョツパ	…………… こぎ胴から排出されるワラを碎断し、拡散又は集草する装置
ツインカッタ	…………… 立毛している作物を高刈りしたとき、残稈を切断する装置
出入りフィンガ	…………… オーガの中央部にある、出入りするかき込み棒
デバイダ	…………… こく稈を分けすくい上げる部分
トウミ	…………… 選別風を発生させるファン
ドレーン(プラグ)	…………… エンジンオイルなどの排油栓、及びラジエータの水を抜く栓
2 番	…………… 1 番に回収されなかったこく粒と、機外に排出されなかったワラくず及びその搬送体。再度選別最前部に還元される。
バケットコンベア	…………… 1 番をグレンタンクへ搬送する、バケットカップ付きチェーンコンベア
飛散又はチャフロス	…………… 選別部から排出されるこく粒損失
フィーダ	…………… オーガと脱こく部との間のチェーンと搬送板が回転している部分
副変速スイッチ	…………… 走行速度の最高を切換えるスイッチ
ブレーキターン	…………… 片方のクローラの回転がゼロとなる旋回
ヘッドロス	…………… 刈取部でのこく粒損失
モンロー	…………… 自動車体水平制御又はその構造
リール	…………… 刈取部最前部で回転して作物を引起こす六角形状の部分

は じ め に

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

▲ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合は購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危 険

： 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警 告

： 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注 意

： 注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重 要

： 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足

： その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦及び大豆・ソバなどのこく類の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細はサービスブックをご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

なお、説明はSRH1400-CBSを基本としています。

区 分		SRH1400 —CB	SRH1400 —CBS	SRH1400 —CBST	SRH1400 —CBST3.0	SRH1400 —CBRS
刈 取 部	3.6m リールヘッダ	●	●	●	—	—
	3.0m リールヘッダ	—	—	—	●	—
	10条Rヘッダ	—	—	—	—	●
主 要 装 備	キャビン	●	●	●	●	●
	1 番スクリュ	—	—	—	—	—
	1 番バケット コンペア	●	●	●	●	●
	排じんカバー	●	—	—	—	—
	チョツパ (拡散機能付)	—	●	●	●	●
	ツインカッタ (セカンドモア)	—	—	●	●	—
制 御 装 置	車体水平制御	●	●	●	●	●
	刈高さ制御	●	●	●	●	●
	リール回転数 制御	●	●	●	●	—
	脱こく選別制御	●	●	●	●	●
	アンローダ 自動旋回	●	●	●	●	●
	自己診断	●	●	●	●	●

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため、この取扱説明書は次の手順で構成されていますので、安全確保から格納まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1. **▲安全に作業するために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し、必ず守ってください。

動かす前に走行装置を理解しましょう

2. **走行装置の名称と使い方：**走行に必要な諸装置のはたらきをまず理解し、間違った操作をしないでください。

エンジンの基本操作を体得しましょう

3. **エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため、エンジンの始動手順と停止を体得してください。

コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

4. **コンバインの走行と輸送：**

安全に機体を前進・後進・停車させる基本操作を体得してください。また、コンバインをほ場へ安全に移動させるため、トラックへの安全な積み込み・積降しと輸送方法を理解し、必ず守ってください。

作業装置を理解しコンバインの性能を最大に発揮させましょう

5. **作業装置の名称と使い方：**作業に必要な諸装置のはたらきと扱いかたを体得してください。

6. **各部のオープン：**カバーなどの開閉及び取付け取外しのしかたを覚えてください。

7. **作物に応じた機械の準備：**作業に入る前に収穫する作物に応じた調整や部品交換をしましょう。

作業前に機械の健康診断をしましょう

8. **日常点検：**作業中のトラブル防止のため、毎作業前の点検内容を理解し、必ず実施してください。

では実際には場で刈取り作業を始めてみましょう

9. **収穫作業のしかた：**安全で正しい刈取り作業を体得してください。

コンバインがもしもの不調のときは

10. **作業中のトラブル：**異常や故障かな？と思われたとき、現象に応じて、処置をしてください。

よく働いた機械をいたわりましょう

11. **定期点検（メンテナンス）：**機械を長持ちさせるために、定期点検の要領を理解・実施してください。

12. **格納：**刈取りが終了すれば、清掃し来シーズンに備えましょう。

目 次

▲安全に作業するために…… ▲-1

1. 安全作業をするため次のことから
を必ず守ってください。 …… ▲-1
2. ▲表示ラベルと貼付け位置 …… ▲-14
3. ▲表示ラベルの手入れ …… ▲-24

1. サービスと保証について ……	1
ご相談窓口 ……	1
機体方向説明 ……	2

2. 走行装置の名称と使い方 …… 3

運転席回り ……	4
メータパネル ……	4
レベルメータ・切換えスイッチ ……	5
コンバインメータ ……	6
イージーチェッカ ……	7
コンビネーションスイッチ ……	8
シガレットライタ・灰皿 ……	9
副変速スイッチ ……	9
主変速レバー ……	10
ホーン ……	10
ステアリングハンドル ……	11
アクセルレバー ……	11
駐車ブレーキペダル ……	12
メインスイッチ ……	12
シート ……	13
チルトハンドル（レバー） ……	14
キャビン装備品 ……	15
ドア ……	15
ルームランプ ……	16
ワイパ・ウォッシャスイッチ ……	16
ヒータ ……	17
クーラ ……	18
AM/FMラジオ付きカセットデッキ ……	19

3. エンジンの始動と停止 …… 23

運転席への乗り降りのしかた ……	23
エンジンの始動 ……	23
エンジンの停止 ……	24

4. コンバインの走行と輸送 …… 25

走行前の準備 ……	25
走行 ……	27
停車・駐車 ……	28
輸送 ……	29
トラックなどの準備 ……	29
コンバインの準備 ……	29
トラックへの積み方・降し方 ……	30
刈取部の移動 ……	30
トラック上での処置 ……	31

5. 作業装置の名称と使い方 …… 32

サイドパネル ……	32
アンローダクラッチスイッチ ……	33
刈取りクラッチスイッチ ……	33
脱こくクラッチスイッチ ……	34
切換えスイッチ ……	34
送じん弁手動スイッチ ……	34
自動脱こく制御装置 ……	35
自動リール回転数制御装置 ……	36
自動刈高さ制御装置 ……	38
刈取りオートクラッチ装置 ……	39
リール昇降スイッチ【R仕様を除く】 ……	39
リールの下降ロックのしかた ……	39
アンローダ自動旋回装置 ……	40
自動車体水平制御(マジカルモンロー) ……	41
ポジピタスイッチ ……	42
刈取部昇降スイッチ ……	42
刈取部の下降ロックのしかた ……	42

6. 各部のオープン …… 43

エンジンルームオープン ……	43
ラジエータカバーオープン ……	43
グレンタンクオープン ……	44
こぎ胴天板オープン ……	45
脱こく左サイドカバーオープン ……	46
チョッパオープン ……	46

7. 作物に応じた機械の準備	48
稲・麦刈り↔ソバ刈り↔大豆刈りの 切換え	48
作物に応じた準備	48
その他の準備	48
こぎ胴回転数	50
コンケーブ	50
脱こく駆動ベルト	51
もみセンサの配線	51
チャフシートの角穴カバー	52
リヤチャフ	52
グレンシート	53
1 番バケットケース底カバー	53
1 番スクリュ底ケースカバー	
2 番スクリュ底ケースカバー	54
2 番受刃	54
2 番底フタ	55
大豆刈りでキズ・ワレが多いとき	55
タイン	56
オーガドラムスプロケット	57
オーガのラセンと底板のすき間	57
オーガ底カバー・フィーダ底カバー	58
アンロード支え	58
プレクリーナ	59
チョツパ	59
デバイダ	61
左分草かん	61
こく粒排出量の調整	62
8. 日常点検	63
日常点検項目	63
エンジンオイルの量	64
ラジエータ冷却水量	64
セバレータの水の排出	65
プレクリーナの清掃	65
油圧オイルの量	66
注油	66
燃料の点検	68
イージーチェッカ・レベルメータの 点検	68
ホーンの点検	68
ランプ類の点検	69
バックブザーの点検	69

9. 収穫作業のしかた	70
新車時の扱い方	70
初期50時間のならし運転	70
作物とほ場の条件	70
稲・麦刈りの条件	70
大豆刈りの条件	71
ソバ刈りの条件	71
ほ場の条件	71
収穫作業について	72
ほ場への出入り	72
ほ場の手刈り（枕刈り）	72
ほ場のコーナ部の刈取り	73
ほ場内での旋回	74
ほ場の大きさによる刈り方	74
デバイダの使い方	75
こく粒排出作業	75
大豆刈りのしかた	76
ソバ刈りのしかた	76
1 日の作業終了後の処置	77
10. 作業中のトラブル	78
ブザーが鳴る	78
イージーチェッカが点灯	78
燃料切れ	82
水温ランプが点灯	83
油圧ランプが点灯	84
刈取部からの異常音	84
ヒューズ・スローブローヒューズ切れ	85
バッテリーあがり	85
脱こく精度不良と処置	86
11. 定期点検（メンテナンス）	91
油脂・フィルタ類の交換と チェーン・ベルトの張り調整	91
使用済廃棄物の処分について	91
使用者が行なってはいけない修理	91
定期点検一覧表	92
給油(水)の箇所・量・使用オイル一覧表	95
カミンズエンジン用オイル一覧表	96
カミンズ社の推奨するオイル	96
上記のオイルが入手できない場合の 使用可能なオイル	96
50時間ごとに行なう項目	97
エアクリーナエレメント	97

防じんあみ, ラジエータフィン, コンデンサフィン, オイルクーラフィン	97
1 番バケットチェーン	98
フィーダブラケット	98
100時間ごとに行なう項目	99
各駆動ベルト	99
各駆動チェーン	101
クローラ	103
バッテリー	104
フィーダチェーンの調整	105
刈刃	105
250時間ごとに行なう項目	106
エンジンオイルの交換	106
エンジンオイルフィルタカートリッジの 交換	107
ラジエータホース・ドレーンホース	107
燃料ホース	108
油圧オイルフィルタカートリッジの 交換	108
油圧吸入フィルタ	109
ワイヤハーネス, バッテリ⓪コード	109
可動クローラ	110
キャビン内気フィルタの清掃	110
1 番バケットカップ	111
こぎ歯	111
天蓋内側プレートの交換	111
2 番処理羽根・受刃	112
フィンガ軸・フィンガガイドの交換	112
刈刃ロッドエンド	113
切断刃の交換	113
500時間ごとに行なう項目	114
燃料フィルタカートリッジの交換	114
走行ギヤケースのオイル交換	114
カウンタケースのオイル交換	115
油圧オイルタンクのオイル交換	115
HST駆動ケースのオイル交換	116
脱こくギヤケースのオイル交換	116
刈刃駆動ケースのオイル交換	117
受刃の交換	117
こぎ胴ドラム入口羽根の交換	118
750時間ごとに行なう項目	118
コンケーブの交換	118
1 番スクリュ上部羽根の交換	119

2 番縦スクリュ上部羽根の交換	119
1 年ごとに行なう項目	120
グリースアップ・オイル補給	120
2 年ごとに行なう項目	122
冷却水の交換	122

12. 格 納	124
長期格納時の手入れ	124
各部の清掃と補修	124
各種レバー類とその他	124
掃除のしかた	125
空運転の手順	125
掃除口	125
各部の脱着のしかた	127
刈取部	127
シーブケース	128

13. 付 表	130
主要諸元	130
標準付属部品	131
オプション部品(別売品)	132
型式検査(国検)成績表	133
クボタ純オイル	134

安全に作業するために

必ず読んで
ください。

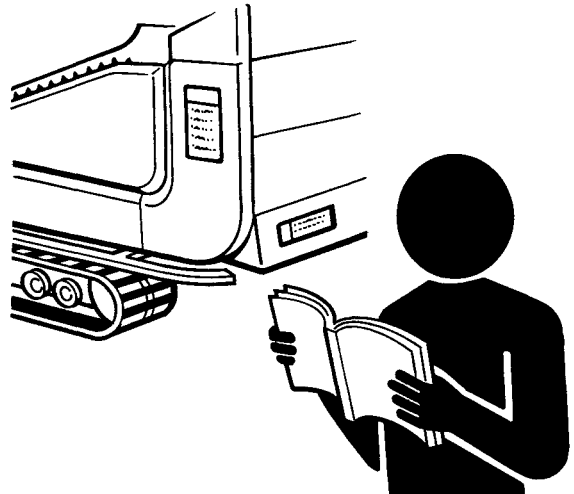
本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で **危険**・**警告**・**注意**・**重要**・**補足** としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。



M-6215

適格者運転

■運転操作には的確な判断が必要です。

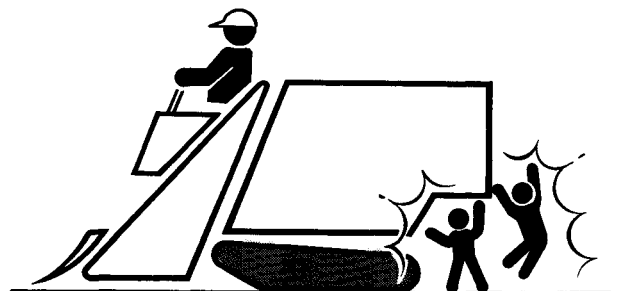
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、16才未満の方、過労、病気の方は使用しないでください。
- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。



M-6216

子供が近づくのは危険

■点検・整備中及び収穫作業中、機械に子供を近づけないでください。みえないところでコンバインにさわったり、かくれたりして危険です。



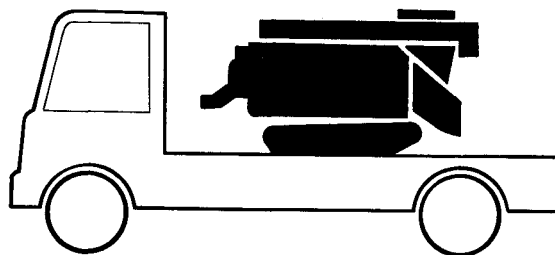
M-6217



安全に作業するために

移動走行

■このコンバインは“道路運送車両法”に適合していないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（“コンバインの走行と輸送”の項参照）してください。



M-6287

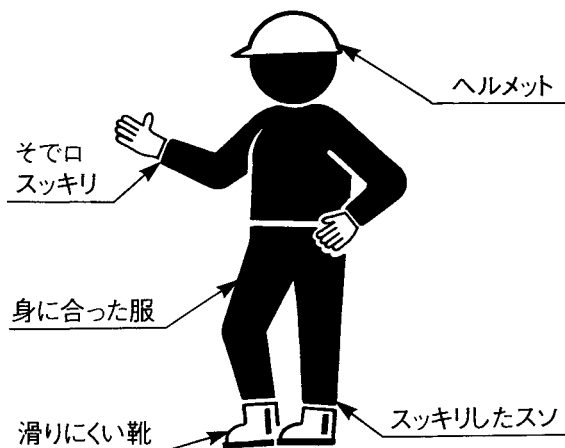
安全な服装

■運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤まって引っ掛かり、ケガをすることがありますのでだぶついた服は、着用しないでください。

また、そで口はきっちりと止めてください。

- はち巻き、首巻き、腰タオルの着用は禁止です。

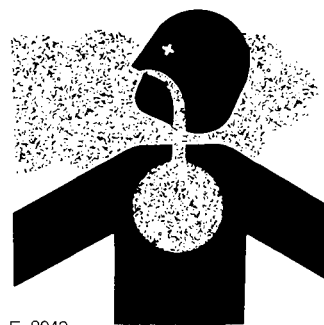


M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気がじゅうぶん入るようにしてください。



F-8842

燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いにはじゅうぶん注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふきとってください。



B-1499

定期点検整備

■1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。

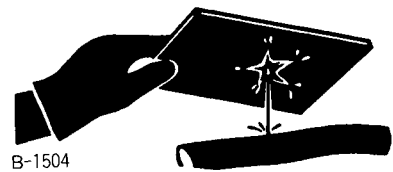
- フューエルパイプ、ラジエータホース、ラジエータドレーンホースは2年ごとに交換してください。（“定期交換”の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（“定期点検”の項参照）

■高圧噴油が皮ふに浸入すると危険です。

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。
- もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医者診断を受けてください。油が皮ふに浸入した場合、数時間以内
に取除かないと壊疽(えそ)にかかるおそれがあります。



F-8847



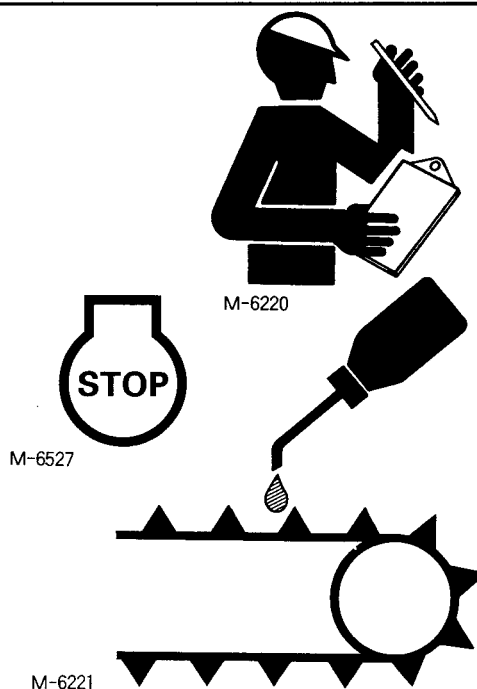
B-1504



安全に作業するために

日常点検の実施

- 運転の前には点検項目（“日常点検”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。
- 点検・整備・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。
- 脱こくクラッチ・刈取りクラッチは“切”にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺にわらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。
- 取外した安全カバー、保護カバーは必ず取付けて作業してください。



機械を動かす場合は安全に注意

- 機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。
- エンジンを始動するときは、運転座席に必ず座って、主変速レバーを“中立”にし、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。



安全なトラック輸送

■積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。

■トラックへの積込み・積降しは、平地を選んで、最低速で行なってください。

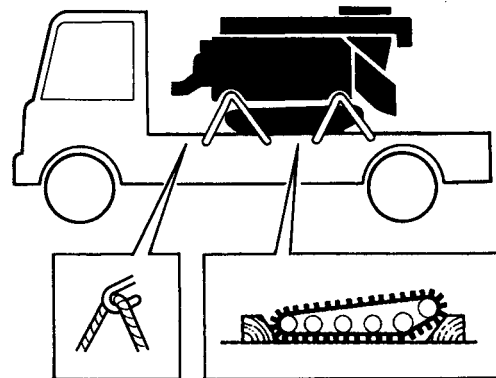
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度がじゅうぶんある基準にあったものを使用してください。
- あゆみ板は平行において、安定していることを確認してください。
- グレンタンク内のもみは空にしておいてください。
- 水平操作レバーで機体を一番下げた状態にしてください。
- 積込みは後進で、積降しは前進で行なってください。
- あゆみ板の途中でステアリングハンドル・副変速スイッチ・駐車ブレーキを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し、再度上り下りし直してください。

■トラックの上では駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかり床に固定します。

- カバー類が開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので、必ず閉じてください。
- グレンタンクのアンローダはアンローダ支えを下げて収納してください。
プレクリーナを“上げ”位置にしてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから、絶対しないでください。



M-6223改



M-6288改

あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	80cm以上
数 量	2枚
強 度	1枚が5700kg以上の重量に耐えうる

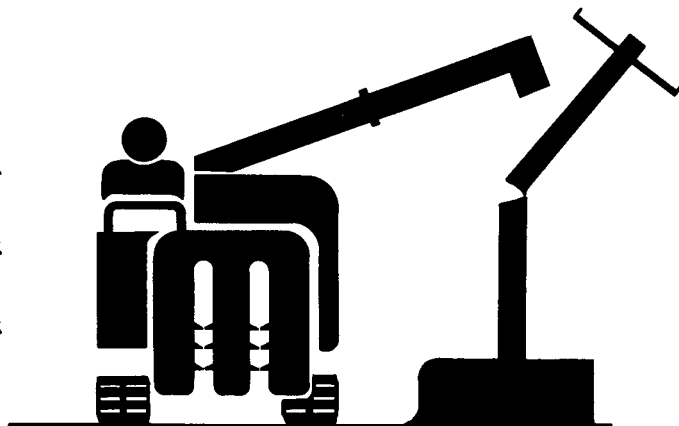


安全に作業するために

安全な移動走行

■左補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してください。
- 各クラッチを切り、運転者のほかは乗らないでください。
- 水平操作レバーで機体を一番下げた状態にしてください。（車高調整）

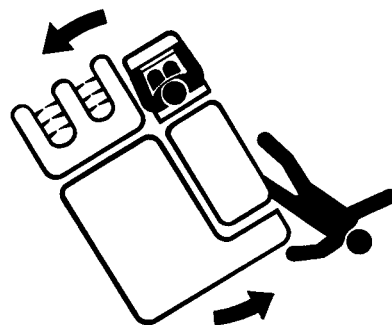


M-6225

高速走行の場合の注意

■高速走行するときに、急激なステアリングハンドルの操作をすると急旋回し危険です。

- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。



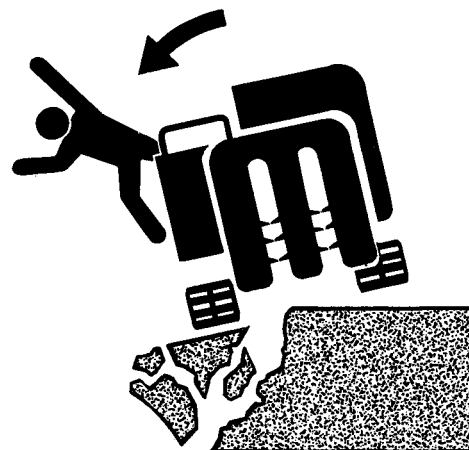
M-6226

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり、コンバインの重みでくずれ場合がありますので、走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると、転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。

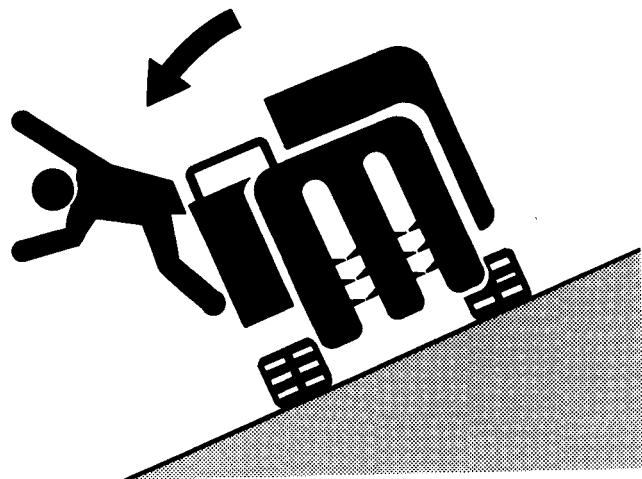
M-6227



■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・副変速スイッチの操作や、ステアリングハンドルを急激に操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。

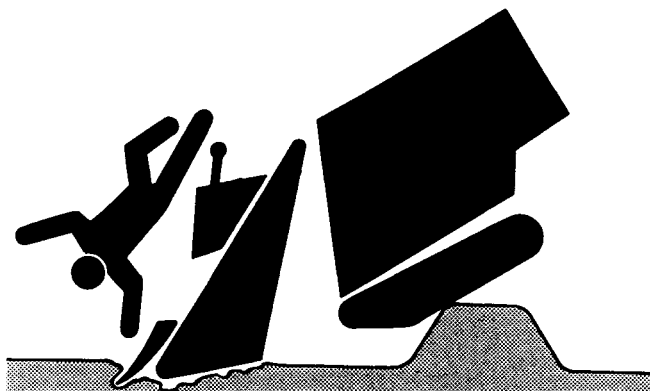
M-6228



■10cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったあゆみ板を使ってください。

- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・副変速スイッチの操作や、ステアリングハンドルを急激に操作はしないでください。

M-6229

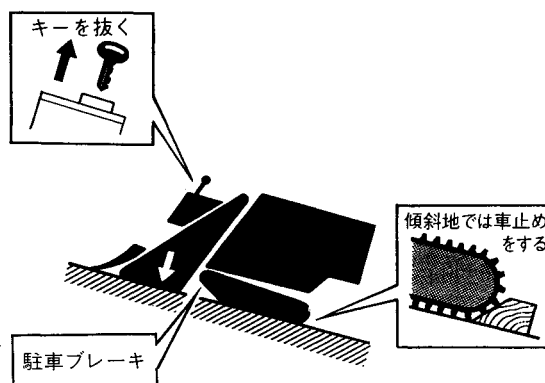




安全に作業するために

安全な駐車のしかた

- 駐車するとき(運転席を離れるとき)は、駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当るまで降し、キーを抜いてください。
- 傾斜地に駐車するときは、車止めをしてください。



M-6230

運転者のほかは搭乗禁止

- 運転者のほかはコンバインに乗せないでください。
- ふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり、とび降りたりしないでください。

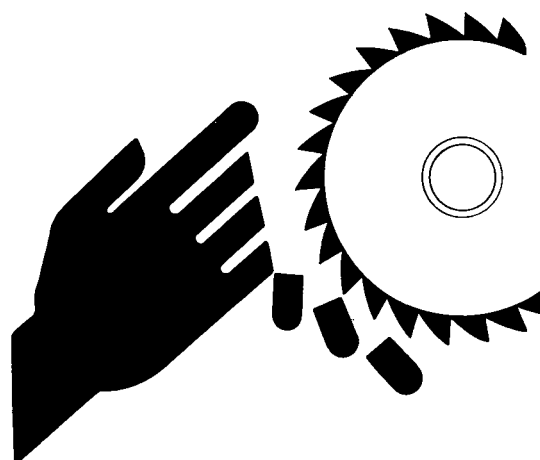


M-6231

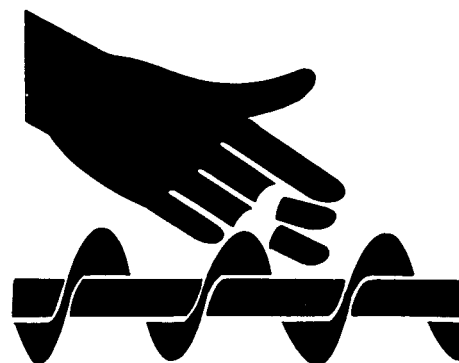
安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くありますので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを必ず止めてください。

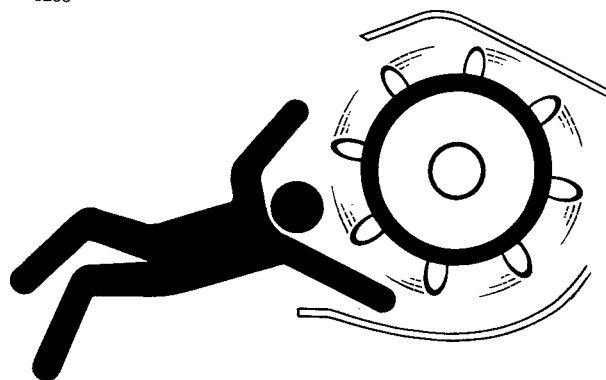


M-6232



M-6233

■こぎ胴天板オープン・エンジンルームオープン・チョップパオープン・グレンタンクオープンをしたままエンジン・脱こく機・チョップパを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また、エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6234

安全に作業するために

共同作業の安全確保

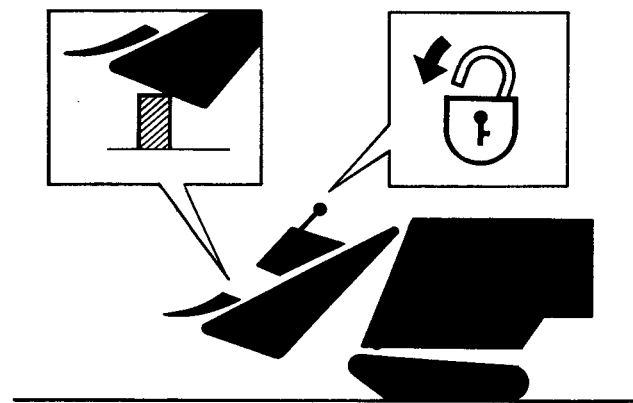
- 補助者は運転席から見えにくい位置にすることがあります。補助者の安全にも配慮してください。
- エンジン始動時、各クラッチを入れるときはホーンで合図し、補助者のOKをもらってください。
- 補助者がコンバインに近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。



M-6236

安全な点検・整備

- 点検・整備は水平で平坦な場所で行なってください。
- エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて、駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の刈刃・チョツパ部の切断刃を交換するときは手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。



M-6237改

火災防止

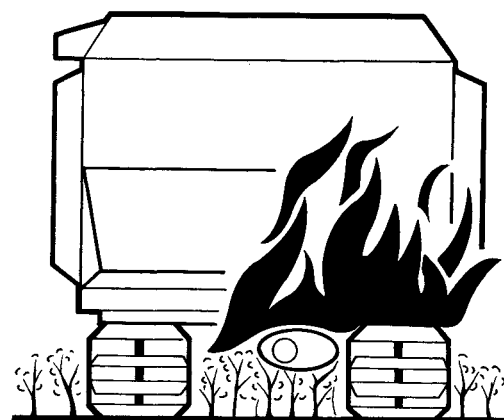
■わらくずは燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリー周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前、作業後に点検しきれいに取除いてください。

- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると、火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生するおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



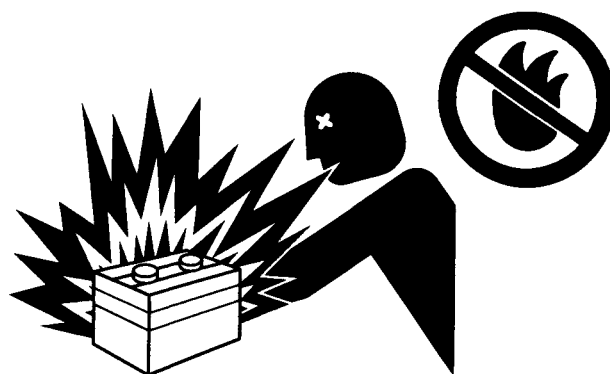
M-6238

バッテリーの取扱い注意

■バッテリーのガスは爆発のおそれがあります。

- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。

■バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。



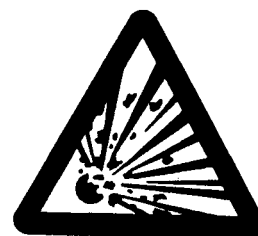
F-8836

■バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの注意ラベルをよく読んでください。

- バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（⊖）側のケーブルを取外してください。
バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（⊕）側のケーブルをプラス（⊕）側の端子に取付けてください。
- 充電は、機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- 指定外のバッテリーは使わないでください。

■バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。

- 目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入ったときは、水でよく洗った後、医師に治療を受けてください。



M-6465

安全に作業するために

ヤケド防止

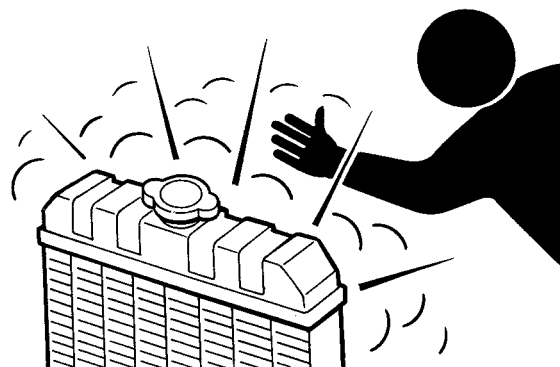
■過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。

- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してから、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。

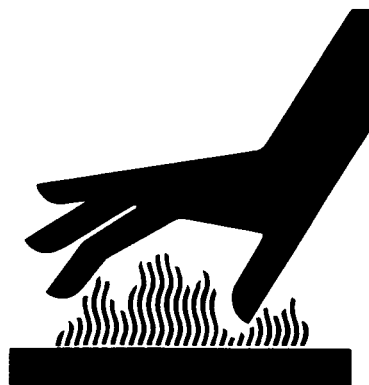
■高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



B-1503



B-1502

このコンバインを他人に貸すときは

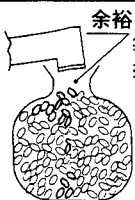
- 取扱説明書をよく読んでいただくとともに、取扱い方法・安全な使いかたを説明して、安全な作業ができるように指導を行なってください。

2. ▲表示ラベルと貼付け位置

①品番 59715-6425-2

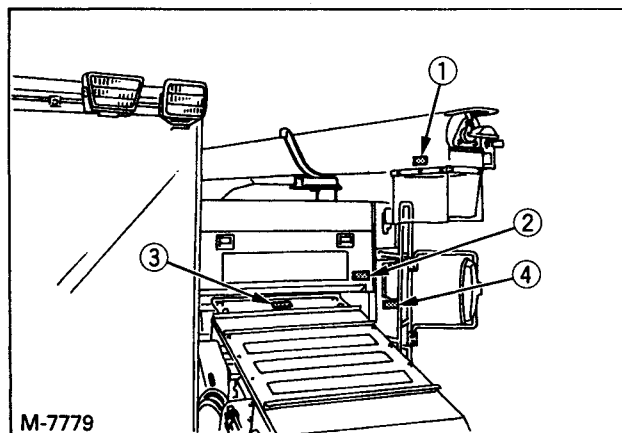
▲ 注意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



袋詰め時、余裕を持って
排出クラッチを切ること。

アンローダが詰まると、
駆動系統の故障の原因
になります。



M-7779

②品番 53981-6432-1

▲ 注 意

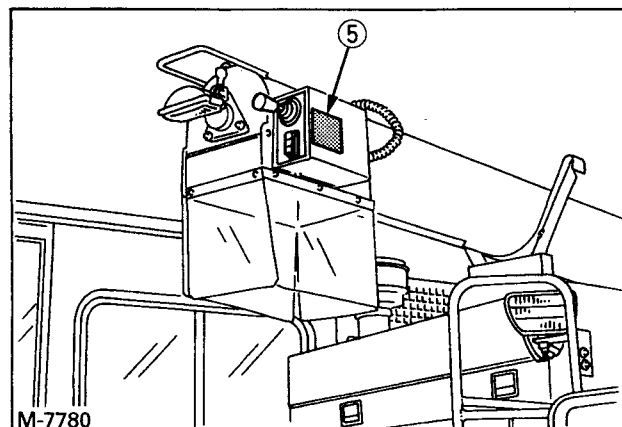
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番 53981-6434-1



掃 除 口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-7780

④品番 51870-3946-1

▲ 注 意

ハシゴにのぼる時は、エン
ジンを必ず止めること。

⑤品番 51971-3994-1



▲ 注 意

- アンローダは周囲に注意
して操作して下さい。
- 人や障害物があるとぶつ
かってケガや破損のおそ
れがあります。

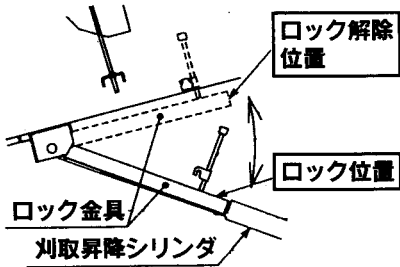


安全に作業するために

①品番 51962-3941-2

警告

刈取部を上げて点検・調整を行うときには、刈取部が不意に下降してはさまれることがあるので、ロック金具を必ず刈取昇降シリンダにセットすること。



②品番 52166-2575-1

注意



火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

③品番 53981-6432-1

注意

中に回転物がありケガをするので、点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

④品番 59700-2136-2

注意

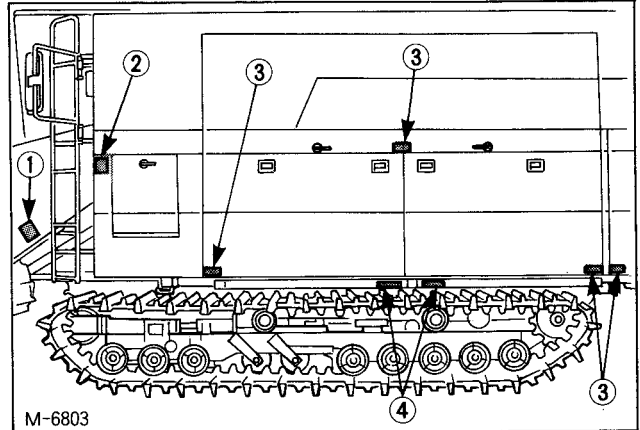
人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑤品番 53981-6434-1

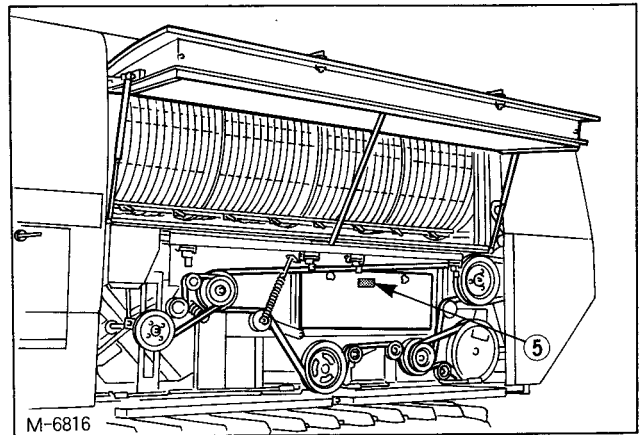


掃除

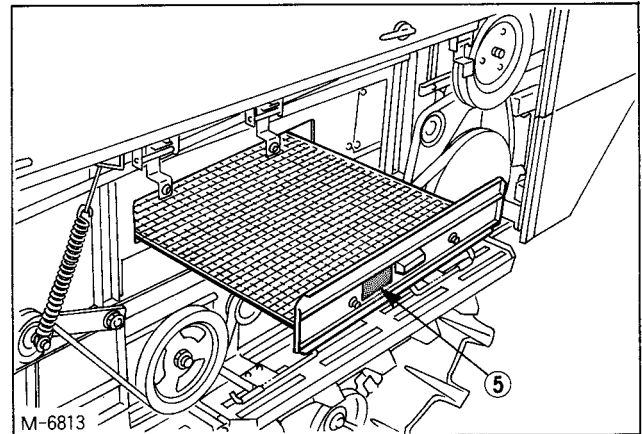
中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-6803



M-6816



M-6813

①品番 51971-3992-2

注意

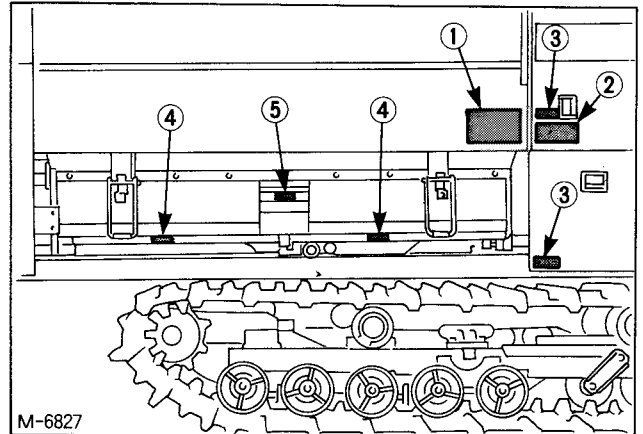
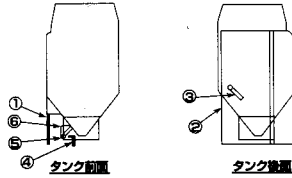
◆グレンタンクをオープンするときは、

1. タンクに身体がはさまれるおそれがあるので必ず平坦な場所で行うこと。
2. 内部の「もみ」は排出すること。
3. エンジンは必ず停止して行うこと。
4. チョッパーは必ず閉じておくこと。

◆エンジン始動時は必ずタンクを収納固定しておくこと。

◆タンクオープンのしかた

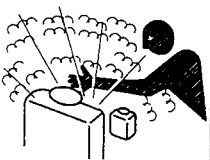
- ① サイドカバー ② をはずし、ウシロカバー ② を開く
- ③ タンクロックレバー ③ を開の位置にする。
- ④ タンク固定ピン ④ を抜き、タンクオープンレバー ⑤ を持って
- ⑤ 手前に引きロックを解除し、さらに取っ手6を持ってタンクを開いてください。
- ⑥ タンクを元に戻す時は、上記の逆の手順で行う。



M-6827

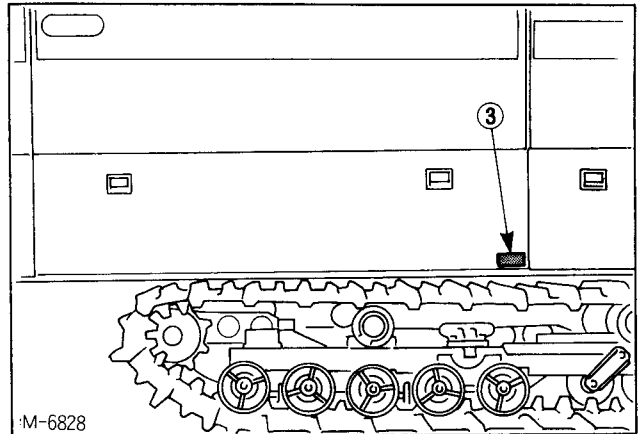
②品番 56431-5219-4

注意



オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ることを。

1. エンジンを止める。
 2. 必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
- エンジンが冷えていないときは、ラジエーター部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。



M-6828

③品番 53981-6432-1

注意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

④品番 53981-6434-1

注意

掃 除 口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

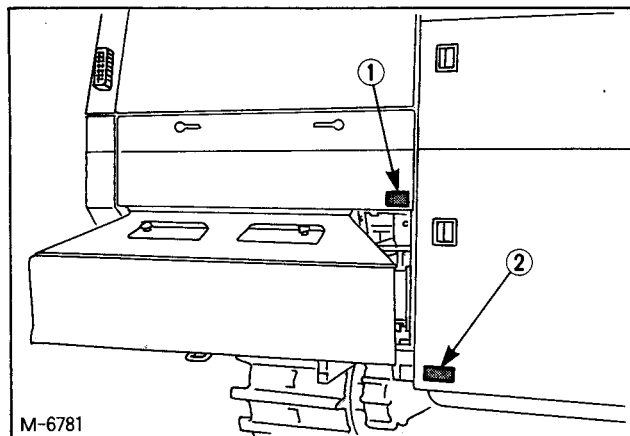
⑤品番 53690-3129-2

注意

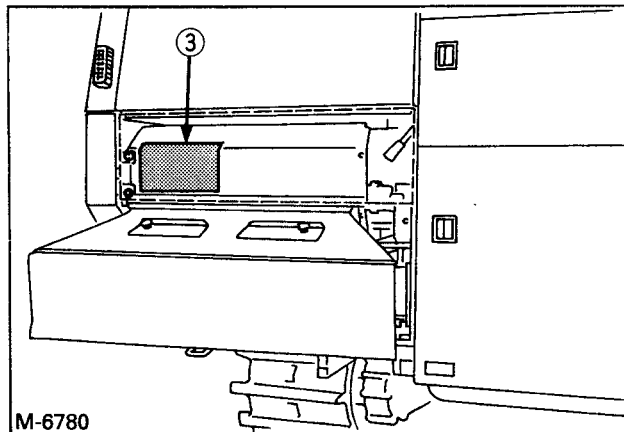
中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。



安全に作業するために



M-6781



M-6780

①品番 53690-3129-2

③品番 57697-7282-1



注意

中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。

②品番 53981-6432-1



注意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



注意

1. チョップパの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. 運転中は危険であるので、チョップパには、近づかないこと。
3. 詰りを取り除くときや、点検・調整・切断刃の交換をするときは、エンジンを必ず止めること。
4. チョップパをオープンするときの注意事項
 - ・エンジンを必ず止めること。
 - ・オープンしたまま運転しないこと。
 - ・傾斜地ではオープンしないこと。
 - ・オープンしたら不意な動きを防止するため、ステーで確実に固定すること。
5. 点検・調整などが終わったら、ベルトカバーを必ず取り付けること。

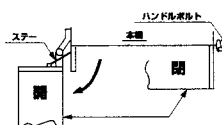
■チョップパ開閉の仕方

○チョップパを開く場合

- ① ベルトカバーと本体のタンクウシロ開閉カバーを開く。
- ② レバー（テンション）を押しVベルト（SC73）を列列。
- ③ ハンドルベルト（2ヵ所）を握める。
- ④ チョップパを手前に引き、必ずステーで固定する。

○チョップパを閉じる場合

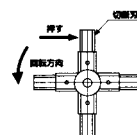
- ① チョップパを握める場合は逆の手順で行う。



■切断刃の交換方法

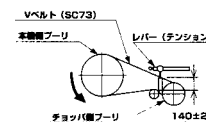
- ① チョップパを握め、必ずステーで固定する。
- ② 切断刃を交換する。

- 1) 切断刃は右図の様に矢印方向に押し付けて下さい。
 - 2) M12×25ボルト（7T）を使用し、750～1050kgf-cmのトルクで締め付けて下さい。
- （注意）・切断刃が磨耗した時は、磨耗が大きくなり刃の切れ味とします。
すぐに新しい刃と交換して下さい。
・刃の向きは、型方を切刃方として使用することができます。



■Vベルトの掛け方

- ① テンションバーの幅は140±2mmにする。（フック内側寸法）

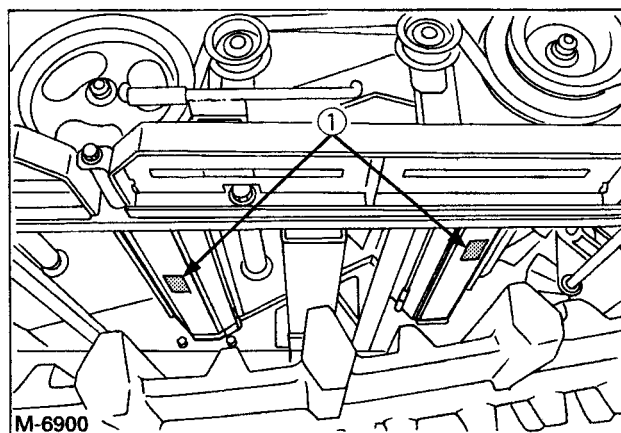


①品番 53981-6434-1



掃除

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

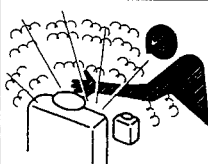


M-6900

必ず読んで
ください

①品番 56431-5219-4

▲ 注意



オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。

1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。

エンジンが冷えていないときは、ラジエーター・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

②品番 51870-3942-3

▲ 注意

このカバーの上には乗らないこと。

③品番 53690-3129-2

▲ 注意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

④品番 53981-6434-1

▲ 注意

掃 除 □

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

⑤品番 53981-6431-3

▲ 警告



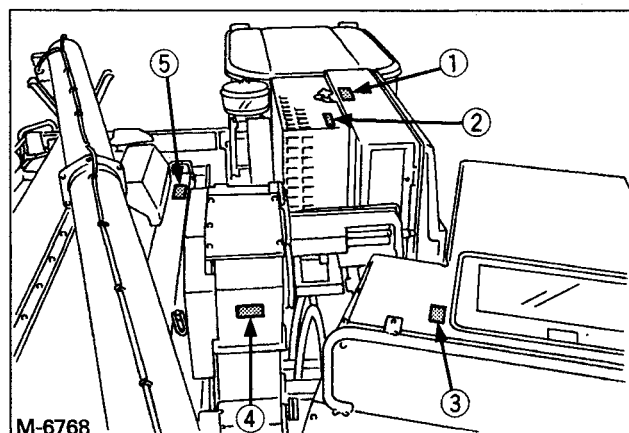
中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

⑥品番 52320-3159-1

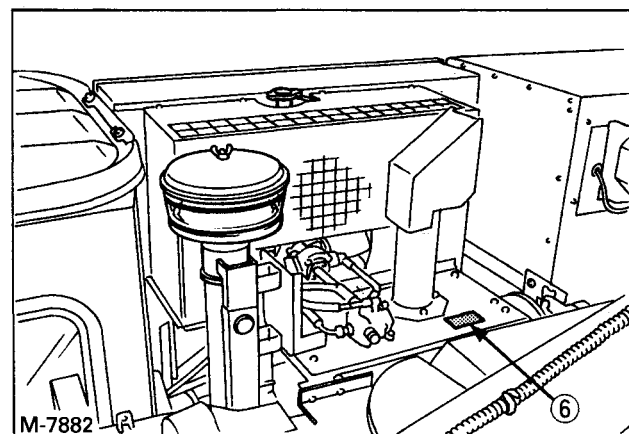
▲ 注意



マフラー・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。



M-6768



M-7882

安全に作業するために

①品番 53981-6434-1



掃 除 口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

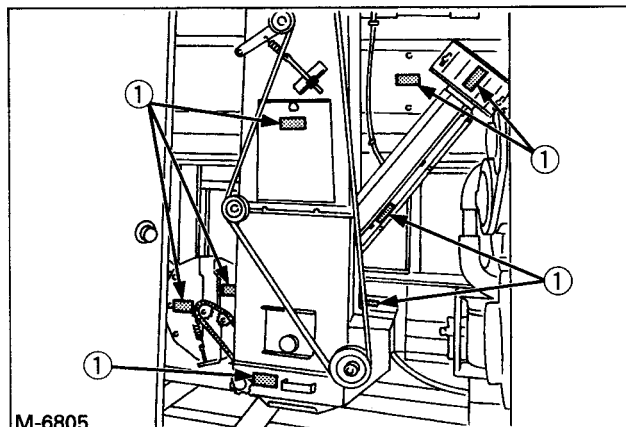
②品番 52320-3159-1



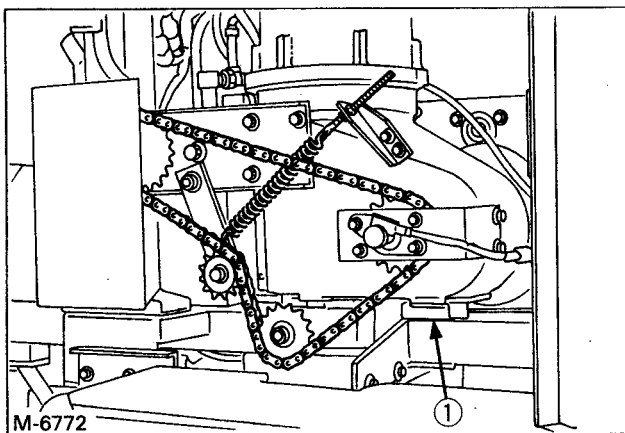
注 意



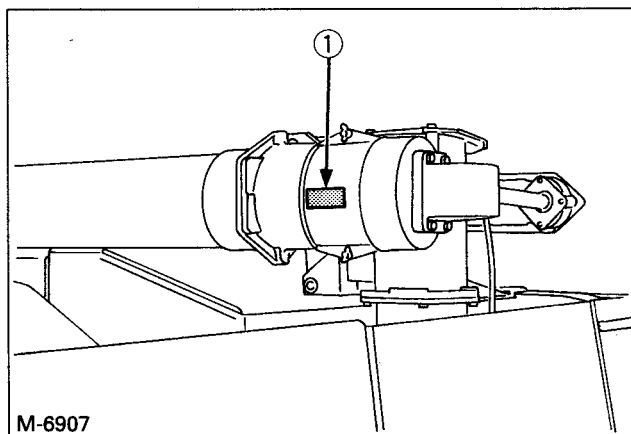
マフラ・ハイキカン・エンジ
ンなどの高温部に触れると
ヤケドをするので、高温部に
絶対に触れないこと。



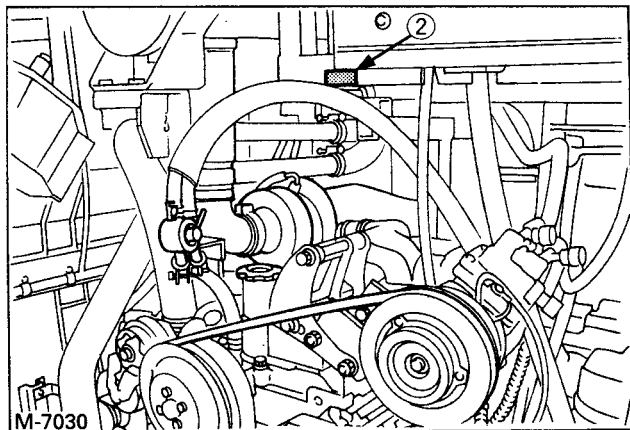
M-6805



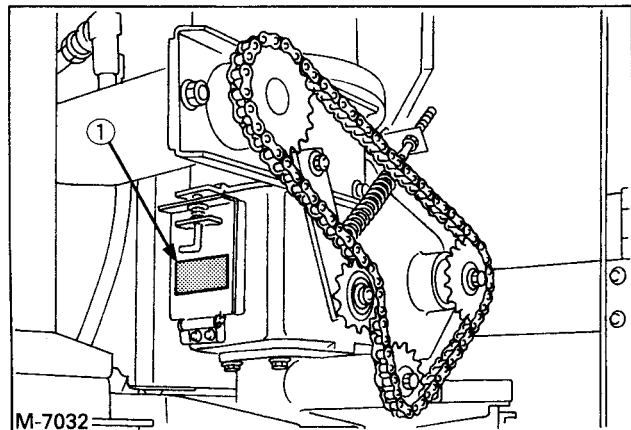
M-6772



M-6907



M-7030



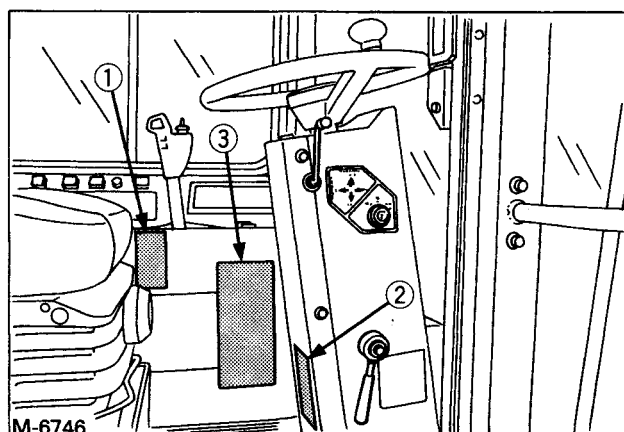
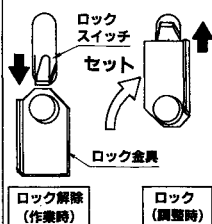
M-7032

必ず読んで
ください

①品番 51840-3988-1

▲ 注意

リールを上げて点検・調整を行うときには、リールが不意に下降してはさまれることがあるので、ロックスイッチを上げて必ずロック金具をセットすること。



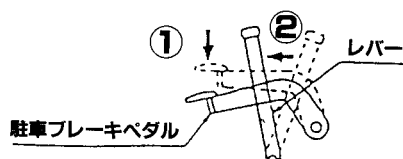
②品番 51950-3924-2

▲ 注意

1. 坂道で駐車する時は、暴走を防ぐため、必ず車止めをすること。

駐車ブレーキの取り扱い

- ① 主変速レバーを完全に停止位置に戻してから、駐車ブレーキペダルを強くいばいに踏みこみます。
- ② レバーを手前に引きロックされたのを確認します。



- ③ (解除) ペダルを踏み込むと解除されます。

③品番 51950-3927-2

▲ 注意

作業前

1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、主変速レバーを「中立」にすること。
3. 室内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるので換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中

1. 発進するときや脱こく部・刈取部を動作するとき、周囲の安全を確認し合図して、機械に人を近づけないこと。
2. 転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ等では走行しないこと。
3. 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して「中立」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを押すと「中立」の位置がわかりにくくなるので、ノブを押さないこと。
4. 副変速を切り換えるときは、急に方向が変わることがあるので、平坦な場所で、走行速度を落とし、おこなうこと。特に「高速」走行から「標準」走行に切り換える場合は、1.2 m/s以下に落とすこと。
5. 道路交通法規定により、トラック運搬時は、地上高3.8m以下で運行すること。

積込・積降ろし

1. 転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあげ越えは以下を守ること。
 - ① 積み込むときは、刈取部を外し後進で、降ろすときは前進でおこなうこと。
 - ② 副変速を標準にし、エンジンの回転を下げて（約2000min⁻¹(rpm)）、走行速度を充分に落として、おこなうこと。
 - ③ あゆみの上ではステアリングハンドルを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを直し、再度やり直すこと。
 - ④ あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、丈夫なものを使用すること。
 - ⑤ 「穀粒」はすべて排出、あるいは降ろすこと。

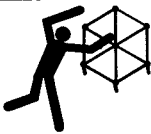
駐・停車

1. 火災の危険があるので、機械を停止するときは、切りワラや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めてメインスイッチキーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

安全に作業するために

①品番 51850-3915-2

注意



リールの回転中は危険ですから手をふれないこと。

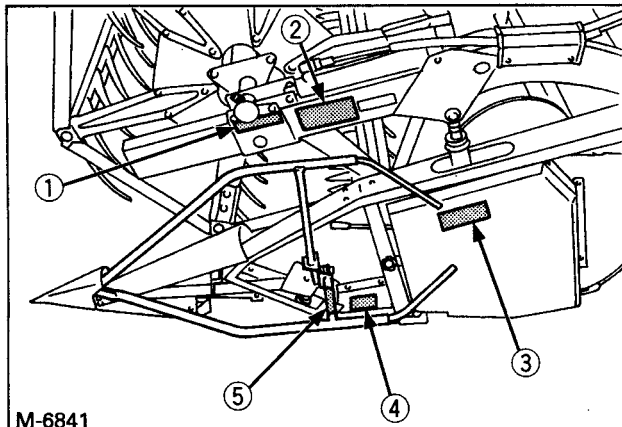
②品番 51960-3942-1

警告

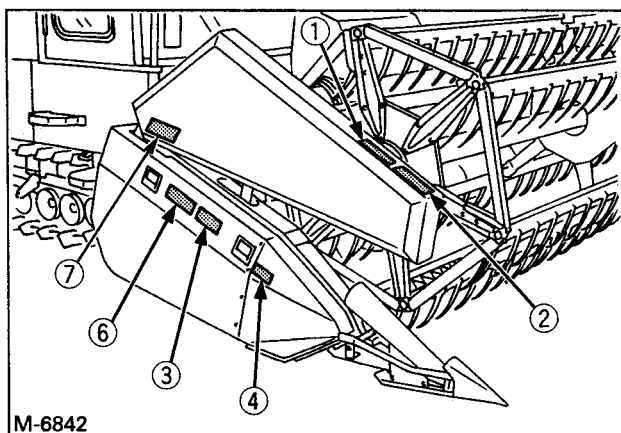


リールの下で作業するときには、リールが不意に下降したりして、ケガをするおそれがあるので、必ず以下の項目を守ること。

1. エンジンを止める。
2. 座席左下のリールロックスイッチを「上げ」位置にする。
3. リールストップバルブのレバーをロック位置にする。



M-6841



M-6842

③品番 51960-3943-1

警告



ワラ等の巻きつき・つまりを取除くときには、ケガをするおそれがあるので、エンジンを必ず止めること。

④品番 51850-3919-1

注意

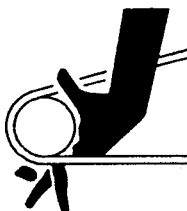
中に刈刃があり、ケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手などをいれないこと。

⑤品番 59700-2136-2

注意

人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑥品番 53981-6436-2



注意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

⑦品番 51960-3946-1

注意

はさまれるとけガをするおそれがあるのでカバーの下側に手を入れないこと。

①品番 59700-4332-2

**注意**

デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

②品番 51960-3943-1

**警告**

ワラ等の巻きつき・つまりを取除くときには、ケガをするおそれがあるので、エンジンを必ず止めること。

③品番 51850-3919-1

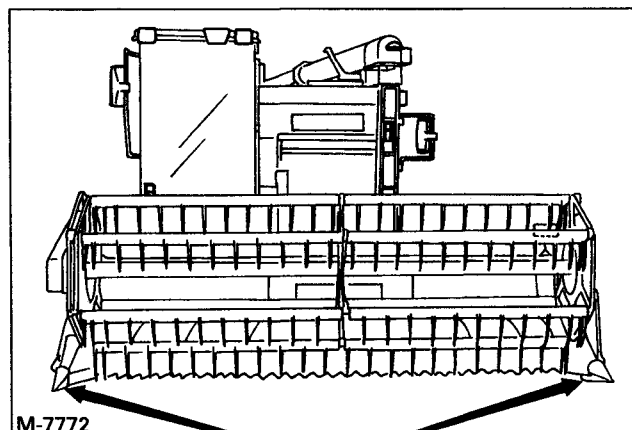
**注意**

中に刃があり、ケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手などをいれないこと。

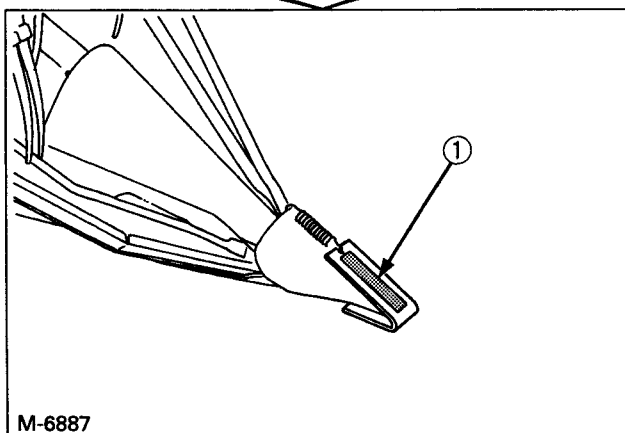
④品番 51961-3944-1

**警告**

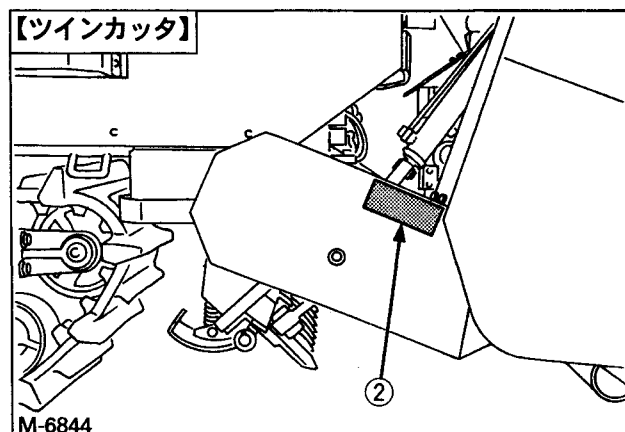
ケガをするおそれがあるので作業中は近付かないこと。



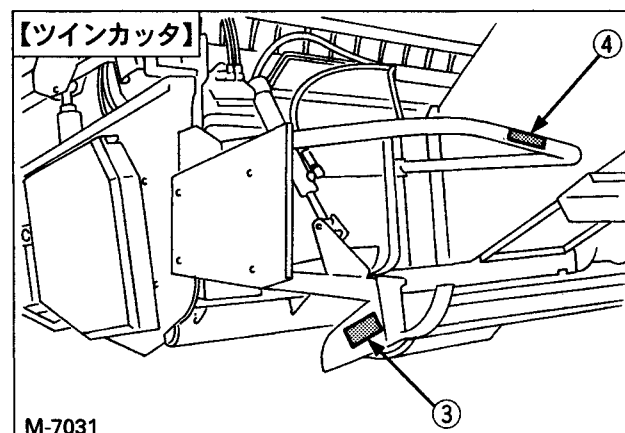
M-7772



M-6887



M-6844



M-7031



3. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。

もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布でふいてください。

シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

1. サービスと保証について

この製品には、サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、購入先に“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1) 農機型式名・区分と車台番号

(2) とう載機関(エンジン)の機関番号

(3) 刈取部は刈取り製造番号

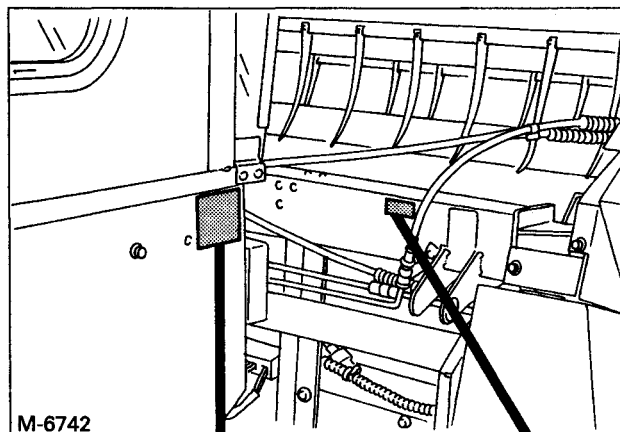
をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



警告

*危険ですので機械の改造はしないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類 コンバイン(普通型)
農機型式名 クボタ SRH1400
区分
車両型式名 クボタ SRH1400
車台番号
とう機型式名 B5.9-C
機関番号
載最大出力 140ps/2200rpm
機無負荷最高 2350rpm
関回転速度
製造元 株式会社クボタ

刈取製造番号

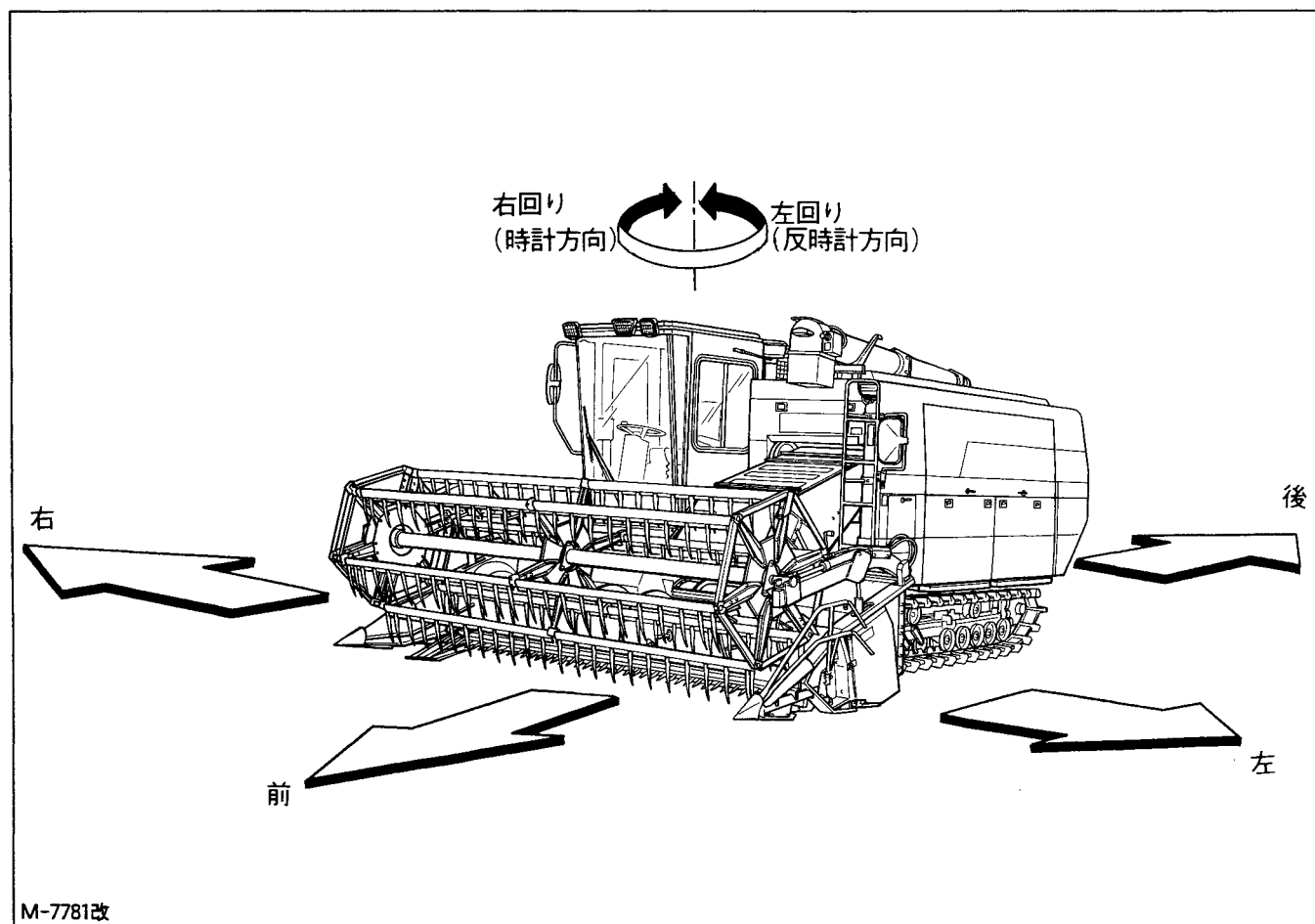
◆認定番号

安全鑑定・型式検査(国検)の農機型式名及び番号が必要な場合は、下記の型式名及び番号をご使用ください。

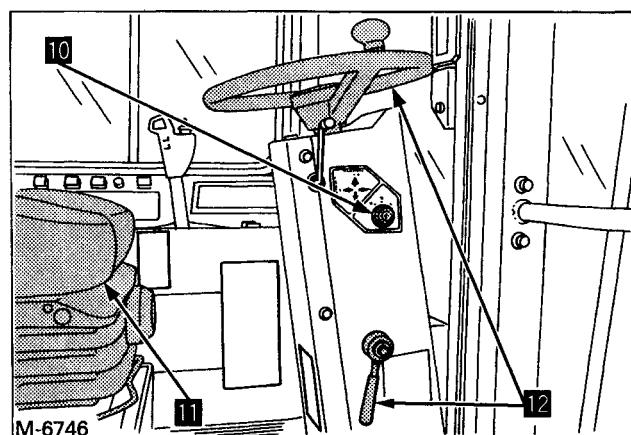
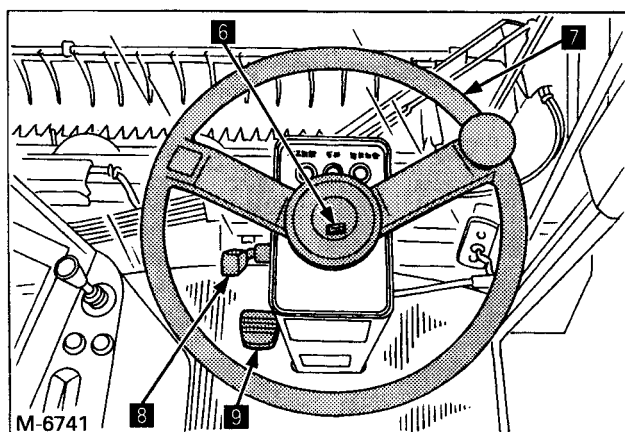
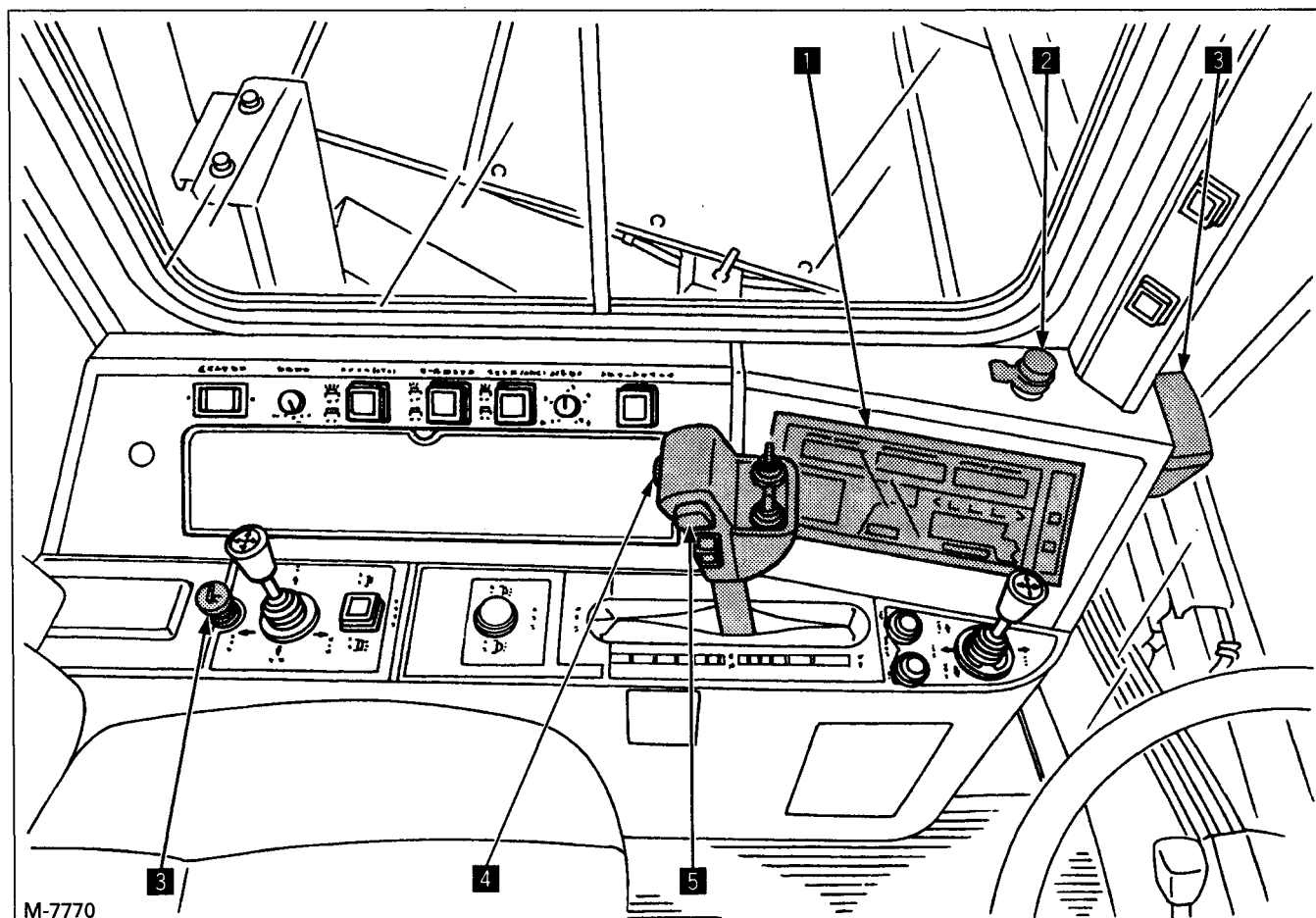
農機型式名	安全鑑定番号	型式検査(国検)合格番号
クボタSRH1400	20159	97054

■機体方向説明

この取扱説明書で使用している“前後・左右・左回り・右回り”などの方向は、図示の通りに決めています。



2. 走行装置の名称と使い方



参照ページ

運転席回り

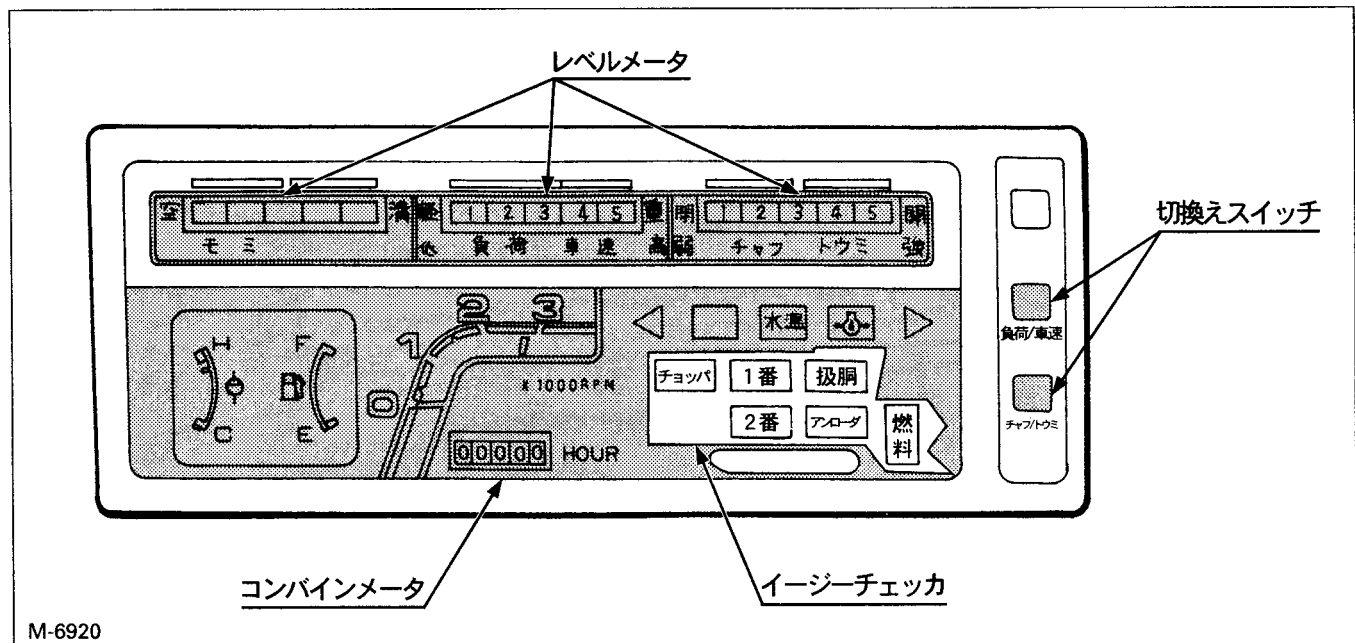
1 メータパネル	4
2 コンビネーションスイッチ	8
3 シガレットライター・灰皿	9
4 副変速スイッチ	9
5 主変速レバー	10
6 ホーン	10
7 ステアリングハンドル	11
8 アクセルレバー	11
9 駐車ブレーキペダル	12
10 メインスイッチ	12
11 シート	13
12 チルトハンドル (レバー)	14

キャビン装備品

■ ドア	15
■ ルームランプ	16
■ ワイパ・ウォッシャスイッチ	16
■ ヒータ	17
■ クーラ	18
■ AM/FMラジオ付きカセットデッキ	19

運転席回り

1 メータパネル



参照ページ

■レベルメータ

モミメータ	5
負荷/車速メータ	5
チャフ/トルクメータ	5

■切換えスイッチ

負荷/車速	5
チャフ/トルク	5

■コンバインメータ

水温計	6
燃料計	6
エンジン回転計	6
積算時間計	6
方向指示表示灯	6
水温ランプ	6
オイルランプ	6

参照ページ

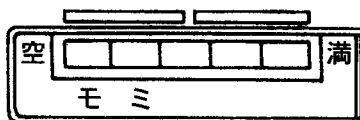
■イージーチェッカ

燃料ランプ	7
扱胴ランプ	7
アンローダランプ	7
1番ランプ	7
2番ランプ	7
チョッパランプ	7

■レベルメータ・切換えスイッチ

レベルメータは、メインスイッチを“入”にするとすべての文字や数字が点灯し、約2秒するとモミ・負荷・チャフメータを表示します。

◆モミメータ



M-6920

グレンタンクのもみ量に応じてメータが点灯します。また、もみが満杯になると、メータとステアリングハンドル部のチェッカランプが点滅します。アンローダ装置によりもみを排出してください。

(33・40ページ参照)

重 要

*もみが満杯になってもすぐには、脱こくクラッチスイッチを“切”にしないでください。脱こく機の中にはもみが残っていますので、20～30秒間の空運転が必要です。

◆負荷／車速メータ



M-6920

メインスイッチを“入”にすると負荷を表示します。負荷／車速切換えスイッチを1回押すごとに負荷と車速が切換わって表示します。

負荷メータ

作業中のエンジンにかかる負荷の大きさに応じてメータが点灯します。また異常に大きな負荷がかかるとメータが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。通常は①②③が点灯するように、車速を調整してください。

段階	負荷メータ・ブザー	変速指示
1	①	加速可能
2	①②	加速可能
3	①②③	適正速度
4	①②③④	減速必要
5	①②③④⑤	減速必要
6	①②③④⑤, ブザー断続	即時減速

車速メータ

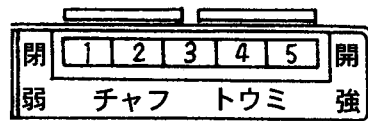
コンバインの速度に応じてメータが点灯します。下表を参考にして車速を調整してください。

作 物	“車速” のめやす
標準稲	3 4 低 車速 高
稲 高水分大麦	2 4 ●送じん弁が5度以下のとき ●ワラ量が少ないとき
麦	3 4 } 5
ソバ・大豆	3 4 } 4 5

補 足

*車速が表示状態にあるときでも、異常に大きな負荷がかかると、自動的に負荷メータに切換わり、メータが点滅しブザーが断続的に鳴ります。

◆チャフ／トウミメータ



M-6920

メインスイッチを“入”にするとチャフを表示します。チャフ／トウミ切換えスイッチを1回押すごとにチャフとトウミが切換わって表示します。

チャフメータ

チャフシーブの開度に応じてメータが点灯します。

トウミメータ

トウミの回転数に応じてメータが点灯します。但し、脱こくクラッチスイッチが“切”のときは、数字は消灯しています。

■コンバインメータ

◆ 水温計

メインスイッチが“入”のときにエンジン冷却水の温度を示します。

メインスイッチが“切”では、指針は“C”より下の位置にあります。“H”は高温，“C”は低温を表わします。

◆ 燃料計

メインスイッチを“入”のときに燃料タンク内の残量を示します。

メインスイッチが“切”では、指針は“E”より下にあります。“F”は満量，“E”は空量を表わします。指針が“E”に近づけば早めに燃料を補給してください。

燃料がなくなった場合は、燃料系統のエア抜きが必要となります。(82ページ参照)

◆積算時間計 (アワーメータ)



エンジンを定格回転で使用した場合の積算時間を示します。

白わく内の数字を6倍すると“分”単位の時間となります。〔例〕 ……12時間24分

◆エンジン回転計

1分間あたりのエンジン回転数を示します。(×1000)

◆ 方向指示表示ランプ

メインスイッチが“入”で、ウインカスイッチを操作すると、操作した側のランプが点滅します。

◆ 水温 水温ランプ

オーバヒート状態になると(エンジン冷却水が高温になったとき)点灯し、ブザーが断続的に鳴ります。

(83ページ参照)

◆ オイルランプ

通常は、メインスイッチを“入”にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

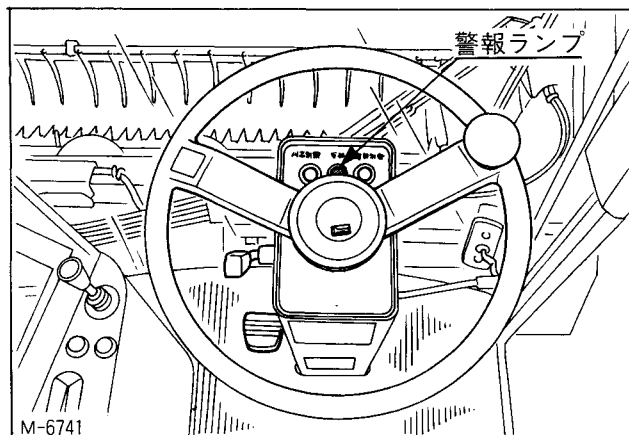
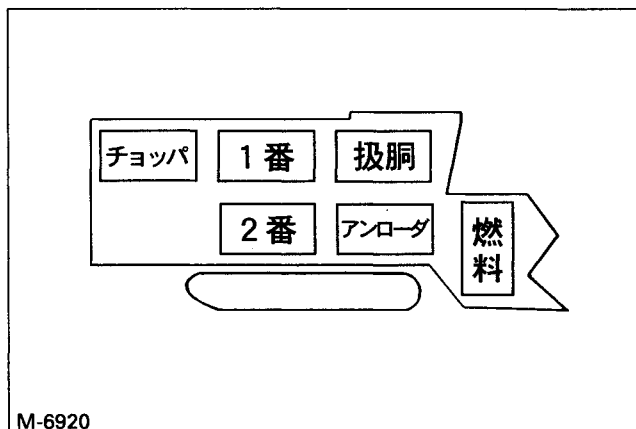
エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯する油圧警告ランプです。

補 足

*オイルランプは、エンジンオイル量の不足を示すものではありません。

■イージーチェック

イージーチェックは、メインスイッチを“入”にすると燃料ランプ以外はすべてが点灯し、約2秒すると消灯します。ランプが消灯しているときは、装置の作動は正常です。（詳細は78～81ページ参照）



警 報 の 表 示			内 容	処 置
点 灯 する ランプ		ブザー		
警 報 ラ ン プ 点 滅	燃 料 ラ ン プ	—	燃料が10L以下になりました。	●エンジンを停止させてから、燃料を補給してください。
	扱 胴 ラ ン プ	断続	こぎ胴詰まりが発生しました。	●エンジンを停止させてから、もみ・わらを取除いてください。
	アンローダランプ	断続	アンローダ詰まりが発生しました。	●エンジンを停止させてから、もみを取除いてください。
	1 番 ラ ン プ	断続	1 番詰まりが発生しました。	●エンジンを停止させてから、もみを取除いてください。
	2 番 ラ ン プ	断続	2 番詰まりが発生しました。	●エンジンを停止させてから、もみ・わらを取除いてください。
	チョツパランプ	断続	チョツパ詰まりが発生しました。	●エンジンを停止させてから、わらを取除いてください。

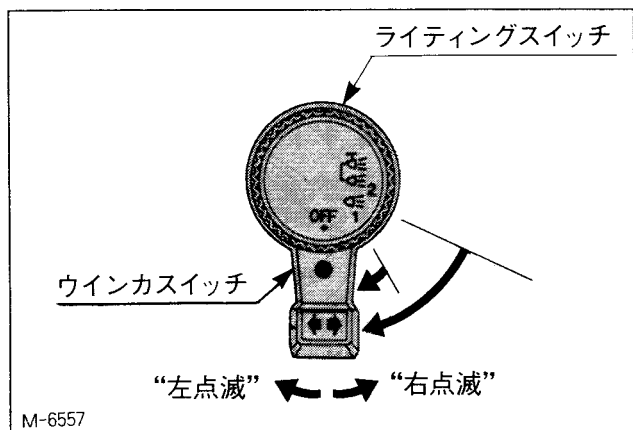
補 足

* こぎ胴が詰まると通常エンジンも停止するため、1 番・2 番・チョツパランプも点滅します。

こぎ胴の詰まりを除去後、脱こく部の空運転をじゅうぶん行ない、1 番・2 番・チョツパの詰まりが無いことを確認してください。

2 コンビネーションスイッチ

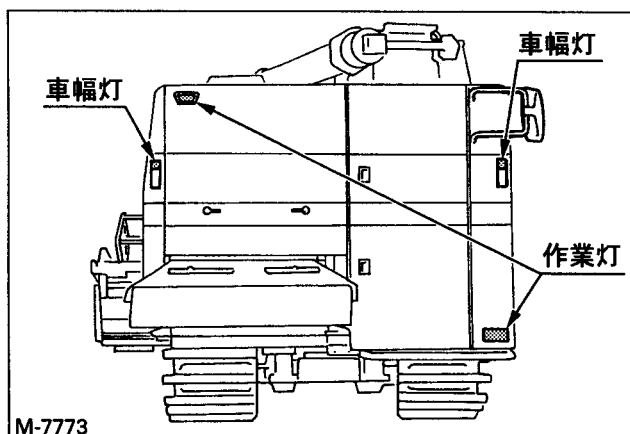
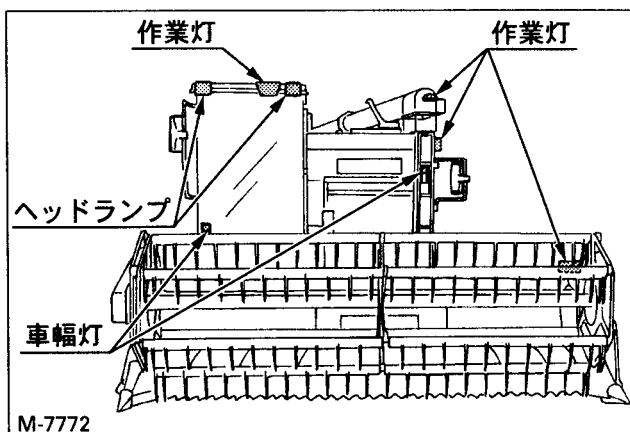
ライトとウインカのスイッチです。



◆ライティングスイッチ

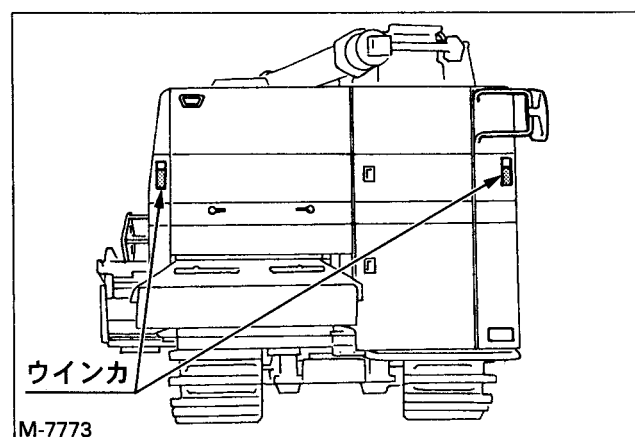
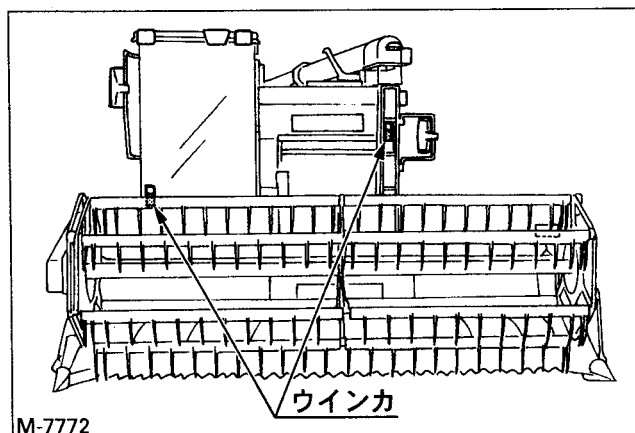
メインスイッチが“入”で、ランプ類の点灯・消灯に使用します。

スイッチ 位置	ヘッドランプ (前照灯)	車幅灯	作業灯
OFF	消灯	消灯	消灯
1	点灯	点灯	消灯
2	点灯	点灯	点灯



◆ウインカスイッチ

- (1) 旋回方向に操作すると、ウインカランプ及びメータパネル内の方向指示表示ランプが点滅します。
- (2) 旋回が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。



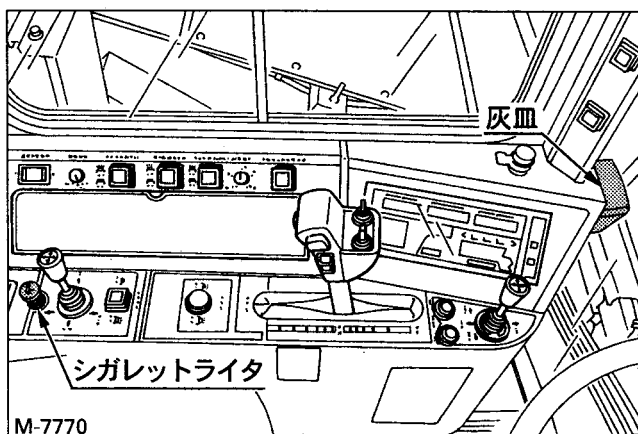
3 シガレットライター・灰皿



注意

*シガレットライターの金属部には触れないでください。ヤケドをするおそれがあります。

*灰皿使用後は、火が消えていることを確認してください。また、灰皿には燃えやすいものは入れないでください。



◆シガレットライター

シガレットライターを押込み自動的に元の位置に戻ったら、引抜いて使用します。

◆灰皿

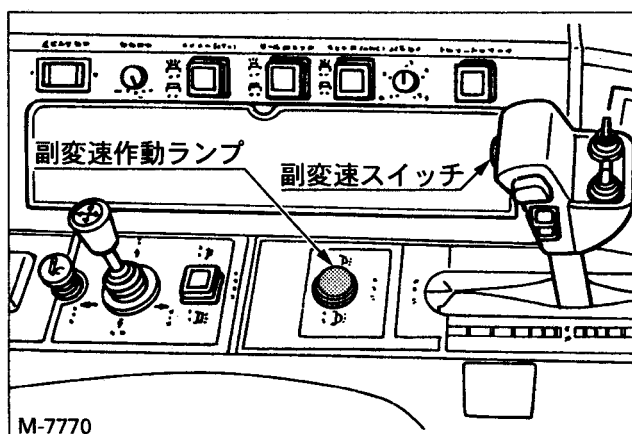
清掃するときは、火消し部を押さえて灰皿全体を取外します。

4 副変速スイッチ



注意

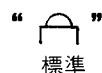
*副変速を切換えるときは急に方向が変わることがありますので、平坦な場所で走行速度を落としてください。特に“高速”走行から“標準”走行に切換える場合は、1.2m/s以下（車速メータ④点灯まで）に落としてください。



メインスイッチを“入”にすると副変速作動ランプが点灯し、約2秒後に消灯します。

主変速レバーと副変速を組合せ、適正な車速を選択します。

エンジンが始動すると、副変速は“標準”となります。スイッチを押すと、副変速は“高速”となりランプが点灯します。その状態で再度スイッチを押すと“標準”となり、ランプは消灯します。但し、車速メータが④以上を表示しているときには切換えできません。副変速が“高速”のときにエンジンを停止すると、自動的に“標準”に戻ります。



標準

..... “標準”

前進：0～15m/s

後進：0～1.23m/s



高速

..... “高速”

前進：0～2.5m/s

後進：0～2.1m/s

重要

*トラブルの原因になるので“高速”位置での刈取り作業はしないでください。

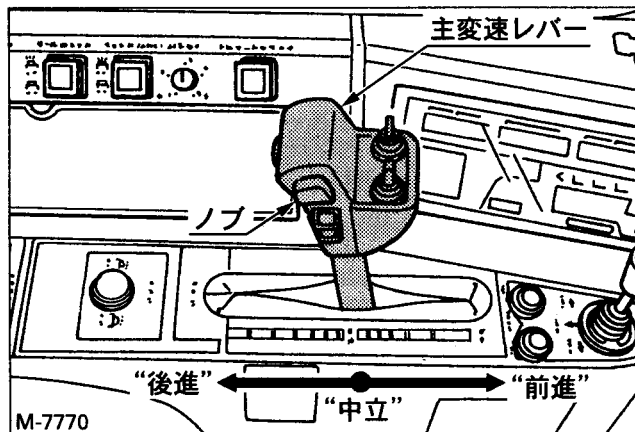
5 主変速レバー



注意

- *発進するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近づけないでください。
- *走行を停止するときは、主変速レバーを操作して“中立”の位置にしてください。
主変速レバーのノブを押すと“中立”の位置がわかりにくくなるので、ノブを押しながら減速しないでください。
- *旋回するときにはじゅうぶん減速してから、ステアリングハンドルを徐々に回してください。急旋回するおそれがあります。

レバーを前方に押すと“前進”し、後方に引くと“後進”します。



重要

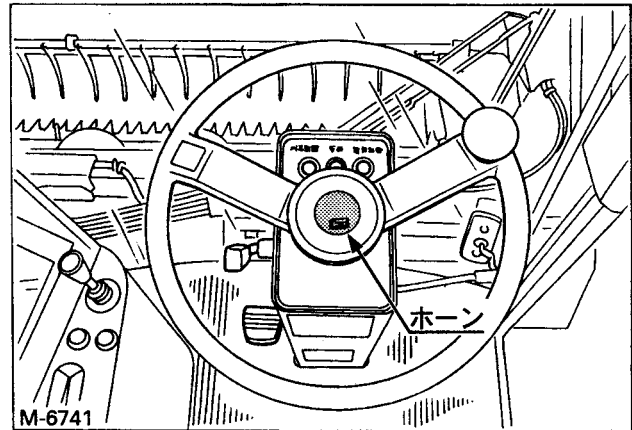
- *走行時は、エンジン回転数を $2000\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以上にしてください。

補足

- *“後進”させる場合は、主変速レバーのノブを押しながら引いてください。

6 ホーン

メインスイッチを“入”にし、ステアリングハンドルの中央にあるラッパマークを押すと、ホーンが鳴ります。エンジンを始動するときや、各種クラッチスイッチを“入”にするときには、ホーンを鳴らし周囲の人に合図を送り、安全を確認してください。

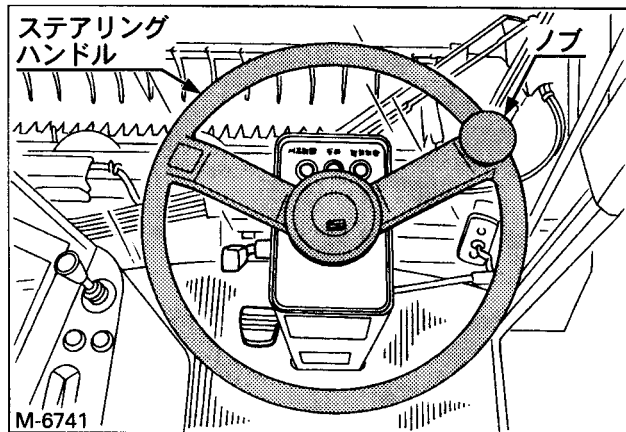


7 ステアリングハンドル



注意

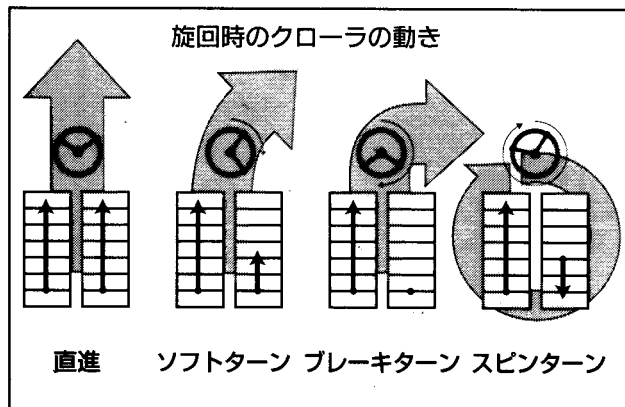
* 旋回するときにはじゅうぶん減速してから、ステアリングハンドルを徐々に回してください。急旋回するおそれがあります。



ソフトターン……左右のクローラの回転差で方向を変え旋回します。旋回半径は、やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合、また移動走行時に使用します。

ブレーキターン…内側のクローラ速度がゼロ（停止）となり、回ります。

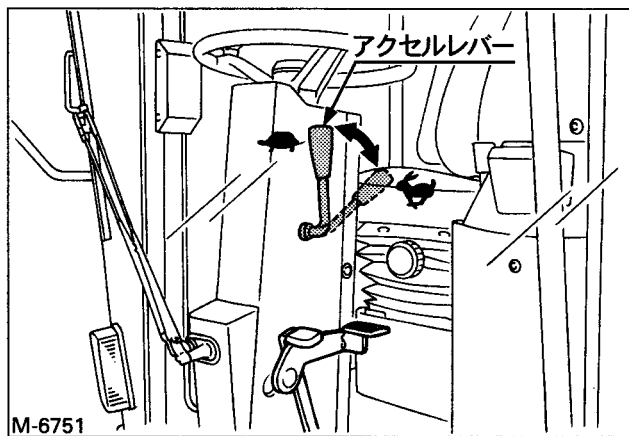
スピントーン……左右のクローラが互いに反対方向に駆動されて旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。



8 アクセルレバー

“” ……エンジン回転“低速”の位置。

“” ……エンジン回転“高速”の位置。



補足

* エンジンを暖機運転する場合は、約 $1500\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ にセットしてください。

* コンバインを移動・走行させる場合は、 $2000\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以上にセットしてください。

* 収穫作業をする場合は、脱こくクラッチスイッチを“入”にし、エンジン回転計の緑目盛上限にセットしてください。（ほぼ最高回転）

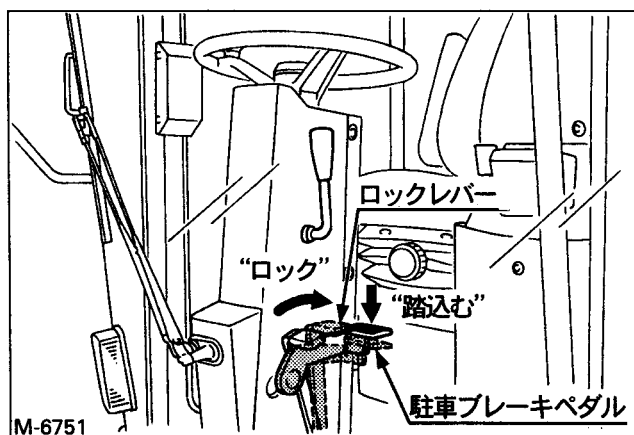
9 駐車ブレーキペダル



注意

* 坂道で駐車するときは駐車ブレーキペダルをロックし、さらに車止めをして、暴走を防いでください。

- ① 主変速レバーを完全に“中立”位置に戻してから、駐車ブレーキペダルを強くいっぱいに踏み込みます。
- ② ロックレバーを手前に引き、駐車ブレーキペダルが戻らないようにロックします。
- ③ ペダルを踏込むと解除されます。

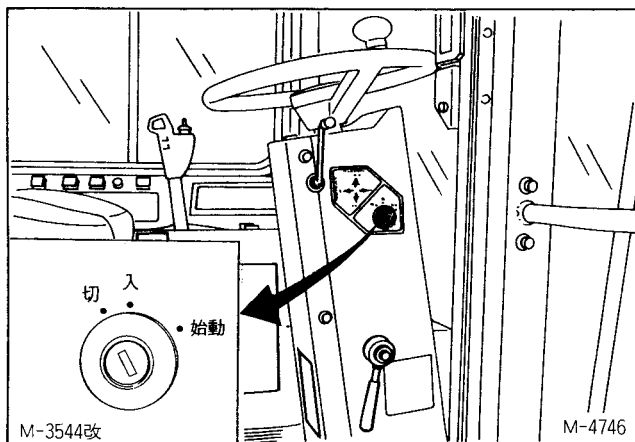


補足

- * 駐車ブレーキを踏込むと、
- 主変速レバーが“中立”位置に戻ります。
 - HSTクラッチスイッチが作動し、HST駆動ベルトのテンションが切れます。
 - 駐車ブレーキスイッチが作動し、走行ギヤケース内の駐車ブレーキが作動します。

10 メインスイッチ

コンバイン全体の電源の“入”・“切”，及びエンジンの“始動”・“停止”を行なうスイッチです。



“切” …… エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

“入” …… エンジン回転中の位置，又は電気装置を使える位置。

“始動” …… エンジンを始動するときの位置。
(手を離せば自動的に“入”の位置に戻ります。)

補足

- * 主変速レバーを“中立”の位置にしないと、エンジンは始動できません。
- * メインスイッチを“入”のままで放置すると、バッテリー上がりの原因となりますので、コンバインから離れるときには“切”にしてください。

11 シート



注意

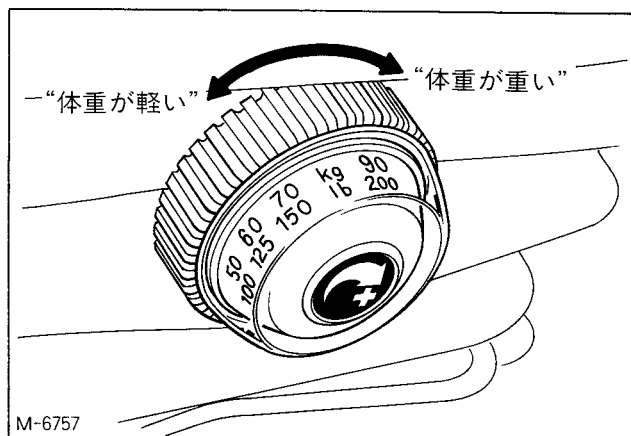
* 走行中の調整はしないでください。

* 調整後、シートが確実にロックされていることを確認してください。

適正な姿勢やクッションが得られるように、シートを調整します。

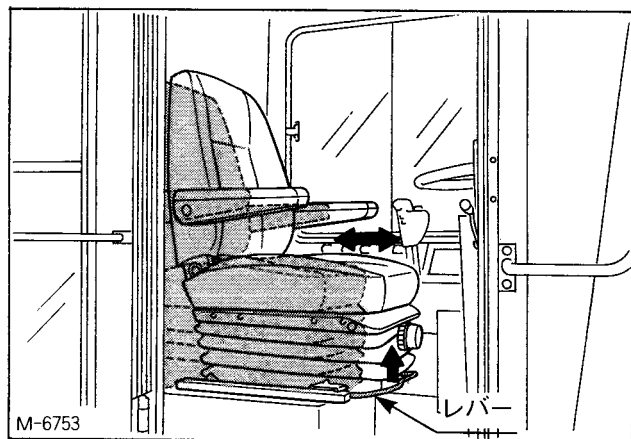
◆荷重（体重）調整

グリップの目盛を体重に合わせます。



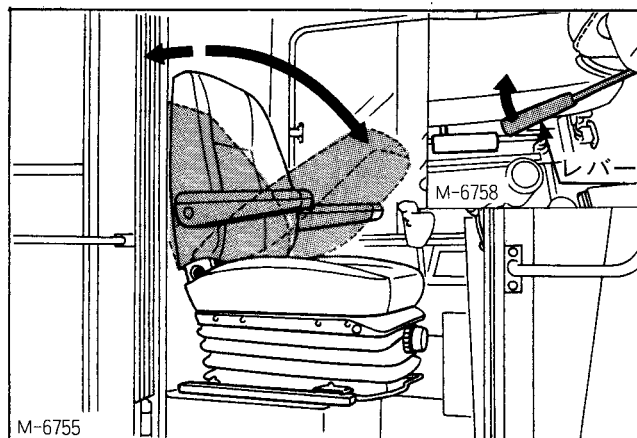
◆前後調節

レバーを引上げ、前後に調節します。



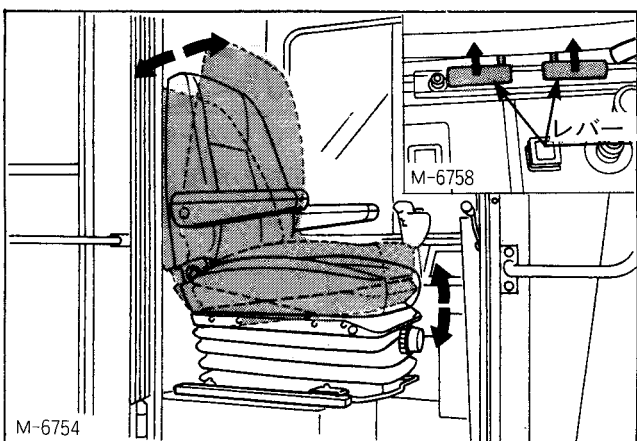
◆リクライニング調節

レバーを引上げ、背もたれの角度を調節します。



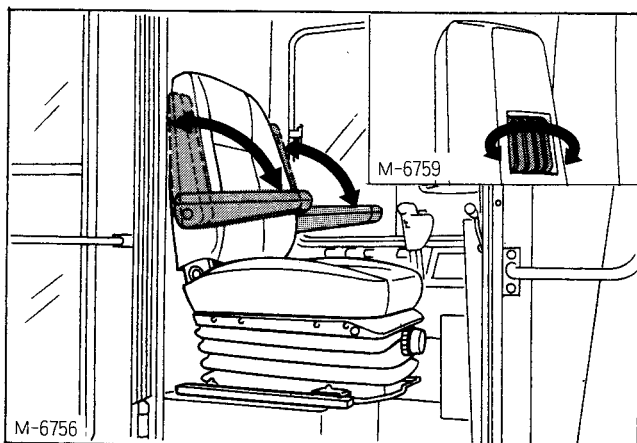
◆前後傾斜の角度調節

レバーを引上げ、シート全体の前後の傾斜角度を調節します。



◆アームレストの角度調整

アームレスト下側のローラを回し角度を調整します。
また、格納もできます。



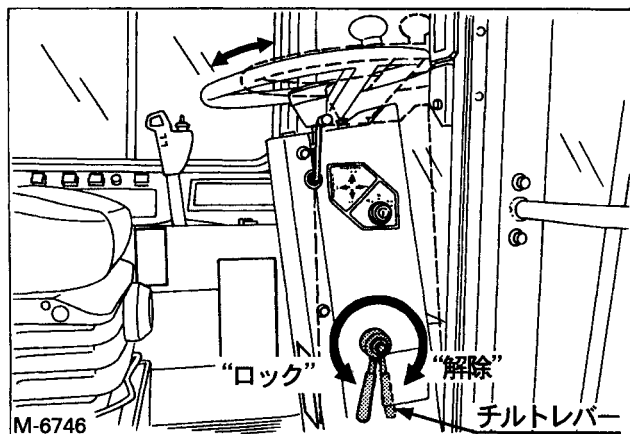
12チルトハンドル（レバー）



注 意

- *走行中の調整はしないでください。
- *調整後、ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。

適正な姿勢が得られるように、ステアリング角度を調整します。



- ①チルトレバーを右へ回し、ロックを解除します。
- ②ステアリングハンドルを任意の角度に傾けます。
- ③チルトレバーを左へ回し、ロックします。

キャビン装備品

■ドア

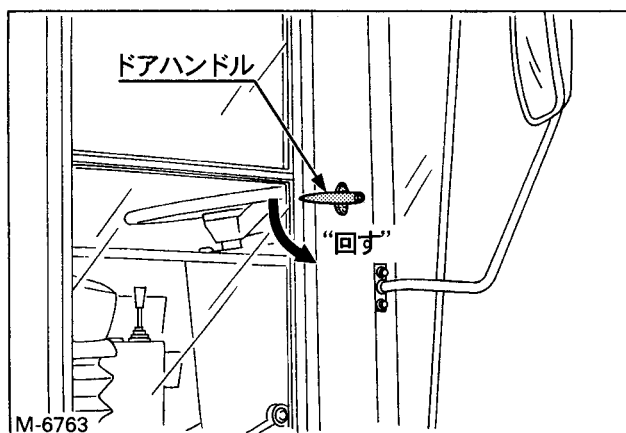


注意

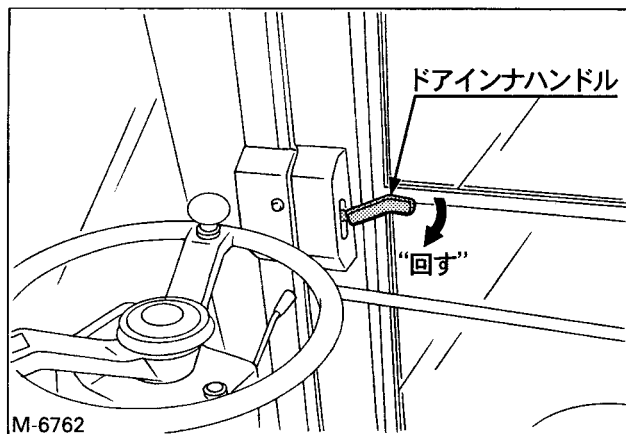
*ドアは、傾斜地や風の強いときには勢いよく開くことがありますので、前後の安全をじゅうぶん確認して開けてください。また、中途半端に開けた状態でコンバインを走らせないでください。

◆ドアの開け方

車外から……ドアハンドルを下側へ回して開けます。

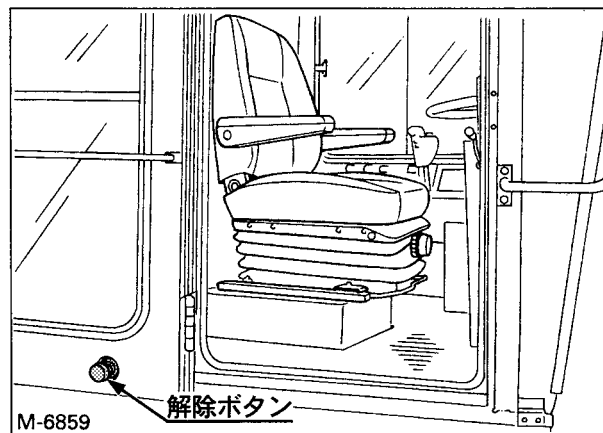


車内から……ドアインナハンドルを下側へ回して開きます。



◆ドアロック

- ① ドアを本機側に当るまでいっぱい開けるとロックされます。
- ② 閉じるときは、ロック解除ボタンを押します。



◆ドアの施錠, 解錠

ドアキーを差込み、右に回すと施錠できます（解錠は逆）。

補足

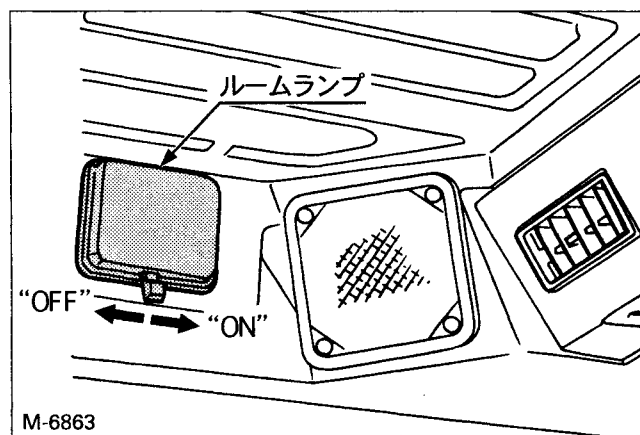
*長時間コンバインから離れる場合は、施錠してください。

■ルームランプ

メインスイッチが“入”のときに、

“ON” …… 点灯します。

“OFF” …… 消灯します。

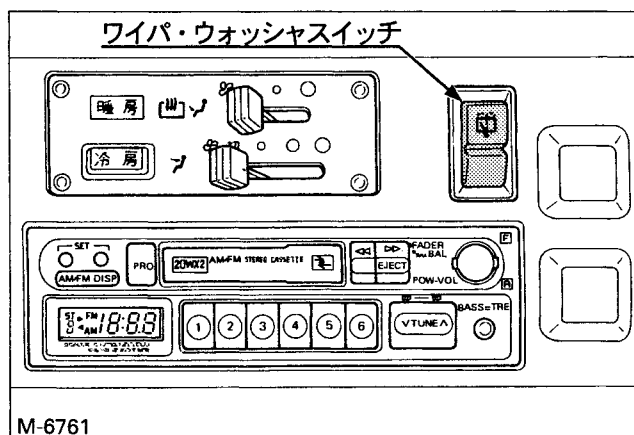


重 要

* エンジンが停止しているときに長時間点灯させると、バッテリーが上がりエンジンが始動できなくなります。

■ワイパ・ウォッシュスイッチ

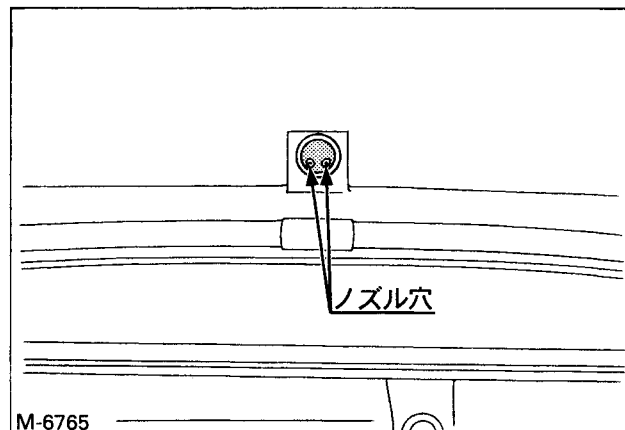
メインスイッチが“入”のときに、ワイパ・ウォッシュスイッチの上側（ マーク）を“ON”にすると、ワイパが作動します。



ワイパ・ウォッシュスイッチを“ON”の状態から更に押込むと、その間ウォッシュ液が噴射します。また、ワイパ・ウォッシュスイッチが“OFF”の状態でも下側（マークなし）を押すと、押している間ウォッシュ液が噴射します。

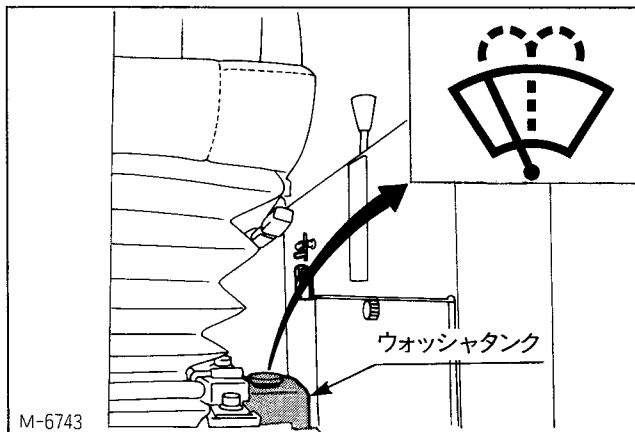
重 要

- * ガラスを傷つけることがありますので、ガラスが乾いているときは作動させないでください。ウォッシュ液を作動させてから、ワイパを使用してください。
- * ウォッシュ液がないときや出ないときには、使用しないでください。
- * ウォッシュ液があるのに噴射しないときは、ウォッシュ液ノズルの穴にゴミなどが詰まっていることがあります。穴に針を刺して掃除してください。このとき、つまようじなどの折れやすいものは使わないでください。



◆ウォッシャ液

市販のウォッシャ液を使用してください。



重要

- *凍結を避けるため、清水のみの使用はしないでください。
- *空回しはポンプを損傷させる原因となります。
- *ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために、ウォッシャタンクにゴミが入らないようにしてください。

補足

- *一般的なウォッシャ液の希釈割合に対する凍結温度は下表の通りです。

希釈割合	凍結温度
原液 1 に水 2	-10℃
原液 1 に水 1	-20℃
原液のまま	-30℃以下

■ヒータ

◆ヒータコック

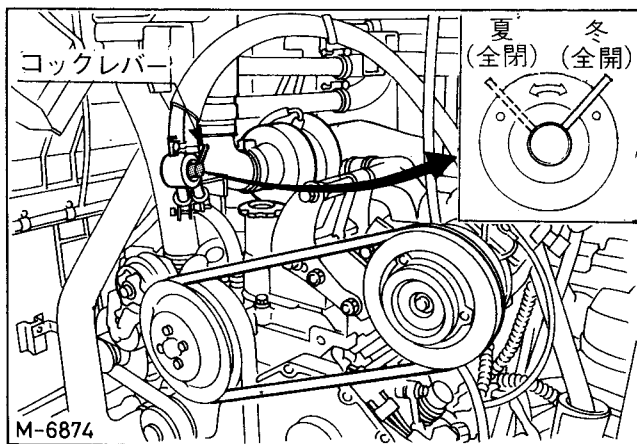


注意

- *ウォータホースに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

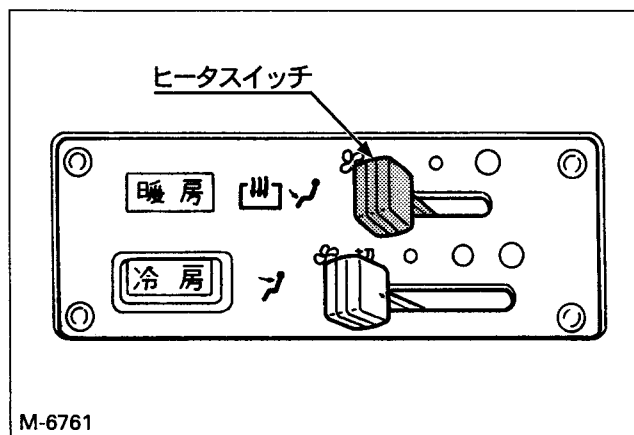
ヒータを使用するときは、グレンタンクオープン（44ページ参照）をし、コックレバーを“全開”（時計方向に回す）にします。

ヒータを使用しないときは、熱気で室内温度が上昇しないように、コックレバーを“全閉”（反時計方向に回す）にしておきます。



◆ヒータスイッチ

風量を“弱”“強”の2段階に調整できます。室内の温度によって使い分けます。

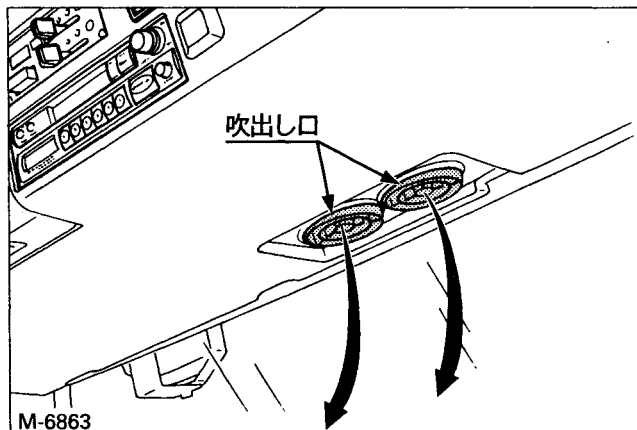


重要

- *暖機運転をした後ヒータスイッチを“弱”にしてください。
- また、室温が上昇中にガラスが曇れば、やわらかい布で水気をふきとるか又は除湿暖房を行なってください。
- *ヒータの吹出し口をふさがないようにしてください。故障の原因になります。

◆風向調整

温風の方向は、吹出し口により調整できます。デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合、吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。



◆除湿暖房

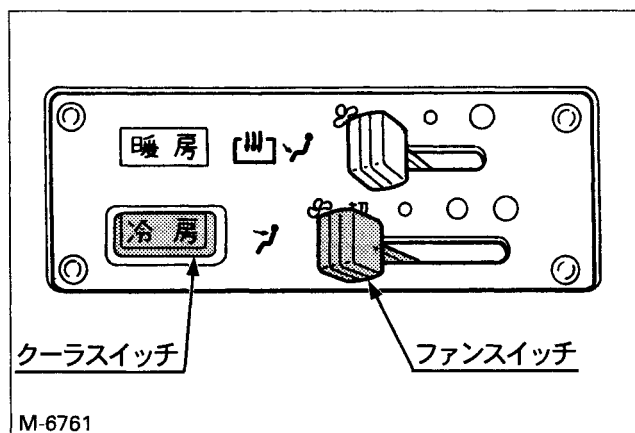
フロントガラスのくもり除去や室内の除湿暖房を行なうときは、クーラとヒータを同時に使用してください。最適のコンディションが得られます。

■クーラ

◆クーラスイッチ

クーラを使うときは、このスイッチを押して“ON”にします。クーラスイッチ“ON”でファンスイッチを“弱”～“強”にしたとき、クーラスイッチ内のランプが点灯します。

再度スイッチを押すと“OFF”になります。



◆ファンスイッチ

風量を3段階に調整できます。

室内の温度によって使い分けます。

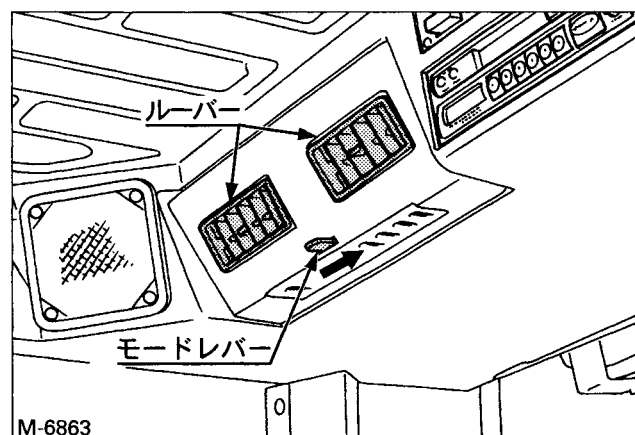
◆風向調整

●モードレバー

モードレバーを矢印方向に開くと、冷風は足元方向にも吹出します。

●ルーバー

冷風の方向は、ルーバーの向きにより調整できます。

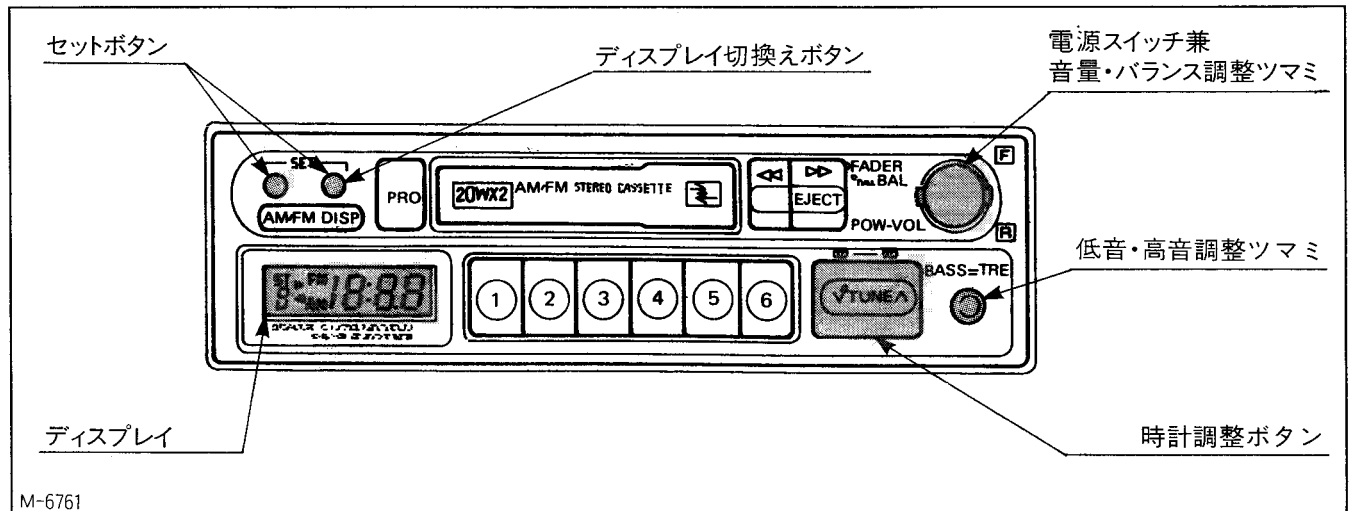


重要

*このコンバインのクーラ用冷媒ガスには、代替フロン（HFC-134a）を使用しています。

■AM/FMラジオ付きカセットデッキ

◆スイッチ・ツマミの取扱い



M-6761

電源スイッチ兼音量調整・バランス調整ツマミ

コンパインのメインスイッチを“入”にし、押すたびにラジオの電源の“ON”“OFF”が切り替わります。ツマミを時計方向(○)に回すと音量が増大します。反時計方向((○)に回すと音量が減衰します。ツマミを引き時計方向(○)に回すと右側スピーカの音量が強調され、反時計方向((○)に回すと左側スピーカの音量が強調されます。調整後はツマミを押し、元に戻して使用してください。

低音調整・高音調整ツマミ

ツマミの中間位置(クリック部分)に対して時計方向(○)に回すと低音が強調され、反時計方向((○)に回すと低音が減衰されます。ツマミを引きツマミ中間位置(クリック部分)に対して時計方向(○)に回すと高音が強調され、反時計方向((○)に回すと高音が減衰されます。

ディスプレイ切換えボタン

放送受信時に押すと5秒間周波数表示されます。通常は、時計表示をしています。

時計表示の合わせ方(時計調整ボタン)

ディスプレイ切換えボタンを押しながら(∨) (H) ボタンを押すと、時間表示が変わります。ディスプレイ切換えボタンを押しながら(∧) (M) ボタンを押すと、分表示が変わります。

セットボタン(2つ同時押し)

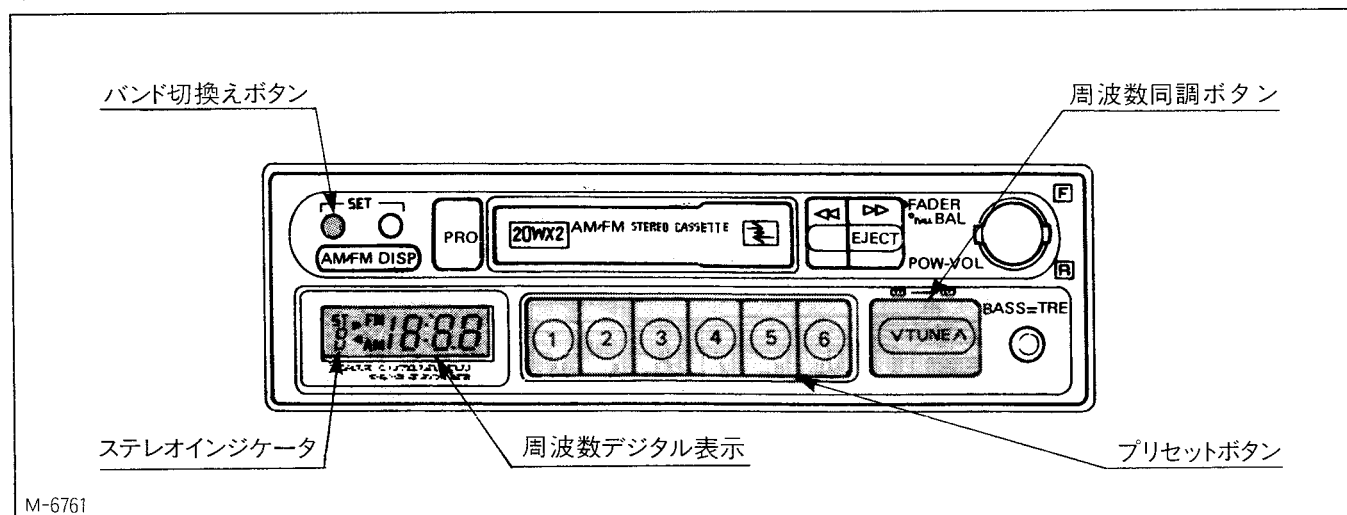
AM・FM、DISPボタンを同時に押すことにより、時計の“分”の単位をゼロにセットできます。

“分”が30～59のときセットすると“時”の単位を1つ進めてセットし、00～29のときは“時”をそのままにセットします。

補 足

*ディスプレイ部はメインスイッチを“OFF”にしても時計表示をしています。電流消費量を少なくするため表示部の照明は点灯しません。

◆ラジオを聞くには



M-6761

バンド切換えボタン

バンド切換えボタンを押すとAM、FMのバンドが切換えられ、受信バンドは各々“AM”“FM”及び周波数をディスプレイに表示します。

ステレオインジケータ

FMステレオ放送受信時には、ディスプレイに“ST”の文字を表示します。

周波数デジタル表示

受信周波数をディスプレイにデジタル表示します。AM放送受信時はkHz単位で、FM放送受信時はMHzで表示します。

周波数同調ボタン

ボタンを押すと、周波数のデジタル表示数が増加し、 ボタンを押すと表示数が減少します。

AM受信時は9kHzずつ移行し、FM受信時は、0.1MHzずつ移行します。

ボタンを0.5秒以上押し続けるとピッと音が鳴り周波数のデジタル表示が増加し、自動的に選局、停止し、受信を継続します。

ボタンも同様に減少側を動作します。

プリセットボタン

あらかじめ、このボタンにご希望の放送局をプリセットメモリしておきますと、ワンタッチで選局することができます。

AM放送6局、FM放送6局をプリセットメモリすることができます。

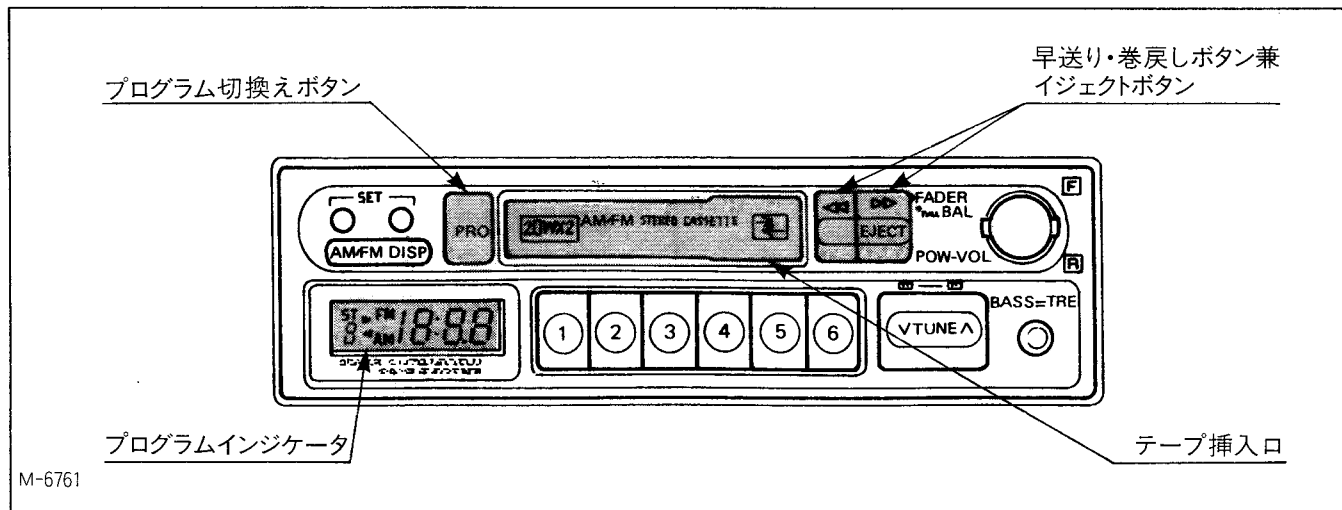
〔プリセット手順〕

- ① カセットテープを取出し、ラジオにした後、バンド切換えボタンを押し、AM放送かFM放送かを決めます。
- ② 周波数同調ボタンで放送局を選局します。
- ③ メモリさせたいナンバーのプリセットボタンを押し続けます。押すといったん音が消え、2秒後にピッと音が鳴り再び放送音が出ます。放送音が出たら完了です。

(このときチャンネル表示は押されたプリセット番号を表示します)

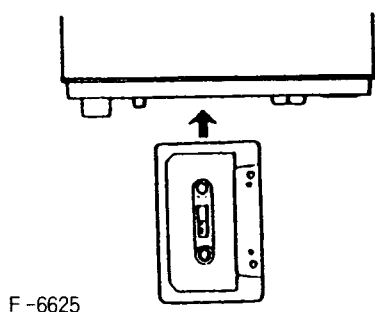
以上で完了です。

◆テープを聞くには



テープ挿入口

テープの見える面を右側にして挿入します。
ラジオの電源に関係なく挿入されると同時に再生を開始し、早送り・巻戻しボタンが飛出します。



プログラムインジケータ

テープの走行方向をディスプレイに2つのインジケータを表示します。

早送り・巻戻しボタン兼イジェクトボタン

プログラムインジケータが ◀ (左方向)点灯時は、◀◀ (左側) ボタンを押します。▶ (右方向) 点灯時は、▶▶ (右側)ボタンを押します。
ボタンを押すと、テープは早送りされます。

プログラムインジケータが ◀ (左方向)点灯時は、▶▶ (右側)ボタンを押します。▶ (右方向)点灯時は、◀◀ (左側)ボタンを押します。
ボタンを押すと、テープは巻戻しされます。
早送り、巻戻しを途中で解除する場合は、隣のボタンを軽く押します。

早送り、巻戻しボタンを同時に押してください。カセットテープが飛出します。

プログラム切換えボタン

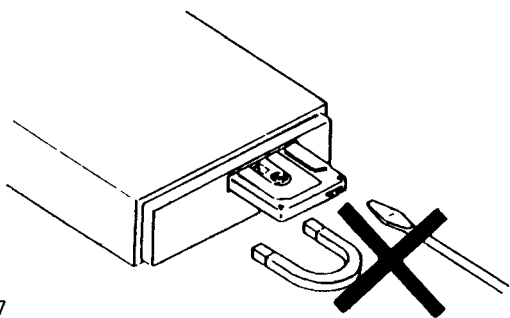
プログラム切換えボタンを押すと、プログラムインジケータの点灯方向が切替わり、再生途中でも自由にプログラムが切換えられます。

補 足

- *カセットテープを聞かないときは、必ずイジェクトボタンを押してテープを取出してください。
- *テープが終端に達すると、自動プログラム切換え装置が働き自動的に次のプログラムに切替わり、連続再生します。

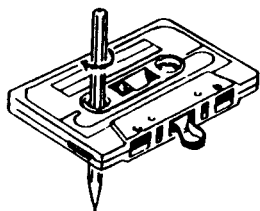
◆取扱い上の注意

- (1) デッキは、水分や高温、多湿を嫌いますので、キャビン内清掃や換気にじゅうぶんご注意ください。
- (2) ヘッド及びカセットテープに、磁石やドライバなどを絶対に近づけないでください。



F-6627

- (3) カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので、テープのゆるみを直してからご使用ください。



F-6626

- (4) カセットテープは、水平にし、カセットテープの中央を押し挿入してください。
- (5) C-120タイプのカセットテープは、テープ自身が非常に薄く、伸びたり切れたりしますので、ご使用は避けてください。
- (6) ラベルのはがれかかったカセットテープ、またケースが変形しているカセットテープは、メカニズムの故障の原因となりますので、ご使用は避けてください。

- (7) ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため、ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお、クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

- (8) キャビン内の温度に気をつけてください。

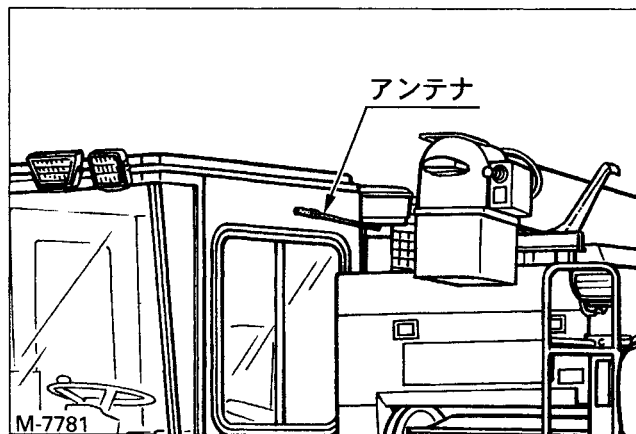
極寒や酷暑のとき、とくに夏期はキャビン内の温度が大変高くなる場合がありますので、キャビン内の換気に注意し、適温で使用してください。また、コンバインから降りられるときには、必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

- (9) デッキ操作は、安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また、運転中の音量は事故防止のため、車外の音が聞える程度でお楽しみください。

- (10) デッキのお手入れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には柔らかい布を水又はぬるま湯に浸し、軽く拭取ってください。

◆アンテナ

アンテナはキャビン左上部に装着されています。ラジオはメインスイッチが“ON”のとき受信できます。



補 足

* アンテナは角度調整できませんので動かさないでください。

3. エンジンの始動と停止



警告

- *この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。
- *コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。



注意

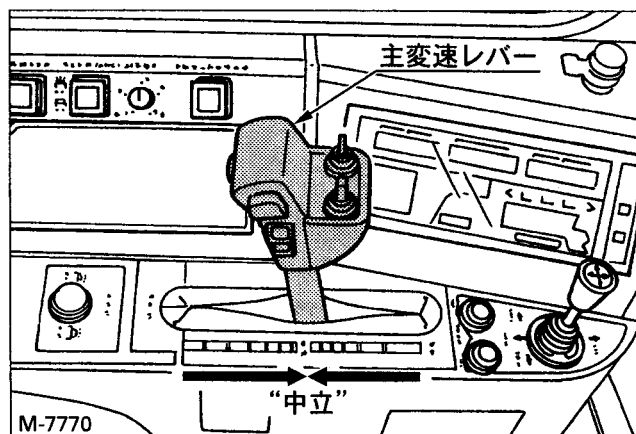
- *エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の不じゅうぶんな納屋・倉庫で暖機運転をしないでください。
- *始動操作は、運転席に座って行なってください。

運転席への乗り降りのしかた

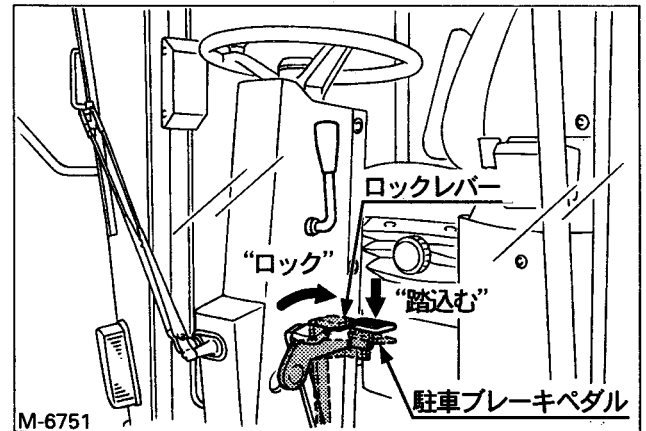
左右の取手を握りステップへ足をかけて1段ずつ登ります。降りるときは座席から飛び降りず、ステップに足をかけ、取手を握って後ろ向きに降ります。

エンジンの始動

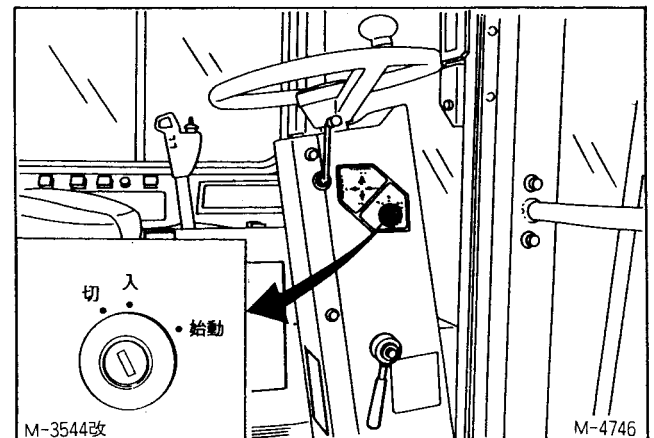
- ①主変速レバーを“中立”にします。



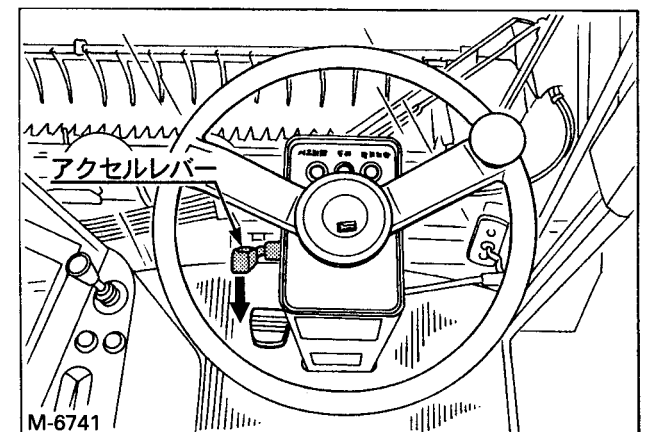
- ②駐車ブレーキを“ロック”します。



- ③メインスイッチを“入”にします。



- ④アクセルレバーを手前に少し引張ります。



- ⑤ホーンスイッチを押してホーンを鳴らし、安全を確認します。

- ⑥メインスイッチを“始動”にし、エンジンがかかれば手を離します。

重要

- *メインスイッチを“始動”にし、セルモータを回して10秒たっても始動しないときは、いったん“切”にして、30秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
- *エンジンが始動すれば、暖機運転をしてください。

◆暖機運転のしかた



注意

- *暖機運転は平地で駐車ブレーキをロックし、主変速レバーを“中立”にして行なってください。

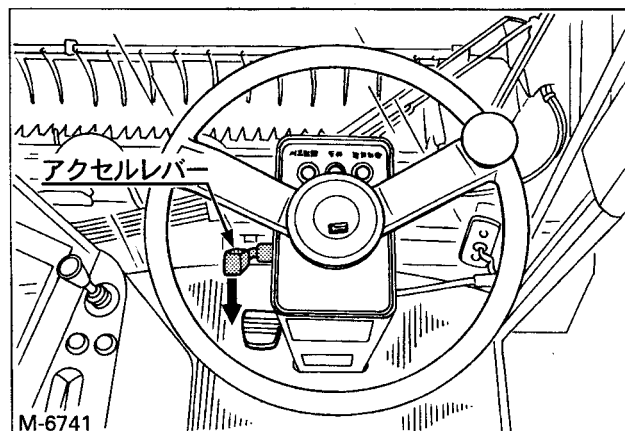
始動後、水温計の針が動出すまでは作業をせずに約1500min⁻¹(rpm)で暖機運転をします。

重要

- *オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるため、始動してからすぐ作業をすると、回転部分の焼付きや破損など故障の原因になります。
- また、必要以上に暖機運転を長くすると完全燃焼が行なわれず、エンジンに悪影響を及ぼします。

エンジンの停止

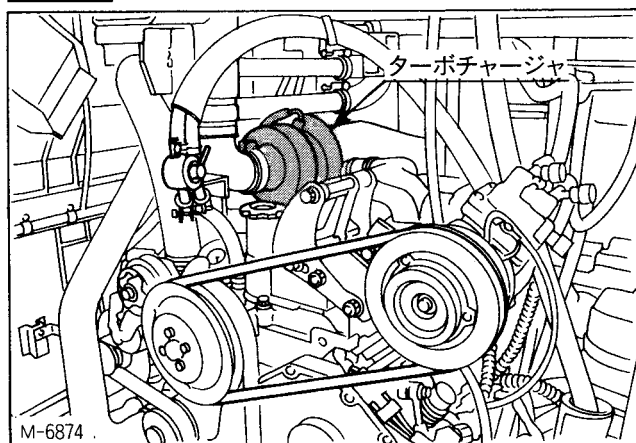
- ①アクセルレバーをいっぱい前へ押してアイドリング状態にします。



- ②3～5分間運転します。

- ③メインスイッチを“切”にするとエンジンが停止します。

補足



- *ターボチャージャー（過給装置）は、同じ排気量で通常より多くの空気を供給（過給）し、大きな馬力が引出せる装置で、非常に精密に作られています。
- *排気ガスのエネルギーを利用していますので、700℃以上の高温状態になり、しかも毎分10万回転以上の高速で回ることがあり、その回転部分の潤滑と冷却はエンジンオイルによって行なっています。
- *このため、定められたエンジンオイルの交換と、作業後のアイドリング運転時間を守らないと、劣化したエンジンオイルにより回転軸受部の固着や異音を生じることがあります。
- *ターボチャージャーの性能をじゅうぶん引出すために、始動後の急発進や始動直後の空吹かしは避けてください。

4. コンバインの走行と輸送

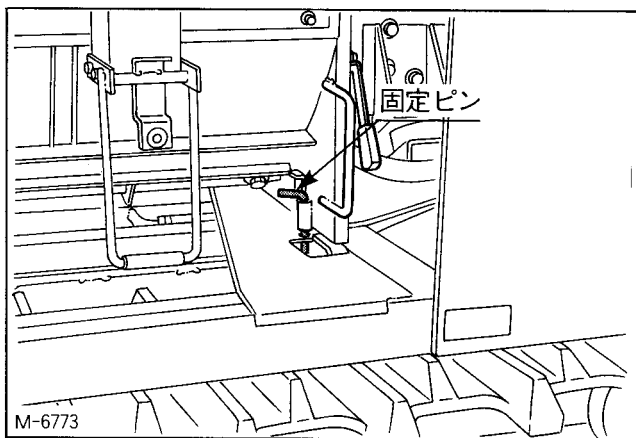
走行前の準備



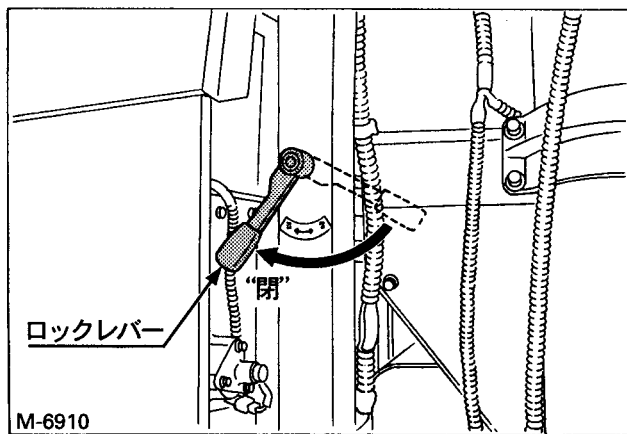
注意

- * 運転操作は、運転席で行なってください。
- * もみはすべて排出してください。(33ページ参照)
- * 準備が終われば、カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

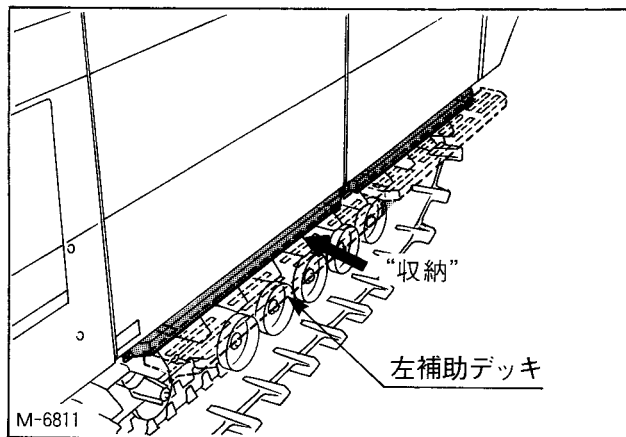
- ① タンクサイドカバー (44ページ参照) を外し、固定ピンが差込んでいることを確認します。



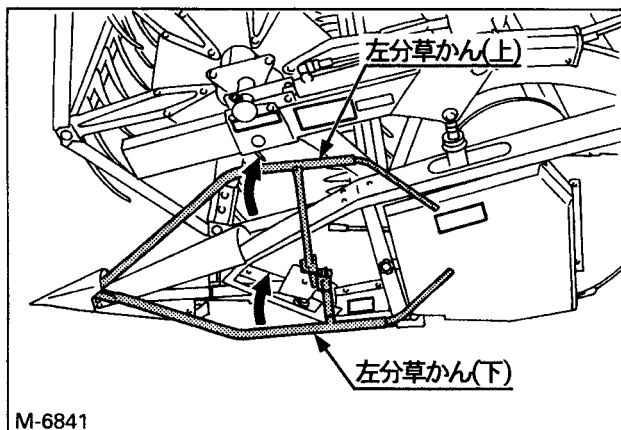
- ② タンク後ろカバーを開き、ロックレバーが“閉”位置にあることを確認します。



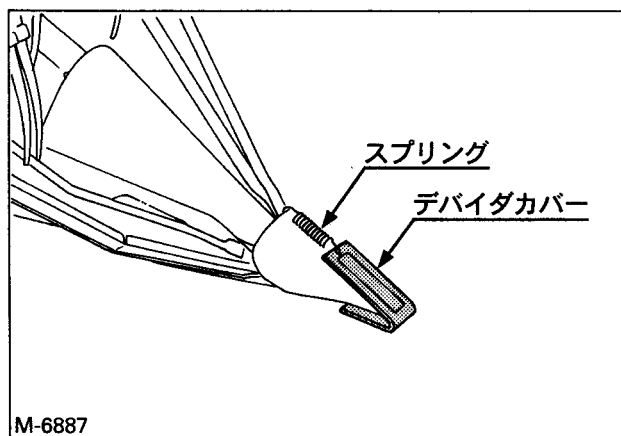
- ③ 左補助デッキを収納し、ベータピンで固定します。



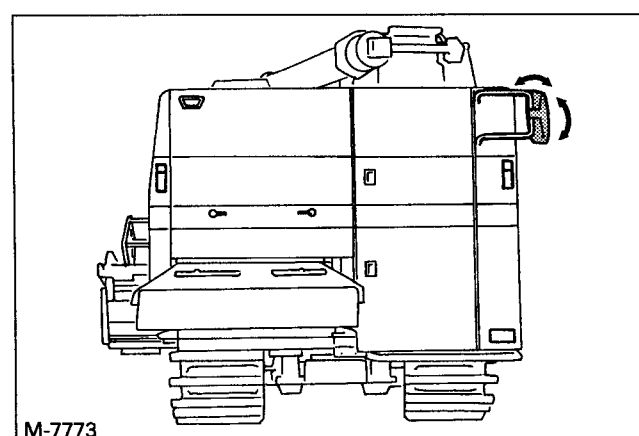
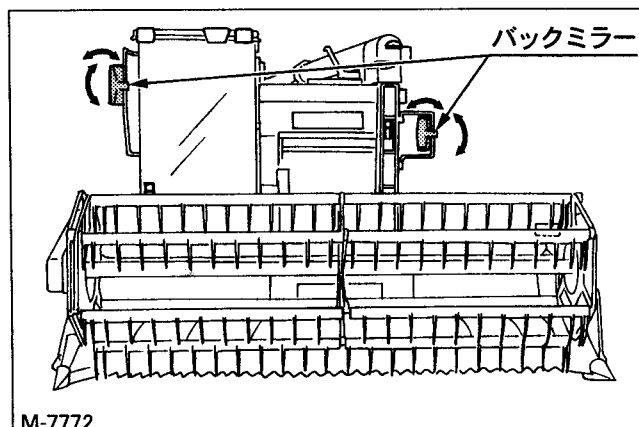
- ④ 左分草かんを収納します。



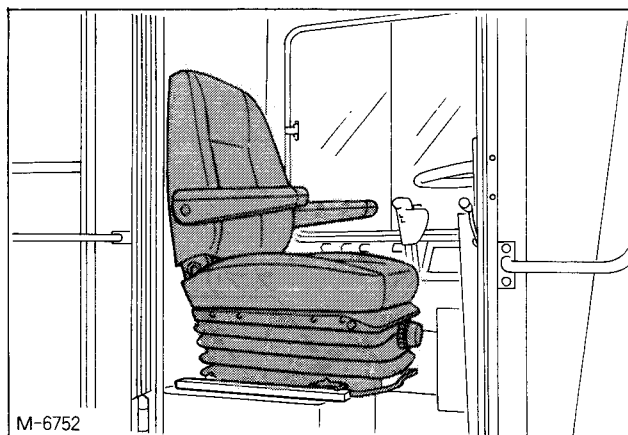
- ⑤ 左右それぞれのデバイダ先端にデバイダカバーをスプリングで引っ掛けて取付けます。



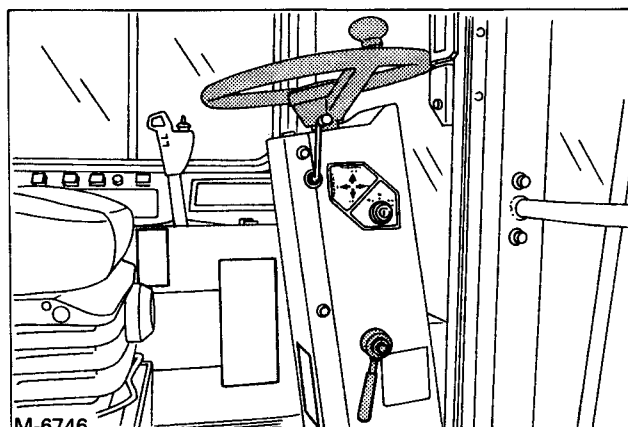
- ⑥ 後方視野がじゅうぶん確認できる位置にバックミラーを調整します。



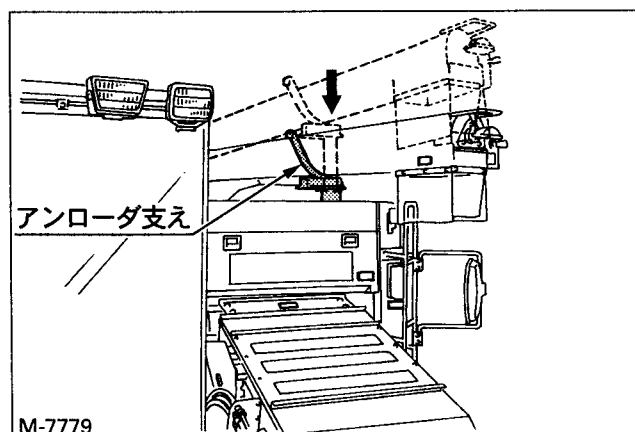
- ⑦ 適正な姿勢が得られるようにシートの調整をします。 (13ページ参照)



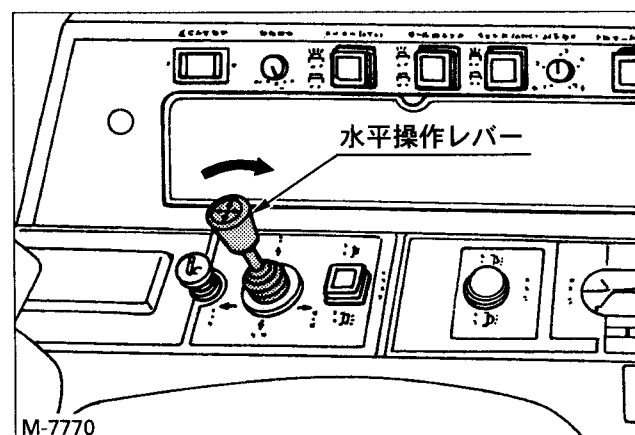
- ⑧ 適正な姿勢が得られるようにステアリング角度を調整します。 (13ページ参照)



- ⑨ エンジンを始動します。 (23ページ参照)
 ⑩ アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ支えに収納します。
 (アンローダ支えは“下げ”位置でセットします。) (58ページ参照)

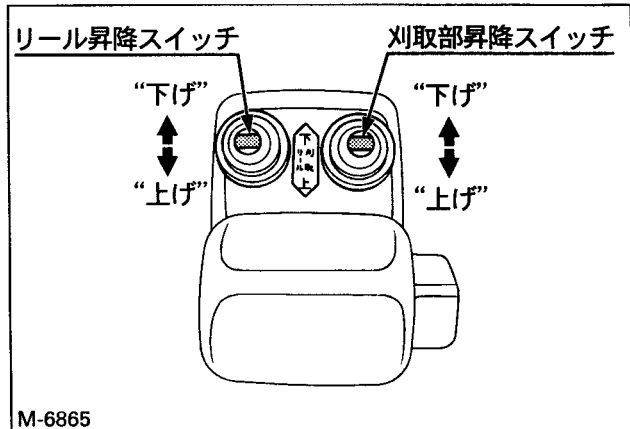


- ⑪ 水平操作レバーを“機体下”にして車体を一番下まで下げます。



- ⑫ 刈取部昇降スイッチを後に引いて、刈取部を“上げ”ます。

- ⑬リール昇降スイッチを前に押して、リールを“下げ”ます。



- ⑭キャビンのドアを完全に閉じるか又は開いてロックします。

走行



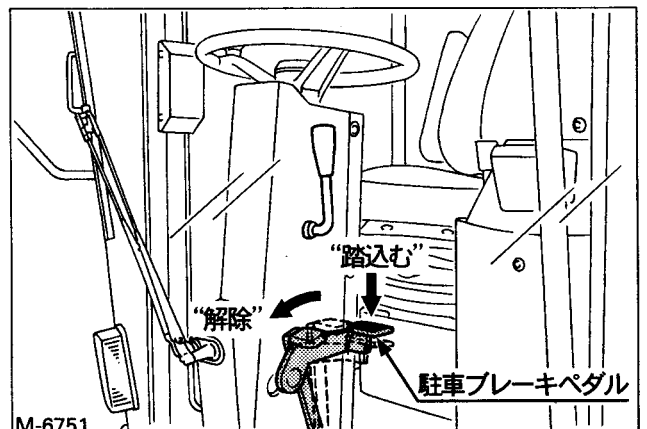
注意

- * 運転者のほかは運転席に乗せないでください。
- * 発進するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近づけないでください。
- * 転落・転倒事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないでください。
- * 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して“中立”の位置にしてください。
主変速レバーのノブを押すと“中立”の位置がわかりにくくなるので、ノブを押しながら減速しないでください。
- * 副変速を切換えるときは、急に方向が変わることがありますので、平坦な場所で走行速度を落として行なってください。特に“高速”走行から“標準”走行に切換える場合は、1.2m/s以下に落としてください。
- * 道路交通法規定により、トラック輸送時は、地上高3.8m以下にしてください。
- * 旋回するときにはじゅうぶん減速してから、ステアリングハンドルを徐々に回してください。急旋回するおそれがあります。

重要

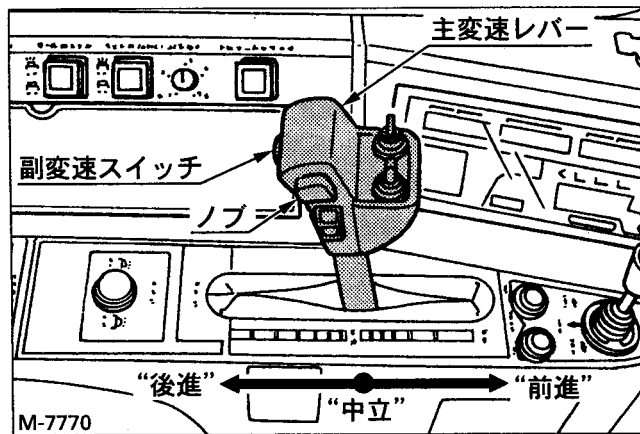
- * 水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
- * 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。
- * 走行時は、エンジン回転数を2000min⁻¹(rpm)以上にしてください。
- * 刈取部は、上げたまま長時間経過すると徐々に下降することがあります。

- ① 走行前の準備をします。(25ページ参照)
- ② 駐車ブレーキを強く踏込みロックを解除します。



③副変速を選択します。

(9ページ参照)

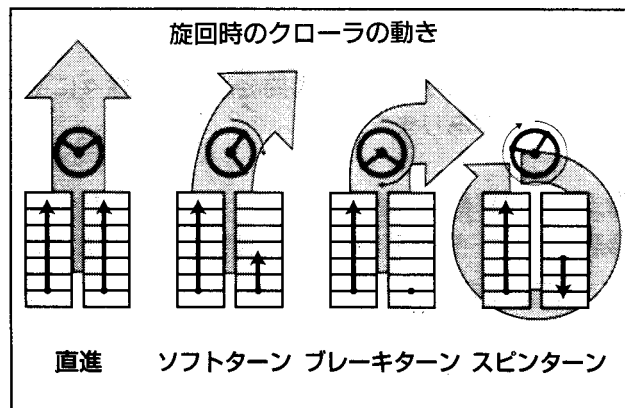
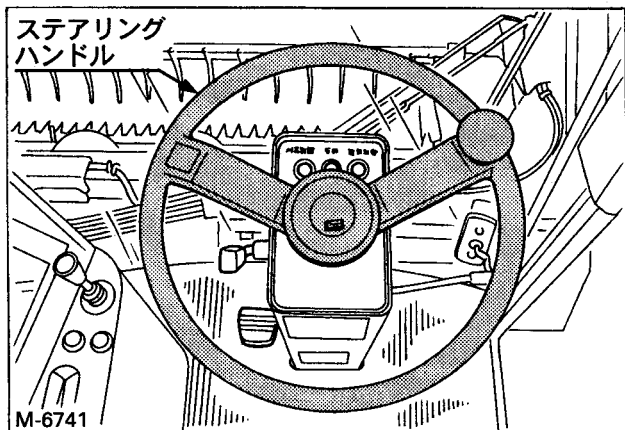


④主変速レバーを前方に押すと、“前進”するので適当な速度で走行してください。

後進は主変速レバーのノブを押しながら、後方に引くと“後進”します。

⑤方向変換のときはステアリングハンドルを少し左又は右に回します。

たくさん回しますと急旋回します。



停車・駐車

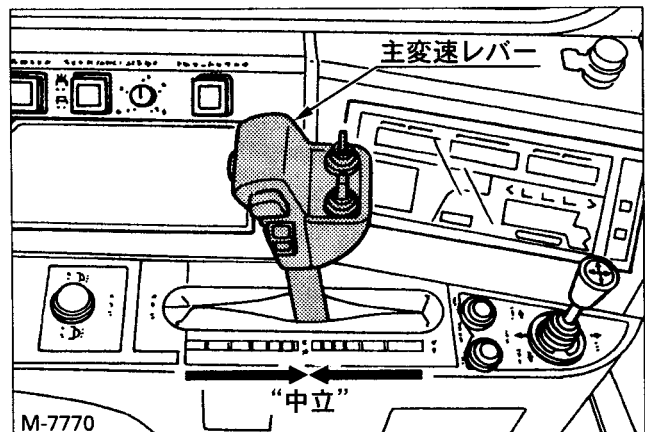


注意

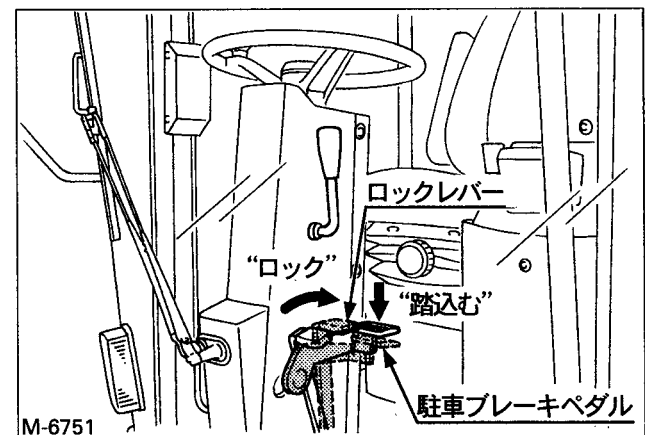
*火災のおそれがあるので、切りわらや雑草の上に機械を停止しないでください。

*機械から離れるときは、エンジンを止めてメインスイッチのキーを抜き、駐車ブレーキをロックしてください。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

①主変速レバーを“中立”にします。



②駐車ブレーキを“ロック”します。



③刈取部を一番下まで下げます。

④エンジンを“停止”し、キーを抜いておきます。

重要

*水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。

輸送

■トラックなどの準備



注意

- * 積み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- * 平たん地を選び、できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また、コンバインの周辺に人を近づけないでください。
- * あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅(クローラの1.3倍以上)、長さ(高さの4倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- * あゆみ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	80cm以上
数 量	2枚
強 度	1枚が5700kg以上の重量に耐えうる

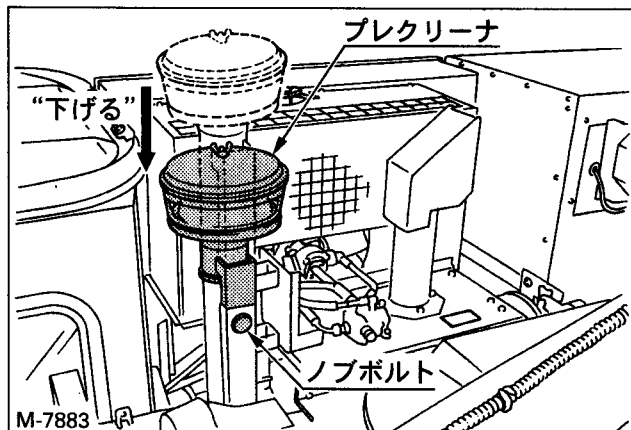
■コンバインの準備



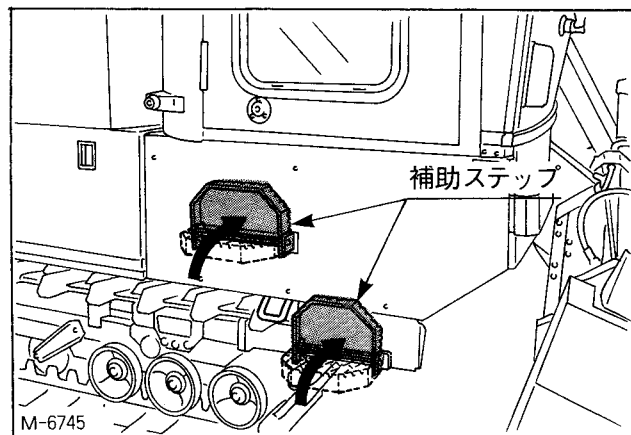
注意

- * “もみ”はすべて排出してください。
(33ページ参照)
- * はしごに登るときは、エンジンを止めてください。
- * プレクリーナの調節をするときは、高温部（マフラ先端、ラジエータ上部、油圧ファンモータなど）に触れないでください。また、すべらないように足場を確認してください。
- * トラックで輸送する場合は、プレクリーナを下げ位置にセットしてください。

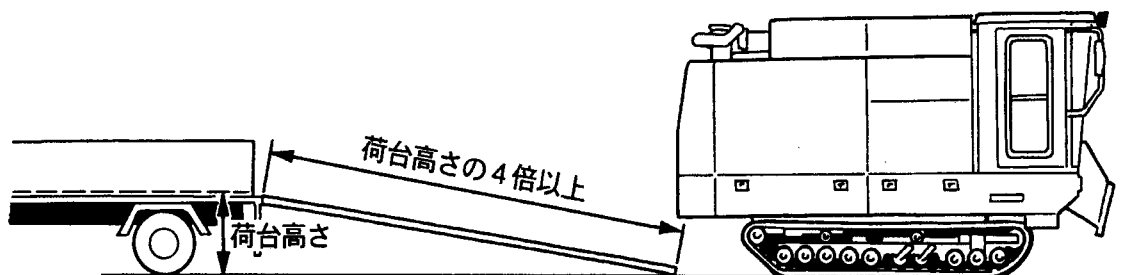
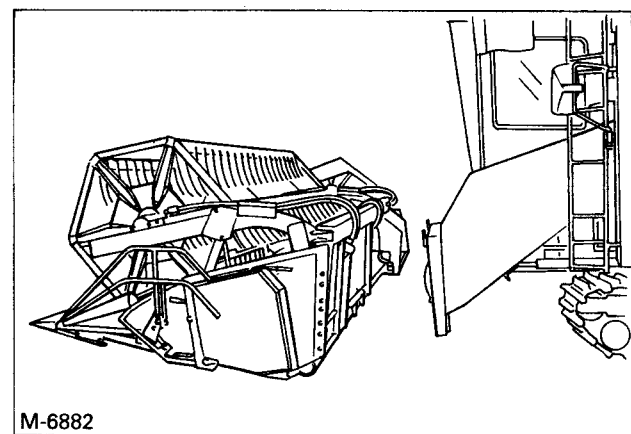
- ① 移動走行前の準備をします。(25ページ参照)
- ② プレクリーナを“下げ”位置にセットします。
(59ページ参照)



- ③ 補助ステップを折りたたみます。



- ④ 刈取部を分離します。(125ページ参照)



M-6769

■トラックへの積み方・降し方



注意

* 積込むときは、刈取部を外し“後進”で、降すときは“前進”で行なってください。

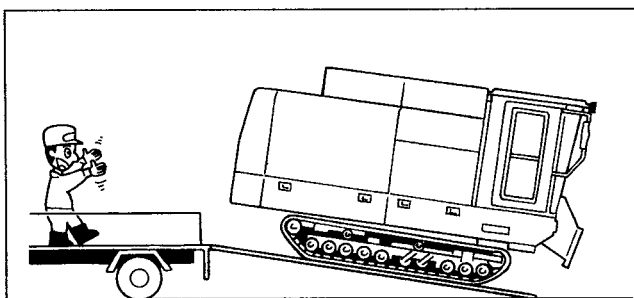
* 副変速を“標準”にし、エンジンの回転数を約 $2000\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以上にセットし、走行速度をじゅうぶんに落として行なってください。

* あゆみ板の上ではステアリングハンドルを操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直してください。

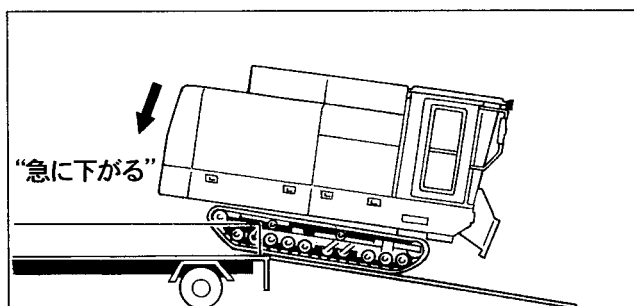
* 機体が凸部を越えるときは、急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん減速してください。

① 刈取部昇降スイッチでフィーダを一番上まで上昇させます。

② ゆっくり上り降りします。



M-6770



M-6771

■刈取部の移動

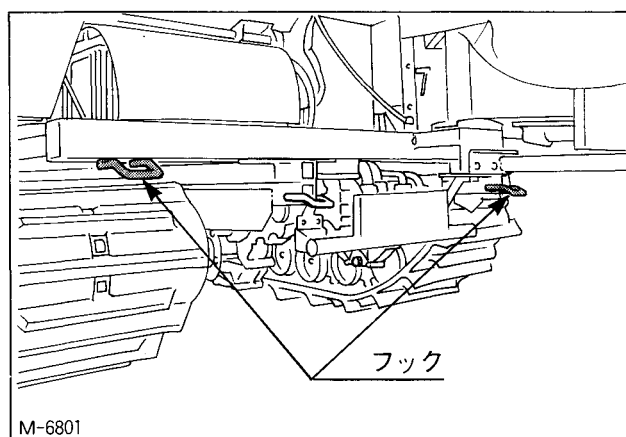
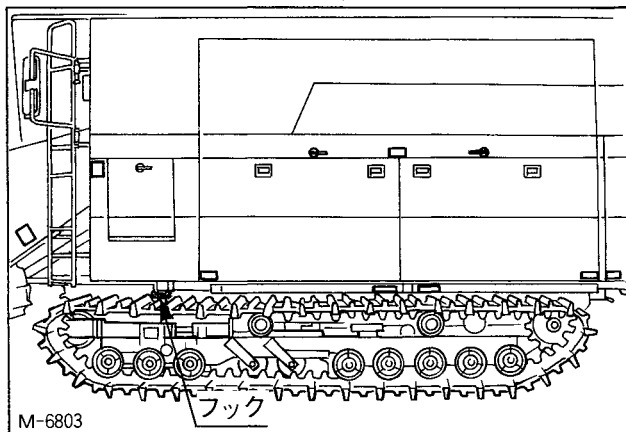
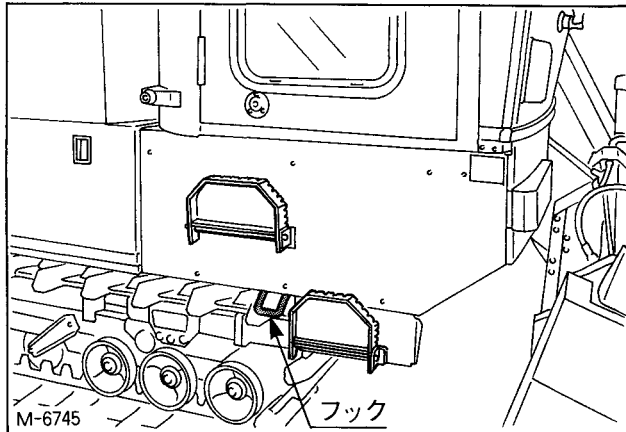
刈取部は別のトラックへクレーン又はフォークリフトなどを用いて積込みます。

■トラック上での処置



注意

*トラックやトレーラに積んで走るときは、ロープをフレームの所定の“ロープ掛けフック”（4カ所）に掛けてください。また、コンバインの駐車ブレーキを掛け確実に“ロック”してください。

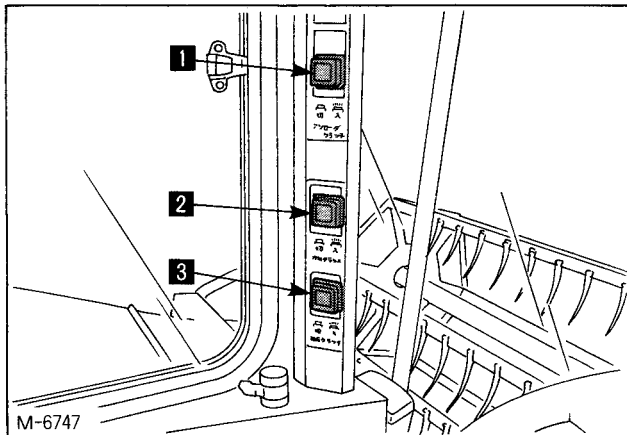


重要

- * 水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
- *刈取部やフック以外の所には、ロープを掛けないでください。

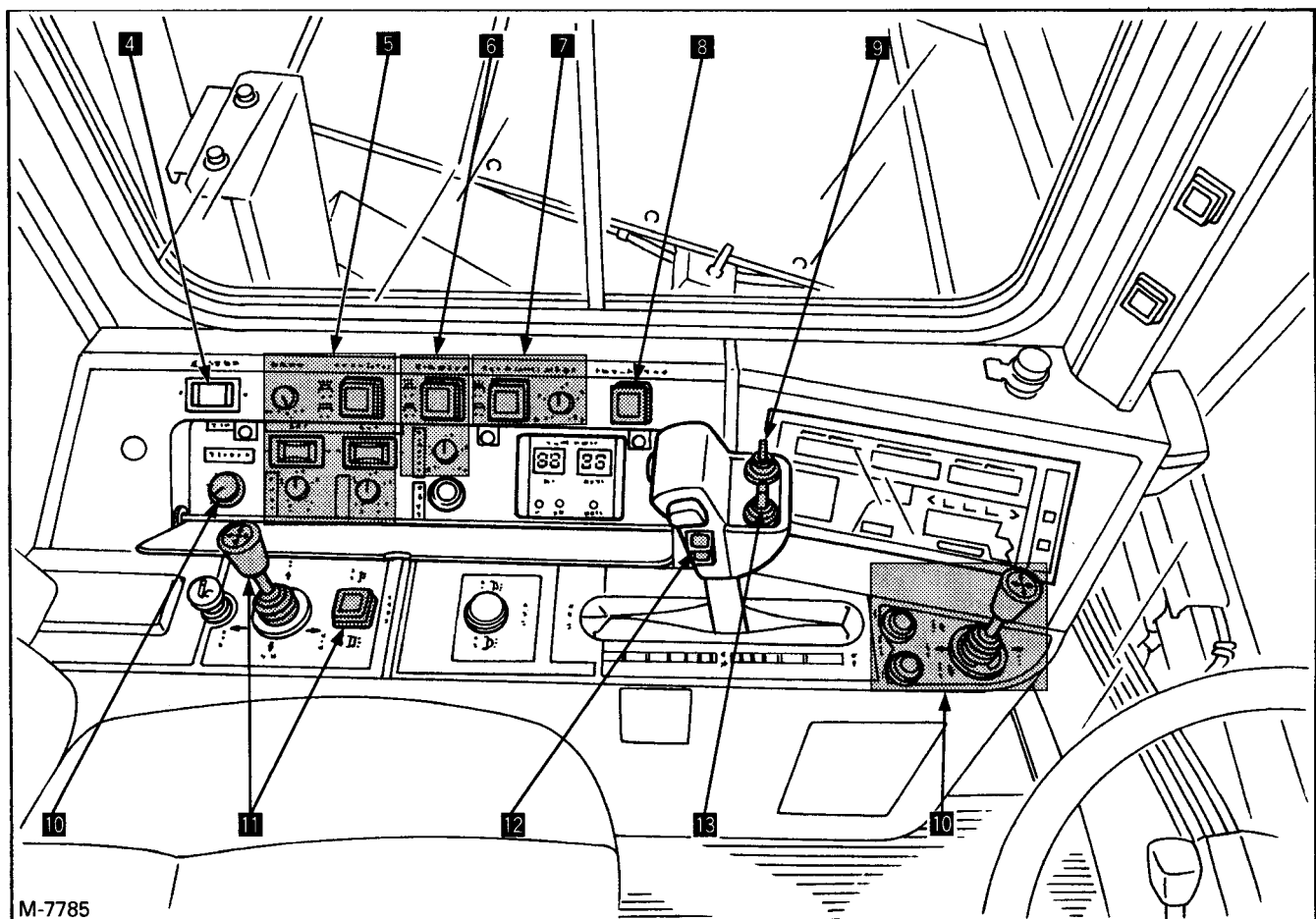
5. 作業装置の名称と使い方

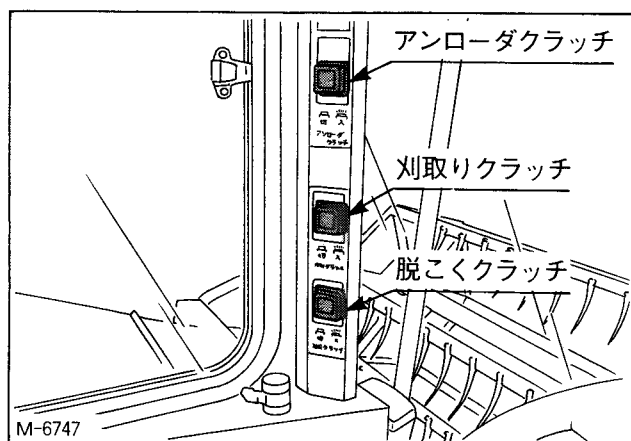
サイドパネル



参照ページ

1 アンローダクラッチスイッチ	33
2 刈取りクラッチスイッチ	33
3 脱こくクラッチスイッチ	34
4 送じん弁手動スイッチ	34
5 自動脱こく制御装置	35
6 自動リール回転数制御装置	36
7 自動刈高さ制御装置	38
8 刈取りオートクラッチスイッチ	39
9 リール昇降スイッチ	39
10 アンローダ自動旋回制御装置	40
11 自動水平制御装置(マジカルモンロー)	41
12 ポジピタスイッチ	42
13 刈取部昇降スイッチ	43





1 アンローダクラッチスイッチ

メインスイッチを“入”にするとアンローダクラッチスイッチ内のランプが点灯し、約2秒後に消灯します。

エンジンが回転している状態でスイッチを押すと、アンローダクラッチが入り、グレンタンク内のこく粒が排出できます。

その状態で再度スイッチを押すと、クラッチが切れて、ランプは消灯します。

“” ……アンローダが停止します。

“” ……アンローダが駆動します。

補 足

*アンローダクラッチスイッチは、アンローダの先端にもあります。(41ページ参照)

*エンジンが始動していないときにスイッチを押しても、クラッチは“入”にはなりません。

2 刈取りクラッチスイッチ

メインスイッチを“入”にすると刈取りクラッチスイッチ内のランプが点灯し、約2秒後に消灯します。脱こくクラッチが“入”状態でスイッチを押すと、刈取りクラッチが入り、ランプが点灯します。

その状態で再度スイッチを押すと、クラッチが切れて、ランプは消灯します。

“” ……刈取部が停止します。

“” ……刈取部が駆動します。

補 足

*脱こくクラッチスイッチが“切”状態でスイッチを押しても、刈取部は駆動されません。

*刈取りオートクラッチが自動の場合は、刈取部を下降させないと駆動されません。

*エンジンが始動していないときにスイッチを押しても、クラッチは“入”にはなりません。

3 脱こくクラッチスイッチ

メインスイッチを“入”にすると脱こくクラッチスイッチ内のランプが点灯し、約2秒後に消灯します。エンジンが回転している状態でスイッチを押すと、脱こくクラッチが入り、ランプが点灯します。その状態で再度スイッチを押すと、クラッチが切れて、ランプは消灯します。脱こくクラッチスイッチを“切”にすると、刈取りクラッチスイッチも“切”になります。

“切”……脱こく部及びチョツパ部【S仕様】が停止します。

“入”……脱こく部及びチョツパ部【S仕様】が駆動します。

- ① アクセルレバーでエンジン回転数を約1500min⁻¹ (rpm)にします。
- ② ホーンを押して合図します。
- ③ 脱こくクラッチスイッチを押し、ランプが点灯することを確認します。
- ④ アクセルレバーを緑目盛上限に合わせます。

重 要

* エンジンを止めるときは、刈取りクラッチスイッチ・脱こくクラッチスイッチを“切”にしてから、メインスイッチを“切”にしてください。

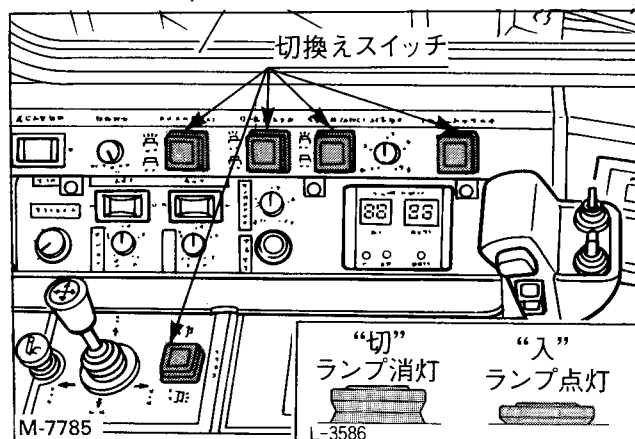
補 足

* エンジンが始動していないときにスイッチを押しても、クラッチは“入”にはなりません。

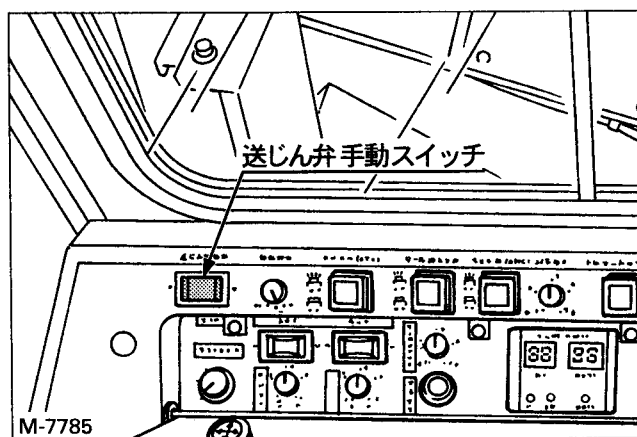
■ 切換えスイッチ

切換えスイッチは押込むとその位置でロックされ、“自動”に入りメインスイッチが“入”であればランプが点灯します。

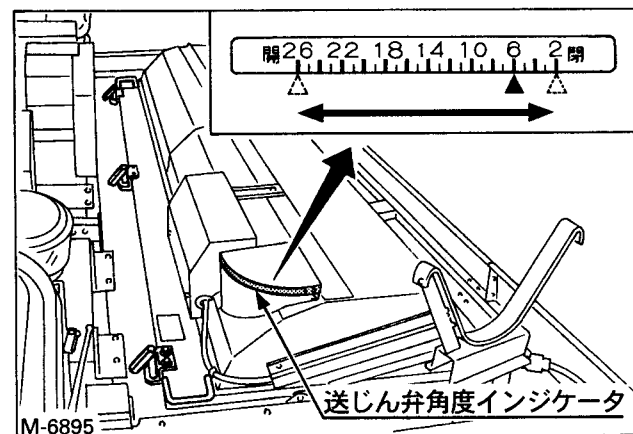
再度このスイッチを押込むことにより、手動に戻りランプが消えます。



4 送じん弁手動スイッチ



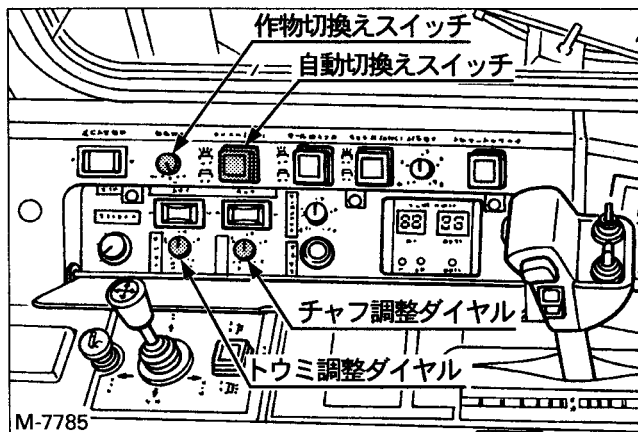
送じん弁角度は脱こく機天板のインジケータにより表示されています。



インジケータ (度)	5 (開)	6	7	8	10	12	14	18	20	22 (閉)
作 物										
脱粒しにくい稲	←	→								
標 準 稲			←	→						
脱粒しやすい稲				←	→					
麦					←	→				
大豆, 小豆, そば								←	→	

黒塗り範囲が標準位置です。作物の水分が高かったりロスが多いときは“閉”側へ、また倒伏作物刈りや負荷が多いときは“開”側へ、白矢印の範囲内で調整します。排ワラの未脱粒を見ながら、小まめに調整してください。未脱粒が出ていない場合は、“開”側方向で使用します。能率が上がりこぎ胴での詰まりが防止できます。特に、刈り始め時期に“閉”側で使用了場合は、刈取り時期中盤～後半には必ず“開”側へ再調整します。上記はリールヘッダ仕様のときの調整です。Rヘッダ又はリールヘッダでツインカットを使用するときは、上記より1～2度“閉”側で使用します。

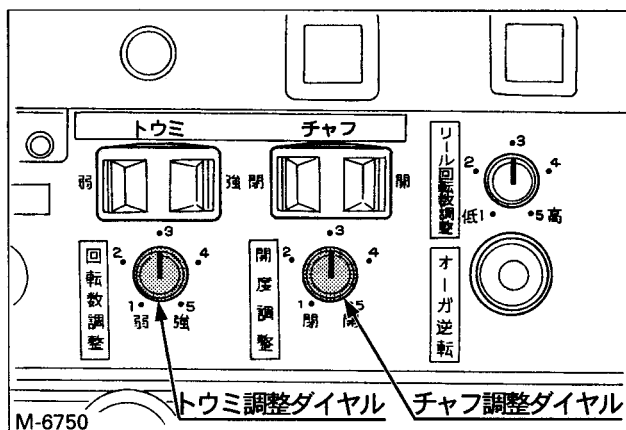
5 自動脱こく制御装置



◆作物切換えスイッチ

自動制御中は、作物に合わせて切換えます。但し、ソバ刈りのときは、“大豆”にセットします。

◆トウミ・チャフ調整ダイヤル



自動制御中は、下表を参考にしてトウミ回転数を調整してください。

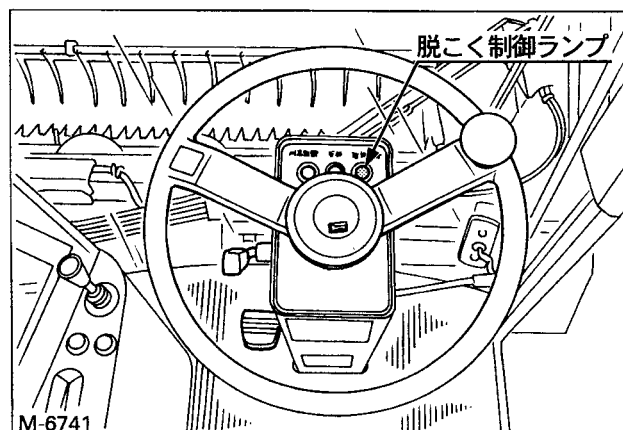
作物	“トウミ”ダイヤル調整のめやす
稲標準	
稲 高水分大麦	●飛散粒が多いとき ●雨上がり ●朝霜有 ●ゴミが多いとき
麦	
ソバ・大豆	

自動制御中は、下表を参考にしてチャフ開度を調整してください。

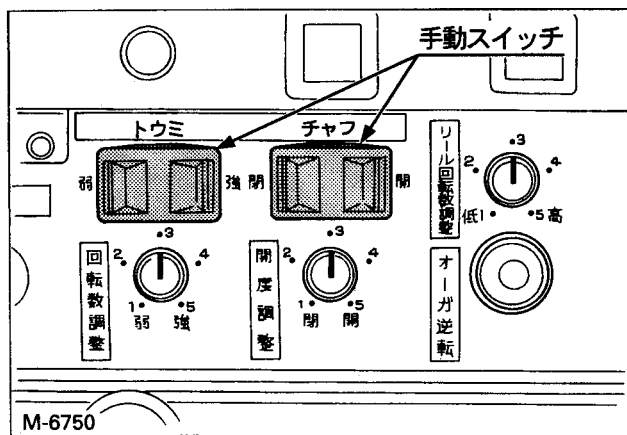
作物	“チャフ”ダイヤル調整のめやす
稲標準	
稲 高水分大麦	●雨上がり ●飛散粒が多いとき ●乾燥気味のとき
麦	
ソバ・大豆	

◆操作手順とその動き

- ①脱こくクラッチスイッチを“入”にします。
- ②自動切換えスイッチを“自動”にします。
- ③作物切換えスイッチを作物に合わせて設定します。
- ④この状態でこぎ胴に作物が流れると、自動制御が作動し脱こく制御ランプが点滅します。
- ⑤選別やロスの状態を見ながら、チャフとトウミのダイヤルを調整します。
- ⑥刈終わると自動的に自動制御は停止します。自動制御が停止すると、脱こく制御ランプは消灯します。

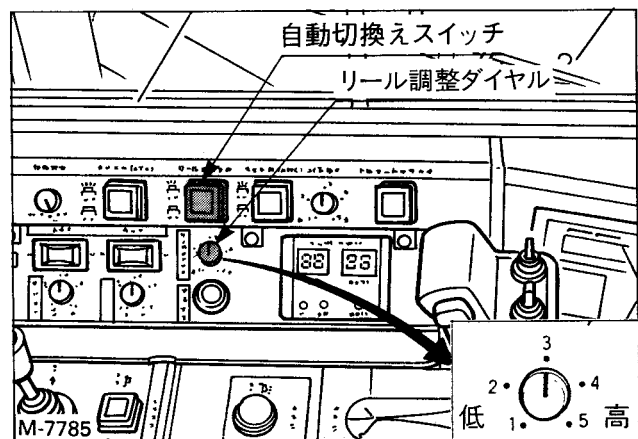


◆手動操作



- (1) 自動切換えスイッチを“手動”にし、手動スイッチを操作すると、チャフ・トウミとも動きます。
- (2) チャフはメインスイッチが“入”であれば作動しますが、トウミは脱こく部が回っていないと動きません。
- (3) 自動制御中でも手動スイッチは優先します。しかし、スイッチから手を離すと再び自動制御が作動します。

6 自動リール回転数制御装置



◆リール調整ダイヤル

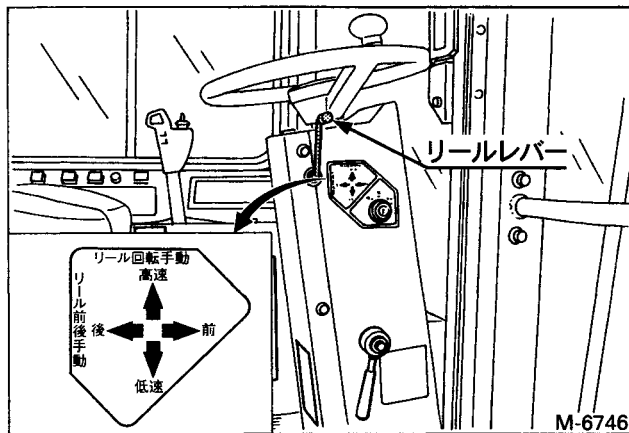
- (1) 通常リール回転数は車速の1.2～1.5倍（ダイヤル目盛2～3）に調整します。
- (2) 速すぎるとヘッドロスが生じます。
- (3) 逆に遅すぎると、刈取部で作物が滞留したり、刈り終り時に、作物がこぼれることがあります。
- (4) 下表を参考にしてリール回転数を調整してください。

作物	“リール制御”ダイヤルのめやす
立毛稲	
倒伏稲・麦	
ソバ・大豆	

◆操作手順とその動き

- ① 脱こく・刈取りクラッチスイッチを“入”にします。
- ② 自動切換えスイッチを“自動”にし、自動ランプの点灯を確認します。
- ③ この状態で自動リール回転数制御が作動します。
刈取り作業を開始し、車速が上がるとリールの回転速度も上がり、車速が下がるとリールの回転速度も下がります。

◆リールレバー



〔リール回転数手動調整〕

リール回転数制御の自動切換えスイッチを“切”にし、リールレバーを上・下に操作すると、リール回転数が変わります。このとき、リールが回っていないと作動しません。

下表を参考にして回転数を調整してください。

リール速度	
立毛時	タイムバーが作物に分け入るとき、作物が揺れ動かないように調整してください。 リール速度は走行速度の2～5割増にしてください。
追刈時	走行速度より、かなり速くしてください。 走行速度を遅くしてください。
向刈時	走行速度と同じか、やや速めにしてください。
横刈時	走行速度よりやや速めにしてください。
完全倒伏	走行速度よりやや速めにしてください。

※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは、タイム1本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか、リールを速く回転させてください。

〔リール前後位置調整〕

リールレバーを前へ押すと、リールは前に動き、後へ引くと後へ動きます。

(1)リールの前後位置は最後方が標準です。

(2)倒伏稲の場合、少し前に出した方が引きこし性能がよくなります。

下表を参考にして前後位置を調整してください。

リール前後位置	
立毛時	リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。
追刈時	リールが作物を拾い残さない高さになるまで、前方に出してください。
向刈時	リールの中心が、刈刃のやや前あたりに調整してください。
横刈時	リールが作物を拾い残さない高さになるまで、前方に出してください。
完全倒伏	リールが作物を拾い残さず、土に突っ込まない高さになるまで、前方に出してください。

※リールを前方に出し過ぎると、かんこぼれやオーガ部でムラ搬送の原因となります。

補 足

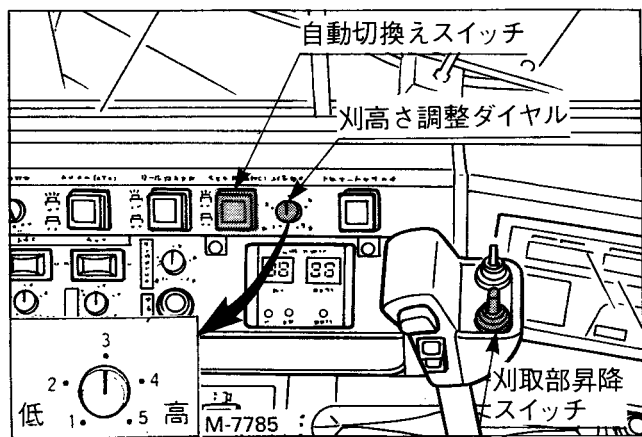
＊リールを前に出しすぎると、刈取部左右側板近辺で滞留が発生し易くなります。ここで滞留が発生すると、オーガも詰まり易くなります。リールを前に出す場合は滞留が発生しない程度までにしてください。

7 自動刈高さ制御装置



注意

* 感知板（ソリ）が接地している場合は，“自動”にするとすぐに刈取部が下降する場合があるので、コンバインに人を近づけないでください。

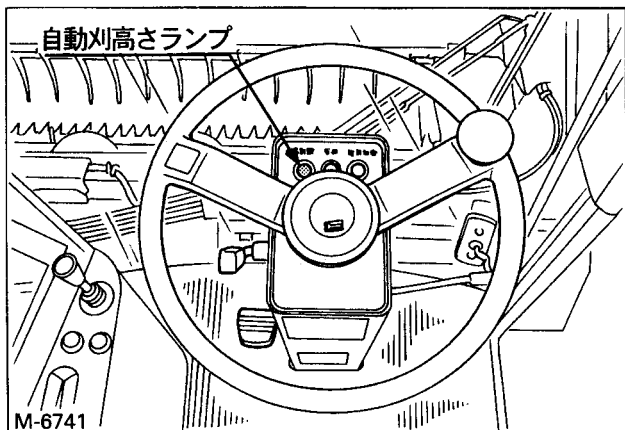


◆刈高さ調整ダイヤル

- (1) 高さ調整ダイヤルにより、刈高さを約4～10cmの範囲に調整できます。
- (2) ダイヤルを“高”の方向に回すと高刈りとなり、“低”の方向に回すと低刈りとなります。

◆操作手順とその動き

- ① 脱こくクラッチスイッチを“入”にします。
- ② 自動切換えスイッチを“自動”にします。
- ③ 刈高さ調整ダイヤルで好みの刈高さを設定します。
- ④ 刈取部昇降スイッチを“下げ”にし、刈高さが刈刈高さが10cm以下になると、自動制御に入り刈高さ制御ランプが点滅します。
- ⑤ 刈取部昇降スイッチを“上げ”にすると、自動制御は停止し、刈取部は上がります。自動制御が停止すると刈高さ制御ランプは消灯します。

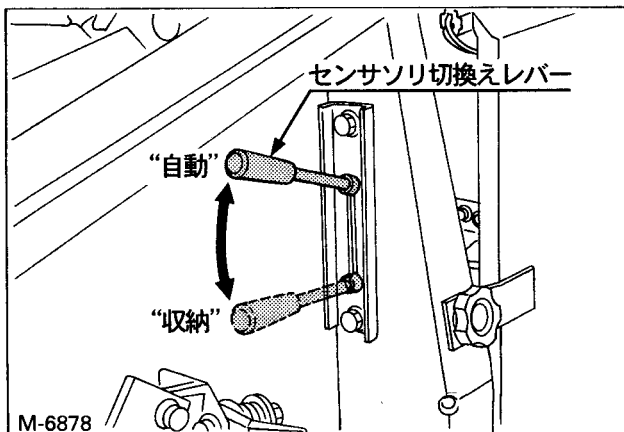


補足

- * 自動制御中でも、刈取部昇降スイッチによる手動操作が優先されます。
- * 刈高さ調整ダイヤル“高”位置での刈取り、又はほ場に大きな段差がある場合などは、ランプが一時的に消灯する場合があります。消灯時間が長い場合は、刈取部昇降スイッチで刈取部を少し下げランプを点滅状態にしてください。
- * 大豆の横刈りやほ場に起伏が多い場合は、刈取部へ土が混入することがあります。その場合は手動で作業してください。
- * 湿田の場合、感知板（ソリ）が土を押して刈取部へ土が混入することがあります。この場合は、刈取部昇降スイッチをこきざみに操作し、刈取部を少しずつ下げ、感知板（ソリ）が地面に接して自動刈高さが“入”になるようにしてください。
- * 人足沈下量5cm以上の湿田では、土質により刈高さ制御が不能になる場合がありますので、湿田での使用はご注意ください。

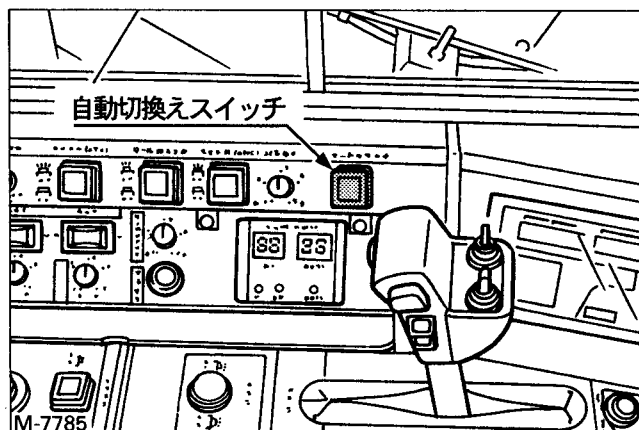
◆センサソリ切換えレバー

刈取部の左側にあるセンサソリ切換えレバーは、自動のときには“自動”位置にセットし、自動を使わないときには“収納”位置にします。

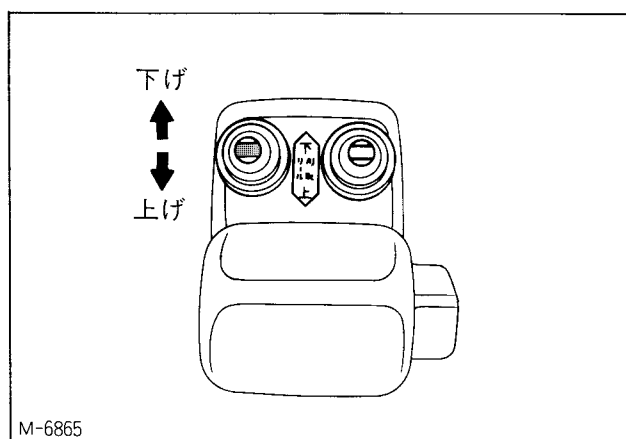


8 刈取りオートクラッチ装置

切換えスイッチを“入”にし、刈取部を上昇させたとき、刈取り・脱こくクラッチが“入”の状態でも、自動的に刈取部及びフィーダチェーンの駆動が止まります。このとき刈取りクラッチスイッチのランプは点滅します。また刈取部を下げると自動的に回り始めます。切換えスイッチを“切”にすると、刈取部・脱こく部の駆動は、各クラッチスイッチの“入”・“切”で行ないます。



9 リール昇降スイッチ【R仕様を除く】



スイッチを前に押すとリールが下がり、後に引くとリールが上がります。

下表を参考にしてリール高さを調整してください。

	リール高さ
立毛時	タインバーが穂首のやや下を通るように、調整してください。
追刈時	一杯下げてください。
向刈時	タインが作物の穂先を櫛ですくうように、調整してください。
横刈時	一杯下げてください。
完全倒伏	

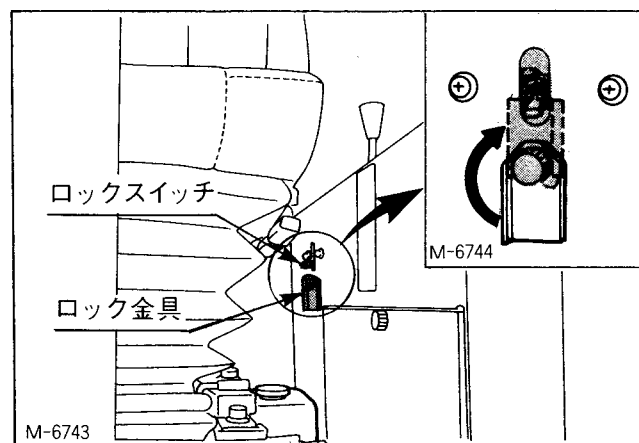
■ リールの下降ロックのしかた



警告

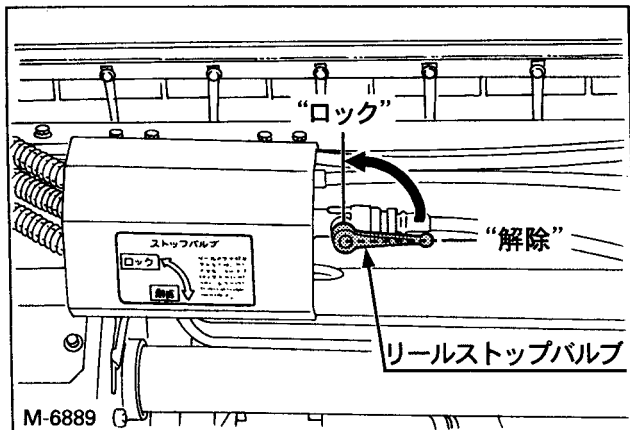
* リールの下で作業をする場合は、下記の手順でリールの下降ロックをしてください。

- ① ロックスイッチを上側に切換えて、リールの下降を防止します。



- ② ロック金具を回して、ロックスイッチが切換わらないようにセットします。

- ③更に刈取部にあるリールストップバルブのレバーを、“ロック”位置にします。

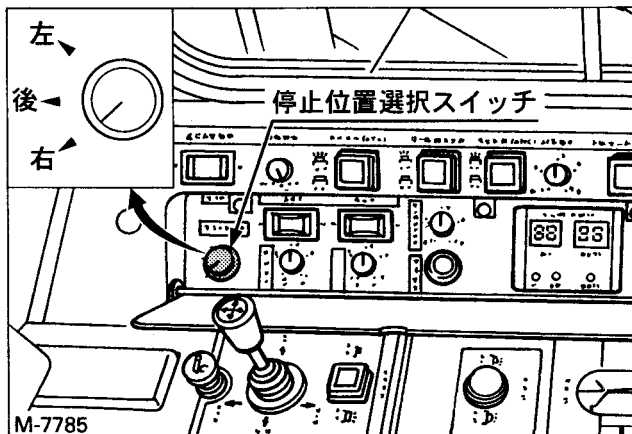


10 アンローダ自動旋回装置



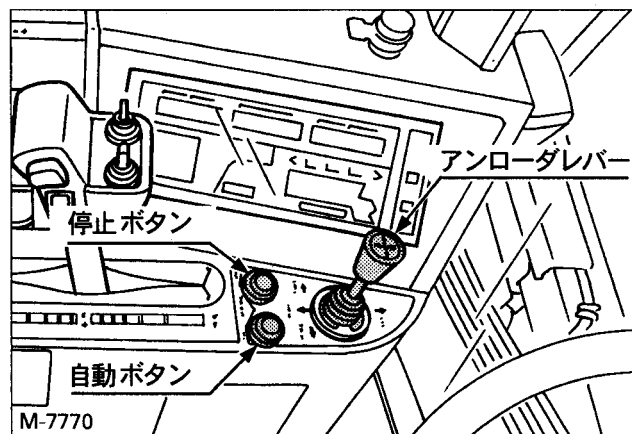
注意

- *自動ボタンを押す前に、アンローダの可動範囲に人や障害物がないか確認してください。
- *アンローダ支えの上に手を置かないでください。



◆操作手順とその動き

- ①停止位置選択スイッチにより、排出位置を選択します。
- ②自動ボタンを押すとアンローダは上昇し、排出位置まで旋回します。
- ③アンローダレバーを操作して、排出位置を調整します。
- ④もう一度自動ボタンを押すとアンローダは上昇し、格納位置に戻ります。



◆アンローダレバー

- (1)レバーを“上”の方向に倒すと、アンローダは上昇します。
- (2)レバーを“下”の方向に倒すと、アンローダは下降します。
- (3)レバーを“左回り”の方向に倒すと、アンローダは左回り（反時計方向）に旋回します。
- (4)レバーを“右回り”の方向に倒すと、アンローダは右回り（時計方向）に旋回します。
- (5)自動制御作動中でもアンローダレバーの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。

重要

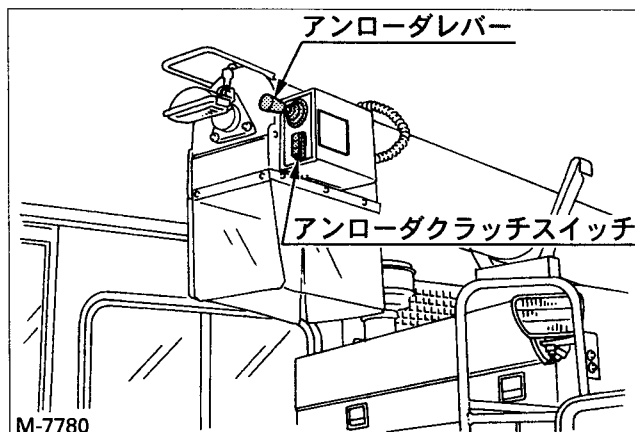
- *アンローダを支えに収納しないで、刈取り作業をしないでください。また、走行しながら、アンローダの旋回操作をしないでください。コンバインが故障する原因になります。
- *コンバインが傾いている傾斜地などでは手動で操作してください。

補足

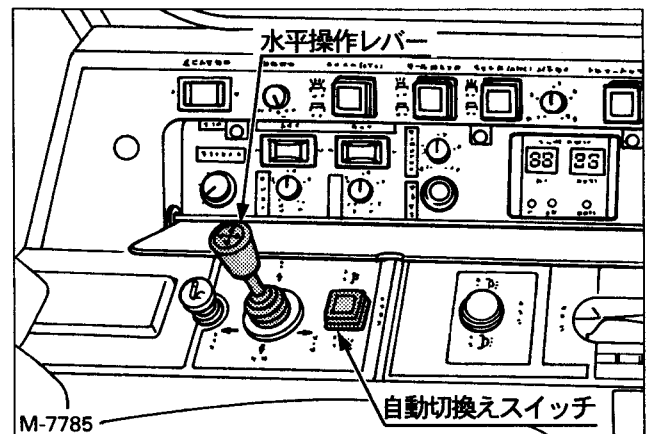
- *自動制御でアンローダが格納位置に戻った直後に、自動ボタンを押しても自動制御は作動しません。停止ボタンを押すか、10秒程度待つてから自動ボタンを押してください。
- *自動制御作動中、停止ボタンかアンローダレバーを操作すると、自動制御は停止します。
- *キャビン上を通過させる場合は、アンローダを最上位置まで上げないと旋回できません。

◆アンローダ先端での操作

アンローダクラッチスイッチとアンローダレバーは、アンローダの先端にもあります。こく粒排出時にトラック荷台上から、アンローダ位置の微調整及びクラッチの“入”“切”作業ができます。



11 自動車体水平制御（マジカルモンロー）



◆操作手順とその動き

- ①脱こくクラッチスイッチを“入”にします。
- ②自動切換えスイッチを“自動”にし、自動ランプの点灯を確認します。
- ③この状態で車体が水平になるように自動制御が作動します。

◆水平操作レバー

- (1)レバーを“機体上”の方向に倒すと、機体の左右とも上がります。
- (2)レバーを“機体下”の方向に倒すと、機体の左右とも下がります。
- (3)レバーを“左上”の方向に倒すと、機体の左が上がり、右が下がります。
- (4)レバーを“右上”の方向に倒すと、機体の右が上がり、左が下がります。
- (5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。

重要

- *自動で作業した後、脱こくクラッチスイッチを“切”にするか、又は自動切換えスイッチを“手動”にすると、機体は左右ともいったん一番下まで下がります。下降中に、水平操作レバーを操作すると停止します。
- *刈取り作業以外（特に走行時、輸送時、格納時）の場合は、自動を切って、手動で機体を一番下まで下げてください。
- *傾斜地では使用しないでください。
- *手動で操作した場合、その必要がなくなったときは、必ず一番下側に戻すことを忘れないようにしてください。

12 ポジピタスイッチ

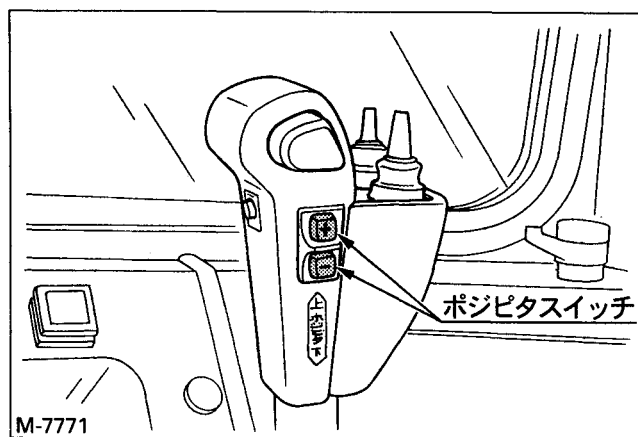


注意

*ワンタッチで上昇・下降するので、コンバインに人を近づけないでください。

刈取りクラッチスイッチが“入”の状態、ポジピタスイッチの“+”を押すと、リールが最下点まで下がり、刈取部が最上点まで上昇します。

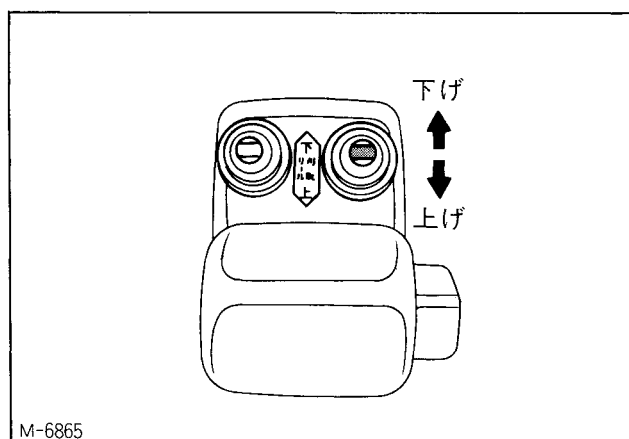
また、刈取りクラッチが“入”の状態、ポジピタスイッチの“-”を押すと、設定位置までリールが上がり刈取部が下がります。刈取り開始状態となります。なお、このときのリールの設定位置は、ポジピタスイッチの“+”を押したときのリールの高さとなります。



補足

- *リールの設定高さとは、ポジピタスイッチの“+”を押す直前の高さとなります。
- *刈取部の設定高さとは、刈取制御を“自動”にしているときはその設定高さとなり、“手動”のときはソリが地面につき始める高さです。

13 刈取部昇降スイッチ



スイッチを前に押すと刈取部が下がり、後に引くと刈取部が上がります。

下表を参考にして刈高さを調整してください。

	刈高さ
立毛時	希望する高さに合わせて作業を始めてください。 (穂先から60～70cmが適当です。)
追刈時	土に突っ込まない高さに、作業しながら調整してください。
向刈時	穂を切落さない範囲で、できるだけ高く調整してください。
横刈時	
完全倒伏	

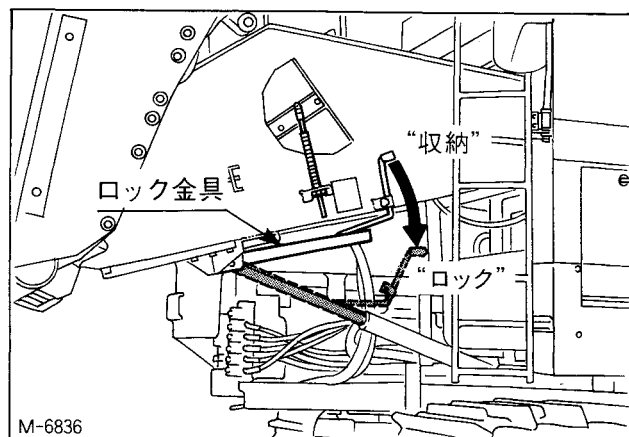
■刈取部の下降ロックのしかた



警告

*刈取部の下で作業をする場合は、下記の手順で刈取部の下降ロックをしてください。

- ① 刈取部を一番上まで上昇させ、エンジンを止めます。
- ② ロック金具を収納位置から外し、刈取り昇降シリンダへセットします。



6. 各部のオープン

以下のカバーや装置は、ワンタッチ又は工具なしで開閉・取付け・取外しができるようになっています。



注意

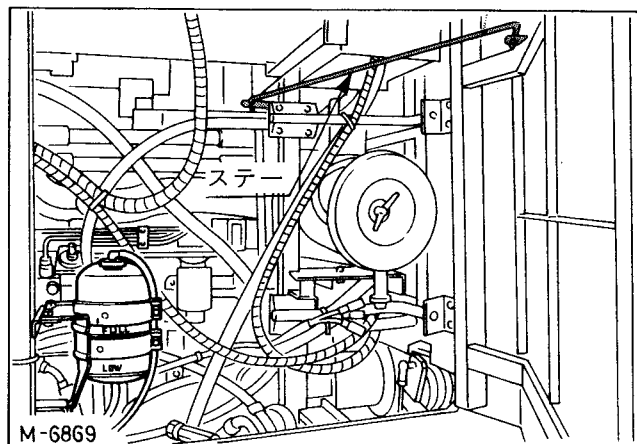
- *各部のオープンを行なうときは、平坦な場所でエンジンを停止してください。
- *各部をオープンしたままで、エンジンを始動しないでください。
- *点検などの作業が終われば、カバー類などが確実に取付けられているかを確認してください。

■エンジンルームオープン



注意

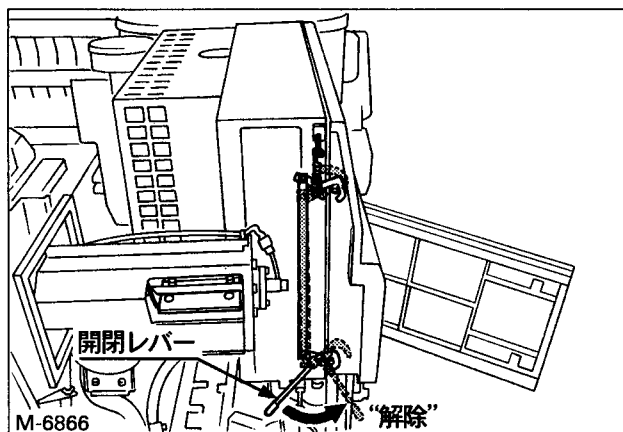
- *エンジンルームオープンをするときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。



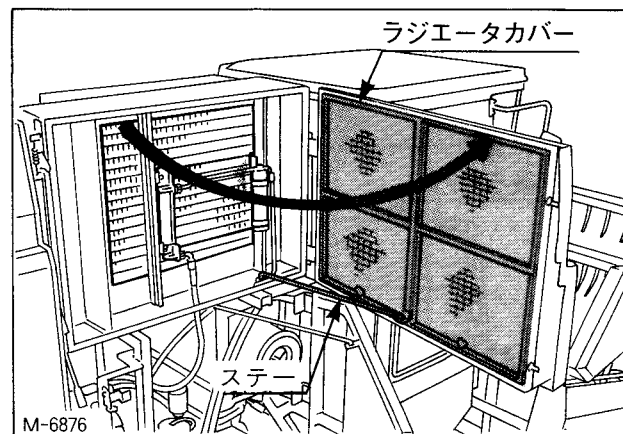
- ①エンジンルームをオープンします。
- ②ステーで開いたカバーを“ロック”します。

■ラジエータカバーオープン

- ①エンジンルームオープンをします。
- ②開閉レバーのロックを解除します。



- ③ラジエータカバーをオープンします。
- ④ステーで開いたカバーを“ロック”します。



■グレンタンクオープン

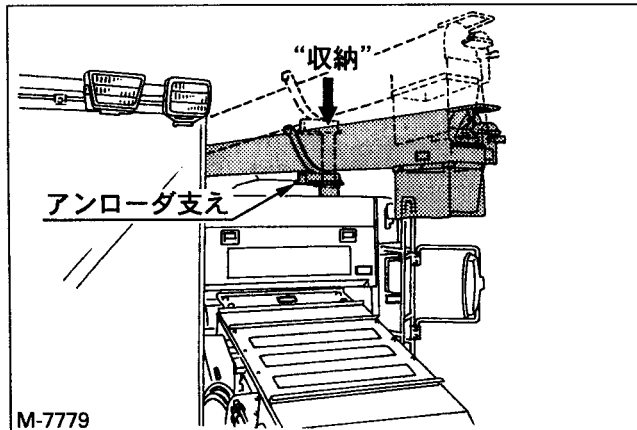


注意

*傾斜地では、グレンタンクオープンをしないでください。

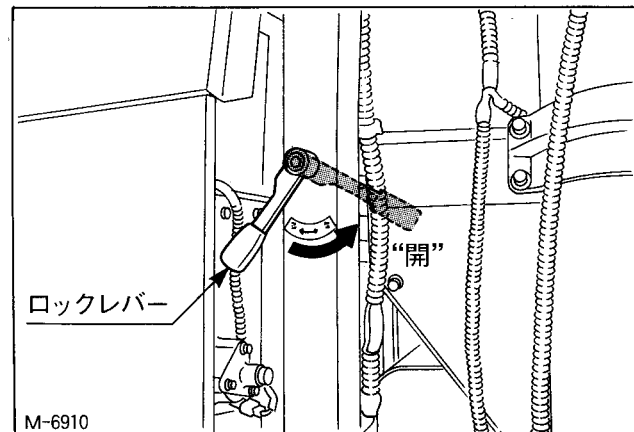
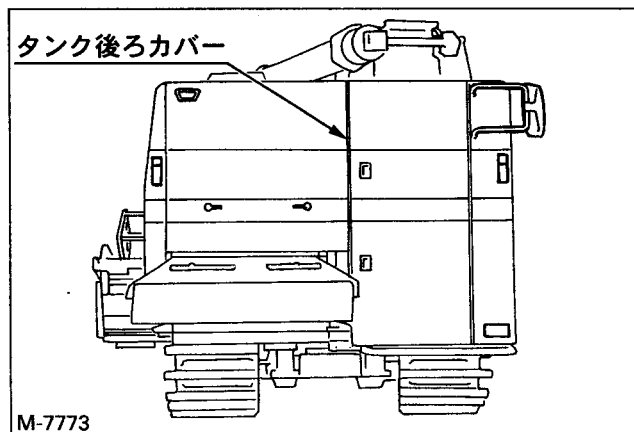
*グレンタンクオープンはタンク内のもみを排出し、エンジンを停止してから行なってください。

- ①エンジンを始動し、アンローダレバーでアンローダを支えに収納します。

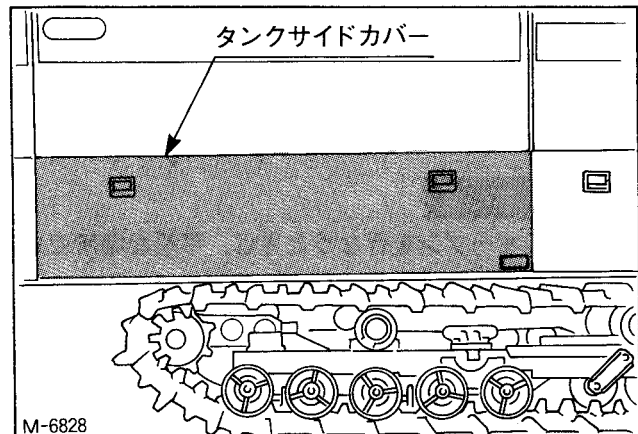


- ②エンジンを停止します。

- ③タンク後ろカバーを開き、ロックレバーを“開”にします。



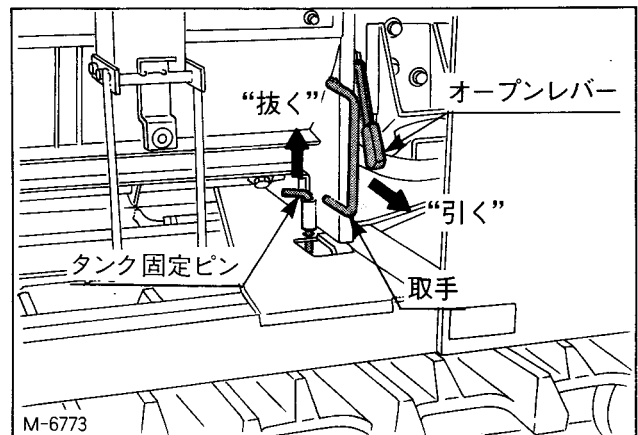
- ④タンクサイドカバーを外します。



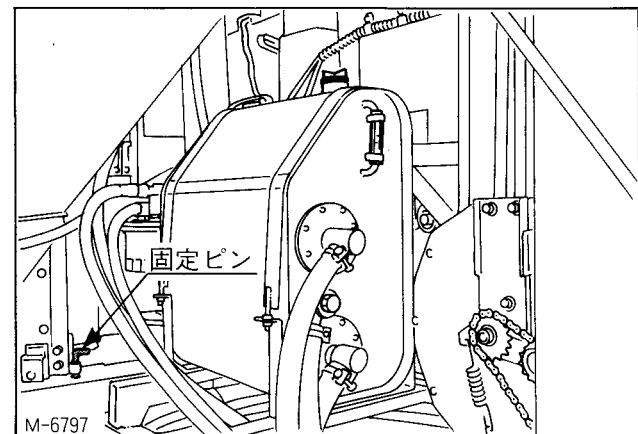
- ⑤タンク固定ピンを抜取ります。

- ⑥オープンレバーを引いてロックを解除します。

- ⑦同時に取手をもってグレンタンクオープンをします。



- ⑧グレンタンクオープン後は、タンク固定ピン（前記⑤で抜いたピン）を後側ガイドに差込んで固定してください。



重要

*チヨツパオープンしているときは、グレンタンクオープンをしないでください。

*グレンタンクを閉じたら、オープンレバーの固定及び固定ピンを基の位置へ差込んでください。最後にタンク後ろカバーの中のロックレバーを“閉”にしてください。

■こぎ胴天板オープン



警告

*こぎ胴天板オープンをするときは、エンジンを止めるだけでなく、こぎ胴の回転が止まっていることを確認してください。



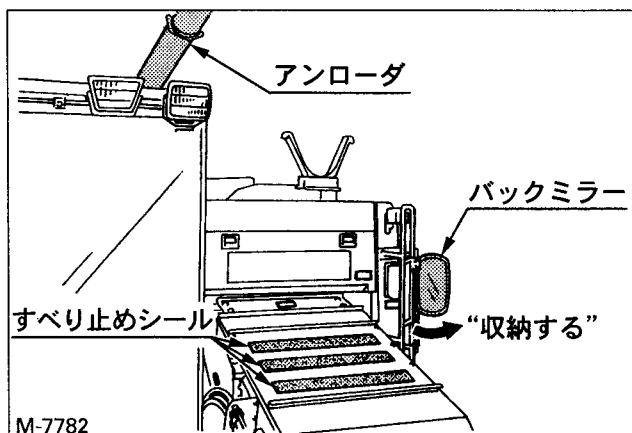
注意

*こぎ胴天板オープンは高所作業なので、転落しないように足場を確認してください。

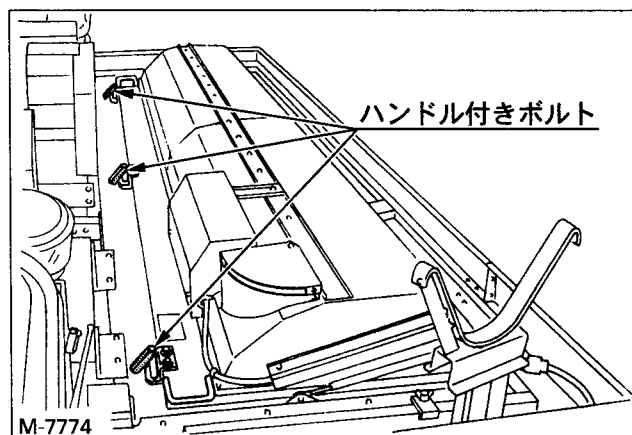
*はしごに登るときは、エンジンを止めてください。

*脱こく部の上で作業するときは、高温部（マフラ先端、ラジエータ上部、油圧ファンモータなど）に触れないでください。また、すべらないように足場を確認してください。

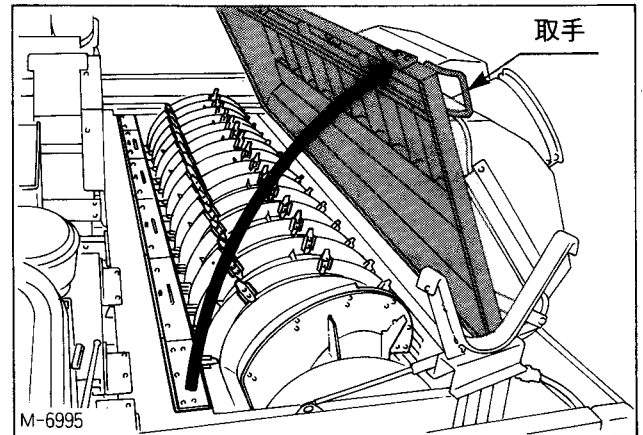
- ①エンジンを始動し、アンローダレバーでアンローダを上昇させ少し右旋回させます。また、刈取部昇降スイッチで刈取部が接地するまで下降させます。
- ②エンジンを停止します。
- ③バックミラーを格納し、はしごからフィーダのすべり止めシール部へ渡り、天板部へ登ります。



- ④ハンドル付きボルト3本を外します。



- ⑤取手を持ってオープンします。



補足

*こぎ胴天板には、ガスシリンダを取付けていますので“開”位置でのロックはありません。

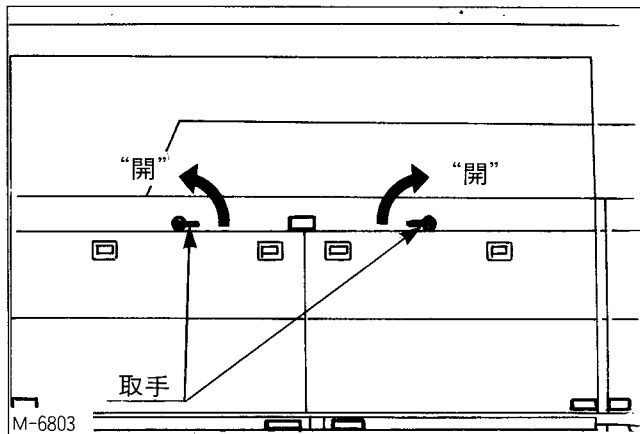
■脱こく左サイドカバーオープン



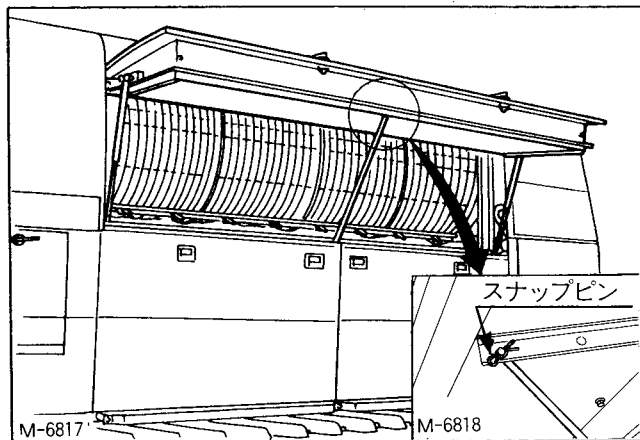
警告

*脱こく左サイドカバーオープンをするときは、エンジンを止めるだけでなく、こぎ胴の回転が止まっていることを確認してください。

- ①左サイドカバーの取手を上に回し、ロックを解除します。

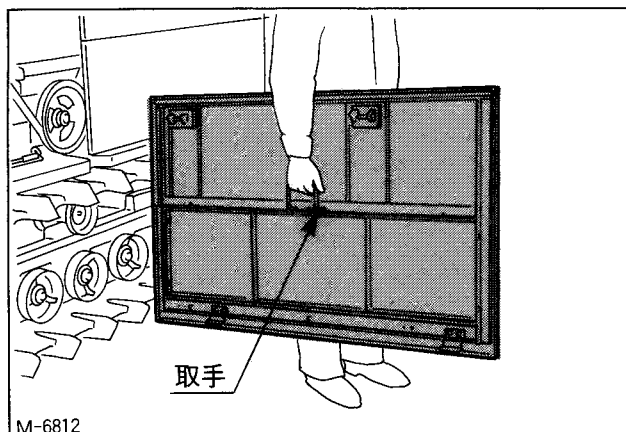


- ②取手を持ってオープンします。
③ササエロッドをカバーの穴に挿入し、スナップピンをセットします。



補足

*脱こく左サイドカバー下を外したときは、裏側の取手を持って運びます。



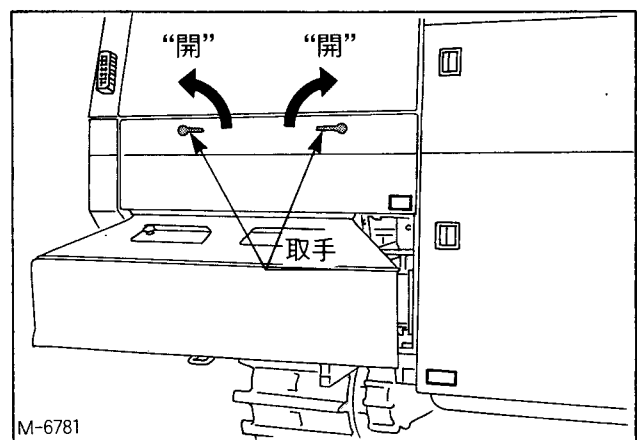
■チョップパオープン



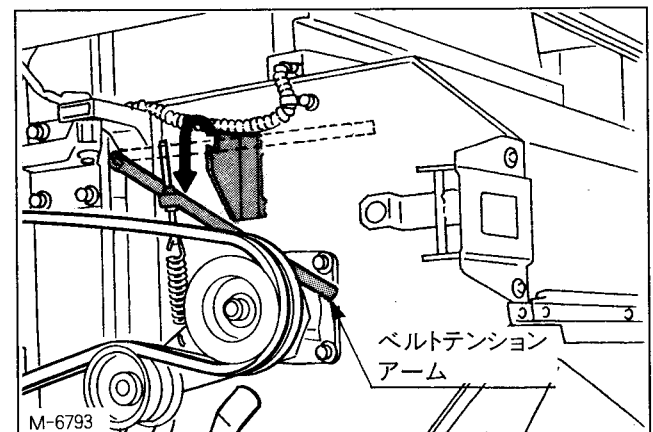
注意

- *傾斜地では、チョップパオープンをししないでください。
*チョップパオープンをするとき、エンジンを止めるだけでなく、チョップパの回転が止まっていることを確認してください。
*チョップパの刃に接触すると、手・指を切断するおそれがあるので、手を入れないでください。

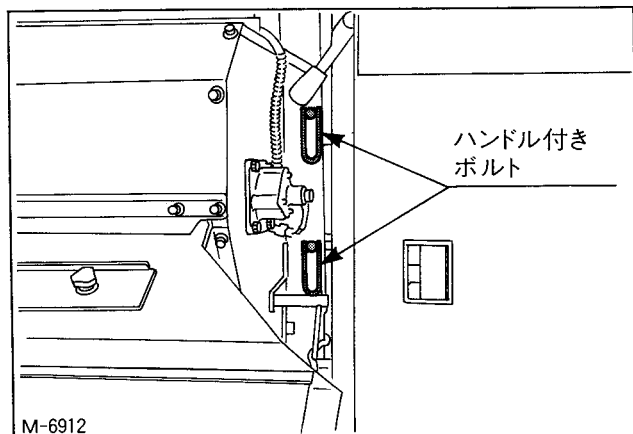
- ①左ベルトカバーを開き、テンションアームをフックから外します。



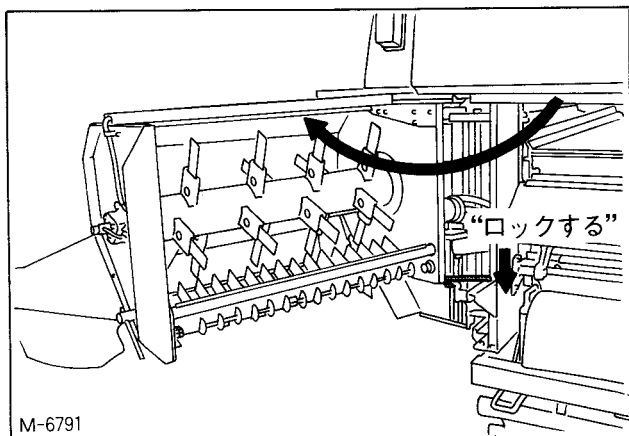
- ②チョップパ後ろカバーの取手を上に回し、取手を持ってカバーを外します。



- ③ グレンタンク後ろカバーを開け、チョツパ取付け用ハンドル付きボルト（2本）を外します。



- ④ チョツパを静かに回動させいっぱいまでオープンしたら、ステーでロックします。



7. 作物に応じた機械の準備

稲・麦刈り ↔ ソバ刈り ↔ 大豆刈りの切換え

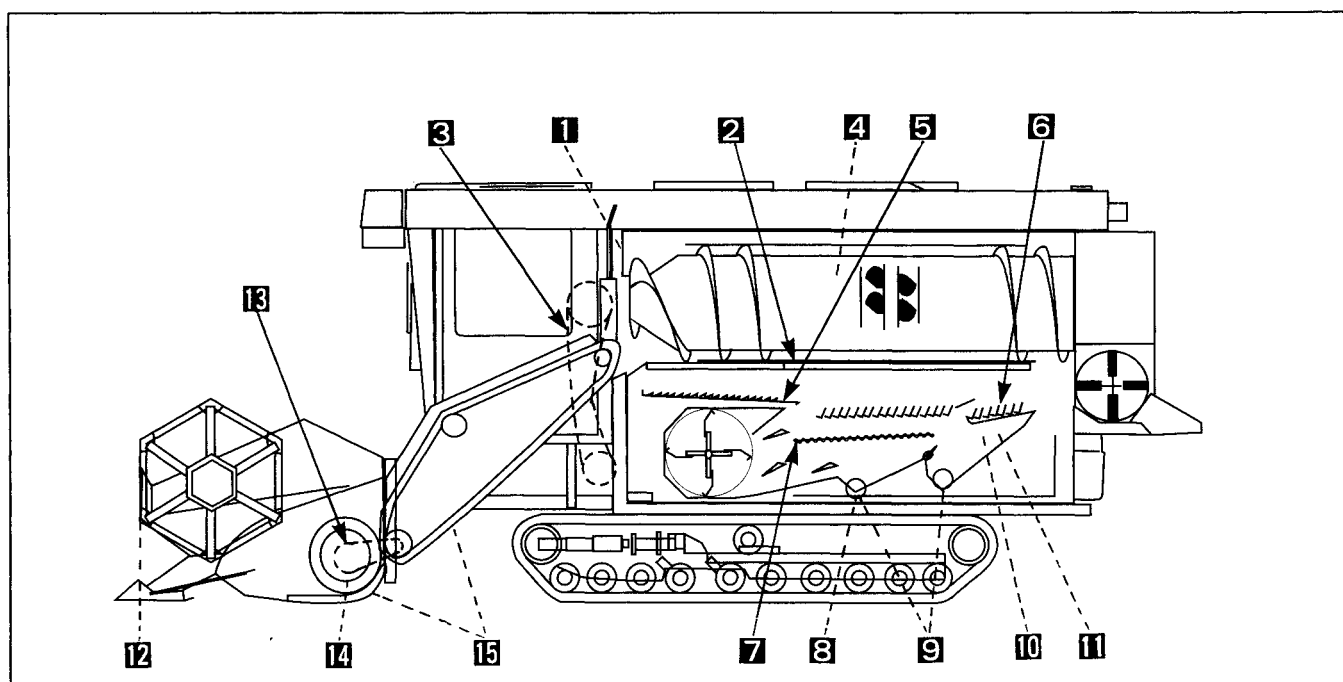


注意

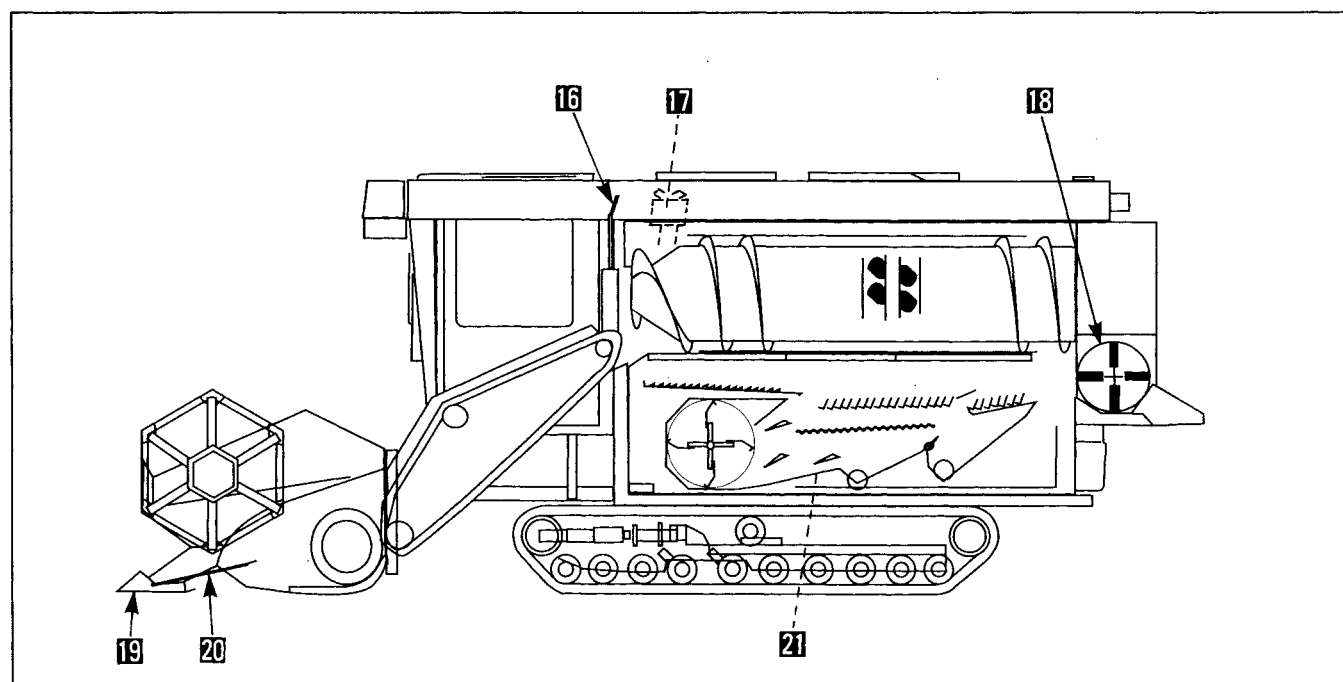
*仕様の切換えをするときは、エンジンを止めてください。

*切換えが終われば、カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

◆作物に応じた準備



◆その他の準備



◆作物に応じた準備内容

出荷状態では稲刈り用にセットしています

	No.	切換え箇所・部品	稲・麦刈り	ソバ刈り	大豆刈り	小豆刈り	参 照 ページ																
脱 こ く	1	こぎ 胴 回 転 数	“標準” (※1)		“大豆”		50																
	2	コ ン ケ ー プ	<table><tr><td colspan="2">前</td><td colspan="2">後</td></tr><tr><td>10 ミリ目 (細目)</td><td>10 ミリ目 (細目)</td><td>12 ミリ目 (中目)</td><td>12 ミリ目 (中目)</td></tr></table>		前		後		10 ミリ目 (細目)	10 ミリ目 (細目)	12 ミリ目 (中目)	12 ミリ目 (中目)	<table><tr><td colspan="2">前</td><td colspan="2">後</td></tr><tr><td>20 ミリ目 (粗目)</td><td>20 ミリ目 (粗目)</td><td>20 ミリ目 (粗目)</td><td>20 ミリ目 (粗目)</td></tr></table> (※4)		前		後		20 ミリ目 (粗目)	20 ミリ目 (粗目)	20 ミリ目 (粗目)	20 ミリ目 (粗目)	50
	前		後																				
	10 ミリ目 (細目)	10 ミリ目 (細目)	12 ミリ目 (中目)	12 ミリ目 (中目)																			
	前		後																				
	20 ミリ目 (粗目)	20 ミリ目 (粗目)	20 ミリ目 (粗目)	20 ミリ目 (粗目)																			
	3	脱こく 駆動ベルト	3本掛け (出荷状態)		1本掛け (※4)		50																
	4	もみセンサの配線	最上位と結線			上から2番目と結線		51															
	5	チャフシートの 角 穴 カ バ ー	取外す 麦では、選別をさらに向 上させたいとき取付ける		取付ける		52																
	6	リ ア チ ャ フ	稲：3(※2) 麦：2		1		52																
	7	グ レ ン シ ー プ	15mm目 (※3)		18mm目		53																
8	一番バケットケース底カバー	穴無カバー			大豆用取付 (※4)	小豆用取付 (※4)	53																
9	1番スクリュ底ケースカバー 2番スクリュ底ケースカバー	穴無カバー			大豆用取付 (※4)	小豆用取付 (※4)	54																
10	2 番 受 刃	受刃有		受刃無		54																	
11	2 番 底 フ タ	取付ける			取外す	取付ける	55																
刈 取 部	12	タ イ ン	増植不要			条間に合わせて 適宜取付ける (※4)	56																
	13	オーガドラムスプロケット	17T (チェーン90リンク)			(※4) 12T (チェーン88リンク)	58																
	14	オーガのラセンと 底 板 の す き 間	6～8mm			12～15mm	57																
	15	オーガ底カバー フィーダ底カバー	取付ける			取外す	58																

※1. 損傷 (脱ぶ)しやすい稲・大麦などは“低速”にする。

※2. 飛散が多いときには4にセットする。

※3. 選別をさらによくしたいときには13mm目、能率をさらに上げたいときには18mm目にする。

※4.  はビーンキット (オプション) です。

◆その他の準備内容

16	アンローダ支え	上げ位置にセットする	58
17	プレクリーナ	上げ位置にセットする	59
18	チヨツバ	切断又は非切断を選択し、排わらの排出方向を切換える	59
19	デバイダ	デバイダの取付け高さを調整する	59
20	左分草かん	作業位置にセットする	61
21	こく粒排出量	グレンタンク内の排出調整板を調整する	62

1 こぎ胴回転数

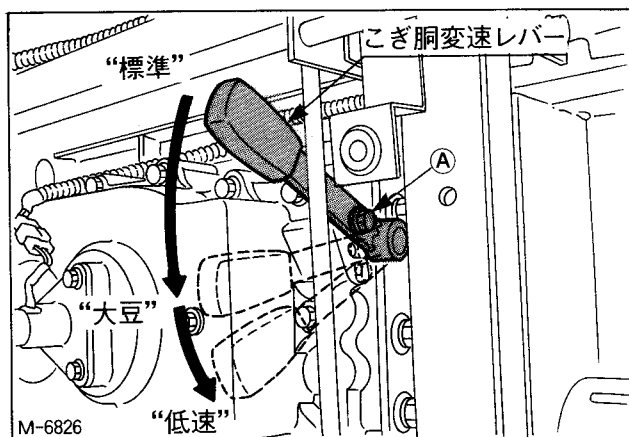


注意

*はしごに登るときは、エンジンを止めてください。

こぎ胴変速レバーで作物に応じてこぎ胴の回転数が3段階に変速します。

標準	標準稲・麦・脱粒難稲
低速	損傷しやすい稲・大麦
大豆	大豆・そば・小豆



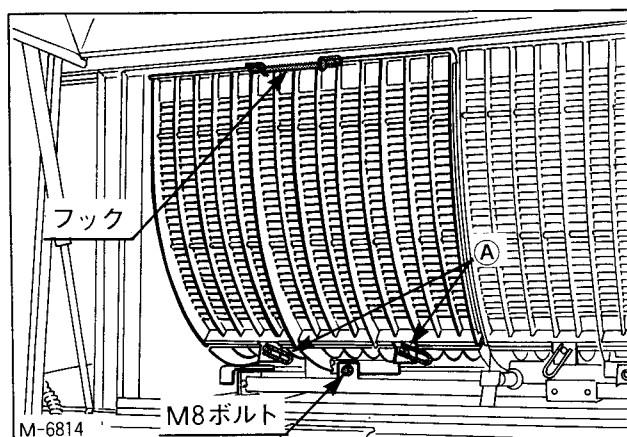
- ①バックミラーを格納し、はしごからフィーダのすべり止めシール部へ渡ります。
- ②脱こく前カバーを外します。
- ③Aのボルトを外しレバーを希望の位置へ操作します。レバーが重いときは、ギヤーの位置が合っていないので、プーリ（又はベルト）を少し回すとレバーは軽くなります。変速後は必ずAのボルトを締付けてください。

2 コンケーブ

ソバ・大豆・小豆刈りのときには、20mm目（オプション部品）と交換します。稲・麦刈りのときには前半部に10mm目、後半部に12mm目を使用します。

◆左側コンケーブの外し方

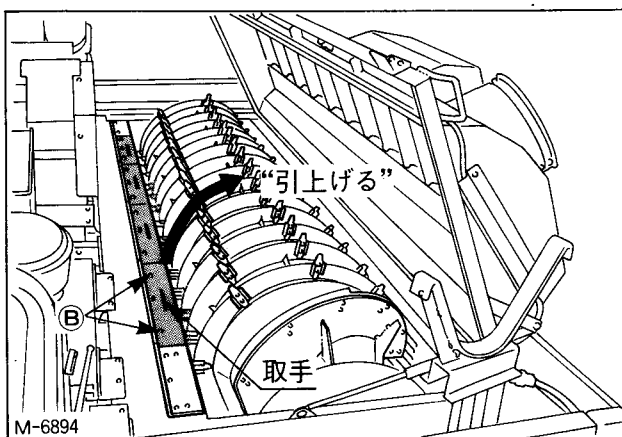
- ①脱こく左サイドカバーオープンをします。
(46ページ参照)
- ②Aのハンドル付きボルト2本を外します。



- ③手前に引上げフックから外します。
- ④同じように残り3枚も外します。

◆右側コンケーブの外し方

- ①上図のM8ボルトを外します。
- ②こぎ胴天板オープンをします。
(45ページ参照)
- ③Bのボルト2本を外します。
- ④取手を持って引上げます。
- ⑤同じように残り3枚も外します。



◆組付け

あみ目の組合せを下図のようにし、ガイドに沿わせて組付けます。

稲・麦

前	10	10	12	12	後
	ミ	ミ	ミ	ミ	
	リ	リ	リ	リ	
	目	目	目	目	

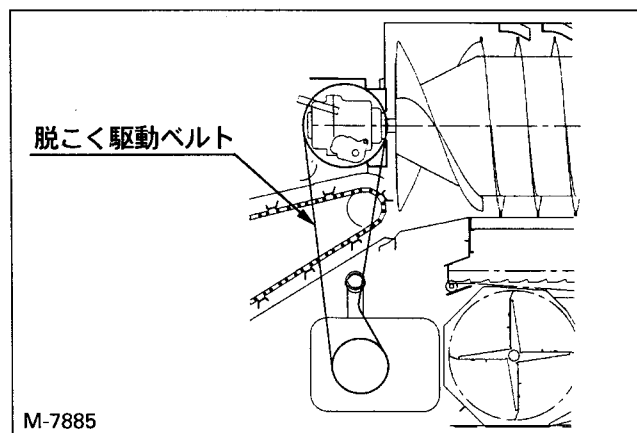
ソバ・大豆・小豆
(オプション)

前	20	20	20	20	後
	ミ	ミ	ミ	ミ	
	リ	リ	リ	リ	
	目	目	目	目	

■3 脱こく駆動ベルト

ソバ・大豆・小豆削りのときは、脱こく駆動ベルトを1本掛けにします。

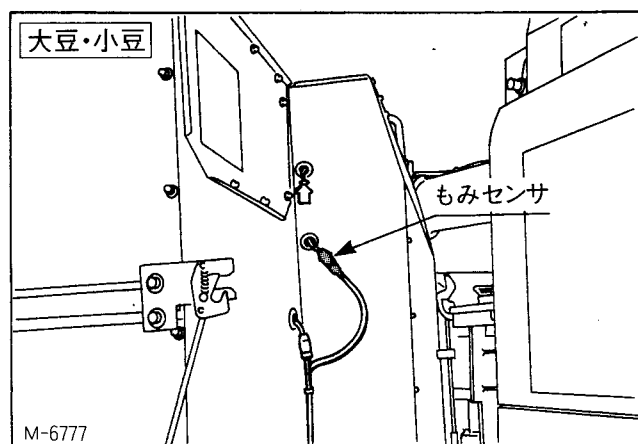
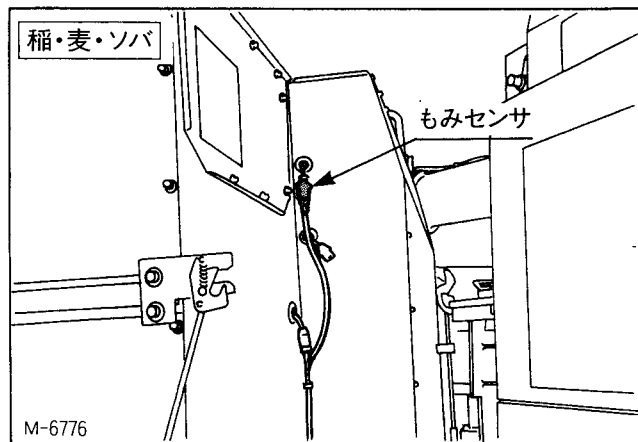
※ビーンキットの中に1本入っています。必ず全部外して付け換えてください。



■4 もみセンサの配線

大豆・小豆削りのときは、もみセンサの配線を1番上から外し2番目と結線します。

- ① グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ② コネクタの接続を差換えます。



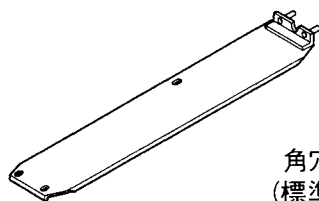
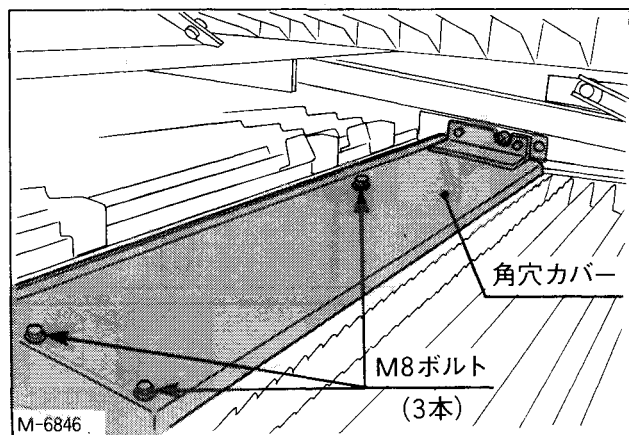
5 チャフシーブの角穴カバー

ソバ・大豆・小豆刈りのときは、標準付属部品の角穴カバーを取付けます。同じように、麦で選別をさらによくしたいときにも取付けます。

①脱こく左サイドカバーオープンをします。

(46ページ参照)

②本機に取付いている図のボルト3本(M8)を外し、角穴カバーのピンをシーブケース奥の穴に差込み、手前側と中央をボルト3本で取付けます。



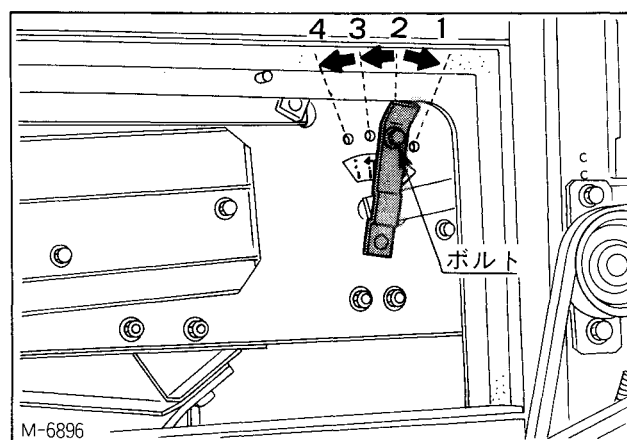
6 リヤチャフ

下表を参考にしてリヤチャフ開度を調節します。

作物	リヤチャフ調整のめやす
稲	
飛散の多い稲	
麦	
ソバ・大豆・小豆	

①脱こく左側の下部カバーを外します。

②掃除口を外します。(ノブナット2本)



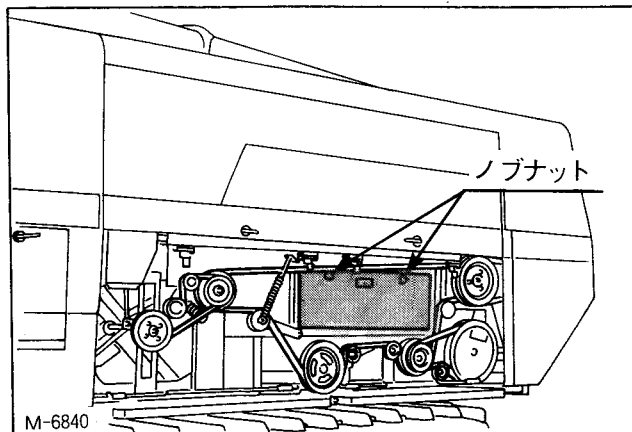
③ボルトを外し、レバーで開度の調節をします。

④リヤチャフ開度は数字が小さい程狭くなり、数字が大きい程広くなります。

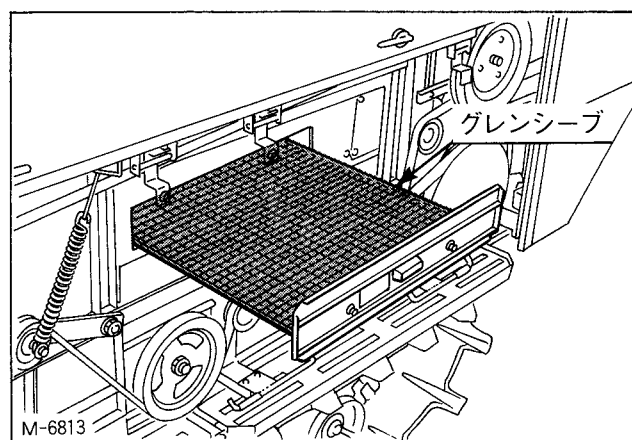
7 グレンシーブ

稲・麦刈りで選別をさらによくしたいときは、標準付属部品の13mm目と交換します。ソバ・大豆・小豆刈り及び稲・麦刈りで能率をさらに上げたいときは、18mm目と交換します。

- ①脱こく左側の下部カバーを外します。
- ②掃除口を外します。(ノブナット2本)



- ③チャフケース掃除フタを引出します。
(M8ボルト3本)
- ④希望のグレンシーブに交換します。
(M8ボルト2本)

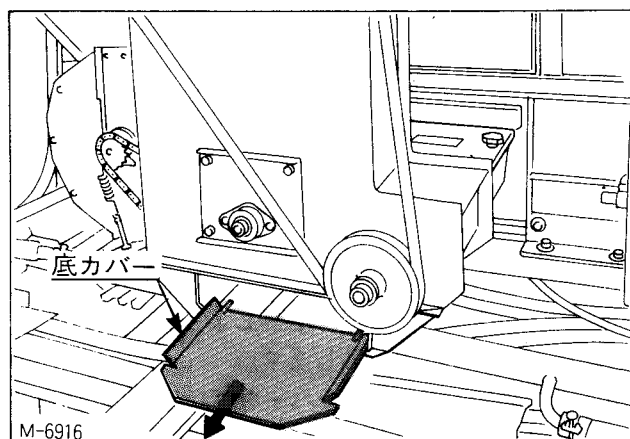


- ⑤通常の稲・麦刈りのときは、15mm目を取付けます。

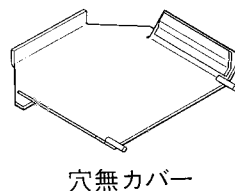
8 1番バケットケース底カバー

大豆・小豆刈りのときは、穴有カバー（オプション部品）と交換します。

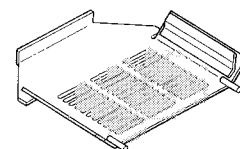
- ①グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ②M10ノブボルトを外し、カバーを取外し、底カバーを引抜きます。
- ③稲・麦・ソバ刈りのときは、穴無カバーを取付けます。



稲・麦・ソバ用

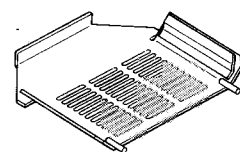


大豆用



穴有カバー(4×45長穴)
(オプション)

小豆用



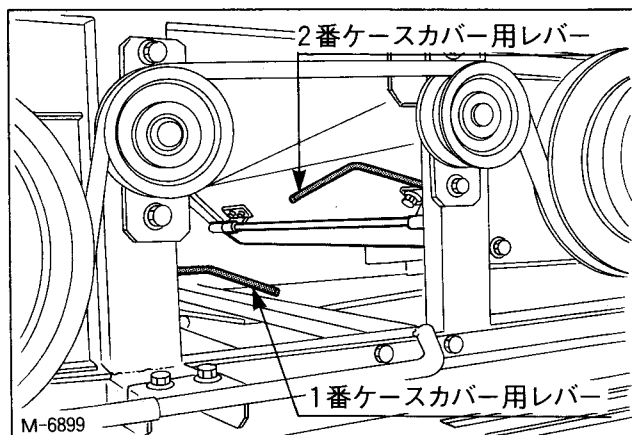
穴有カバー(2.5×45長穴)
(オプション)

M-6845

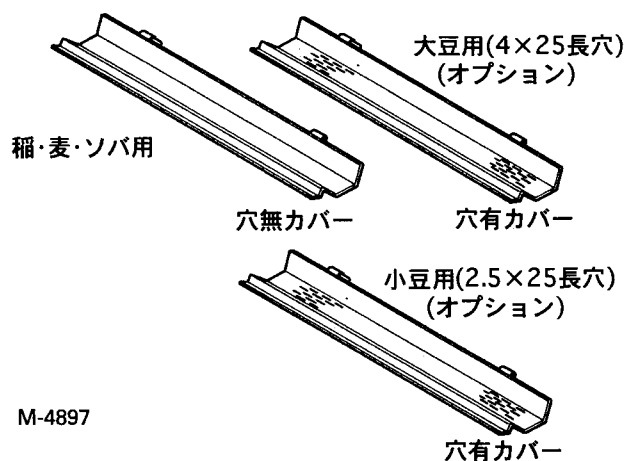
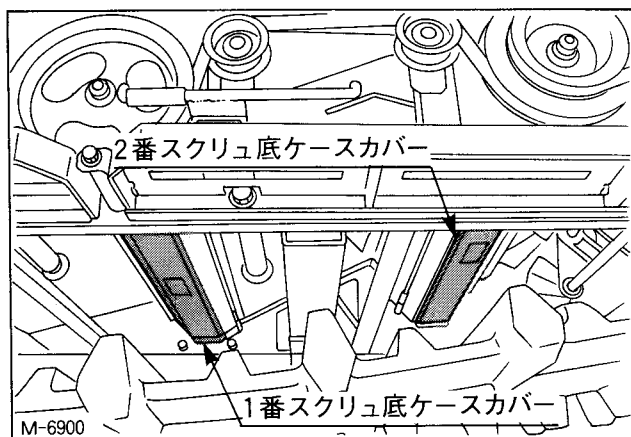
9 1 番スクリュ底ケースカバー

2 番スクリュ底ケースカバー

大豆・小豆刈りのときは穴有カバー（オプション部品）と交換します。



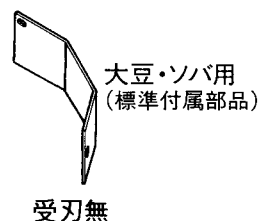
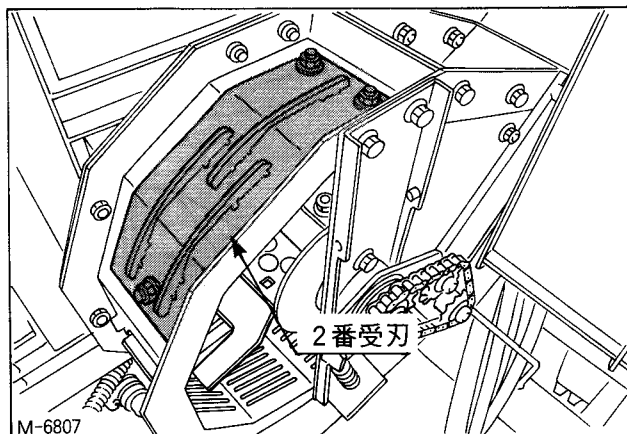
- ① 脱くく左サイド下カバーを外します。
- ② レバーをフックから外します。
- ③ 1 番スクリュ底ケースカバーをグレンタンク側にスライドして抜取ります。（抜差し蝶番になっています。）
- ④ 同じように 2 番スクリュ底ケースカバーも外します。
- ⑤ 稲・麦・ソバ・小豆刈りのときは、穴無カバーを取付けます。



10 2 番受刃

ソバ・大豆・小豆刈りのときは、標準付属部品の受刃無カバーと交換します。同じように、損傷（脱ぶ）しやすい稲・大麦の場合も受刃無と交換します。

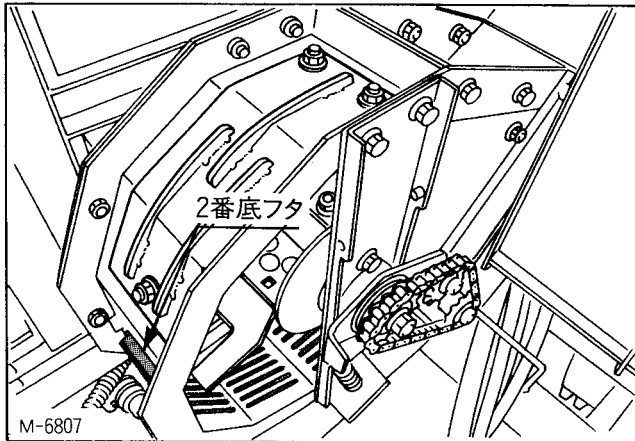
- ① グレンタンクオープンをします。（44ページ参照）
- ② M8 ナット 3 個を外して交換します。
- ③ 稲・麦刈りのときは、受刃有を取付けます。



11 2 番底フタ

大豆刈りのときは、2 番底フタを取外します。

- ① グレンタンクオープンをしします。(44ページ参照)
- ② M8 ナット 3 個を外し、フタを取外します。
- ③ 稲・麦・ソバ・小豆刈りのときはフタを取付けます。

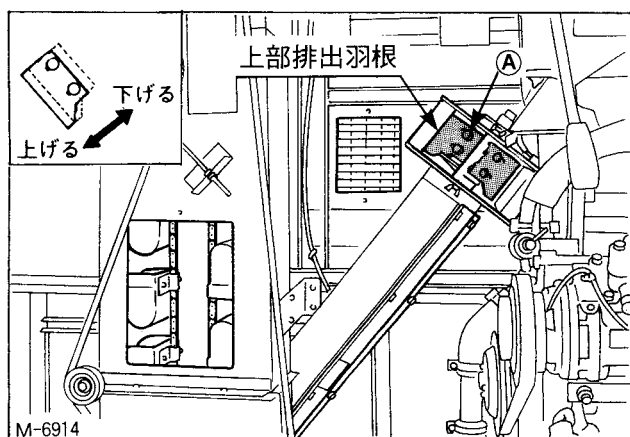


■大豆刈りでキズ・ワレが多いとき

大豆刈りでキズ・ワレが多いときは、2 番還元部を調節します。(上部排出羽根の調節)

◆上部排出羽根の調節

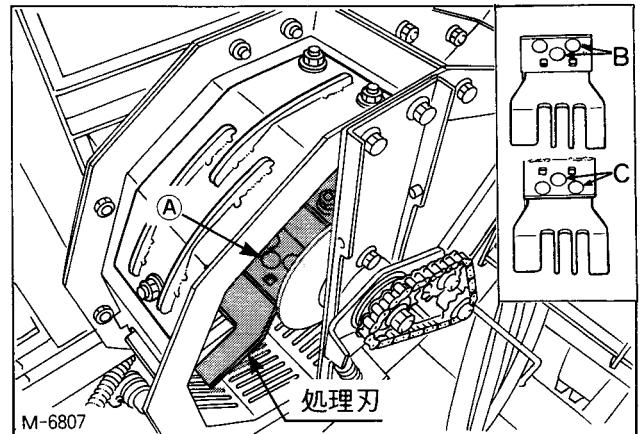
- (1) キズ・ワレが多いときは、排出羽根を下げます(羽根とケースのすき間を広くする)。①の角根ボルトをゆるめて調整します。
- (2) また、大豆で2 番が詰まりやすい場合も、上部排出羽根部で詰まっている場合があります。羽根を下げてください。



◆処理刃の調節

キズ・ワレが多いときのみ処理刃を下げます(処理刃とケースのすき間を広くする)。①のM8 角根ボルトを“B”の位置で締付けます。

それ以外は“C”の位置で締付けてください(すき間を狭くする)。



重 要

* 処理刃組付け時は、受刃と処理刃のすき間を均等にしてください。

12 タイン



警告

* リールの下で作業をする場合は、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)

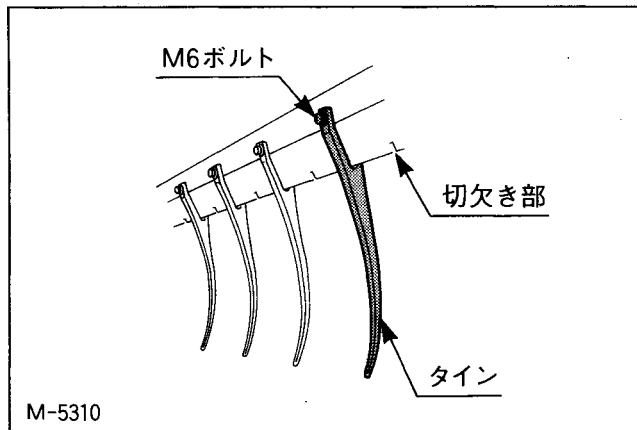


注意

* リールを回転させると刈刃とオーガが動くので、コンバインに人を近づけないでください。

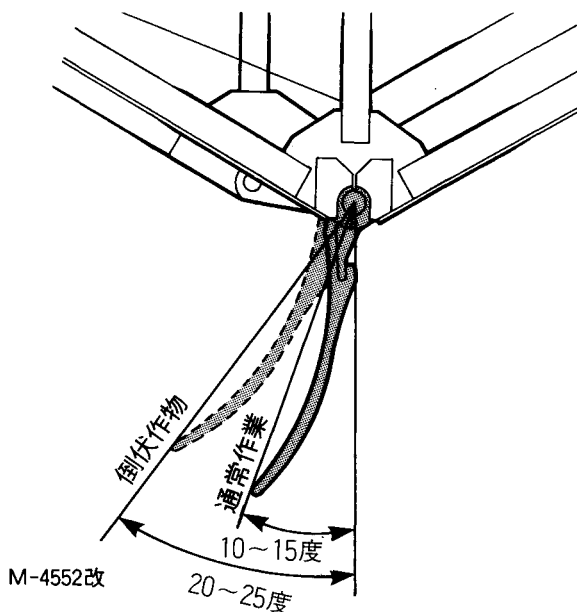
◆ タインの増殖

大豆の条に合わせて、タインを増殖します。ボード(タイン)の切欠き部にタインの突起を合わせ、M6ボルトで組付けます。



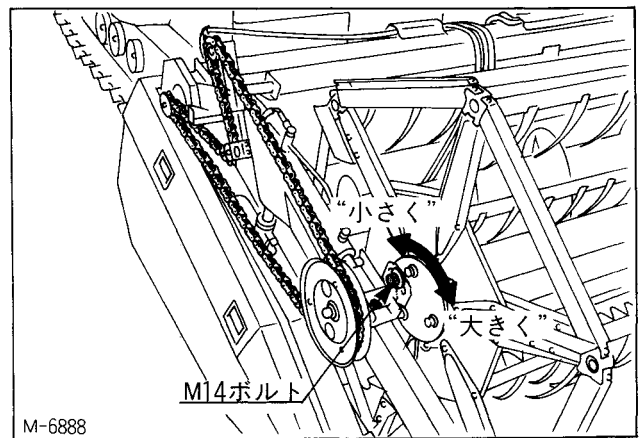
◆ タインの角度調整

通常作業は10～15度(下図)に調整します。倒伏した作物を刈取りするときは、20～25度に調整します。



◆ 調整方法

M14ボルトをゆるめリールを前に動かすと、タイン角度は大きくなり、倒伏作物に適した角度になります。また後に動かすと、タイン角度は小さくなります。



補足

* リールで作物の持回りが生じるときは、タイン角度を小さくしてください。

* 倒伏した作物で引きこし性能が不足する場合は、リールの位置を前に動かし、タイン角度を大きくしてください。大きくしすぎると、オーガドラムラセンと当たることがありますが、このときはリールを少し前へ出してください。

逆に立毛した作物でリールの回転によりかんを持ち回る場合は、リールを後に動かし、タイン角度を小さくしてください。

13 オーガドラムスプロケット



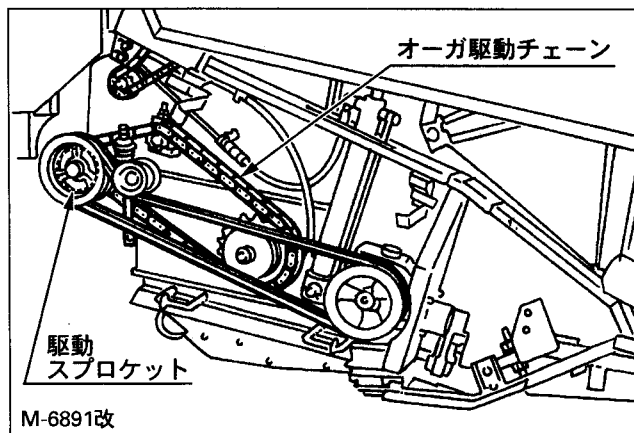
警告

* オーガを回転させると、刈刃とリールが動くのでコンバインに人を近づけないでください。

大豆・小豆を刈るときは、オーガドラム駆動スプロケット、チェーンを交換します。(オプション)

① 刈刃駆動プーリ・ベルトを外しオーガ駆動スプロケット (12T) , チェーン (88リンク) に交換します。

回転数を低くすることで大豆, 小豆の飛散損傷を少なくできます。



	稲・麦・ソバ	大豆・小豆
17Tスプロケット 90リンクチェーン	○	—
12Tスプロケット 88リンクチェーン (オプション)	—	○

14 オーガのラセンと底板のすき間



警告

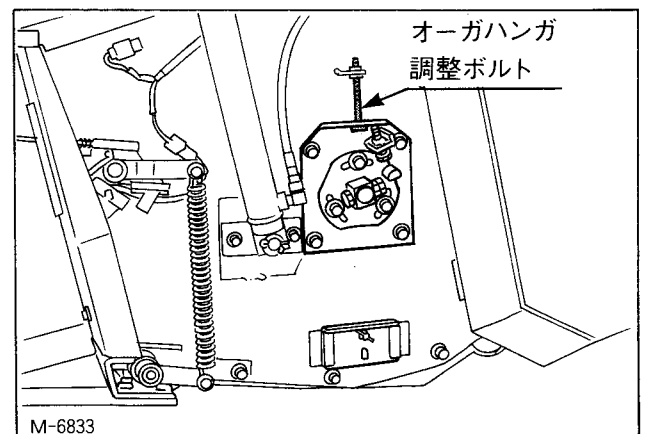
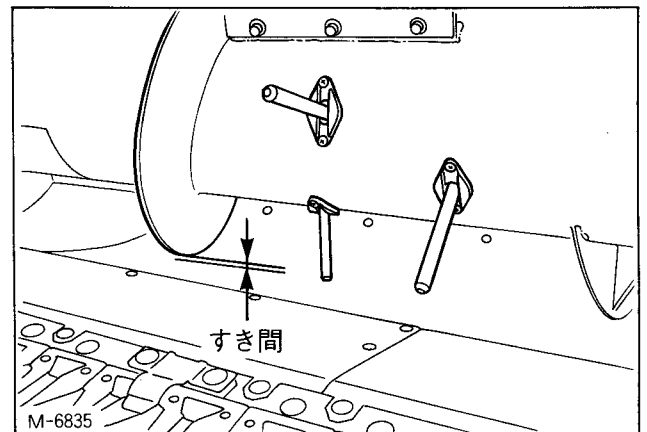
* リールの下で作業をする場合は、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)



注意

* オーガを回転させると、刈刃とリールが動くのでコンバインに人を近づけないでください。

- ① リールを一番上まで上昇させ、エンジンを止めます。
- ② 底板とオーガのラセンとのすき間を稲・麦・ソバは6～8mm, 大豆は12～15mmに、オーガハンガ調整ボルトで調整します。
- ③ すき間は、左右均等に調整します。



15 オーガ底カバー・フィーダ底カバー

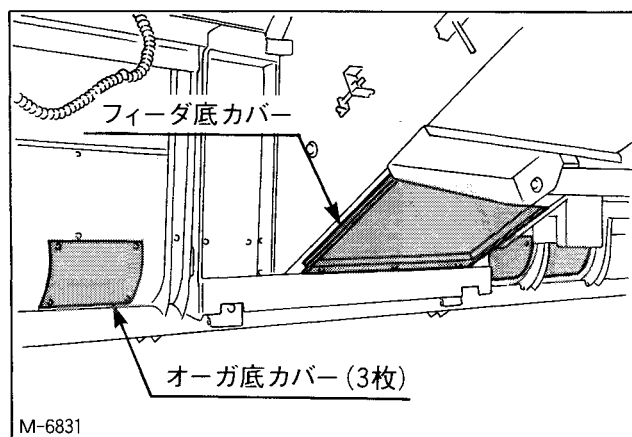


警告

*刈取部の下で作業する場合は、刈取部の下降ロックをしてください。(42ページ参照)

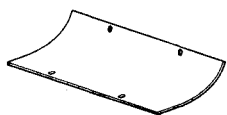
大豆刈りのときは、それぞれを取外します。

- ① M6 ナット (各 4 個) を外し、オーガ底カバー 3 枚を取外します。
- ② M8 ボルト 6 本を外し、フィーダ底カバーを外します。
- ③ 稲・麦・ソバ刈りのときは取付けます。

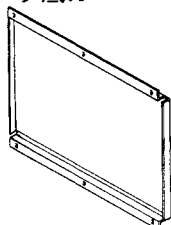


オーガ底カバー(3枚)

フィーダ底カバー



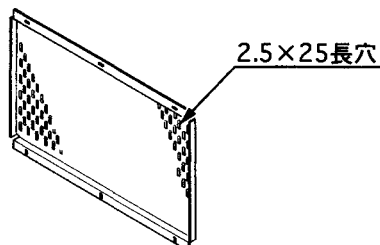
M-7039



M-7038

- ④ 小豆のときは、フィーダ底カバー小豆用 (オプション) を取付けます。オーガ底カバーは、稲、麦、ソバ刈りと同じく穴なしを取付けます。

フィーダ底カバー小豆用(オプション)



M-7775

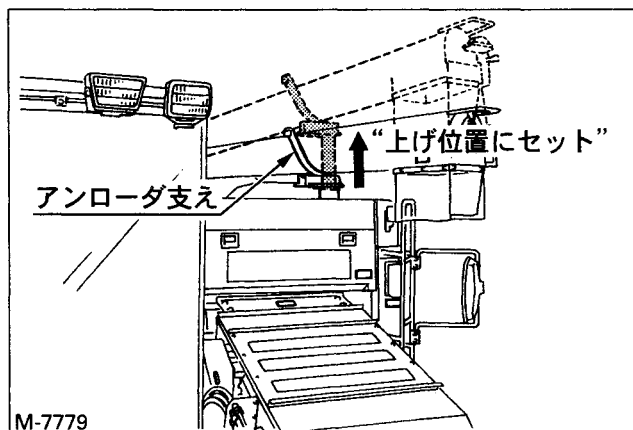
16 アンローダ支え



注意

*はしごに登るときはエンジンを止めてください。
*アンローダ支えの調節をするときは、高温部 (マフラー先端、ラジエータ上部、油圧ファンモータなど) に触れないでください。また、すべらないように足場を確認してください。

- ① エンジンを始動し、アンローダレバーでアンローダを少し上昇させます。
- ② エンジンを停止します。
- ③ バックミラーを格納し、はしごからフィーダ部のすべり止めシール部へ渡り、天板部へ登ります。
- ④ ハンドル付きボルトを外し、アンローダ支えを上げ位置にセットします。



M-7779

- ⑤ 再度エンジンを始動し、アンローダレバーでアンローダを確実に収納します。

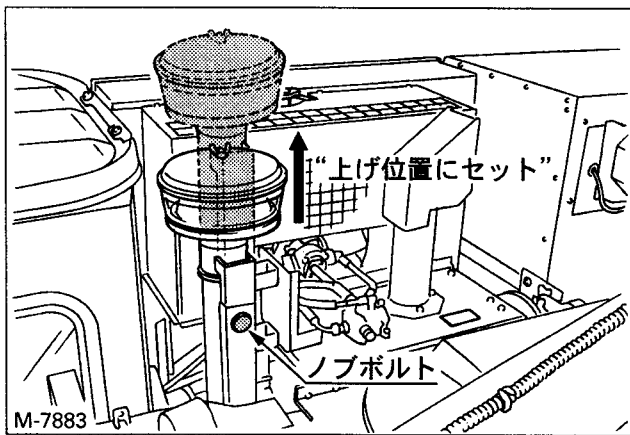
17 プレクリーナ



注意

- * はしごに登るときは、エンジンを止めてください。
- * プレクリーナの調節をするときは、高温部（マフラ先端、ラジエータ上部、油圧ファンモータなど）に触れないでください。また、すべらないように足場を確認してください。
- * トラックで輸送する場合は、プレクリーナを下げ位置にセットしてください。

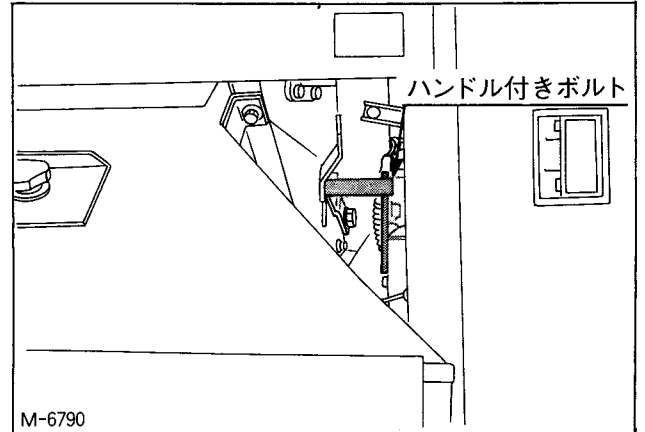
- ① バックミラーを格納し、はしごからフィーダ部のすべり止めシール部へ渡り、天板部へ登ります。
- ② ノブボルトを外し、プレクリーナを上げ位置にセットします。



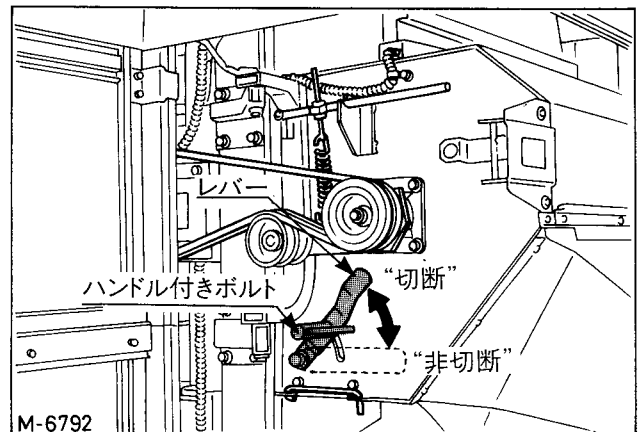
18 チョッパ

◆切断作業と非切断作業

- ① グレンタンク後ろカバーをオープンし、ハンドル付きボルトをゆるめます。



- ② 左ベルトカバーを開きます。
- ③ ハンドル付きボルトをゆるめます。
- ④ 切断作業をする場合は上側いっぱい、非切断作業をする場合は下側いっぱいレバーを切換えます。

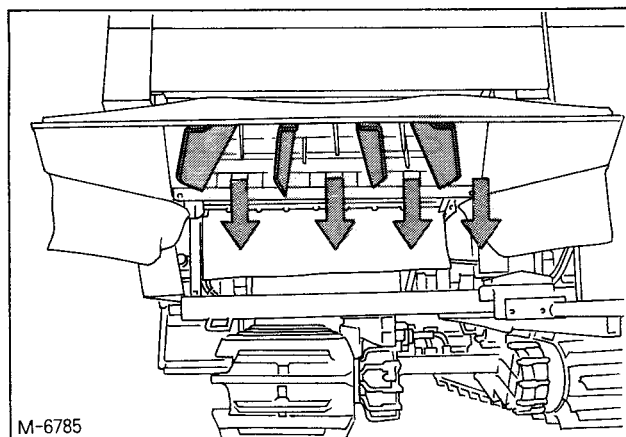
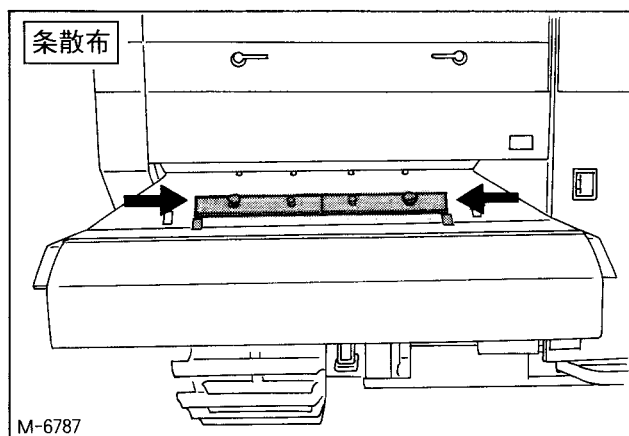
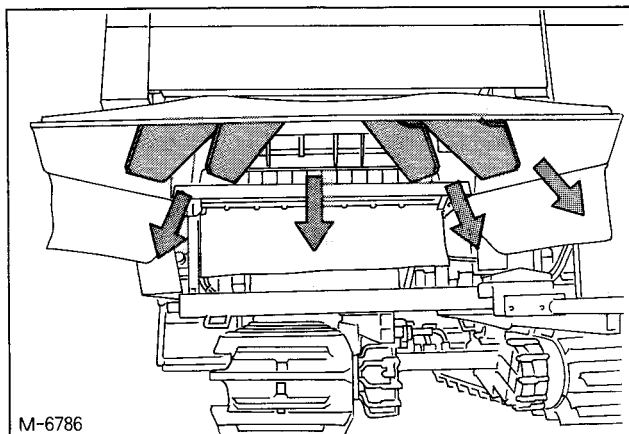
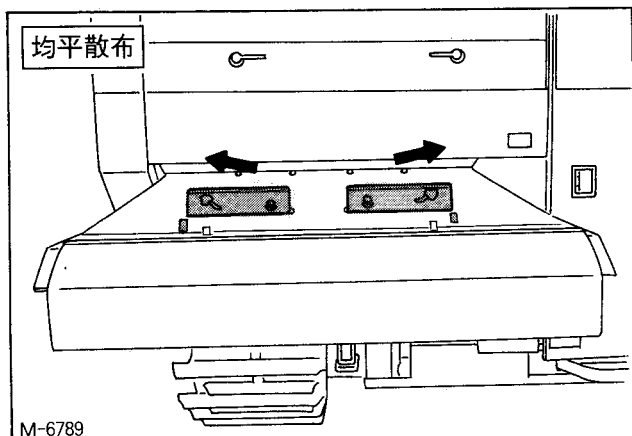


重要

- * レバーは左右それぞれにあるので、確実にいっぱいまで切換えてください。中途半端な位置で作業しないでください。

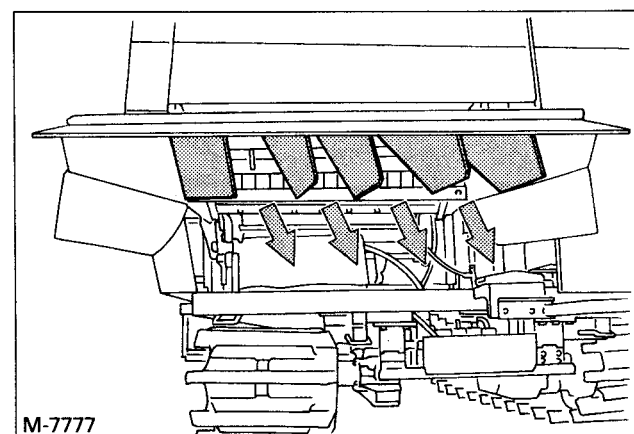
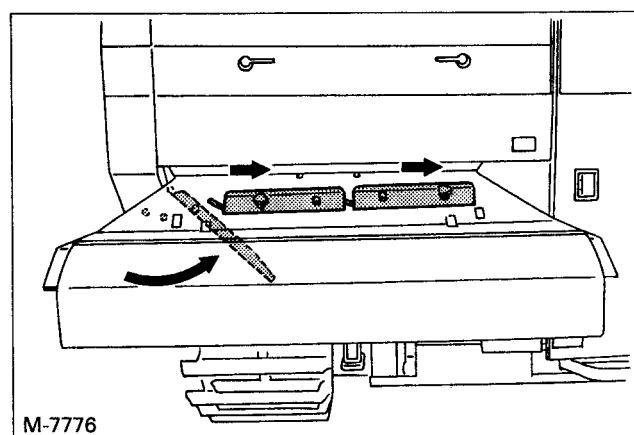
◆拡散装置

わらはは、羽根の位置を切換えることにより、1行程分全面に散布する均平散布と、列状に散布する条散布ができます。羽根は、ノブボルトをゆるめて切換えます。



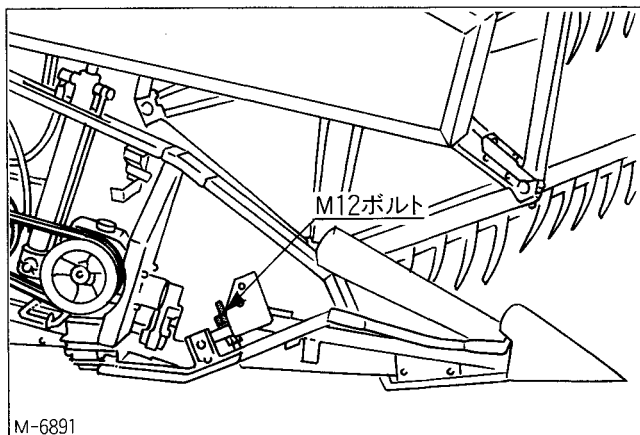
補 足

* 湿田などでクローラの^{わだち}轍の間にわらを集めたい場合は、下図のように調整してください。



19 デバイダ

左右デバイダの高さ調整は、作物の倒伏状態とほ場条件に合わせ、左右それぞれM12ボルト1本で調整します。



デバイダの高さは、下表を参考にして調整してください。

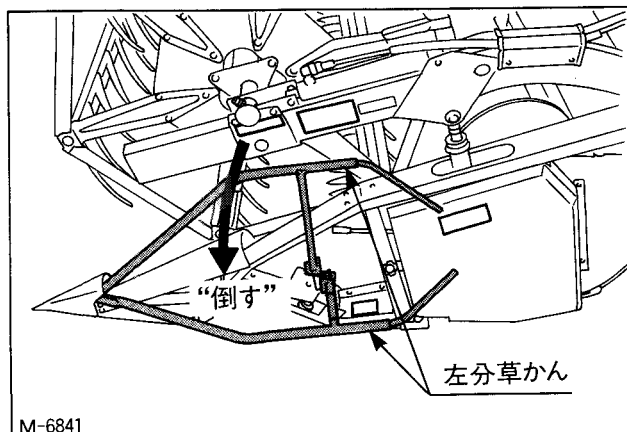
	デバイダ高さ
立毛時	雑草が引っ掛からない程度（刈株よりやや高め）、に調整してください。
追刈時	先端が土に軽く触れる程度に、調整してください。 低すぎると株抜けします。
向刈時	
横刈時	
完全倒伏	

補 足

- * 出荷時はデバイダ先端が地面から15～25mmになるように調整しています。
- * 分草に支障がない限り、デバイダ先端を上方にセットしてください。
- * 雑草が多いほ場ではデバイダ先端を高く調整すると、デバイダへの雑草のからみ付きを防止できます。

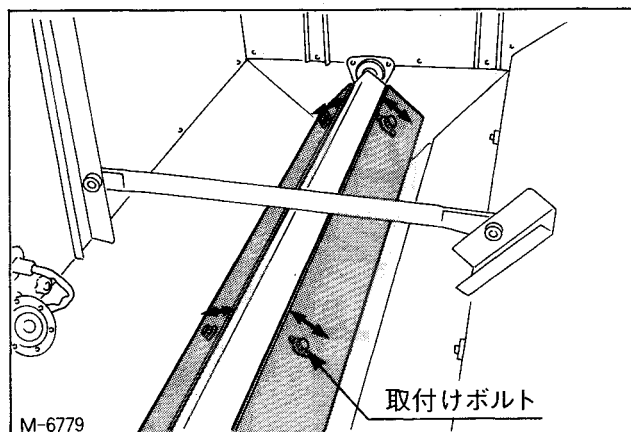
20 左分草かん

左分草かんを作業位置まで倒して、セットしてください。



21 こく粒排出量の調整

グレンタンク内の排出調整板を上下に移動させることによって、排出量を変えることができます。



- ① 標準は長穴中央位置です。
- ② こく粒の流れが悪く排出時間が長くなる場合は、調整板を上げます。

重 要

* 上げた場合は、作物条件が標準状態になり次第、中央位置へ戻してください。

8. 日常点検

日常点検は、コンバイン作業を行なう人が1日1回、作業前に行なう点検です。欠かさずに行ないましょう。



注 意

- * 火気厳禁。
- * 点検をするときは、刈取部を一番下まで降ろしエンジンを停止し駐車ブレーキをロックしてください。
- * 燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- * エンジン周囲のカバー類を開けるときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。
- * 点検が終われば、カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油や水もれなど異常がないか、点検します。

日常点検項目

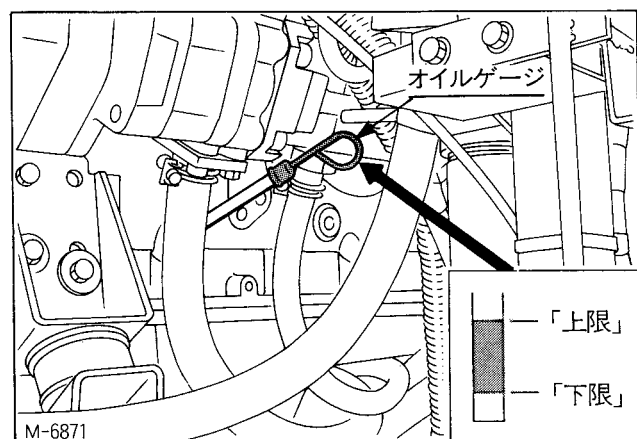
〈ここを〉		〈こうする〉
1 エンジンオイル	* オイルゲージの上下刻線の間に油量があるか。	* 油面がオイルゲージの上下刻線間になるまで補給する。使用オイルについては“カミンズエンジン用オイル一覧表”の項を参照してください。
2 冷却水	* リザーブタンクに適量あるか。 (必ずFULLとLOWの間にあること)	* 不足していれば清水を適量補給する。
3 セパレータ	* 水が溜まっていないか。	* 水を捨てる。
4 プレクリーナ	* ほこりが溜まっていないか。	* 清掃する。
5 油圧オイル	* オイルゲージの上下刻線の間に油量があるか。	* 油面がオイルゲージの上下刻線間になるまでクボタ純オイルNEW・UDTを補給する。
6 注油	* 油切れをおこしていないか。	* 注油する。
メインスイッチを入にして	7 燃料計	* 作業に必要な燃料があるか。 * ディーゼル軽油(ディーゼル重油は不可)を補給する。(タンク容量140L)
	8 イージーチェツカ	* 球切れ、ヒューズ切れ、配線の外れを調べ処置する。 * その他の場合は、購入先へ相談してください。
	8 レベルメータ	
	9 ホーン	
	10 ランプ類	
	11 バックブザー	* 主変速レバーを“後進”位置にしたとき、バックブザーが鳴るか。 * ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する。 * その他の場合は、購入先へ相談してください。

1 エンジンオイルの量

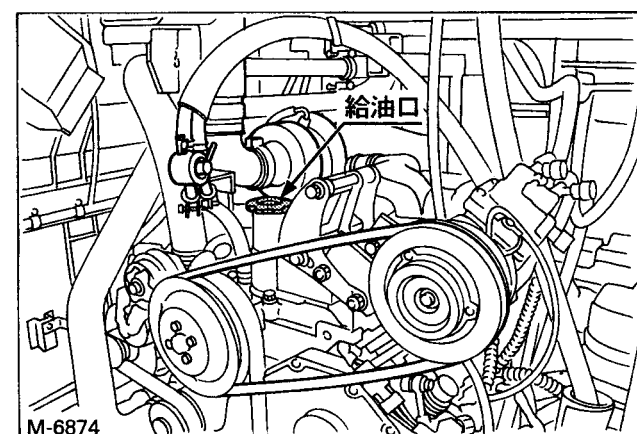
① エンジンルームオープンをします。

(43ページ参照)

② オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、差込んでから再び抜き“下限と上限の間”にオイルがあるかを調べます。



③ “下限”以下の場合は補給します。但し，“上限”以上には入れないでください。



重要

- *点検するときは、コンバインを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
- *オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから約5分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確な量が示されません。
- *今まで使用していたオイルと異なるメーカー、あるいは種類の異なるものを使用する場合は、オイルを全部排出してから、新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。

2 ラジエータ冷却水量



注意

*ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、停止後メインスイッチ“入”で水温計が“C”の位置であることを確認してからにしてください。

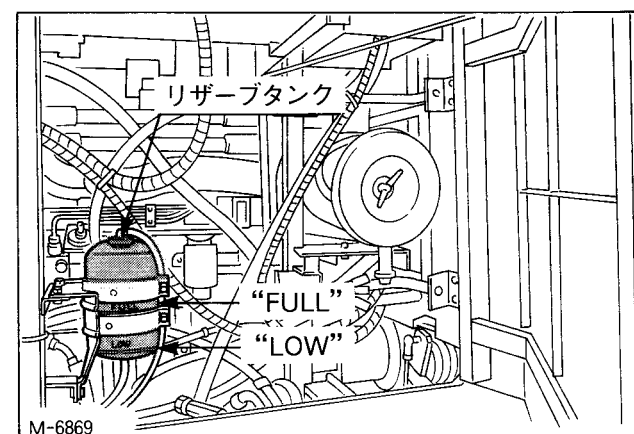
ラジエータにはリザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンクで点検してください。

① エンジンルームオープンをします。

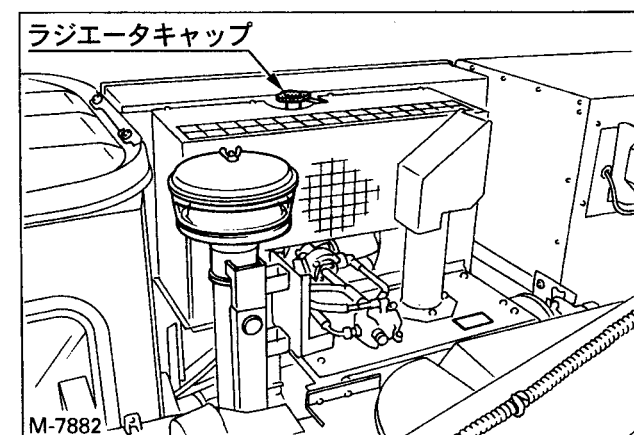
(43ページ参照)

② “LOW” から “FULL” の間であれば正常です。

③ リザーブタンクの冷却水が “LOW” 以下の場合は、清水を補給します。但し，“FULL” 以上は入れないでください。



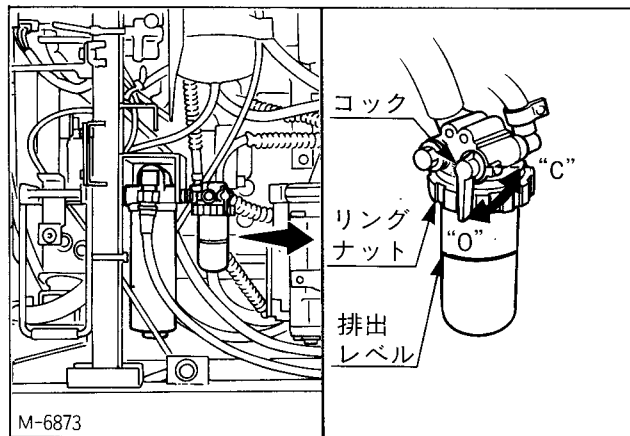
④ 通常、ラジエータキャップは外しませんが、リザーブタンクに冷却水がない場合は、ラジエータにも補給します。



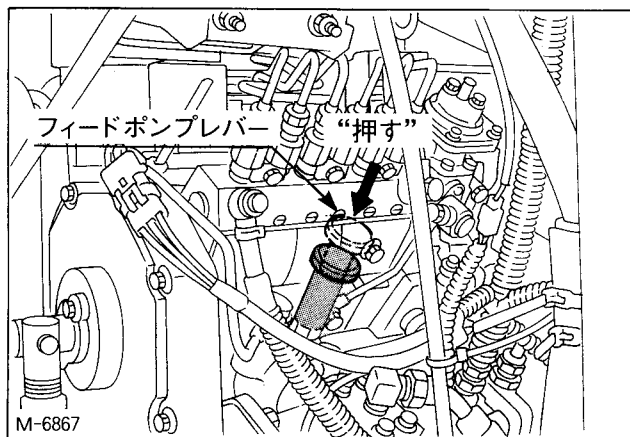
重要

*冷却水量は、エンジンが冷えているときに点検してください。そうでないと、正確な量が示されません。

3 セパレータの水の排出



- ① エンジンルーム下カバーを外します。
- ② 分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮上ります。フロートが排出レベルに達したときは切換えコックをいったん“C”にして、リングナットをゆるめてカップを取外し排出します。
- ③ このときエレメントを破らないように清掃します。
- ④ カップ再セット後は切換えコックを“O”にし、フィードポンプレバーを押してカップの中に燃料を充填させます。このとき充填した後も更にレバーを10～15回押しておきます。



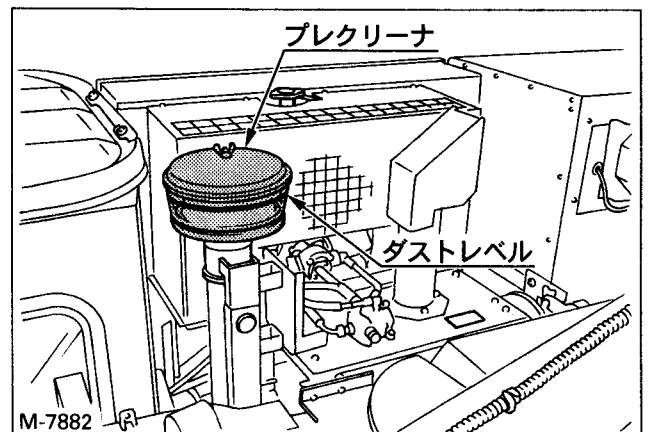
4 プレクリーナの清掃



注意

- * はしごに登るときは、エンジンを止めてください。
- * プレクリーナの清掃をするときは、高温部（マフラ先端、ラジエータ上部、油圧ファンモータなど）に触れないでください。また、すべらないように足場を確認してください。

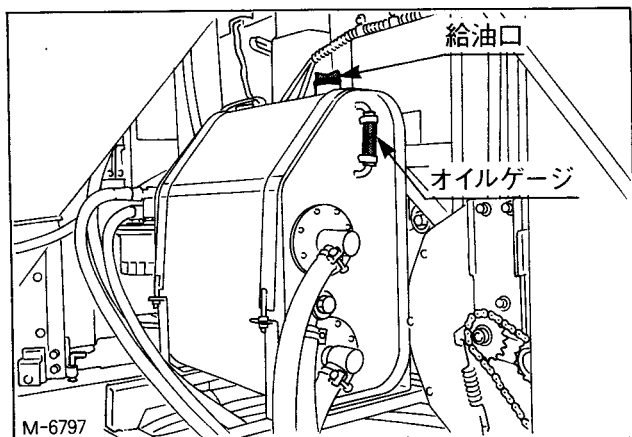
ダストレベルまでゴミが堆積しておれば、プレクリーナを外し清掃してください。



- ① バックミラーを格納し、はしがからフィーダ部のすべり止めシール部へ渡り、天板部へ登ります。
- ② 蝶ナットを外し、カップに堆積したゴミを捨てます。

5 油圧オイルの量

- ① グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ② オイルゲージの“下限と上限の間”にオイルがあるかを調べます。



- ③ “下限”以下の場合はクボタ純オイルNEW・UDTを補給します。但し，“上限”以上には入れないでください。

重要

*点検するときは、コンバインを水平（特に前後に水平）な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

6 注油



警告

*刈取部の下で作業するときは、刈取部の下降ロックをしてください。(42ページ参照)

*リールの下で作業するときは、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)

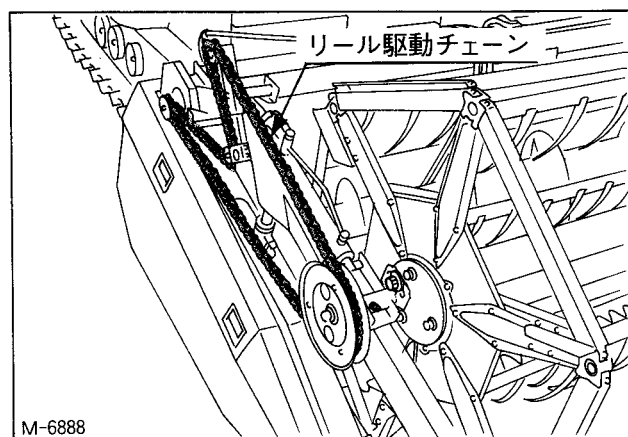


注意

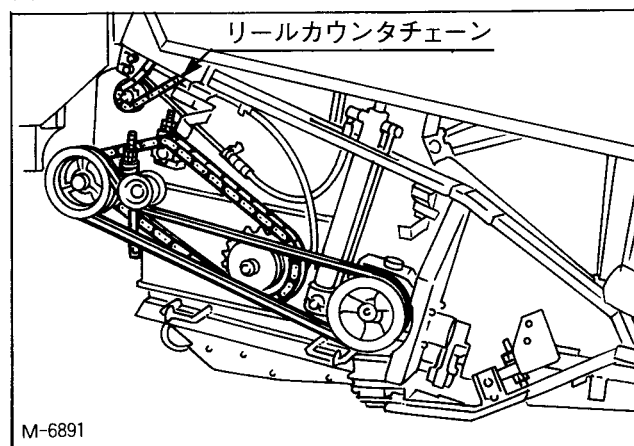
*注油をするときは、エンジンを止めてください。

*出入リフィンガ（オーガ）を回転させると刈刃とリールが動くので、コンバインに人を近づけないでください。

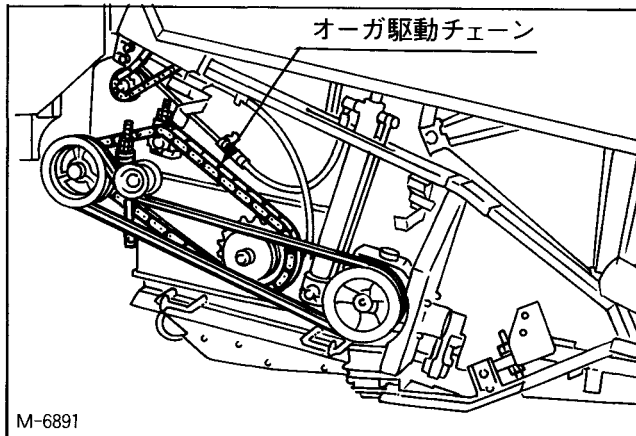
(1) リール駆動チェーン



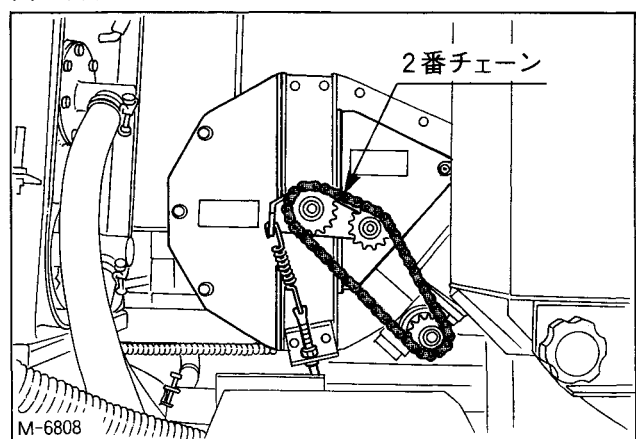
(2) リールカウンタチェーン



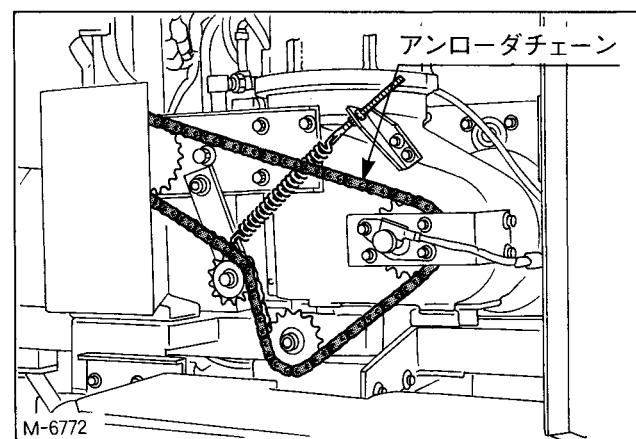
(3)オーガ駆動チェーン



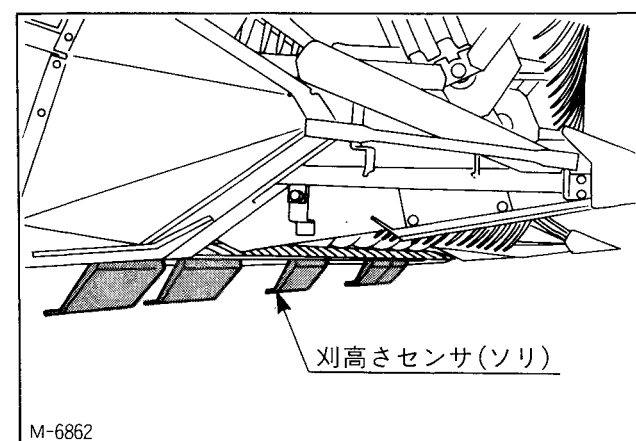
(4)2番チェーン



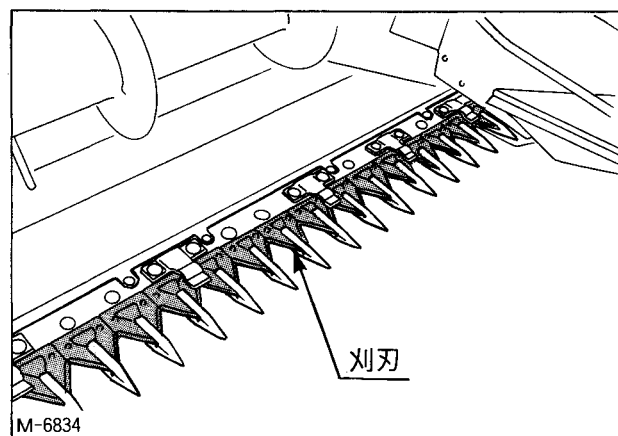
(5)アンローダチェーン



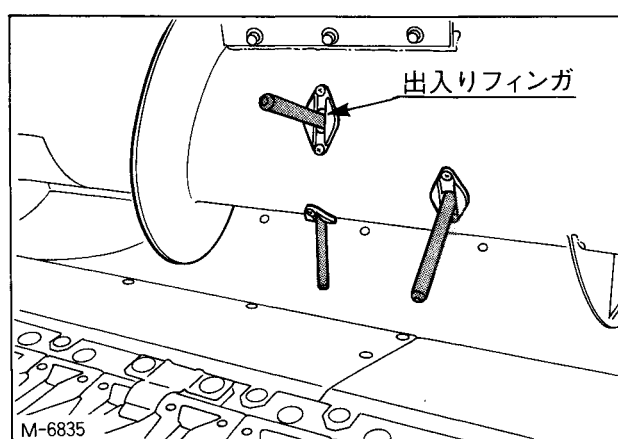
(6)刈高さセンサ (ソリ) の回動支点



(7)刈刃



(8)出入りフィンガ (8個)



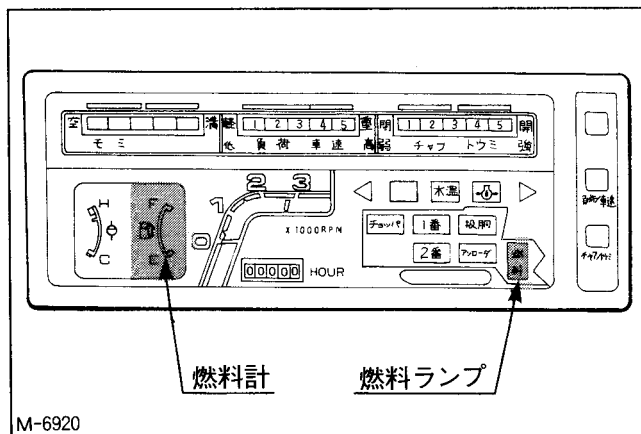
7 燃料の点検



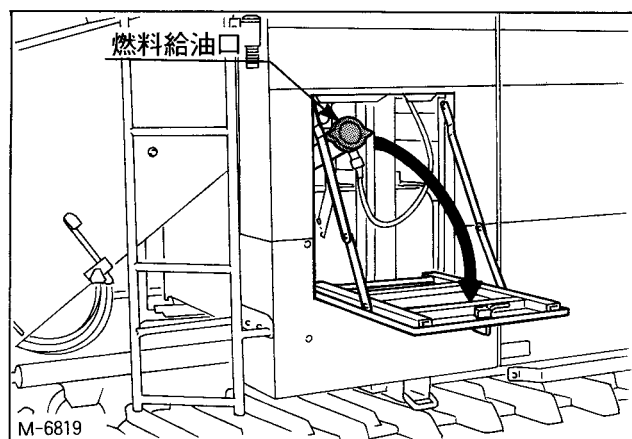
注意

* 燃料を補給するときは、エンジンを停止してください。

* 火気厳禁。



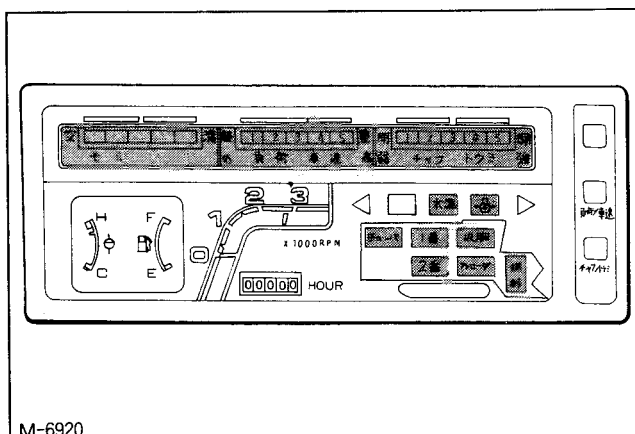
M-6920



メインスイッチを“入”にして、燃料計により残量を点検し、不足の場合は軽油を補給します。

燃料タンク容量	140L
---------	------

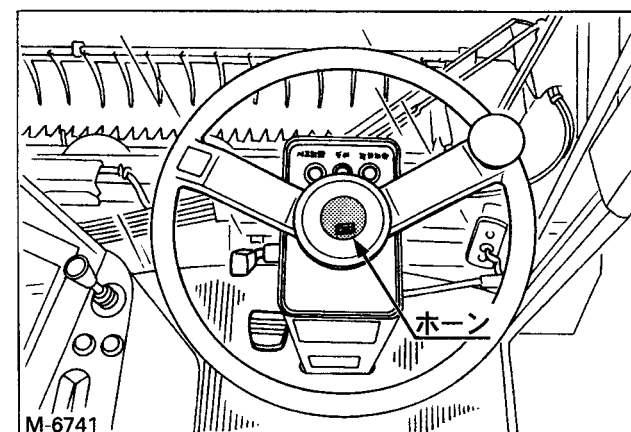
8 イージーチェッカ・レベルメータの点検



M-6920

- (1) イージーチェッカは、メインスイッチを“入”にするとすべてが点灯し、約2秒すると消灯します。但し、オイルランプは、エンジンを始動しないと消灯しません。
- (2) レベルメータは、メインスイッチを“入”にするとすべてが点灯し、約2秒するとモミ・負荷・チャフの表示をします。
- (3) エンジンを始動したときに、エンジン回転計が正常に作動するかを点検します。

9 ホーンの点検

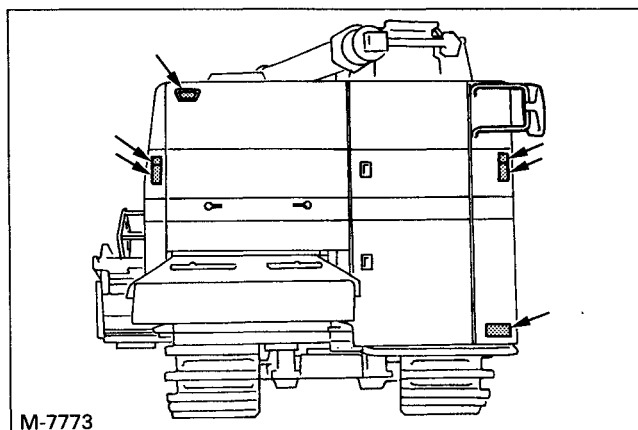
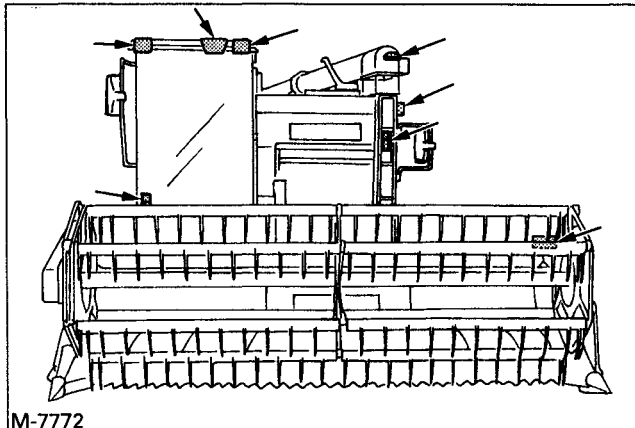


M-6741

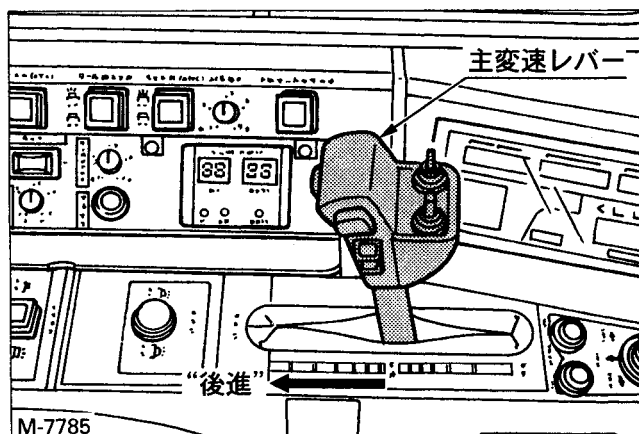
メインスイッチを“入”にし、ステアリングハンドルのラッパマークを押して、ホーンが鳴るかを点検します。

10 ランプ類の点検

メインスイッチを“入”にして、ヘッドランプ・作業灯・方向指示器などを作動させ、点灯又は点滅するかを点検します。また、レンズに汚れや損傷がないかも点検します。



11 バックブザーの点検



メインスイッチを“入”にし、主変速レバーを後進位置にしたとき、バックブザーが断続的に鳴るかを点検します。

9. 収穫作業のしかた

新車時の扱い方

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますが、コンバインの各部の部品はならし運転されていません。コンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる刈取り作業は避けましょう。

コンバインの性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。

新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■初期50時間のならし運転

- * 急発進はしないでください。
- * 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- * エンジンは規定刈取り作業回転数以上にセットしないでください。
- * 整地されていない凹凸道路では適切な低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換と

チェーン・ベルトの張り調整

- * 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、油脂・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
- * チェーンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期20時間で張り調整をしてください。
(交換したときも同様です。)

作物とほ場の条件

作物とほ場の条件によっては、正常なコンバイン作業ができないことがあります。まず作物とほ場の条件を確認してください。

■稲・麦刈りの条件

(1) 作物の長さ……

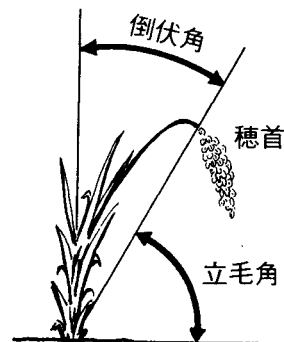
全長55～130cm



M-0138

(2) 作物の倒れ（倒伏角）……

- 追い刈り……85度以下。
- 向い刈り……70度以下。

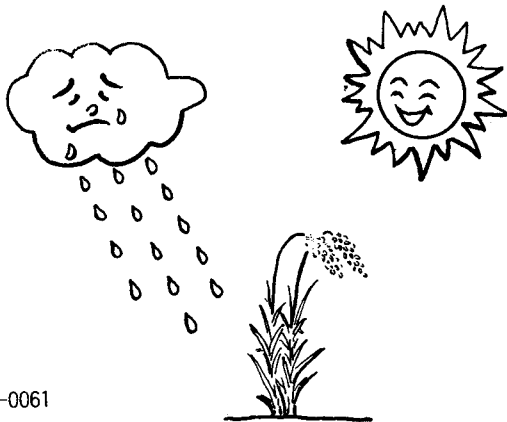


M-0138

(3)作物のぬれ……

乾いていること。

(手でしごいてぬれない状態)



M-0061

■大豆刈りの条件

(1)大豆刈りでは、刈取り時期が重要です。

早すぎると汚粒が発生しやすくなり、遅すぎるとヘッドロスが増えます。

(2)かんが青い大豆、及び雑草の多いほ場では、汚粒が発生しやすくなります。

青いかんは刈取り前に除去してください。

(3)倒伏した大豆、極端に短いかん長の大豆、及び着菜位置の著しく低い菜などは、刈取れない場合があります。

■ソバ刈りの条件

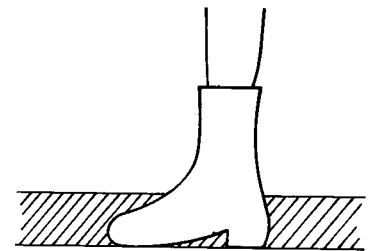
そば刈りでは刈取り時期が重要ですので適期に刈取りしてください。

早期であると葉・茎を傷めやすく、コンケーブ・チャフシーブ・グレンシーブの目詰まりが起きやすくなり、ロスの発生原因となりますので注意してください。

黒化率が80～90%ぐらいで刈取りを行なってください。

■ほ場の条件

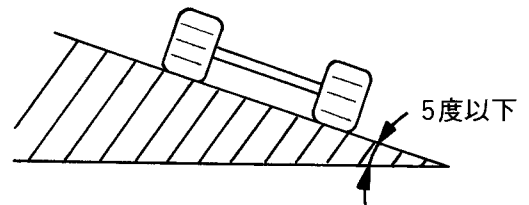
(1)ほ場のぬかる度合い……足の沈み20cmまで。



(長靴をはいた状態)

M-0218

(2)機体の傾斜角度5度以上では、作業できません。



M-0487

補 足

* ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

* 刈取り時期が適期でないときや、作物の性質によって脱こく性能が低下することがあります。このときは車速を落とすか刈高さを高くしてください。

収穫作業について

重要

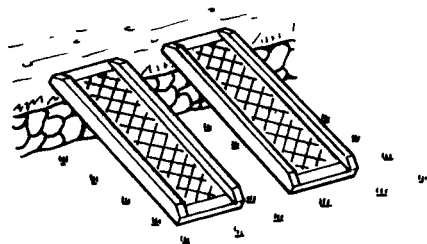
- *副変速が“高速”位置での刈取り作業はしないでください。トラブルの原因になります。
- *アンローダを支えに収納しないで、刈取り作業をしないでください。コンバインが故障する原因になります。

ほ場への出入り



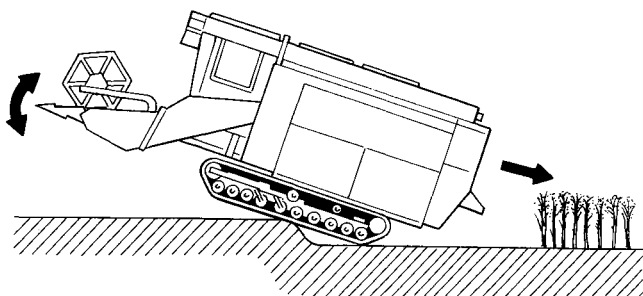
注意

- *後進で進入するときは、刈取部を上下動させてバランスをとりながらゆっくり進入してください。
- *あぜの乗越えは、グレンタンクのもみを取り出した状態（空の状態）で低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ、又はコンクリートの畦畔は必ずあゆみ板を使用してください。機体は一番下まで下げて行なってください。あゆみ板は29ページの基準に合ったものを使用してください。
- *夜間作業のときは、作業灯を点灯してください。



M-7040

- (1)ほ場への進入口がある場合や段差が少しの場合は、刈取部を下げて刈取りしながらほ場へ進入できます。
- (2)段差が高い場合は、枕刈りを行ってから後進で進入してください。
- (3)更に段差が高いときは、あゆみ板を使用してください。

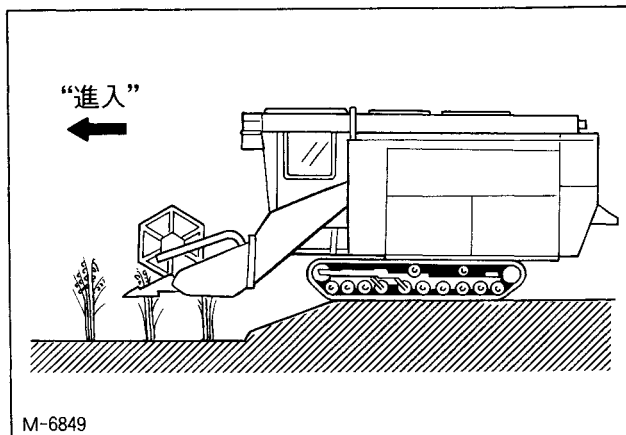


M-6850

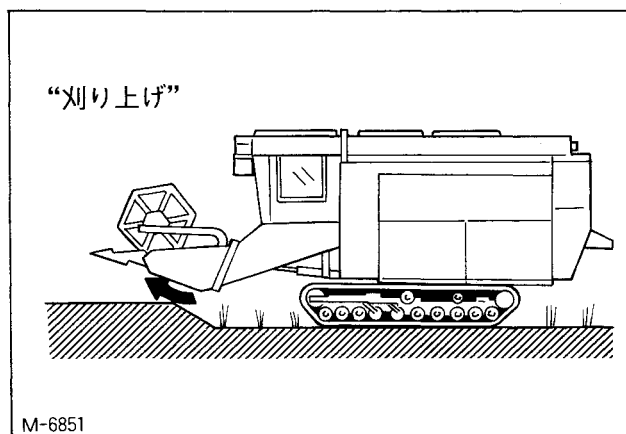
ほ場の手刈り（枕刈り）

◆段差が低いとき、進入口がある場合

- (1)道路・畦畔から直接刈取りしながらほ場へ進入できます。
- (2)刈り終り時には刈取部を刈り上げできますので枕刈りは不要です。



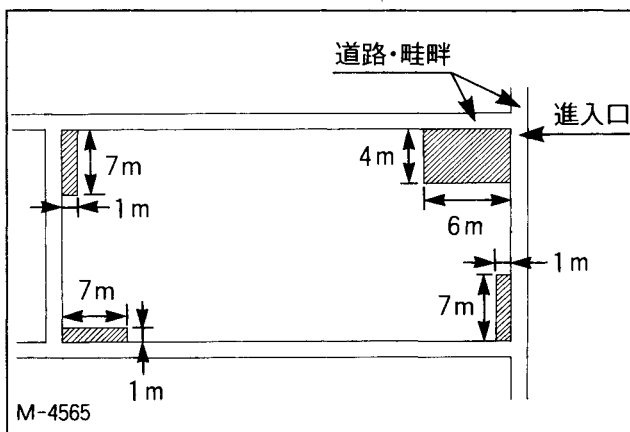
M-6849



M-6851

◆段差が高いとき

ほ場と道路・畦畔との段差が高いときは、下図のように手刈りしてください。



M-4565

◆手刈りした作物の処理

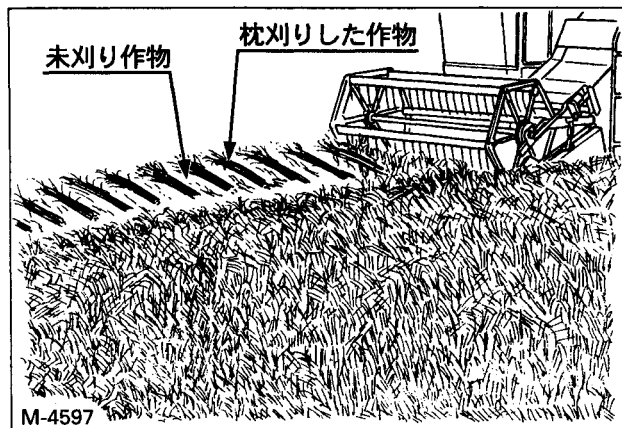


注意

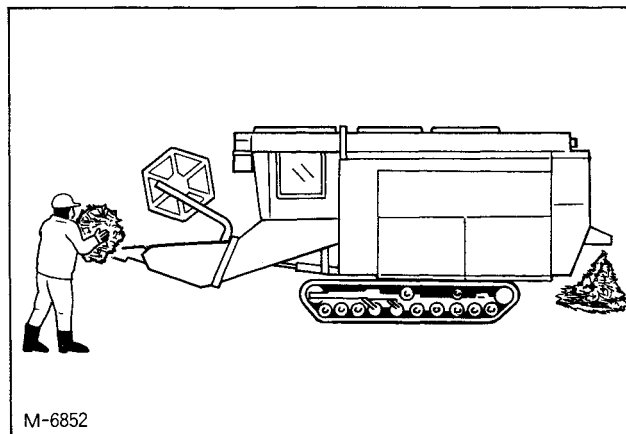
- *コンバインの移動を停止させてから作業してください。
- *リールを一番上まで上げ、リールの下降ロック（39ページ参照）をし、回転物や刈刃・リールには巻込まれないように投げこんでください。

手刈りで刈取った作物は、

- (1)未刈り作物の上のにせて未刈り作物と一緒に刈取ります。



- (2)ほ場を刈り終った後に刈取部に投げこみます。

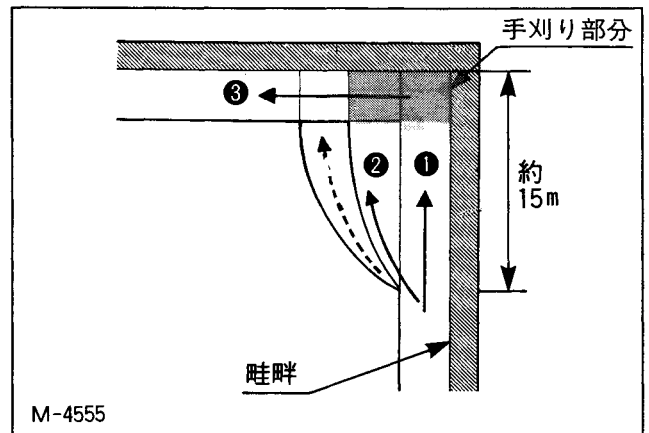


重要

- *のせてある作物を刈取るときは車速を落としてください。
- *一度に多くの量を投げ込むと、オーガ・フィーダ・こぎ胴で詰まることがあります。
- *1カ所で枕脱こくするときは、排わらが山になりこぎ胴やチョツパが詰まることがありますので、時々コンバインを移動させてください。

■ほ場のコーナ部の刈取り

回り刈り時のコーナ部の刈取りは下図のようにします。



重要

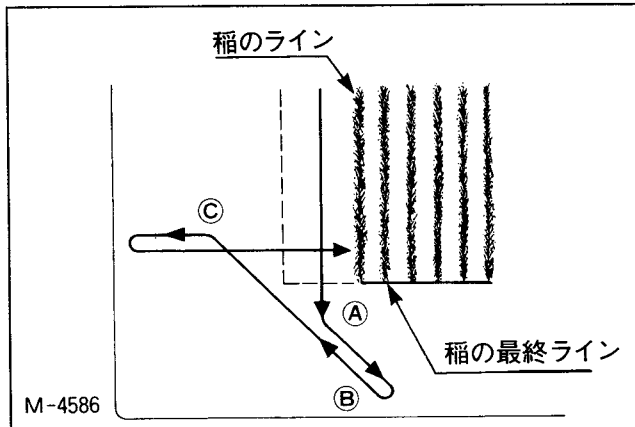
- *②の刈取りで旋回しにくいときや湿田では、もう一度刈取りしてください。
- *あぜぎわ刈りのときデバイダを突込んだり、左分草稈をぶつけないように注意してください。
- *小さなほ場や、ほ場の隅では作業がしにくいので、低速で作業を行ってください。

◆刈終りの操作

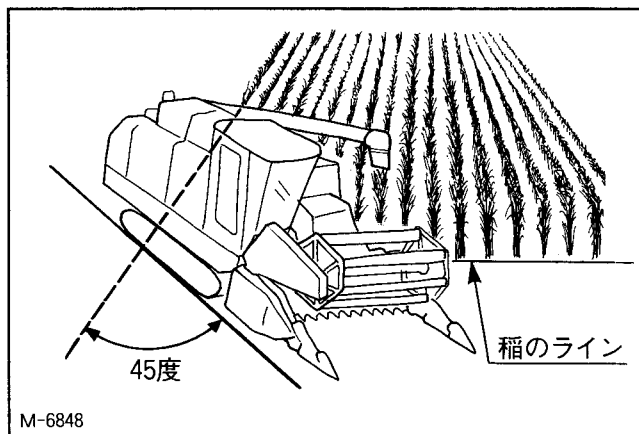
- (1)刈終りはリールを下げた作物を掻込み、最終作物を刈刃が刈終わった瞬間に刈取部を上げます。
- (2)上記作業はポジピタスイッチの“上”を押すだけでも行なえます。

■ほ場内での旋回

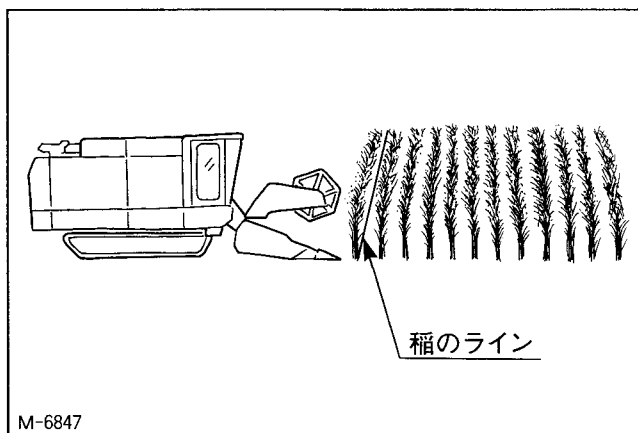
- ①刈り終ると前進しながらリールを下げて刈取部を少し上げます。
- ②刈り上げ後、稲の最終ラインを機体が通過したとき、45度になるまで左方向に旋回します。(A)



- ③機体が45度になったところでバックします。(B)



- ④稲のラインが見えたら、稲のラインに直角になるようバックしながら旋回します。(C)



- ⑤刈取部を下げてリールを適正位置まで上げます。

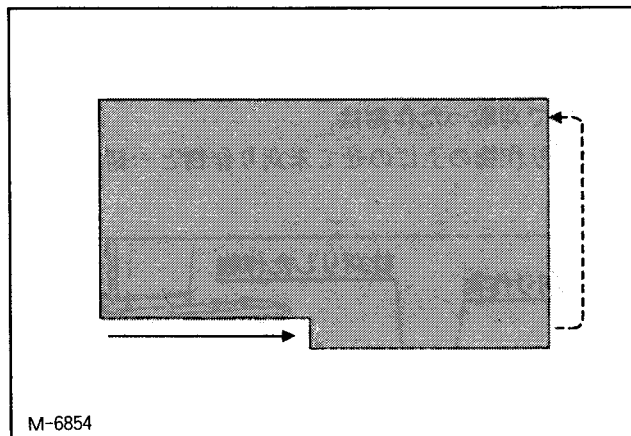
補 足

＊ポジピタスイッチの“－”を押すだけでも、上記操作が行なえます。

■ほ場の大きさによる刈り方

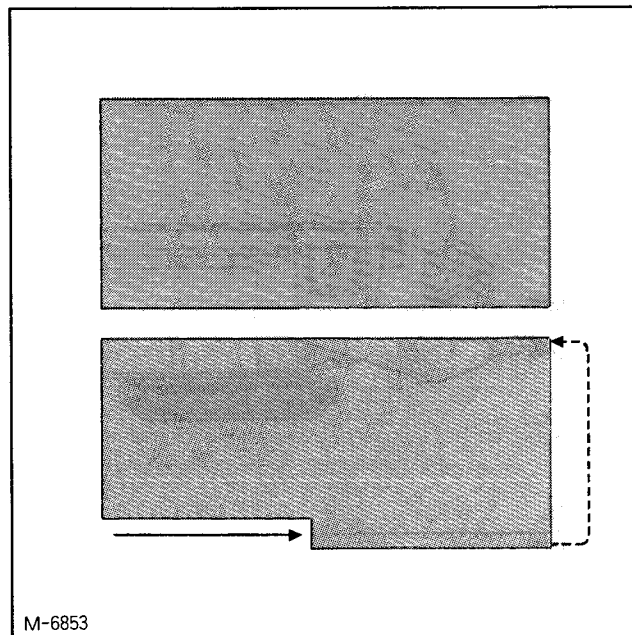
◆長方形のほ場

両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに、長い2方向のみ刈取ってください。能率が上がります。



◆広いほ場

中割り刈りで分割して、前記の長方形のほ場と同じ要領で刈取ります。

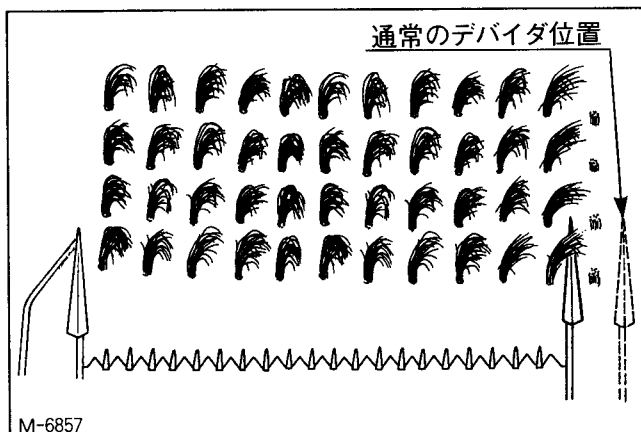


■デバイダの使い方

通常作業は11条入るように刈取ってください。

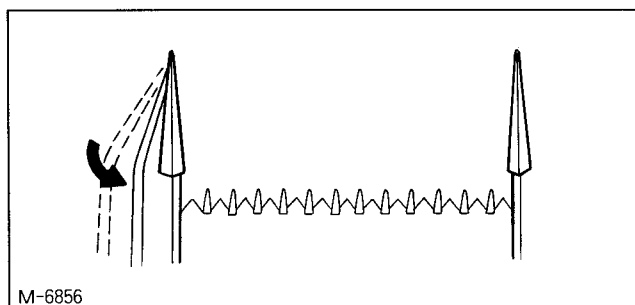
◆半倒伏状態のとき

半倒伏の稲・麦を10条刈取ると、刈刃右端近辺で穂切れが発生することがあります。この場合は下図のように、右側デバイダを未刈り株に近づけると、発生しにくくなる場合があります。但し、12条刈取ることがありますので、通常より車速を低くして作業してください。

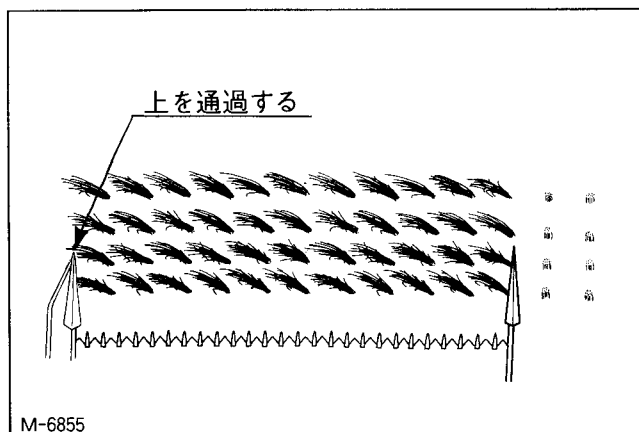


◆完全倒伏状態のとき

(1) サイドデバイダを開き過ぎないようにしてください。(完全に開いた状態の約半分くらいにしてください。)

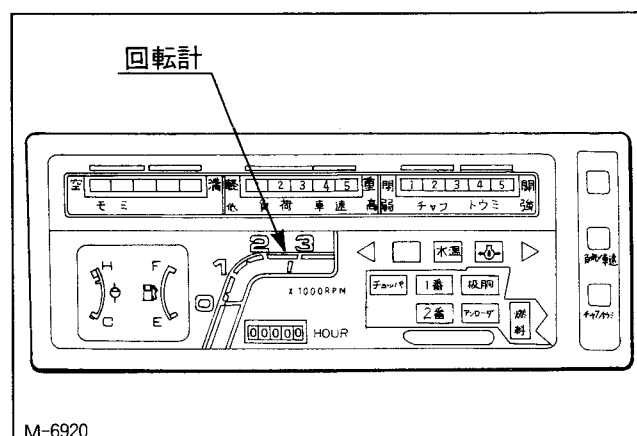


(2) なるべくデバイダは、作物の上を通過するようにして作業してください。



■こく粒排出作業

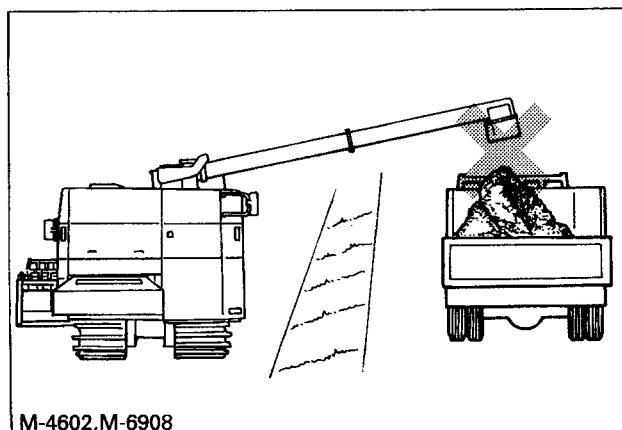
- ① グレンタンクがいっぱいになると、モミメータと警報ランプが点滅するので、刈取り作業を中止し20～30秒たってから、脱こくクラッチスイッチを“切”にし、所定の排出場所に移動します。
- ② 排出は刈取り作業時のエンジン回転数のままでします。損傷しやすい品種のときは、エンジン回転数を2000min⁻¹(rpm)まで下げてください。



- ③ アンローダ自動旋回装置を使ってアンローダを排出位置まで出します。(40ページ参照)
- ④ アンローダクラッチスイッチを押します。
- ⑤ 排出が終わったら、アンローダクラッチスイッチを再度押して“切”状態にします。
- ⑥ 自動旋回スイッチを押して、アンローダを収納位置に戻します。

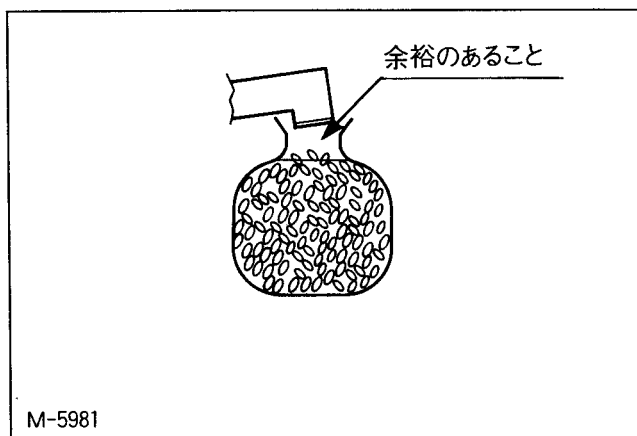
重 要

* アンローダ吐出口をふさがないでください。



- * アンローダには、絶対物を吊るさないでください。
- * アンローダクラッチスイッチを“入”にして、5秒程度でアンローダ出口からこく粒が出始めます。排出されない場合は詰まっていますので、直ちにクラッチを切ってエンジンを停止し、詰まりを取除いてください。(79ページ参照)

＊アンローダで袋詰め作業を行なうときは、詰まり防止のため、袋に余裕のある状態で、クラッチを切ってください。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。



■大豆刈りのしかた

- (1)刈取部に泥を入れると、確実に汚粒の発生の原因になります。泥を混入させないでください。万一、刈取部に泥を混入させた場合は、直ちに刈取りクラッチを切り、泥を取除いてください。また、脱こく機内に入った場合は、全ての掃除口から泥を取除いてください。
- (2)ほ場に畝のある場合は、左右のクローラの位置に注意してください。なるべく両方のクローラを畝の山と山（条間によつては谷と谷）に乗るように、刈取り走行してください。少々傾きは車体水平制御で自動修正できます。

■ソバ刈りのしかた

かんの下の方は結実が遅れているため、できる限り高刈りしてください。

1日の作業終了後の処置



警告

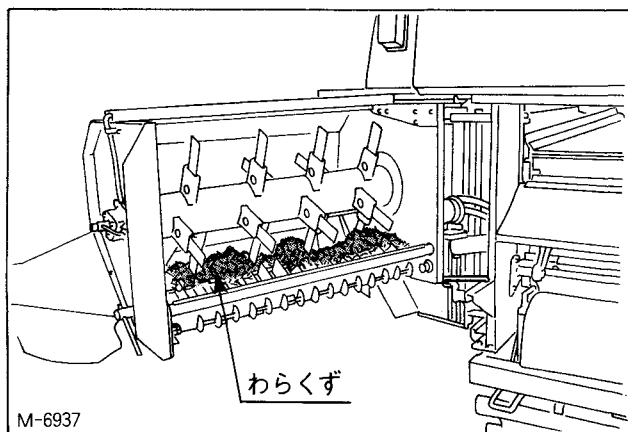
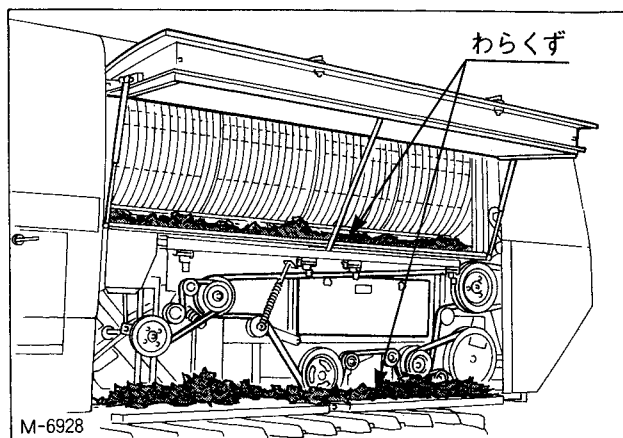
*刈取部のわらの巻付きやわらくずを取除くときには、エンジンを止めてください。



注意

*カバーなどを開けるとときには、エンジンを止めてください。

*エンジンルームオープンをするときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。



- ①カバー類を外し、わらくずを取除きます。
- ②作業中に異常を感じたところがあれば点検します。
- ③アンローダレバーでアンローダを支えに収納します。
- ④水平操作レバーを“機体下”にし、機体を一番下にします。
- ⑤刈取部を一番下まで下降させます。
- ⑥駐車ブレーキをロックして、メインスイッチのキーを抜取っておきます。

10. 作業中のトラブル

刈取り作業中には、予期せぬトラブルが発生することがあります。こんなときには、あわてずに処置してください。



警告

*刈取部のわらの巻付きや詰まりを取除くときには、エンジンを止めてください。



注意

*カバーなどを開けるときの詰まりなどを除去するときには、エンジンを止めてください。

■ブザーが鳴る

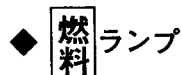
負荷メータの①～⑤が点滅している場合は過負荷です。

①減速が必要です。

②通常は、①～③が点灯するように車速を調整してください。

段階	負荷メータ・ブザー	変速指示
1	①	加速可能
2	①②	加速可能
3	①②③	適正速度
4	①②③④	減速必要
5	①②③④⑤	減速必要
6	①②③④⑤, ブザー断続	即時減速

■イージーチェッカが点灯



燃料ランプ



注意

*燃料を補給するときは、エンジンを停止してください。

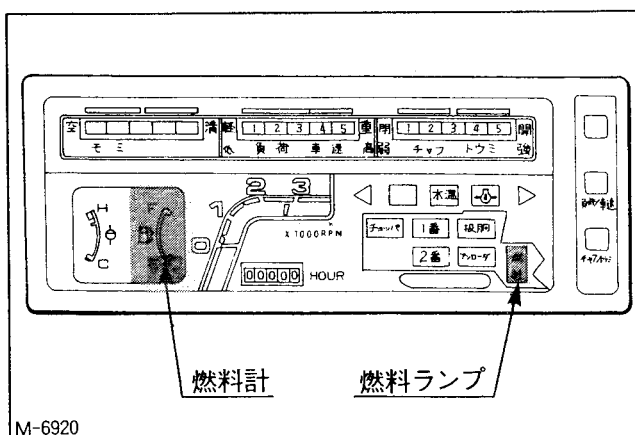
*火気厳禁。

燃料残量が10L以下になりました。

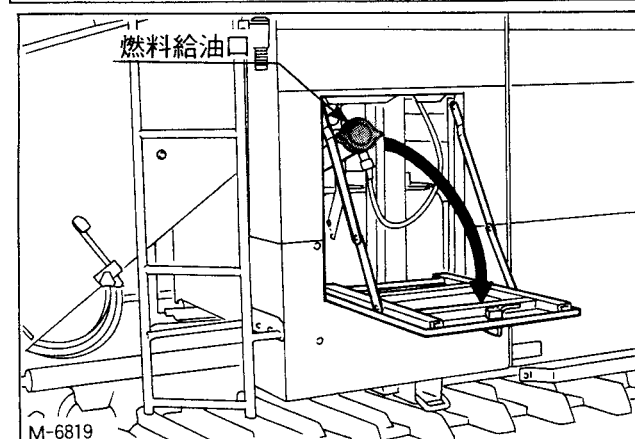
①早目に燃料を補給してください。

②もし燃料がなくなった場合は、燃料系統のエア抜きが必要となります。(82ページ参照)

燃料タンク容量	140L
---------	------



M-6920

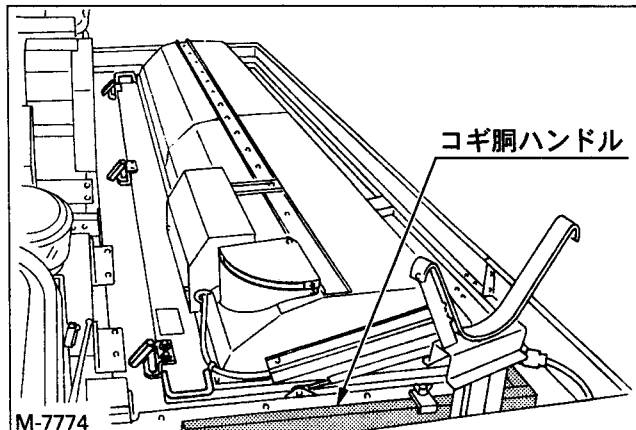


M-6819

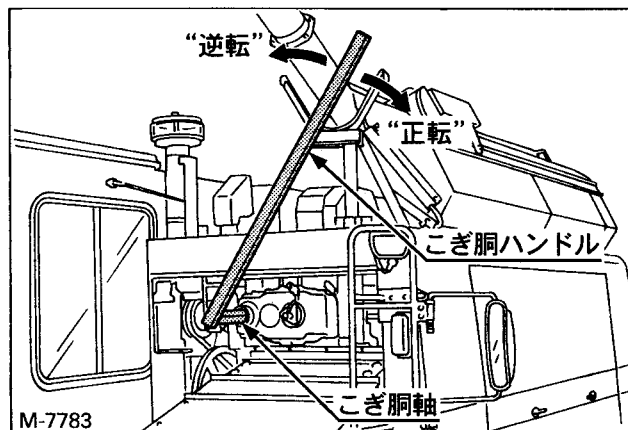
◆ こぎ胴 ランプ+ブザー

こぎ胴詰まりが発生しました。

- ①ただちに脱こくクラッチスイッチを“切”にし、アンローダを上昇させてからエンジンを停止します。
- ②こぎ胴ハンドルを取出します。



- ③こぎ胴天板オープンをします。(45ページ参照)
- ④場合によっては、コンケーブも外します。(50ページ参照)
- ⑤バックミラーを格納し、はしごからフィーダのすべり止めシール部へ渡ります。
- ⑥こぎ胴前カバーを外します。
- ⑦こぎ胴変速レバーを“中立”にします。
- ⑧こぎ胴ハンドルをこぎ胴軸に挿入し、逆転させます。(詰まりの様子によっては、正転の方が楽な場合もあります。)



- ⑨わらの固まりがこぎ胴の上に来たらそれを除去します。

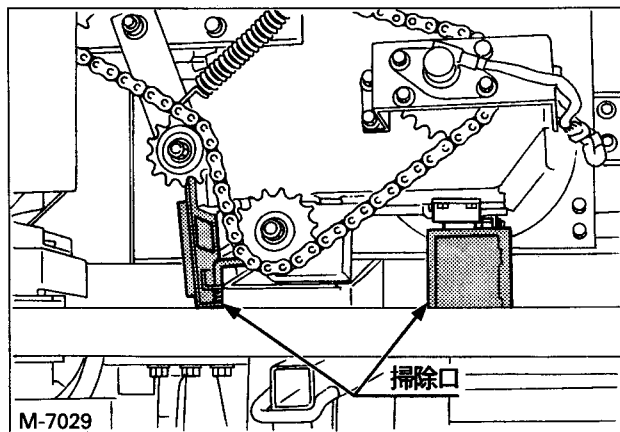
補 足

- *こぎ胴が詰まったときはエンジンも停止するため、1番・2番・チョップランプも同時に点滅します。こぎ胴の詰まりを取除いた後、脱こく部をじゅうぶん空回しをして、1番・2番・チョップの詰まりが無いことを確認してください。
- *こぎ胴ハンドルでキャビンのガラスを割らないようにしてください。

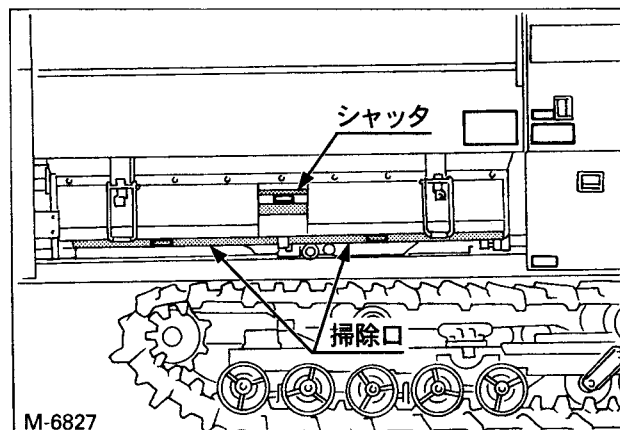
◆ アンローダ ランプ+ブザー

アンローダ詰まりが発生しました。

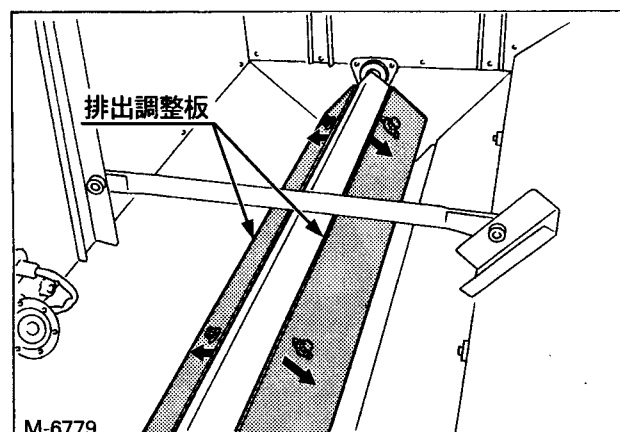
- ①ただちにアンローダクラッチスイッチ・脱こくクラッチスイッチを“切”にし、エンジンを停止します。
- ②シートなどを敷き、アンローダ縦スクリュ下部の2カ所の掃除口を開け、こく粒を取出します。



- ③かみこんでいる異物又は異状を確認します。
- ④掃除口フタを確実に閉じてエンジンを始動し、アンローダクラッチスイッチを“入”にします。
- ⑤それでも排出されないときは、グレンタンク底の掃除口及びシャッタから、こく粒を取出して異状を確認します。



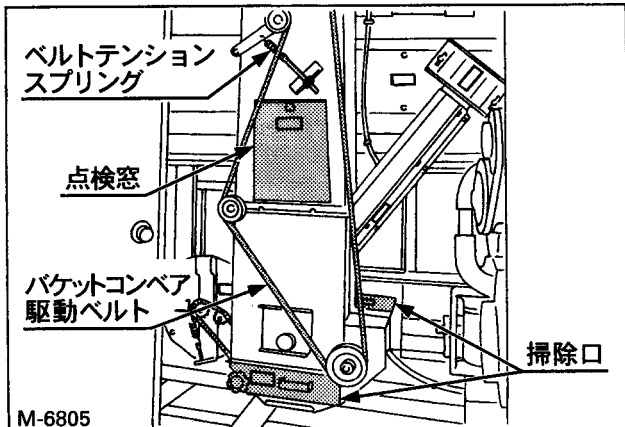
- ⑥小麦の排出中に詰まった場合は、排出調整板の位置が“下”になっているか確認します。“下”になっていなければ、“下”に調整してください。



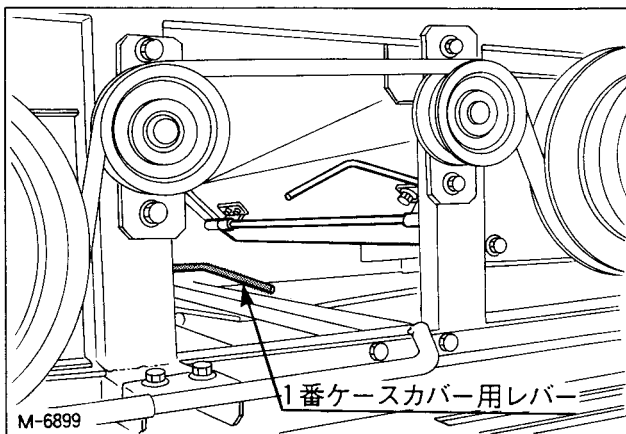
◆ 1番 ランプ+ブザー

バケットコンベア及び1番スクリュの詰まりが発生しました。

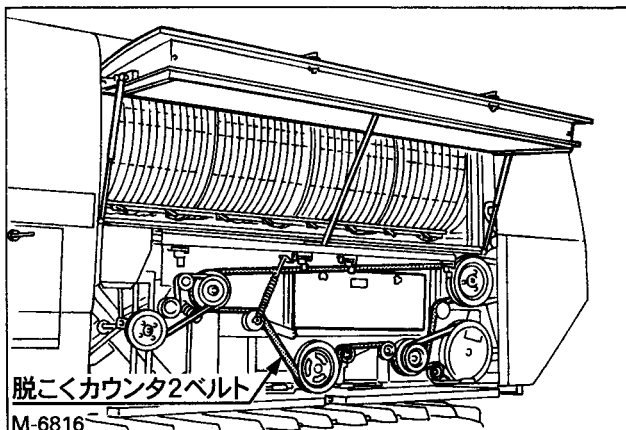
- ①ただちに脱こくクラッチスイッチを“切”にし、グレンタンクのこく粒を排出します。
- ②エンジンを止め、グレンタンクオープンをします。
(44ページ参照)
- ③シートなどを敷き、バケットコンベア下部の2カ所の掃除口を開け、こく粒を取出します。



- ④場合によっては、1番スクリュケース底フタをオープンし、こく粒を取出します。



- ⑤詰まりの原因を調べます。
- ⑥バケットコンベアチェーン・カップ・バケットコンベア駆動ベルト及び脱こくカウンタ2ベルトに異常がないか調べます。



- ⑦異常があれば交換又は調整します。

(99ページ参照)

- ⑧各掃除口フタやカバーを取付けます。
- ⑨グレンタンクを閉じます。
- ⑩エンジンを始動させ脱こくクラッチスイッチを“入”にし、約10秒間警報が鳴らなければ解除されています。

◆ 2番 ランプ+ブザー

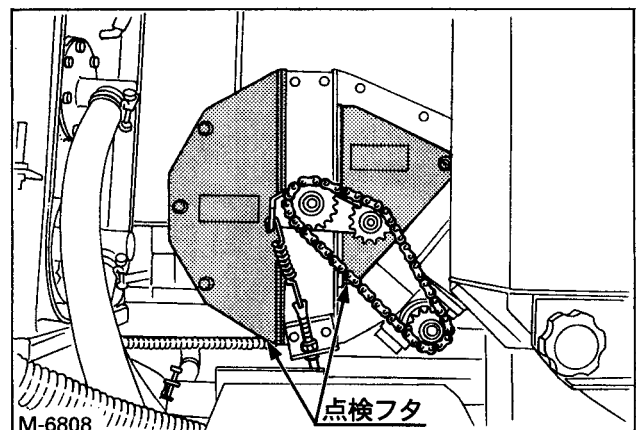


注意

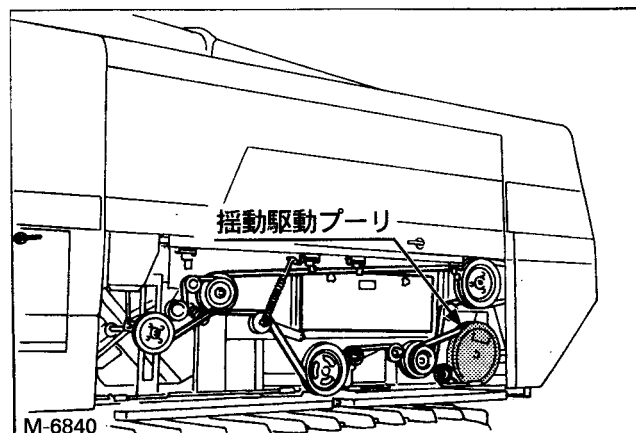
* 2番縦スクリュの掃除口の近くには、マフラなどの高温部があるので、温度が下がりヤケドのおそれがないことを確認してから作業をしてください。

2番スクリュ又は2番縦スクリュの詰まりが発生しました。

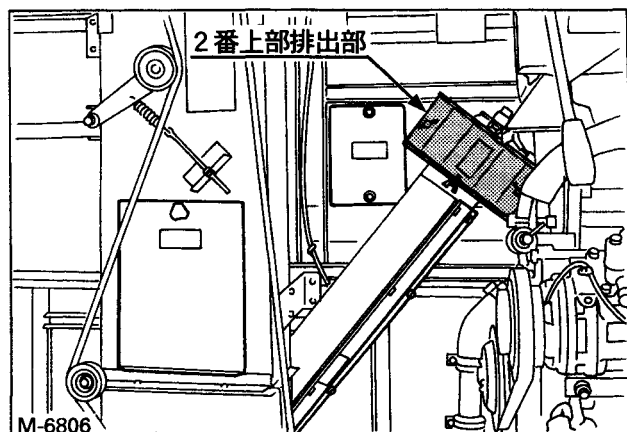
- ①ただちに脱こくクラッチスイッチを“切”にし、グレンタンクのこく粒を排出します。
- ②エンジンを止め、グレンタンクオープンをします。
(44ページ参照)
- ③シートなどを敷き、2番処理部の掃除口を開け、こく粒を取出します。



- ④揺動駆動プーリを逆転（回転）させ詰まりを除去します。



- ⑤ 2 番縦スクリュの掃除口を開け、こく粒を取出します。

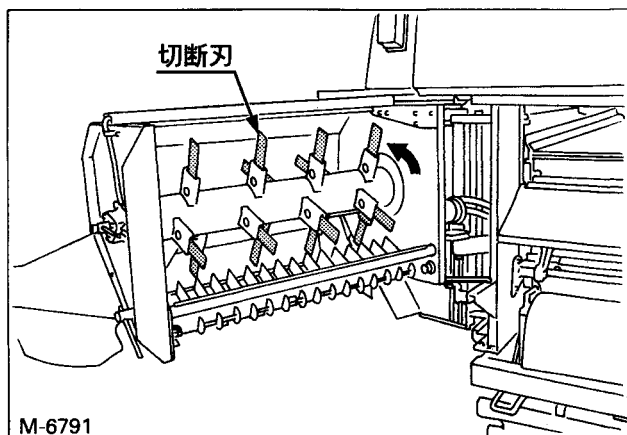


- ⑥ 詰まりの原因を調べます。
 ⑦ 脱こくカウンタ2ベルトに異常がないか調べます。
 ⑧ 異常があれば交換又は調整します。
 (99ページ参照)
 ⑨ グレンタンクを閉じます。
 ⑩ エンジンを始動させ脱こくクラッチスイッチを“入”にし、約10秒間警報が鳴らなければ解除されています。

◆ チョッパ ランプ+ブザー

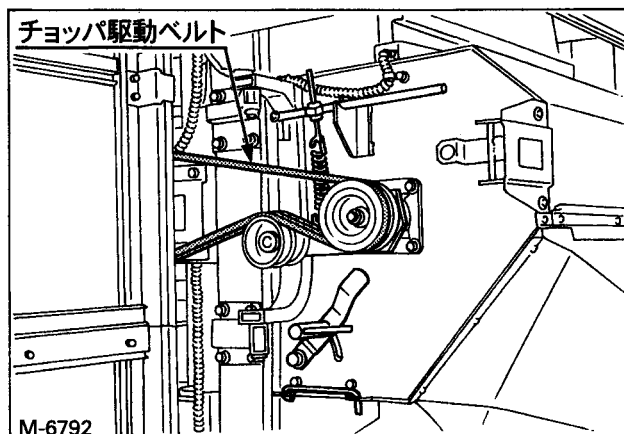
チョッパ詰まりが発生しました。

- ① ただちにエンジンを止めます。
 ② チョッパオープンをします。 (46ページ参照)
 ③ 切断刃に気をつけて詰まりを除去します。



- ④ 詰まりの原因を調べます。

- ⑤ チョッパ駆動ベルトに異常がないか調べます。



- ⑥ 異常があれば交換又は調整します。
 (99ページ参照)

■燃料切れ



注意

*燃料を補給するときは、エンジンを停止してください。

*火気厳禁。

- ①燃料を補給します。

燃料タンク容量	140L
---------	------

- ②次の手順にしたがってエア抜きをします。

◆エア抜きのしかた

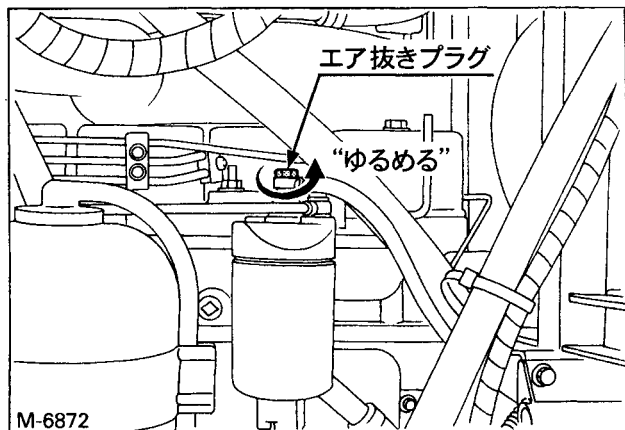


注意

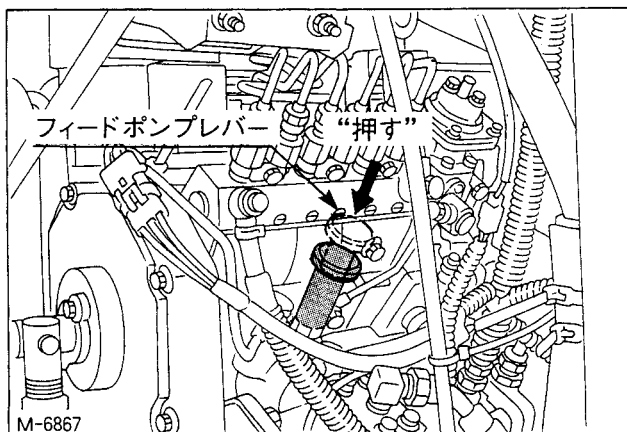
*メインスイッチ（スタータ）を“始動”位置にする必要があります。エンジンが始動する可能性がありますので、駐車ブレーキをロックし、主変速レバーを“中立”位置にして、また、回転物には巻込まれないようにしてください。

〔低圧及び燃料フィルタのエア抜き〕

- ①エンジンルームオープンをします。
(43ページ参照)
- ②エア抜きプラグをゆるめます。



- ③エア抜きプラグから気泡のない燃料があふれてくるまで、フィードポンプレバーを上下に動かします。



- ④エア抜きプラグを締付けます。

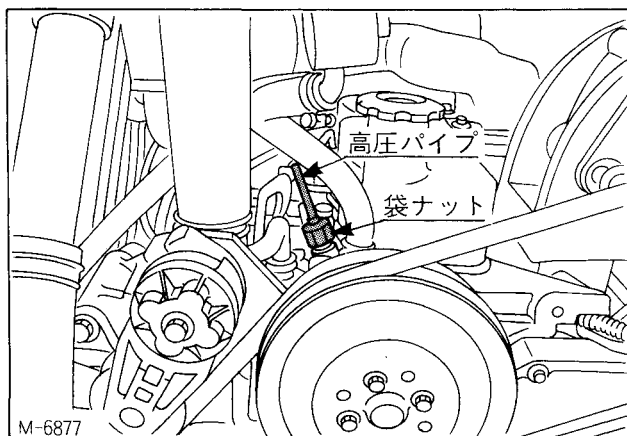
〔高圧ラインのエア抜き〕



注意

*エンジンが高温時にはエア抜きを行わないでください。高温時にエア抜きを行なうと、燃料が高温状態の排気マニホールドにかかり、火災発生のおそれがあります。

- ①高圧パイプのインジェクションノズル側袋ナットを1カ所以上ゆるめます。



- ②メインスイッチを“始動”にします。
- ③エンジンを始動し、一度に1ラインのエア抜きを行ない、エンジン作動が円滑に行なわれるようにしてください。

補 足

- * フィルタや噴射ポンプ供給ラインの交換により進入した少量の空気は、自動的に抜けるようになっていきます。燃料ラインの手動によるエア抜きは必要ありません。
- * 手動でのエア抜きが必要な場合は以下の通りです。
 - 燃料フィルタ充填を取付け前に行わないとき。
 - 噴射ポンプを取替えるとき。
 - 高圧燃料ライン接続部がゆるんでいたり、ラインを交換するとき。
 - 初期エンジン始動、長時間エンジン停止後の始動。
 - 燃料タンクが空になったとき。

■ 水温 ランプが点灯

オーバヒート状態です。

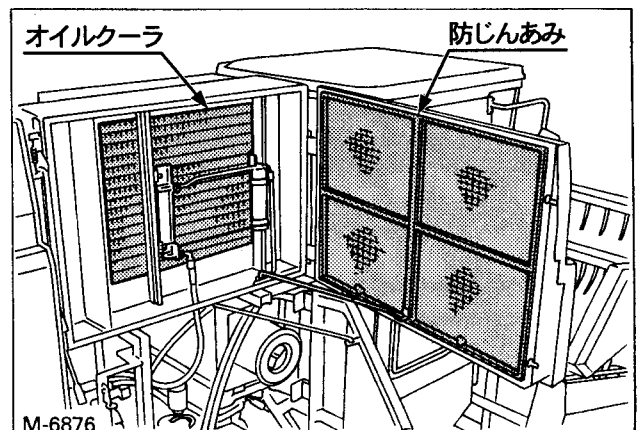
**注 意**

* オーバヒートでエンジンルームオープンをするときは、次の手順に従ってください。

- ① 作業を中止します。
- ② エンジンを約5分間アイドリング回転にします。
- ③ エンジンを停止します。
- ④ エンジン停止後30分以上経過してから開けます。
- ⑤ 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認します。

* ブザーが鳴っているとき、エンジンルームオープンをすると、リザーブタンク部などより熱湯が噴出し、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

- (1) 冷却水の有無、もれ。
- (2) 防じんカバー及びラジエータ、オイルクーラに泥やゴミが付着していないかを点検します。

**補 足**

* 緊急で水だけを補給した場合は、後でクーラントを加え濃度を調整してください。(122ページ参照)

■ ランプが点灯

エンジンオイル圧力が低下しました。

- ①ただちに作業を中止しエンジンを止めます。
- ②購入店にご相談ください。

重 要

*ランプが点灯したままでエンジンを回し続けていると、エンジンが破損します。

■刈取部からの異常音



警 告

*リールの下で作業するときは、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)

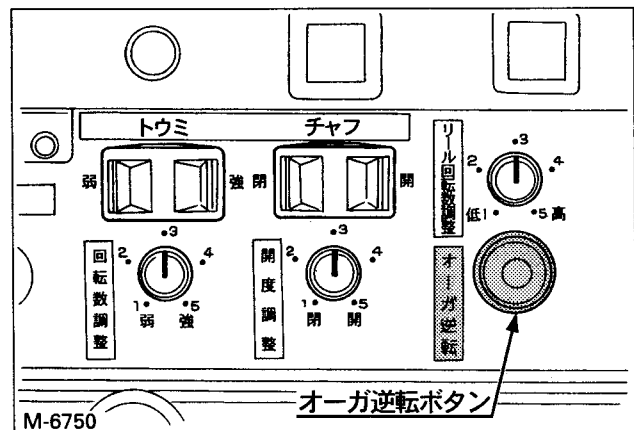


注 意

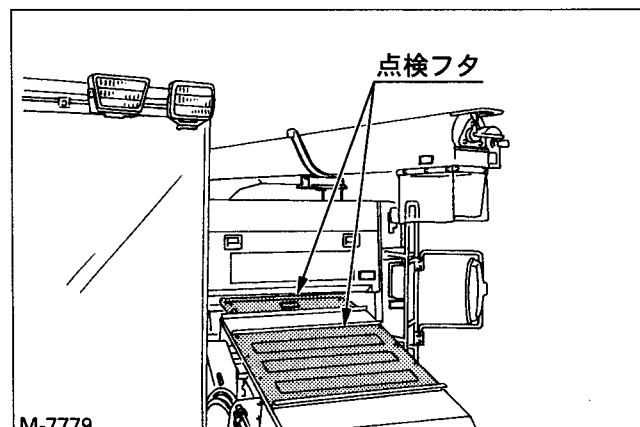
*オーガ逆転ボタンを押すと、オーガ・フィーダ及び刈刃が動くので、コンバインに人を近づけないでください。

オーガで詰まりが生じた場合は、オーガのリミットクラッチが作動し、オーガが停止する構造になっており、異音が発生します。オーガが停止し異音が生じたら、ただちに刈取りクラッチスイッチを“切”にします。

- ①刈取部を一番下まで下げて、リールを一番上まで上げます。
- ②サイドパネルの“オーガ逆転ボタン”を押します。



- ③オーガが逆転されたら詰まっていた作物を取除きます。その際はエンジンを止めてください。
- ④オーガ逆転ボタンは10秒以上押さないでください。また、ボタンを押しても逆転しないときは、オーガ以外の詰まりが考えられます。フィーダケース上部の点検フタを開け、フィーダの詰まりを確認してください。

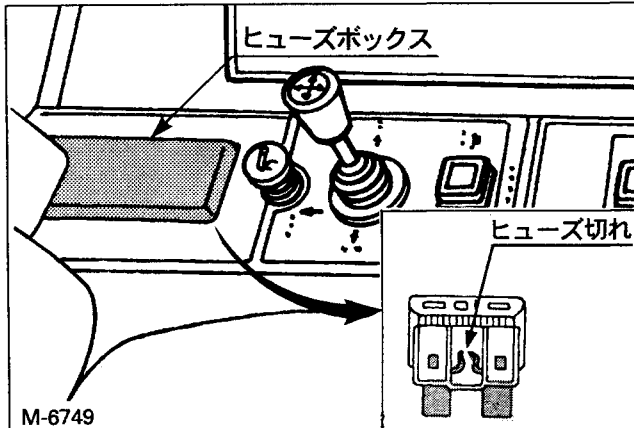


M-7779

■ヒューズ・スローブローヒューズ切れ

電気系統の異常です。

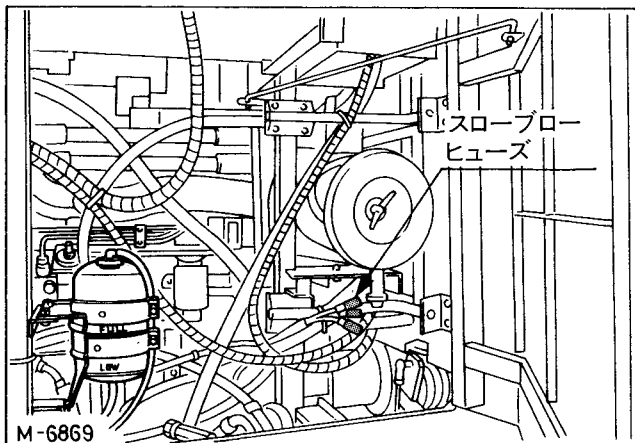
- ①ヒューズボックスのふたを外します。
- ②ヒューズを外します。
- ③切れたものと同容量のヒューズと交換します。



容量	受けもっている回路	容量	受けもっている回路
15A	リール変速モータ		
15A	トウミモータ	15A	送じん弁モータ
15A	クーラ	10A	本機
15A	シガレットライタ	10A	ラジカセ
15A	ヒータ・ワイパモータ	10A	回路ユニット
15A	ソレノイド	10A	インジケータランプ
15A	クラッチソレノイド	15A	チャフモータ
20A	作業灯	25A	アンローダモータ
20A	ヘッドライト		

重 要

*ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先で点検・修理してください。



■バッテリーあがり



警 告

*ブースタケーブルの接続する順番と位置をまちがえないでください。爆発や焼損するおそれがあります。

12Vバッテリーの救援車を依頼し、市販のブースタケーブルで接続して始動します。

- ①コンバインのバッテリー⊕端子にブースタケーブル（赤色）を接続します。
- ②もう片方を救援車のバッテリー⊕端子に接続します。
- ③救援車のバッテリー⊖端子にブースタケーブル（黒色）を接続します。
- ④もう片方をコンバインのバッテリーから離れた塗装のないアース部分（ボルトなど）に接続します。
- ⑤救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ⑥コンバインのエンジンを始動します。
- ⑦エンジンが掛かれば、取付けた逆の手順でブースタケーブルを外します。
- ⑧早目にバッテリーを補充電するか、又は購入先で点検を受けてください。

補 足

*こんな状態がバッテリーあがりです。

- スタータがまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプや作業灯がいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい。又は鳴らない。

■脱こく精度不良と処置

	ページ
ヘッドロスが多い	87
刈取部でワラが滞留する	87
株の引抜き, 又は刈取らずに押倒す	88
こぎ残しがでる(ササリロスが出る)	88
こく粒の飛散が多い(チャフロスが多い)	89
脱ぶ損傷粒が多い	89
2 番が詰まる	90
選別が悪くなったら	90

ヘッドロスが多い

すぐにくること	原 因	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
●刈取り作業を中止する。	リールの回転速度が速すぎる。	リール変速スイッチ	●リールの回転速度を遅くする。 (走行速度よりも少し速い程度)	36
	タインが作物の中に入りすぎている。	タインの位置	●リール昇降スイッチでリールを上げる。	39
	タインの角度が大きすぎる。	タインの角度	●タイン角度を小さくする。	56
	リールの高さ、前後調整が悪い。	リールの高さ、前後調整スイッチ	●適正位置に調整する。	37

刈取部でワフラが滞留する

すぐにくること	原 因	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
●刈取り作業を中止する。	リールの高さ、前後調整が悪い。	リールの高さ、前後調整スイッチ	●適正位置に調整する。	37
	オーガドラムのすき間調整が悪い。	オーガドラム	●すき間調整。	57
	リールの回転速度が速すぎる。	リール変速スイッチ	●リールの回転速度を遅くする。 (走行速度よりも少し速い程度)	36

株の引抜き、又は刈取らずに押倒す

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
● 刈取り作業を中止する。	刈取り速度が速すぎる。		● 作物・ほ場の状態に合わせて適正な速度にする。	5
	デバイダが株の根元に突っ込んでいる。	刈高さ	● デバイダ先端を地面から5～10cmの範囲で刈取る。	38
	搬送関係が詰まっている。(異音が出る)	搬送関係	● 詰まりを排除く。	84
	刈取り駆動ベルトがスリップしている。	刈取り駆動ベルト	● 刈取り駆動ベルトを張る。	99
	刈刃の切れが悪い。	刈刃駆動関係	● 刈刃のすき間調節をする。 ● 刈刃を交換する。	105

こぎ残しがでる(ササリロスが出る)

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
● 刈取り作業を中止する。	こぎ胴回転が低い。	こぎ胴回転数	● 稲・麦用位置に変速する。(“標準”にする。)	50
	エンジン回転が低い。	アクセルレバー	● エンジン回転計の緑目盛上限にセットする。	11
	送じん弁が開きすぎている。	送じん弁	● 送じん弁を“閉”方向に調節する。	34
	こぎ歯の摩耗。	こぎ歯	● 上下を組替える。又は新品に組替える。	111

こく粒の飛散が多い(チャフロスが多い)

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業を中止する。	トウミ回転が高すぎる。又は低すぎる。	トウミ回転調節	●トウミ回転数を適正にする。	35
	チャフ開度が狭すぎる。	チャフ開度調節	●チャフ開度を広げる。	35
	エンジン回転が低い。	アクセルレバー	●エンジン回転計の緑目盛上限にセットする。	11
	チャフケースの各部調節が不備。	グレンシープ	●目のサイズを確認する。	53
		リヤチャフ	●広げる。	52
		角穴カバー	●外す。	52
	チャフ量が多い。	送じん弁	●極端に“閉”方向へセットされていれば“開”方向へセッ トする。	34
	シープの詰まり。	チャフシープ グレンシープ リヤチャフ	●清掃	125

脱ぶ損傷粒が多い

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業を中止する。	2番還元が多すぎる。	チャフシープ開度	●広げる。	35
		トウミ回転	●下げる。	35
		グレンシープ	●目のサイズの大きいものに交換する。	53
	グレンシープ、チャフシープの目詰まり。	グレンシープ、チャフシープ	●清掃。	125
	バケットコンベアチェーンのゆるみ。	バケットコンベアチェーン	●適正に張る。	99
	バケットコンベアケース底部の泥だまり。	バケットコンベアケース底	●泥を掃除する。	125
	こぎ胴回転が高い。	こぎ胴回転数	●“低”にする。	50

2番が詰まる

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業を中止する。	脱こくカウンタベルトがゆるんでいる。	脱こくカウンタベルト	●フック内側寸法で265±3mmに張る。 ●ベルトが焼損していないか確認する。	99
	2番還元量が多すぎる。	リヤチャフ	●狭める。	52
	処理刃と受刃のクリアランスが狭い。	処理刃	●均等なクリアランスにする。	55
	エンジン回転が低い。	アクセルレバー	●エンジン回転計の緑目盛上限にセットする。	11
	2番ケースに泥が溜まっている。	2番各ケース	●掃除する。	125
	大豆のとき…2番排出ハネが狭い。	2番各ケース	●長穴いっぱいハネを下げる。	55

選別が悪くなったら

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業を中止する。	トウミ回転が低すぎる。	トウミ回転調整	●回転を上げる。	35
	チャフシープ開度が広すぎる。	チャフシープ開度調整	●狭める。	35
	グレンシープの目合。	グレンシープ	●目合のサイズの小さいものに交換する。	53
	エンジン回転が低い。	アクセルレバー	●エンジン回転計の緑目盛上限にセットする。	11

11. 定期点検（メンテナンス）

定期点検は、コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

コンバインは、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。

コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。



注 意

*点検をするときは、刈取部を一番下まで降しエンジンを停止させ、駐車ブレーキをロックしてください。

*エンジンルームオープンをするときは、内部がじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。

*オイル交換中・バッテリー点検・充電中は火気厳禁。

*点検が終われば、カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

補 足

*専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。

*点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早目の点検をお願いします。

■油脂・フィルタ類の交換と

チェーン・ベルトの張り調整

*新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、油脂・フィルタ類は初期50時間で交換してください。

*チェーンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期20時間で張り調整をしてください。（交換したときも同様です。）

使用済廃棄物の処分について

廃油やクーラントなどの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。

廃油・燃料・冷却水・冷媒・ブレーキ液・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に依頼してください。

- チョップドラム
- こぎ胴ドラム
- 電気系統(自動制御関係)

定期点検一覧表

●：ならし運転後の点検，▲：ならし運転後の交換，○：点検，△：交換

アワメータ 表示時間 項 目		20 時間 目	50 時間 目	100 時間 目	150 時間 目	200 時間 目	250 時間 目	300 時間 目	350 時間 目	400 時間 目	450 時間 目	500 時間 目	520 時間 目	550 時間 目	600 時間 目	650 時間 目	700 時間 目	750 時間 目	770 時間 目	800 時間 目	850 時間 目	900 時間 目	950 時間 目	1000 時間 目	それ 以降	1 年 毎	2 年 毎	参 照 ペ ー ジ
エ ン ジ ン 回 り	エアクリーナ エレメント	アウト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	50時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			97
		インナ	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○		○	△	○	○	○		△	○	○	○	△	50時間 ごとに点検 200時間 ごとに交換			97
	ラジエータ防じん関係		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	50時間 ごとに点検			97
	コンプレッサ駆動ベルト		●	○		○		○		○		△	●		○		○			○		○		△	100時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			99
	エンジンオイル		▲			△						△						△						△	250時間 ごとに交換			106
	エンジンオイルフィルタ カートリッジ		▲			△						△						△						△	250時間 ごとに交換			107
	ラジエータホース (ウォーターホース)						○					△						○						△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換 又は2年 ごとに交換	△		107
	ラジエータドレン ホース						○					△						○						△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換 又は2年 ごとに交換	△		107
	燃 料 ホ ー ス						○					△						○						△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換 又は2年 ごとに交換	△		108
	オルタネータ駆動ベルト		●									△	●											△	500時間 ごとに交換			☆
	燃 料 フ ィ ル タ カ ー ト リ ッ ジ											△												△	500時間 ごとに交換			114
	冷 却 水																								2年 ごとに交換	△		122, 123
走 行 操 作 部	ク ロ ー ラ		●	○		○		○		○		○			○		○			○		○		△	100時間 ごとに点検 1000時間 ごとに交換			103
	脱 こ く 駆 動 ベルト		●	○		○		○		○		△	●		○		○			○		○		△	100時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			99
	刈 取 り 駆 動 ベルト		●	○		○		○		○		△	●		○		○			○		○		△	100時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			99
	バ ッ テ リ			○		○		○		○		○			○		○			○		○		○	100時間 ごとに点検			104
	油 圧 オイルフィルタ カ ー ト リ ッ ジ		▲				△					△						△						△	250時間 ごとに交換			108
	油 圧 吸 入 フィルタ						○					△						○						△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			109
	ワイヤハーネス ⓪ コ ー ド						○					○						○						○	250時間 ごとに点検			109
	キ ャ リ ア ロ ー ラ						○					△						○						△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			☆
	可 動 ロ ー ラ						○					△						○						△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			110
	キャビン内気フィルタ						○					○						○						○	250時間 ごとに点検			110
	走行ギヤケースのオイル		▲									△												△	500時間 ごとに交換			114
	カウンタケースのオイル		▲									△												△	500時間 ごとに交換			115
	油 圧 オイルタンクの オ イ ル		▲									△												△	500時間 ごとに交換			115
	HST駆動ケースのオイル		▲									△												△	500時間 ごとに交換			116

●：ならし運転後の点検，▲：ならし運転後の交換，○：点検，△：交換

項 目		アワメータ 表示 時間																				それ 以降	1 年 毎	2 年 毎	参 照 ペ ー ジ			
		20 時 間 目	50 時 間 目	100 時 間 目	150 時 間 目	200 時 間 目	250 時 間 目	300 時 間 目	350 時 間 目	400 時 間 目	450 時 間 目	500 時 間 目	520 時 間 目	550 時 間 目	600 時 間 目	650 時 間 目	700 時 間 目	750 時 間 目	770 時 間 目	800 時 間 目	850 時 間 目					900 時 間 目	950 時 間 目	1000 時 間 目
走 行 ・ 操 作 部	油 圧 ホ ー ス										△													△	500時間 ごとに交換			☆
	ブッシュ(モンロー部)										△													△	500時間 ごとに交換			☆
	ク ロ ー ラ ガ イ ド																	△							750時間 ごとに交換			☆
	フローティングシール (転 輪 部)																	△							750時間 ごとに交換			☆
	ベアリング(転輪部)																	△							750時間 ごとに交換			☆
	オ イ ル シ ー ル (モ ン ロ ー 部)																	△							750時間 ごとに交換			☆
	ド ラ イ ブ ロ ー ラ																							△	1000時間 ごとに交換			☆
	ト ラ ッ ク ロ ー ラ																							△	1000時間 ごとに交換			☆
	テンションローラ																							△	1000時間 ごとに交換			☆
	水平制御アーム軸受け部 の グ リ ー ス																								1 年 ごとに点検	○		120
	トラックローラ部の オ イ																								1 年 ごとに点検	○		120
	脱 こ く ・ グ レ ン タ ン コ ク 部	1 番 バ ケ ッ ト チ ェ ー ン	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	△	●	○	○	○	○	○	○	50時間 ごとに点検 750時間 ごとに交換		
各 駆 動 ベ ル ト		●	○	○	○	○	○	○	○	△	●		○	○	○	○	○		○	○	○	○	△	100時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			99、 100	
2 番 駆 動 チ ェ ー ン		●	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	△	●	○	○	○	○	○	○	○	100時間 ごとに点検 750時間 ごとに交換			101	
アンローダ駆動チェーン		●	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	△	●	○	○	○	○	○	○	○	100時間 ごとに点検 750時間 ごとに交換			101	
トウミプーリのグリース						○					○							○					○	250時間 ごとに点検			☆	
1 番 バ ケ ッ ト カ ッ プ						○					△							○					△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			111	
2 番 処 理 羽 根・受刃						○					○							△					○	250時間 ごとに点検 750時間 ごとに交換			112	
こぎ歯・ボルト・ナット						△					△							△					△	250時間 ごとに 組替え 500時間 ごとに交換 組替え			111	
脱 こ く ギ ャ ケ ー ス の オ イ		▲									△												△	500時間 ごとに交換			116	
チャフケースベアリング												△											△	500時間 ごとに交換			☆	
各 ハ ン プ ・ ス ポ ン ジ												△											△	500時間 ごとに交換			☆	
コ ン ケ ー プ																			△					750時間 ごとに交換			118	
ク 部	1 番 ス ク リ ュ 上 部 羽 根																	△						750時間 ごとに交換			119	
	2 番 ス ク リ ュ 上 部 羽 根																	△						750時間 ごとに交換			119	
	各 ス ク リ ュ 軸 コ ン プ																	△						750時間 ごとに交換			☆	
	こぎ胴ドラム入口羽根					○					△							○					△	250時間 ごとに点検 500時間 ごとに交換			118	
	チャフシーブリッド ガ イ																					△	1000時間 ごとに交換			☆		
ク 部	アンローダ回動部の グ リ ー ス																							1 年 ごとに点検	○		121	

●：ならし運転後の点検，▲：ならし運転後の交換，○：点検，△：交換

アワメータ 表示時間		20時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	520時間目	550時間目	600時間目	650時間目	700時間目	750時間目	770時間目	800時間目	850時間目	900時間目	950時間目	1000時間目	それ以降	1年毎	2年毎	参照ページ
刈 取 部	フィーダブラケットのグリス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	50時間及び1年ごとに点検	○		98, 121
	各駆動ベルト	●		○		○		○		○		△	●		○		○			○		○		△	100時間ごとに点検 500時間ごとに交換			99, 100
	各駆動チェーン	●		○		○		○		○		○			○		○	△	●		○		○		100時間ごとに点検 750時間ごとに交換			102
	フィーダチェーン	●		○		○		○		○		○			○		○			○		○		△	100時間ごとに点検 1000時間ごとに交換			☆
	刈刃			○		○		○		○		△			○		○			○		○		△	100時間ごとに点検 500時間ごとに交換			105
	フィンガ軸・フィンガガイド						△					△						△						△	250時間ごとに交換			112
	刈刃ロッドエンド						○					△						○						△	250時間ごとに点検 500時間ごとに交換			113
	刈刃駆動ケースのオイル		▲									△												△	500時間ごとに交換			117
	リール変速プーリ部のグリス																								1年ごとに点検	○		121
	リールセンタシャフト部(左・右)のグリス																								1年ごとに点検	○		122
チヨツパ部	駆動ベルト	●		○		○		○		○		△	●		○		○			○		○		△	100時間ごとに点検 500時間ごとに交換			99, 100
	切断刃			○		○	△		○		○	△			○		○	△			○		○	△	100時間ごとに点検 250時間ごとに交換			113
	受刃						△					△						△						△	250時間ごとに交換			117

給油(水)の箇所・量・使用オイル一覧表

項 目			容 量	使 用 オ イ ル	参 照 ページ
エンジン	燃 料		140 L	ディーゼル軽油	68
	冷却水	ラジエータ	18 L	清水 + 不凍液 (ロングライフクーラント) (50%)	64・122
		リザーブ タンク	1.1 L		
	エンジンオイル		14.2 L	API分類 : CE又はCD級, SAE分類 : 15W-40	64・96
走行部	走行ギヤケース		13 L(左・右)	クボタ純オイルNEW・UDT	114
	カウンタケース		4 L		115
	油圧オイルタンク		46 L		66・115
	HST 駆動ケース		0.5 L		116
	トラックローラ		140 cc	クボタ純オイルNEW・UDT又はM80B又はM90	☆
	キャリアローラ		100 cc		☆
	テンションローラ		80 cc		☆
刈取部	刈刃駆動ケース		0.4 L	クボタ純オイルNEW・UDT	117
	各駆動チェーン部		適量	クボタ純オイルM90	66
	出入りフィンガ		適量		67
	刈 刃		適量		67
	刈高さセンサ(ソリ)		適量		67
	フィーダブラケット (ニップル)		適量	グリース	98・121
	リール変速プーリ (ニップル)		適量		121
	リールセンタシャフト (ニップル)		適量(左・右)		122
脱こく部	脱こくギヤケース		6.5 L	クボタ純オイルNEW・UDT	116
	2 番 駆 動 チェ ー ン		適量	クボタ純オイルM90	67
	トウミプーリ		塗布	グリース	☆
タグ ンレ クン 部	アンローダ駆動チェーン		適量	クボタ純オイルM90	67
	アンローダケースツナギ (ニップル)		適量	グリース	121
	アンローダケース 3 (ニップル)		適量		121

補 足

*フィーダチェーン及び1番バケットコンベアチェーンには給油は不要です。

カミンスエンジン用オイル一覧表

■カミンス社の推奨するオイル

オイル製造会社名	商 標 名	API分類	SAE粘度分類
出光興産(株)	アポロイル ワイドマスター	CE	15W-40
カルテックスオイルジャパン(株)	RPM DELO 400 OIL (Advanced)	CF4/CE	15W-40
コスモ石油(株)	コスモディーゼルハイメリット CE15W-40 コスモディーゼル流星	CE CF4	15W-40 15W-40
モービル石油(株)	モービルデルパック1400スーパー 15W-40	CE	15W-40
昭和シェル石油(株)	ロードレックス CE	CE/CD	15W-40
三菱石油(株)	ダイヤモンドフリート CE ダイヤモンドフリートジャンボ CF4	CE CF4	15W-40 15W-40
(株)ジャパンエナジー(JOMO)	デルスター FX	CF4	15W-40
日本石油(株)	コンボイ 15W-40	CE	15W-40
キグナス石油(株)	バーンRVグリーン	CF4/SG	15W-40
ゼネラル石油(株)	ゼミコ CX-1E	CE	15W-40
ペトロルブインターナショナル(株)	BP Turbo Diesel CE	CE/SF	15W-40

■上記のオイルが入手できない場合の使用可能なオイル

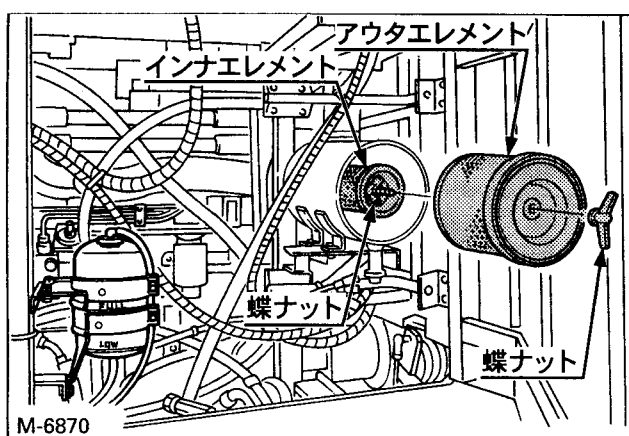
オイル製造会社名	商 標 名	API分類	SAE粘度分類
出光興産(株)	アポロイル カスタムワイド	CD	15W-40
カルテックスオイルジャパン(株)	RPM DELO 350 OIL	CD/SF	15W-40
コスモ石油(株)	該当無し		
モービル石油(株)	モービルデルパック1300スーパー 15W-40	CD	15W-40
昭和シェル石油(株)	該当無し		
三菱石油(株)	該当無し		
(株)ジャパンエナジー(JOMO)	共石デルスターDX 15W-40	CD	15W-40
日本石油(株)	ハイディーゼル S-3セーブ 15W-40	CD	15W-40
キグナス石油(株)	該当無し		
ゼネラル石油(株)	ゼミコスーパーCDセーブ 15W-40	CD	15W-40
ペトロルブインターナショナル(株)	BP Visco Vervis	CD/SG	15W-40

50時間ごとに行なう項目

■エアクリーナエレメント

◆エレメントの清掃

- ① エンジンルームオープンをします。
(43ページ参照)
- ② 蝶ナットをゆるめ、アウトエレメントとインナエレメントを取出します。
- ③ 乾いたちりやほこりの場合は、エレメントを傷めないように内側からエアで吹飛ばします。
- ④ エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は、洗浄剤を使用しよく乾燥させてから取付けます。



補 足

*エレメント洗浄剤

品名	ND-1500 (日本ドナルドソン製)
品番	15221-8665-1

重 要

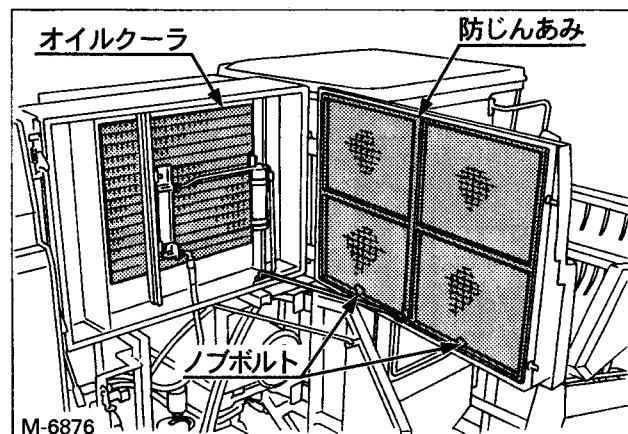
- *エレメントは、清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
- *乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- *エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。

◆エレメントの交換

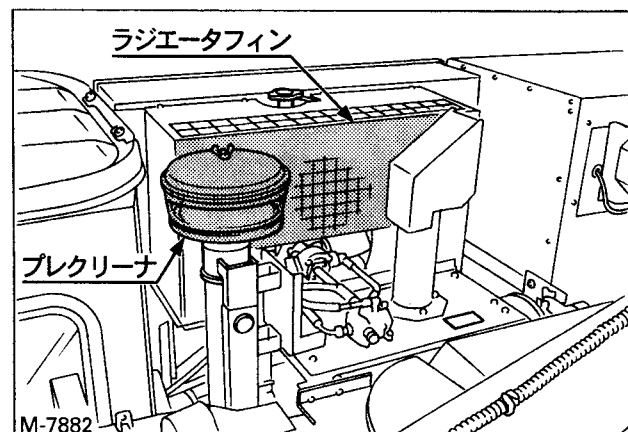
アウトエレメント(外側)の交換は500時間ごとに行ないます。また、インナエレメントはアウトエレメントを4回清掃すれば交換します。

■防じんあみ、ラジエータフィン、コンデンサフィン、オイルクーラフィン

- ① ラジエータカバーオープンをします。
(43ページ参照)
- ② 乾いたちりやほこりは、あみやフィンを傷めないように、エアで吹飛ばします。



- ③ ノブボルトをゆるめると、防じんあみを取出すこともでき、水洗いもできます。



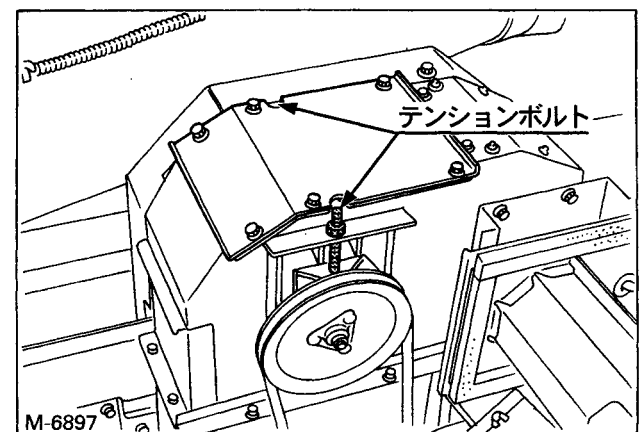
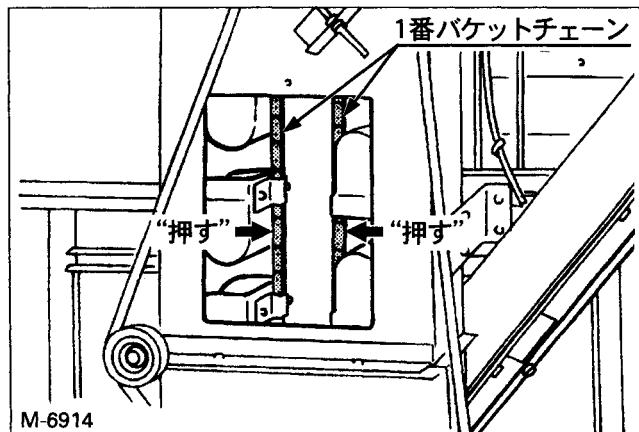
重 要

- *ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。特殊フィンをいため、ラジエータなどの性能を低下させる原因になります。
- *プレクリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

■ 1 番バケットチェーン

◆チェーンの張り調整

- ① グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ② 掃除口を開きます。
- ③ チェーンを両側から押したときに、チェーン同士が触れない程度にテンションボルトで調整します。



- ④ テンションボルトの張り代が無くなったときは、バケットチェーンの継ぎ手リンクを1組取外してから、再度調整します。
- ⑤ バケット上部スクリュ駆動ベルトの張り調整もあわせて行ないます。(100ページ参照)

◆チェーンの交換

チェーンの交換は、750時間ごとに行ないます。

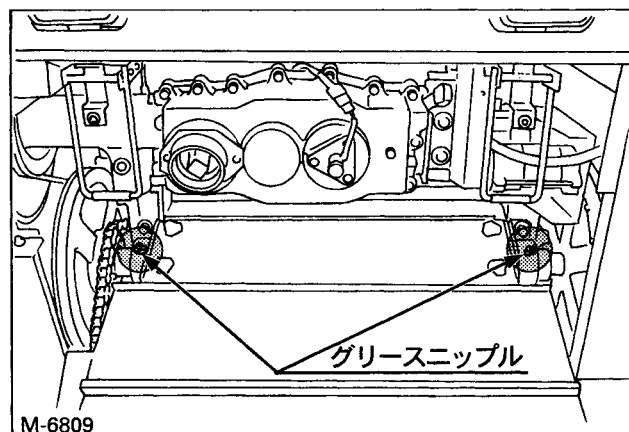
■ フィーダブラケット



注意

* はしごに登るときは、エンジンを止めてください。

- ① バックミラーを格納し、はしごからフィーダのすべり止めシール部に渡ります。
- ② こぎ胴前カバーを外します。
- ③ 左右2カ所のグリースニップルからグリースアップします。

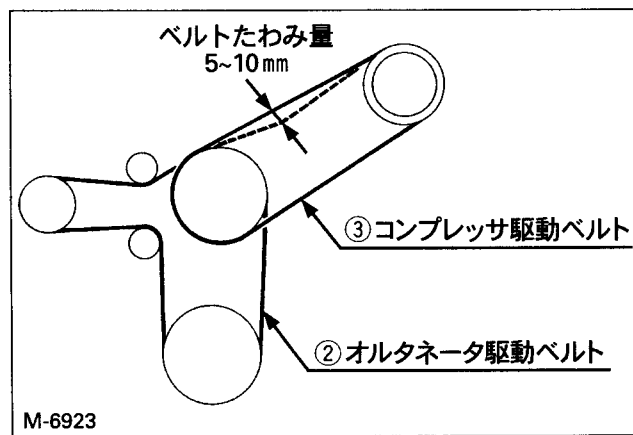
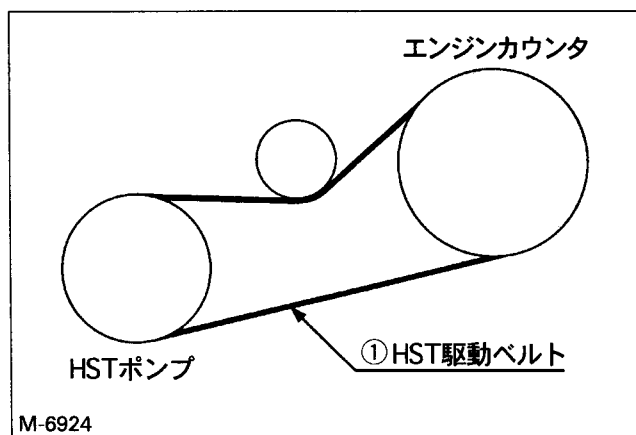


100時間ごとに行なう項目

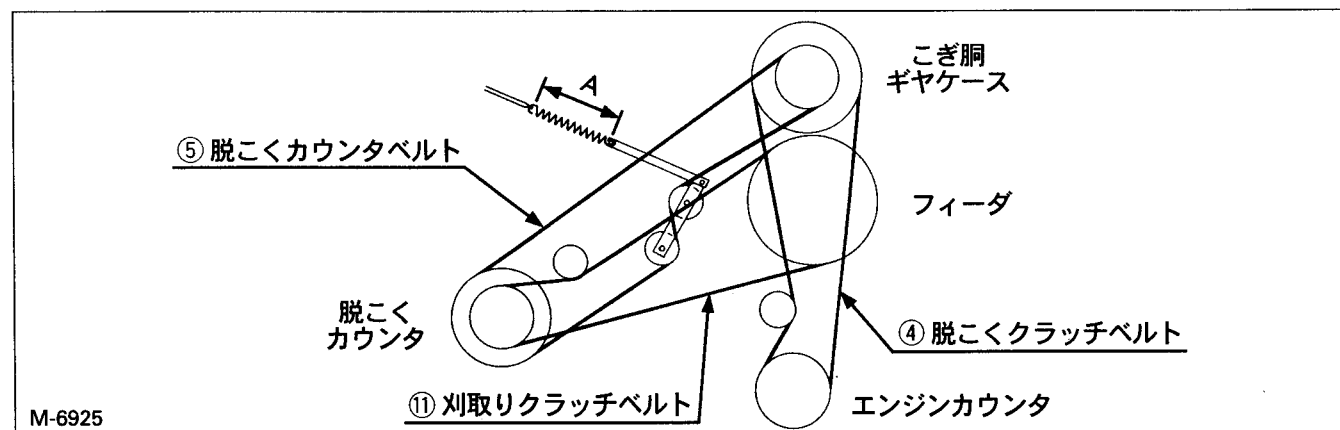
■各駆動ベルト

No.	ベルトの名称	サイズ(グレード)	本数	スプリング取付け方法 (テンション方式)
エンジン 回り	① HST駆動ベルト	特C62	3	(油圧テンションに付き調整不要)
	② オルタネータ駆動ベルト	専用Vリブドベルト	1	(自動テンション付き調整不要)
	③ コンプレッサ駆動ベルト	特A50	1	(テンションスプリング無) たわみ量 5~10mm/15kgf
脱こく部	④ 脱こくクラッチベルト	特C115	3	(油圧テンション付き調整不要)
	⑤ 脱こくカウンタ1ベルト	特C130	1	262~268mm(A寸法)
	⑥ 脱こくカウンタ2ベルト	特C174	1	262~268mm(B寸法)
	⑦ トウミ駆動ベルト	特B48	1	227~233mm(C寸法)
	⑧ 揺動駆動ベルト	特C63	1	102~108mm(D寸法)
	⑨ バケットコンベア駆動ベルト	特B156	1	103~107mm(E寸法)
	⑩ バケット上部スクリュ駆動ベルト	特B40	1	103~107mm(F寸法)
刈取部	⑪ 刈取りクラッチベルト	特C118	1	(油圧テンション付き調整不要)
	⑫ 刈刃駆動ベルト	特C81	2	50~54mm
	⑬ リール変速ベルト	PCVS31-925	1	(割プーリ付き調整不要)
チョツバ	⑭ チョツバ駆動ベルト	特C73	2	138~142mm(G寸法)

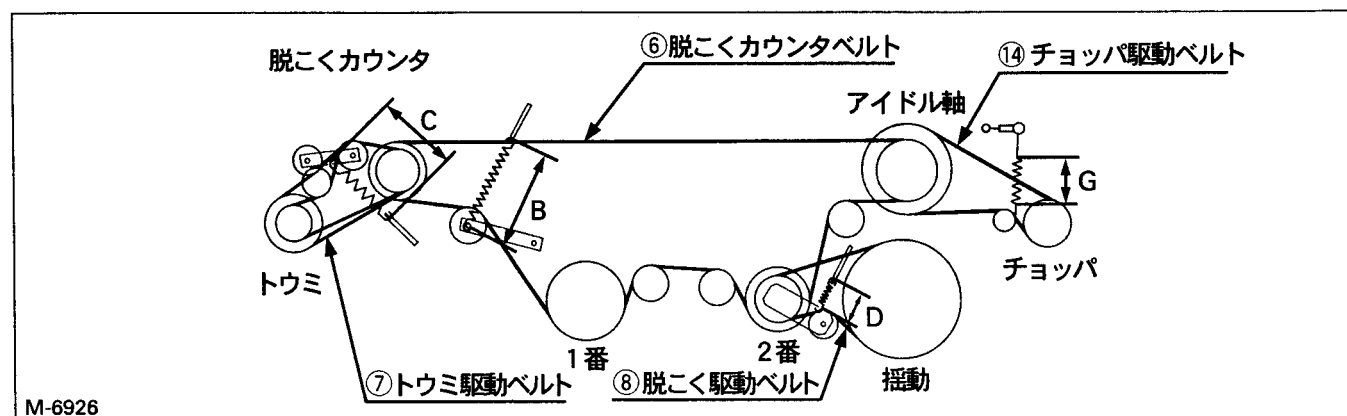
◆エンジン回り



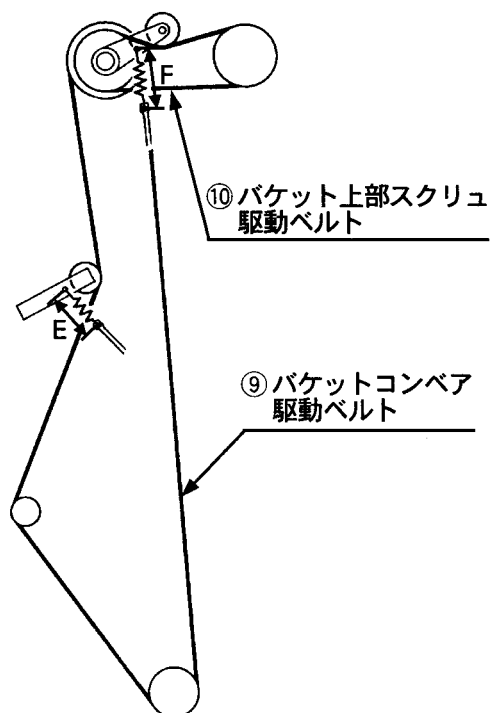
◆脱こく部右側



◆脱こく部左側



M-6926

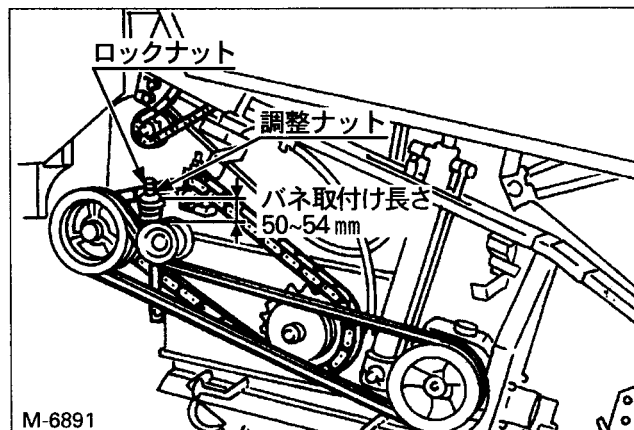


M-6927

◆刈取部

⑫刈刃駆動ベルト

テンションバネの取付け長さを50～54mmに調整します。



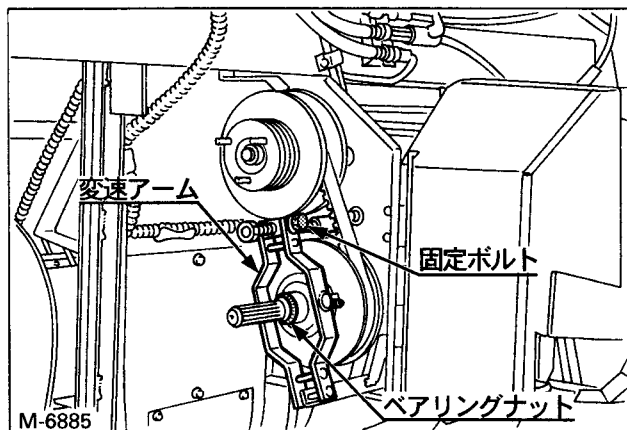
M-6891

◆各駆動ベルトの交換

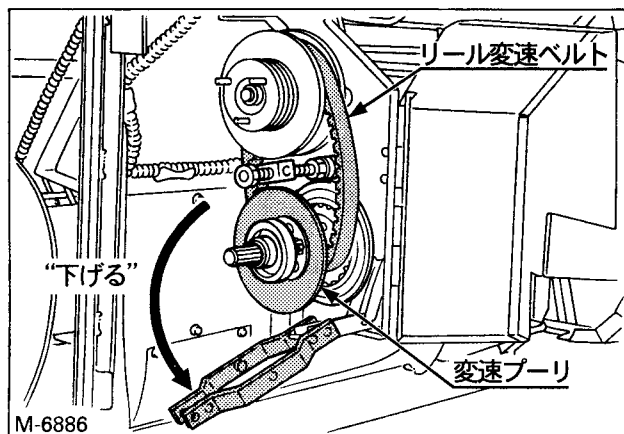
各駆動ベルトは、500時間ごとに行ないます。

◆リール変速ベルトの交換のしかた

- ①刈取部を外します。(129ページ参照)
- ②プーリカバーを開きます。
- ③ロックナットをゆるめ、固定ボルトを外します。
(前後2カ所)



- ④変速アームを下方へ開きます。
- ⑤ベアリングナットをゆるめ、変速プーリを軸方向へ移動させます。



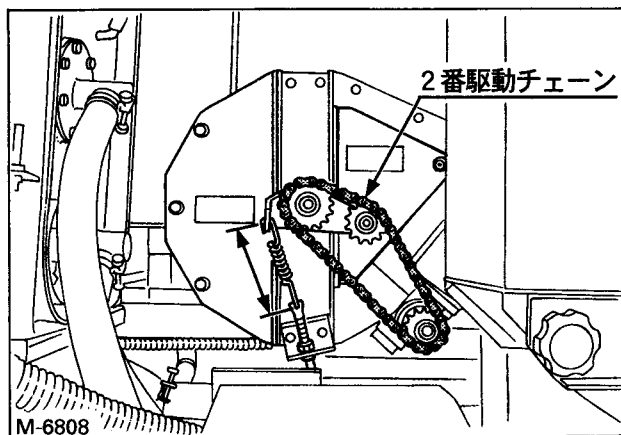
- ⑥この状態で、リール変速ベルトが交換できます。

重 要

- * 固定ボルトは、ガイド部の先端が相手側と接触しない程度まで締込んでロックしてください。必要以上に締込むと、変速アームが変形してしまいます。
- * リール変速ベルトの張り調整は、購入先にご相談ください。

■各駆動チェーン

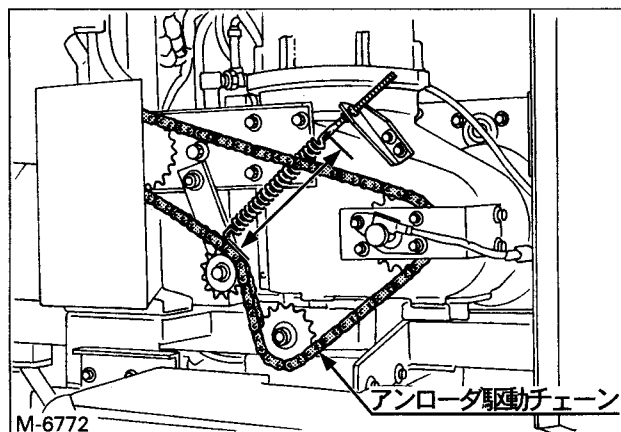
◆2番駆動チェーンの調整



スプリング取付け長さ	132～138mm
------------	-----------

- ①グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ②2番駆動チェーンスプリングの取付け長さを、132～138mmに張りボルトで調整します。

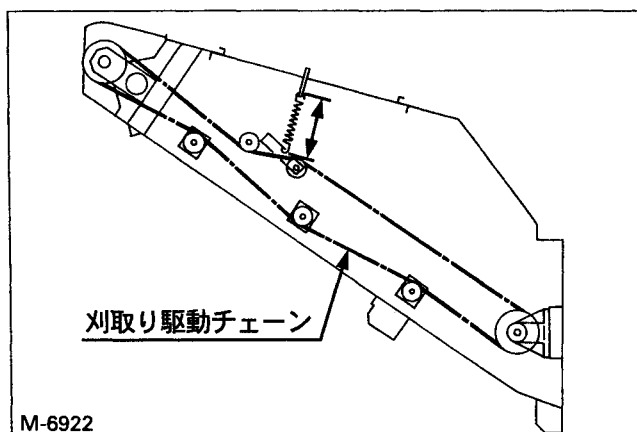
◆アンローダ駆動チェーンの調整



スプリング取付け長さ	211～215mm
------------	-----------

- ①グレンタンク後ろカバーを開きます。
- ②アンローダ駆動チェーンスプリングの取付け長さを、211～215mmに張りボルトで調整します。

◆刈取り駆動チェーンの調整

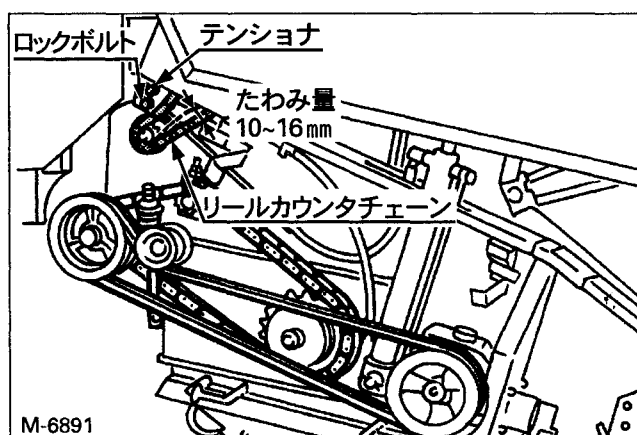


スプリング取付け長さ

214~216mm

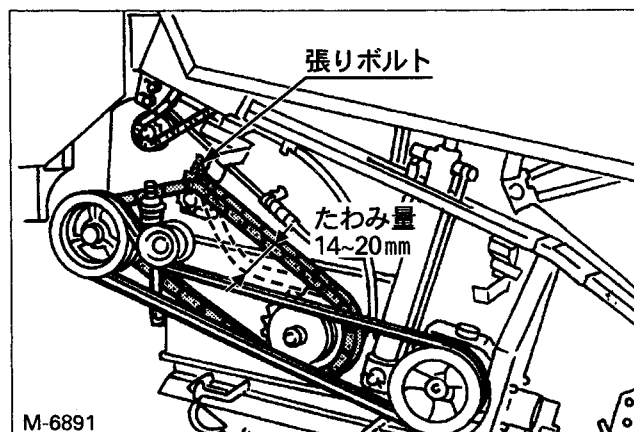
- ① 刈取り駆動チェーンスプリングの取付け長さを、214~216mmに張りボルトで調整します。

◆リールカウンタチェーン



- ① 刈取りサイドカバー右を外します。
- ② リールカウンタチェーンの中央を軽く指で押したときのたわみ量を、10~16mmにテンショナで調整します。

◆オーガ駆動チェーン



- ① 刈取りサイドカバー右を外します。
- ② オーガ駆動チェーンの中央を軽く指で押したときのたわみ量を、14~20mmに張りボルトで調整します。

◆各駆動チェーンの交換

各駆動チェーンは、750時間ごとに交換します。

■クローラ

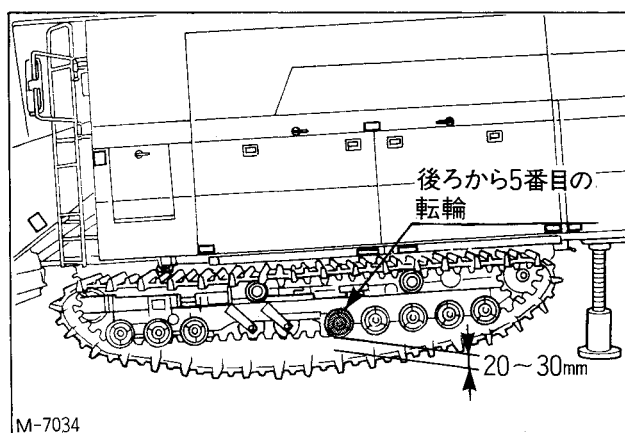


注意

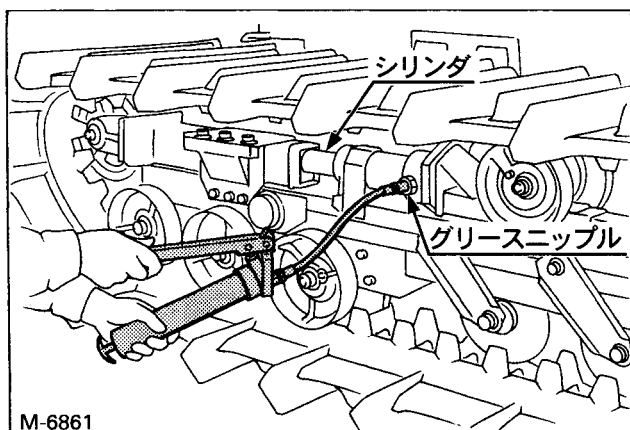
*ジャッキは、許容荷重 3 ton以上のものを使用し、転倒したり外れたりしないように確実にジャッキアップしてください。

◆クローラの張り調整

- ①コンバインをいったんバックさせてから停止します。
- ②コンバインをジャッキアップします。
- ③後ろから5番目の転輪とクローラのすき間を、20～30mmに調整します。



- ④張りが不足の場合は、グリースを注入します。



補足

*グリースを注入すると、シリンダがクローラの張り方向に動きます。

- ⑤左右同じ張り具合になっているか確認します。

後ろから5番目の転輪と クローラのすき間	20～30mm
-------------------------	---------

重要

*ジャッキをセットするときは、ロープ掛けフックに触れないようにセットしてください。

◆クローラの交換

クローラの交換は、1000時間ごとに行ないます。
(購入先にご相談ください)

■ バッテリー



危険

* バッテリー液（希硫酸）が目、皮膚、衣服に付着した場合はすぐ水で洗い流してください。状況によっては医師の治療を受けてください。



警告

* バッテリーの点検時は、メインスイッチを“OFF”（切）位置にしてください。

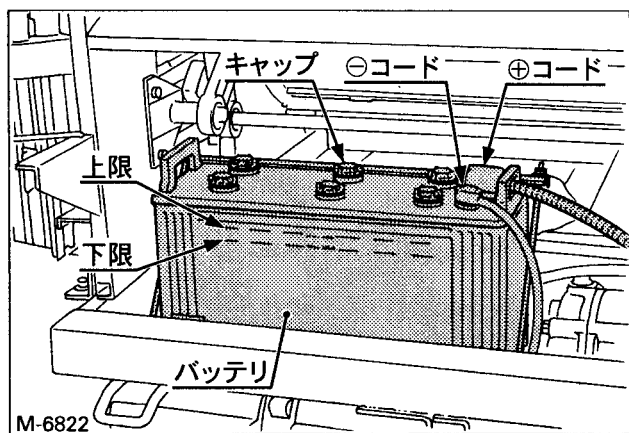


注意

* バッテリーの点検、及び、脱着時は、チョッパオープン（46ページ参照）をしてください。

バッテリーは機体の最後方左側にあります。

- ① バッテリー各槽の液量が上限(UPPER LEVEL)と下限(LOWER LEVEL)の間にあるかを目視により点検します。
- ② 端子のゆるみや腐食は接触不良の原因にもなります。端子部に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃した後、グリースを塗ります。
- ③ 端子部の腐食が著しい場合は、端子を外し、ワイヤブラシか紙ヤスリでみがいた後、グリースを塗り端子部にゆるみが生じないよう確実に取付けます。



重要

* バッテリー液が不足するとバッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
* 清掃のときは、バッテリー液の中に異物がはいらないようにキャップを締めておいてください。

◆ 補水のしかた

- ① バッテリー液が不足している場合は、キャップを外し、各槽とも上限(UPPER LEVEL)まで市販の補充液又は蒸留水を補給します。
- ② 補給後はキャップを確実に締付けます。

◆ バッテリーの取付け、取外し方



注意

* バッテリーを取外すときは、バッテリー⊖コードを最初に外し、次に⊕コードを外してください。
* 取付けるときは、必ず⊕側から取付けます。
逆にすると、工具が当たった場合にショートします。

重要

* コード側端子を外すときは、締付けナットをじゅうぶんゆるめてから端子をまっすぐ引上げてください。コード側端子を斜めに引上げるとバッテリー側端子を削ってしまい接触不良の原因になります。
* 新品のバッテリーと交換する場合には必ず指定した型式(150F51)のバッテリーを使用してください。
* バッテリーを外し、再度取付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

補足

* バッテリーを取外したときは、時計やラジオの記憶が消えますので、再度セットしなおしてください。

◆ 補充電のしかた

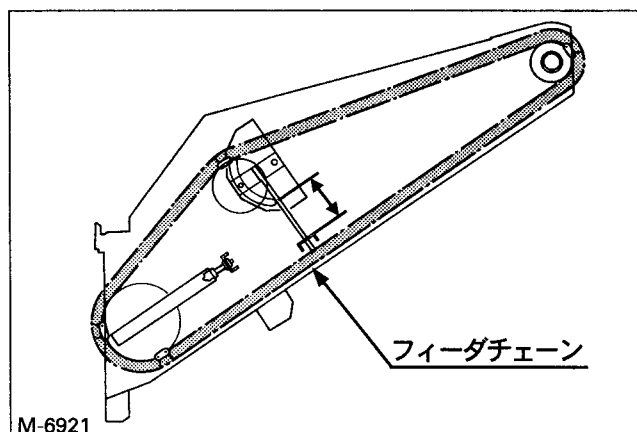


危険

* バッテリーのガスは爆発のおそれがありますので近くの裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）は絶対に近づけないでください。
* 換気の不じゅうぶんな納屋・倉庫で補充電をしないでください。

- ① バッテリーをコンパインから取外します。
- ② すべてのキャップを外します。
- ③ 急速充電を避け、なるべく普通充電を行ないます。

■フィーダチェーンの調整



スプリング取付け長さ	174~176mm
------------	-----------

- ①フィーダスプリングの取付け長さを174~176mmに張りボルトで調整します。
- ②左右共調整します。

■刈刃



警告

* リールの下で作業をする場合は、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)

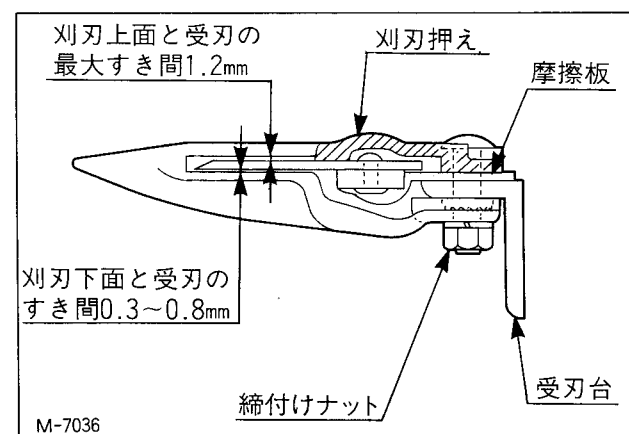
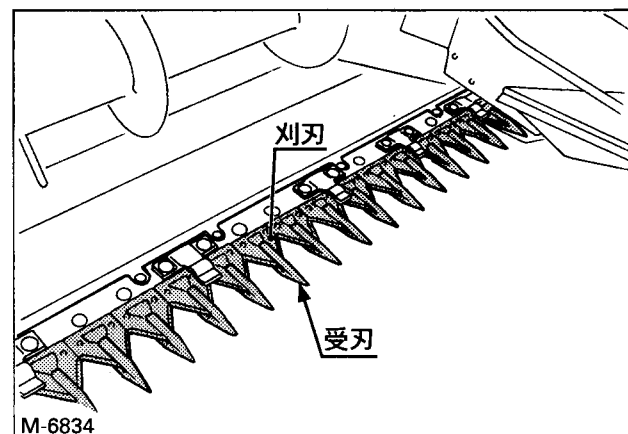


注意

* 刃部に手を掛けないでください。

◆すき間調節のしかた

- ①リールを一番上に上げます。
- ②受刃先端をハンマで軽くたたき受刃と刈刃の上下すき間を調節します。
- ③刈刃押え締付けナット(M10)をゆるめ、刈刃と刈刃押えのすき間を0.3~0.8mmにシムで調節します。
- ④刈刃の前後すき間は、摩擦板を前後に動かして調節します。
- ⑤締付けナットを締めます。



補足

* 刈刃は切れ味が悪くなれば、グラインダなどで研磨せずに交換してください。

◆刈刃の交換

刈刃は500時間ごとに交換します。

250時間ごとに行なう項目

■エンジンオイルの交換

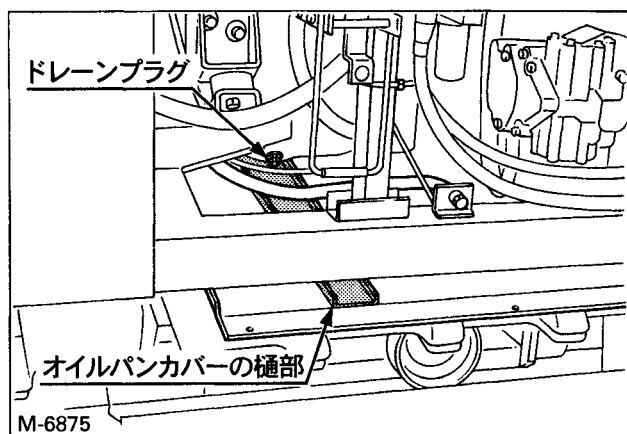


注意

*交換をするときは、エンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

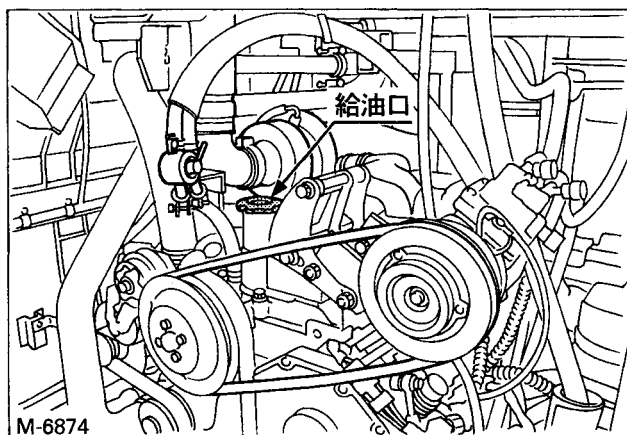
◆排油のしかた

- ①エンジンルーム下カバーを外します。
- ②オイルパンカバーのボルトを外し、樋部を傾けます。
- ③ドレインプラグを外し、オイルを排出します。
このとき、給油口をゆるめておきます。



◆給油のしかた

ドレインプラグを締付けて、給油口から適量給油し、きちんと締付けてください。



重要

*今まで使用していたオイルと異なるメーカー、あるいは種類の異なるものを使用する場合は、オイルを全部排出してから、新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。

*最低気温が -10° 以下で運転する場合は、10W-30のオイルを使用してください。

補足

*API及びSAE基準は、アメリカで定めている分類方法でオイル缶に表示しています。

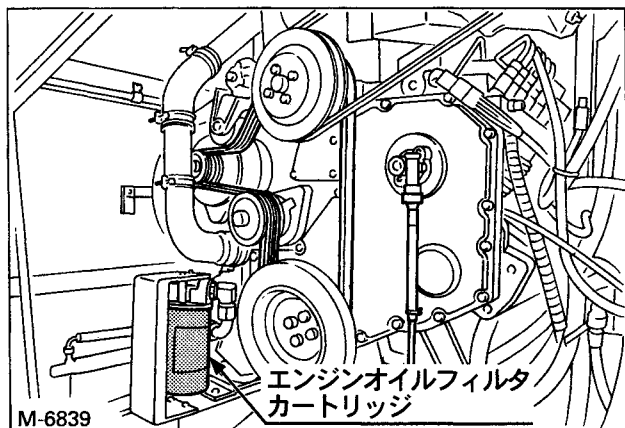
エンジンオイル量		14.2 L
種類	API分類	CD又はCE級
	SAE分類	15W-40

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換



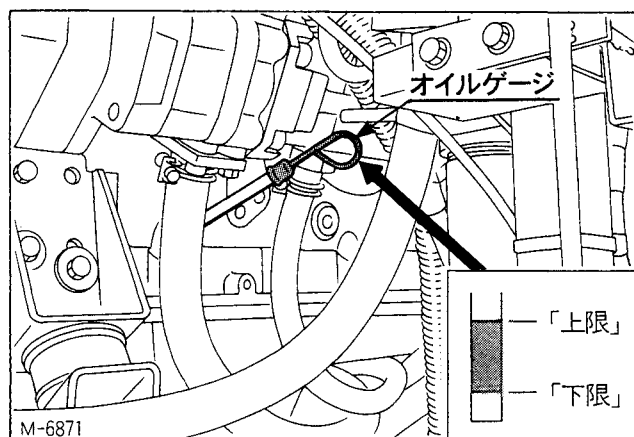
注意

*交換をするときは、エンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。



◆交換のしかた

- ①グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ②フィルタレンチでフィルタを取外します。
- ③新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布し、新油を充てんします。
- ④組付けは手で確実に締付けます。
- ⑤カートリッジ交換後は、エンジンを始動し、アイドルリングで約5分間運転します。
- ⑥オイルランプの作動に異常がないか、また油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
- ⑦オイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給します。



重要

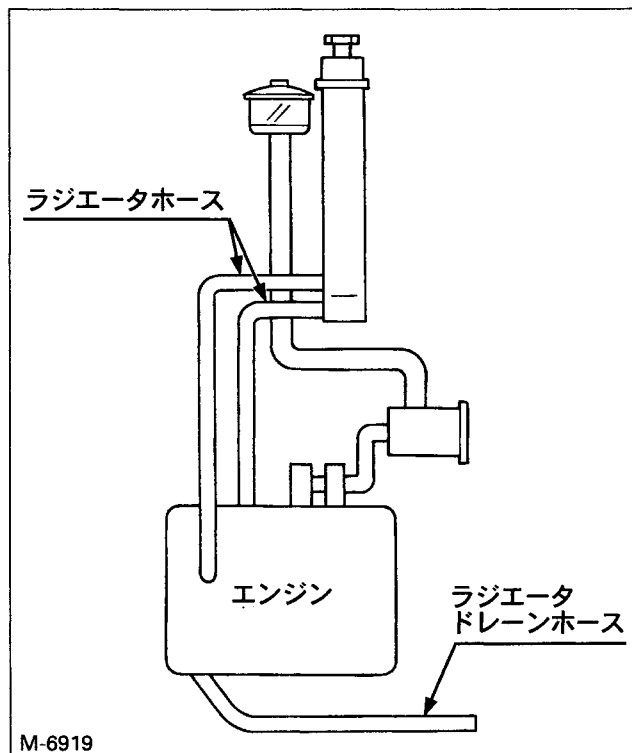
*組付けには、フィルタレンチを使用しないでください。

■ラジエータホース・ドレーンホース



注意

*ラジエータホース・ドレーンホースの点検・交換を怠ると、熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。



◆ラジエータホース・ドレーンホースの交換

ラジエータホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に500時間ごと(2年ごと)に又は傷んだときには、新品と交換する必要があります。

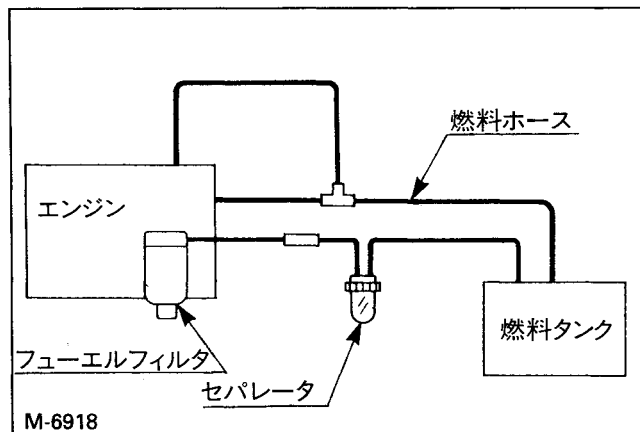
ホース類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。

■燃料ホース



注意

*ホース類の点検・交換を怠ると、燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。



◆燃料ホースの交換

燃料ホースなどのゴム製品は、使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に500時間ごと(2年ごと)に又は傷んだときには、新品と交換する必要があります。

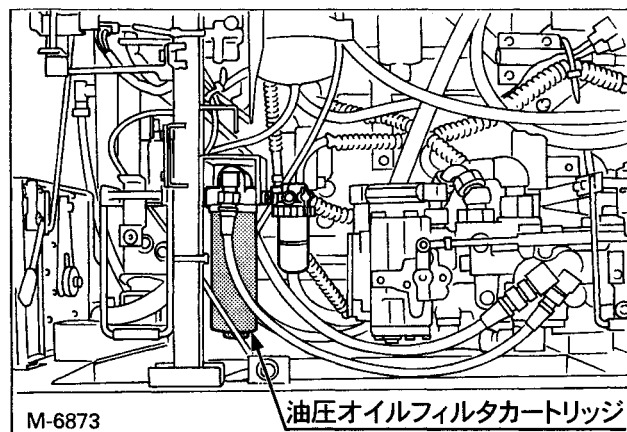
- ①ホース類や締付けバンドがゆるんだり、傷んでいないか常に注意してください。
- ②燃料ホースを交換した場合は、必ず燃料系統のエア抜きをする必要があります。(82ページ参照)

重要

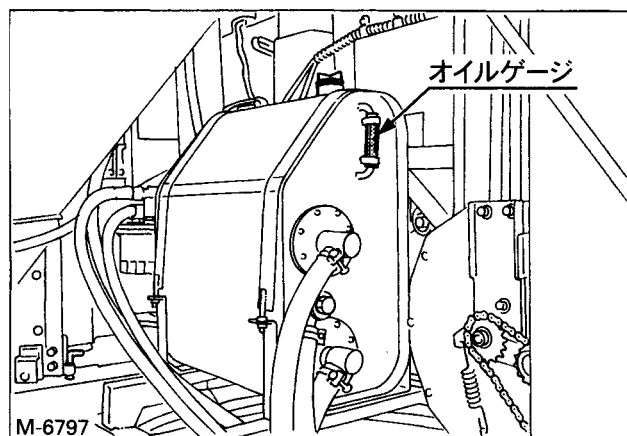
*交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると、噴射ポンプの作動不良の原因になります。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

- ①エンジンルーム下カバーを外します。
- ②フィルタレンチ又はスパナでフィルタカートリッジを外します。
- ③新しいカートリッジのパッキンにオイルを薄く塗布し、新油を充てんさせます。
- ④組付けは手で確実に締付けます。



- ⑤カートリッジ交換後はエンジンを始動し、アイドリングで約5分間運転します。
- ⑥油もれがないか確認してから、エンジンを止めます。
- ⑦グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ⑧オイルゲージで油量を確認し、不足していれば補給します。



重要

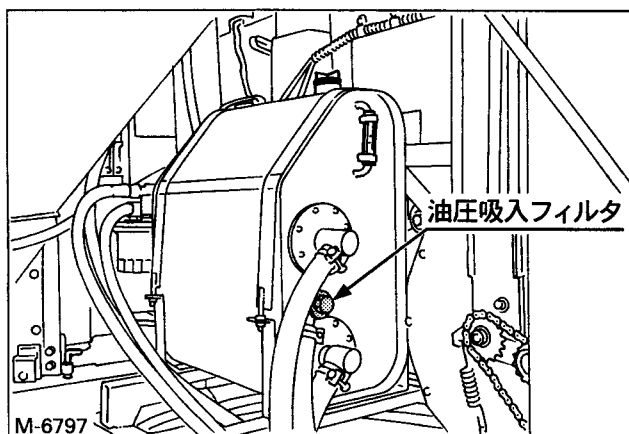
*組付けにはフィルタレンチやスパナを使用しないでください。

■油圧吸入フィルタ

油圧オイルフィルタカートリッジ交換時、同時に油圧吸入フィルタの洗浄・交換をします。

◆油圧吸入フィルタの洗浄

- ①油圧オイルタンクのオイルを排出します。
(115ページ参照)
- ②油圧ホースを抜いて、ボルト(M6)を外すと、フィルタはオイルタンクより抜けます。
- ③洗浄は軽油などで、フィルタあみ面に付着したゴミをきれいに落としてください。



◆油圧吸入フィルタの交換

油圧吸入フィルタの交換は、500時間ごとに行ないます。

■ワイヤハーネス、バッテリー⊕コード



注意

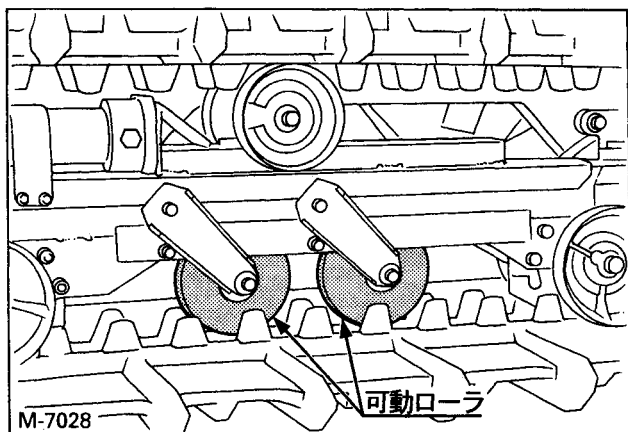
*ワイヤハーネス及びバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートを起こすので必ず点検してください。

ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの被覆は各部の角に接触、ネズミのかじりなどにより、損傷したり自然劣化することがありますので、下記の項目について点検します。

- (1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
- (2)ターミナル、ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
- (3)各スイッチが確実に作動すること。

■可動ローラ

可動ローラを回してみても異常がないか点検します。



◆可動ローラの交換

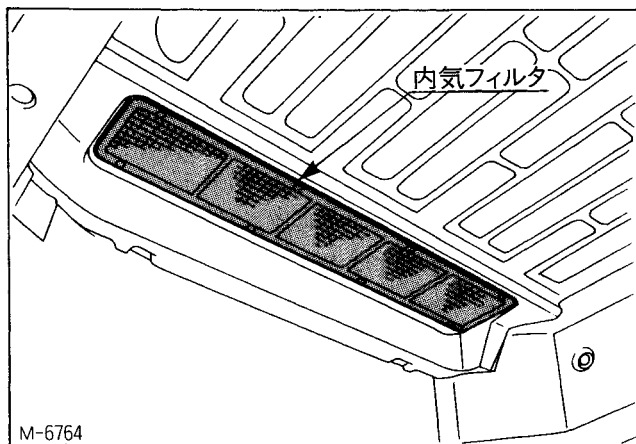
可動ローラの交換は、500時間ごと又は異常があったときに行ないます。このときあわせて、可動ローラ部のオイルシール・ベアリングも交換します。

重 要

*可動ローラ以外の足回り部品(トラックローラ・テンションローラ・キャリアローラ・ドライブローラなど)には、精密なフローティングシールを採用していますので、交換は購入先にご相談ください。

■キャビン内気フィルタの清掃

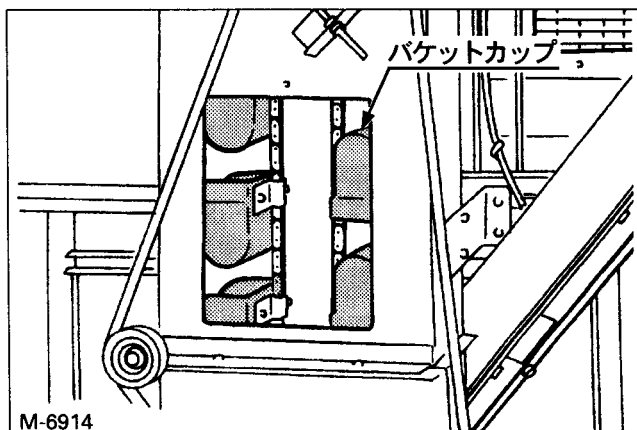
フィルタが目詰まりすると、クーラ・ヒータの効率が低下します。フィルタのあみ目を損傷させないように清掃します。



- ①ビスをゆるめ、フィルタを外します。
- ②フィルタのゴミをエアで吹飛ばすか、又は中性洗剤で洗います。
- ③その後、よく乾燥させてから取付けます。

■ 1 番バケットカップ

- ① グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ② 掃除口を開きます。
- ③ バケットカップに異常がないか点検します。



◆ 1 番バケットカップの交換

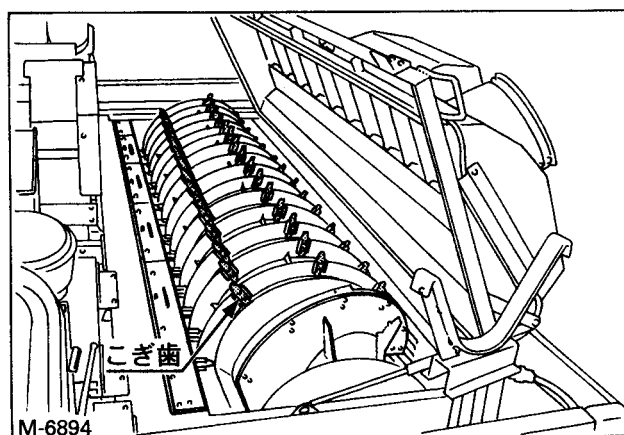
1 番バケットカップの交換は、1 番バケットチェーンと一体で750時間ごとに行ないます。

■ こぎ歯

長時間使用しますと、こぎ歯の先端が摩耗し、脱こく性能が低下することがあります。先端の角の摩耗が大きくなったら、組換えてください。

◆ こぎ歯の組換え

- ① こぎ胴天板オープンをします。(45ページ参照)
- ② ドラムの前3周目までのこぎ歯は250時間ごと上下逆に組換え、4周目以後のこぎ歯は500時間ごとに組換えます。



■ 天蓋内側プレートの交換

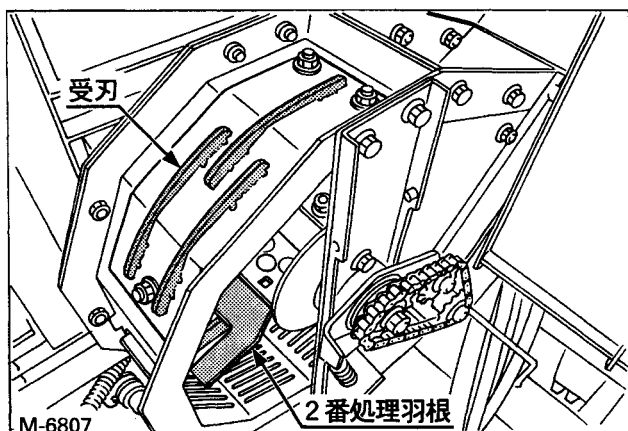
天蓋の内側のプレートが摩耗して穴があきます。こぎ歯の点検・交換時に同時に確認してください。

交換部品

- プレート (1. テンパン) ・ 51970-67130 1 ケ
- プレート (2. テンパン) ・ 51970-67140 1 ケ

■ 2 番処理羽根・受刃

- ① グレンタンクオープンをします。(44ページ参照)
- ② 掃除口を開きます。
- ③ 2 番処理羽根・受刃に異常がないか点検します。



◆ 2 番処理羽根・受刃の交換

2 番処理羽根・受刃の交換は、稲・麦だけの使用で 750 時間ごとに行ないます。

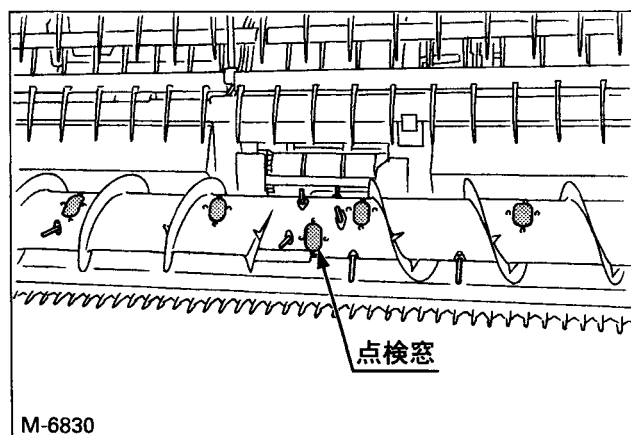
■ フィンガ軸・フィンガガイドの交換



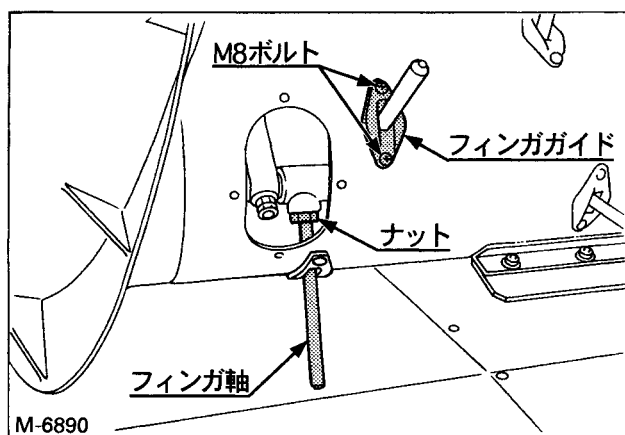
警告

* リールの下で作業をする場合は、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)

- ① リールを一番上に上げます。
- ② オーガの点検窓を外します。



- ③ フィンガ軸は、ナットをゆるめて交換します。
- ④ フィンガガイドは、M8 ボルトを外して交換します。



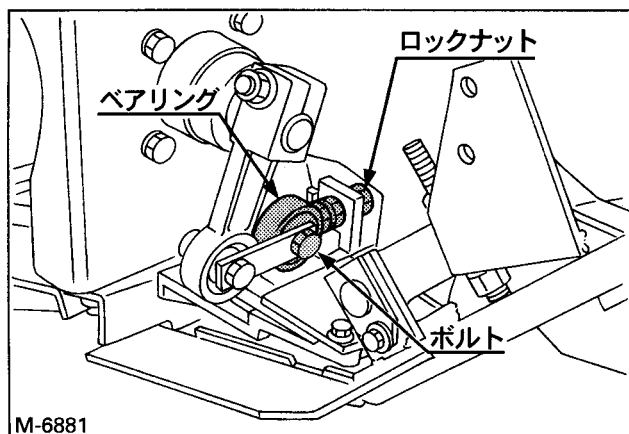
■刈刃ロッドエンド



警告

* リールの下で作業をする場合は、リールの下降ロックをしてください。(39ページ参照)

- ① リールを一番上に上げます。
- ② ロックナットを外します。
- ③ ボルトを外し、刈刃ロッドエンド及びベアリングを点検します。



◆刈刃ロッドエンドの交換

刈刃ロッドエンドは500時間ごとに交換します。

■切断刃の交換

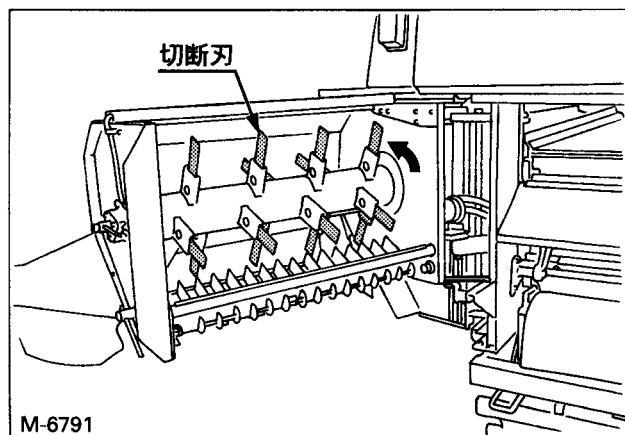


注意

* 軍手を着用し、刃先に気をつけてください。
* 交換後はチョッパを回転させ、振動がないのを確認してください。バランスがとれていないと振動が大きくなり、故障の原因となります。振動が大きいときは、購入先に相談してください。

◆切断刃の交換

- ① チョッパオープンをします。(46ページ参照)
- ② 切断刃を新品と交換します。



重要

* 切断刃が破損したときは、振動が大きくなり故障の原因となります。すぐに新しい刃と交換してください。
* 切断刃は矢印の方向に押付けて、締付けてください。
* 必ずM12×25(7T)ボルトを使用し、73.5～102.9N・m (750～1050kgf・cm)のトルクで締付けてください。

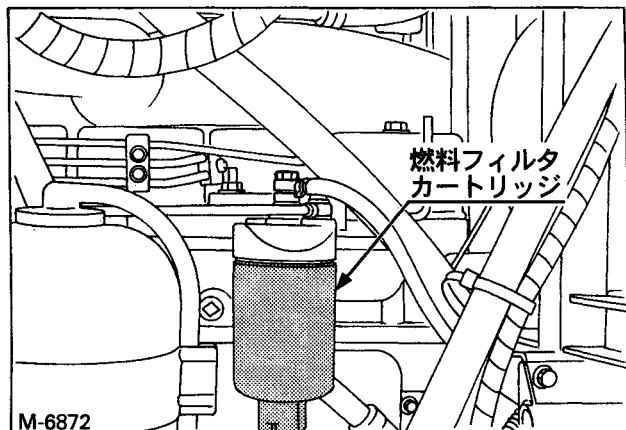
補足

* 応急的には、受刃を切断刃として使用することができます。

500時間ごとに行なう項目

■燃料フィルタカートリッジの交換

- ①エンジンルームオープンをします。
(43ページ参照)
- ②フィルタレンチでフィルタを外します。
- ③新品のカートリッジには、清浄な燃料を充てんし、パッキンにも燃料を薄く塗布します。
- ④組付けは手で確実に締付けてください。



重要

*組付けには、フィルタレンチを使用しないでください。

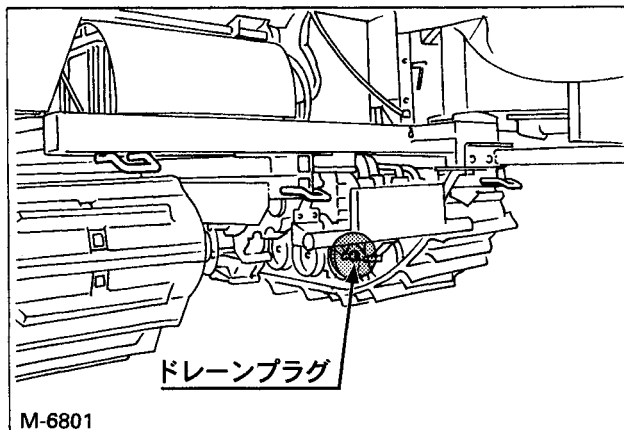
補足

*新品の燃料フィルタカートリッジに、燃料を充てんせずに組付けを行なった場合は、燃料系統のエア抜きが必要となります。
(82ページ参照)

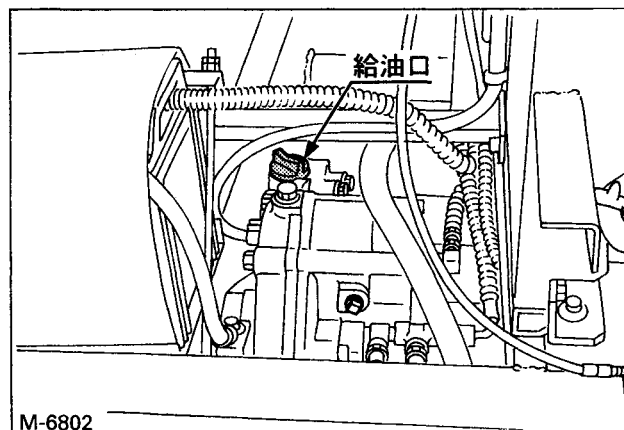
■走行ギヤケースのオイル交換

◆交換のしかた

- ①左右走行ギヤケース下部のドレーンプラグを外して古いオイルを排出し、ドレーンプラグを元のように締付けます。



- ②その後、グレンタンクオープンをして走行ギヤケース右の給油口から給油します。

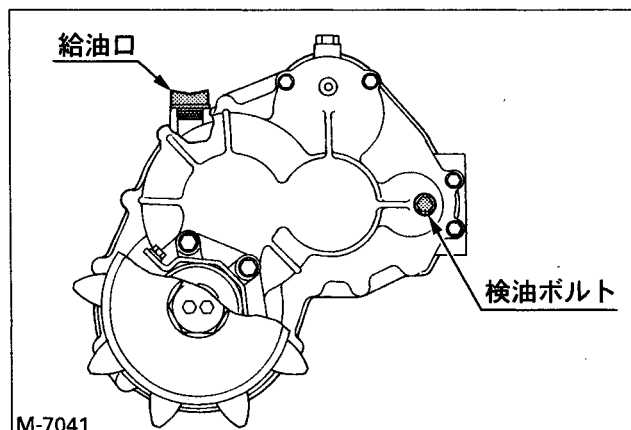


- ③ステー（減速ケース継手）を介して両方の走行ギヤケースに給油されます。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW・UDT	13L

◆検油のしかた

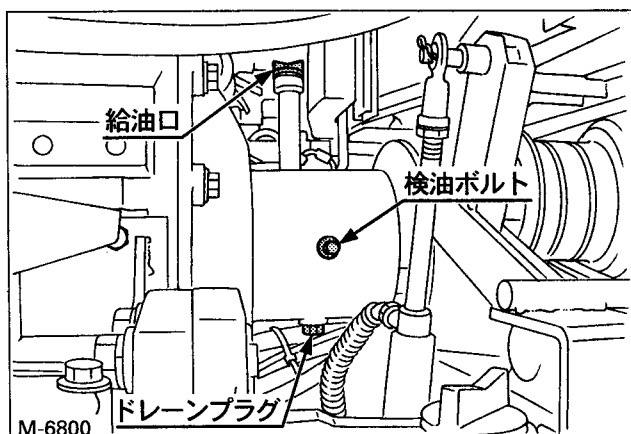
- ①検油ボルトを外し、オイルが出てくれば適量です。
- ②不足のときは、給油口から補給します。



■カウンタケースのオイル交換

◆交換のしかた

- ①エンジンルーム下部カバーを外します。
- ②カウンタケース下部のドレインプラグを外して古いオイルを排出し、ドレインプラグを元のように締付けます。
- ③その後、給油口から給油します。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW・UDT	4L

◆検油のしかた

- ①検油ボルト（M8）を外し、オイルが出てくれば適量です。
- ②不足のときは給油口から補給します。

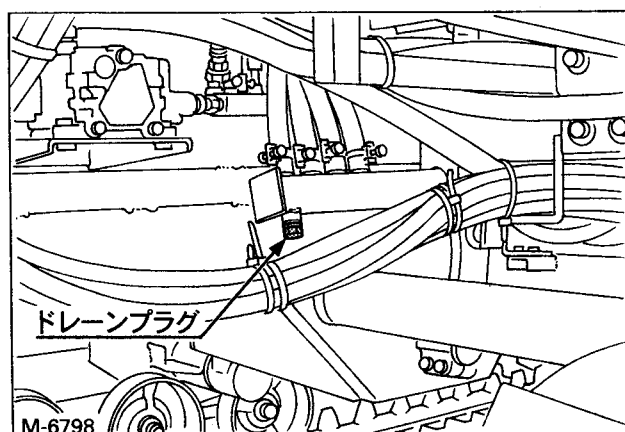
■油圧オイルタンクのオイル交換



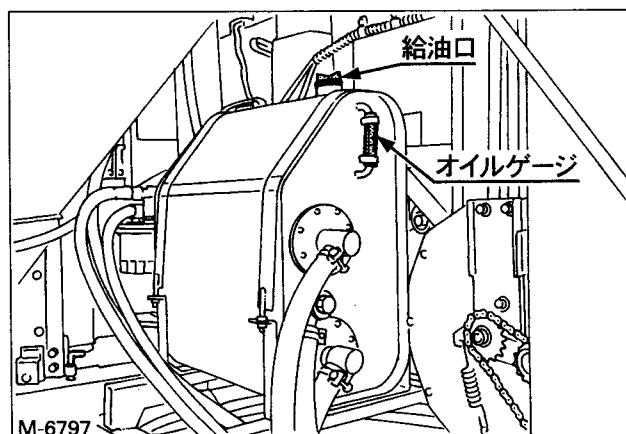
*刈取部の下で作業をする場合は、刈取部の下降ロックをしてください。
(42ページ参照)

◆交換のしかた

- ①刈取部を上げます。
- ②コントロールバルブ横の配管底のドレインプラグを外し、古いオイルを排出し、ドレインプラグを元のように締付けます。



- ③刈取部を一番下まで下げます。
- ④その後、グレンタンクオープンをします。
(44ページ参照)
- ⑤レベルゲージを見ながら給油口から給油します。

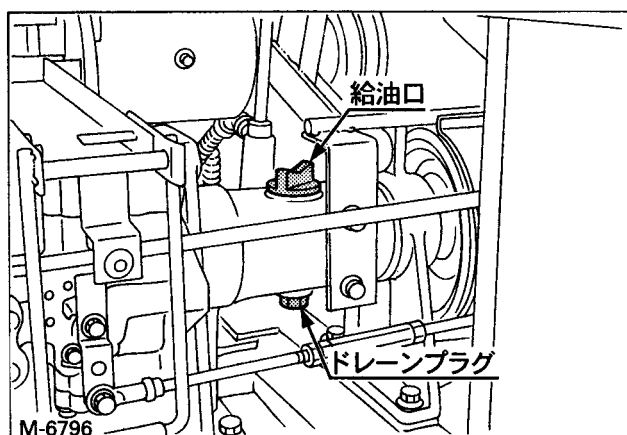


オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW・UDT	46L

■HST駆動ケースのオイル交換

◆交換のしかた

- ①エンジンルーム下部カバーを外します。
- ②HST駆動ケースのドレインプラグを外して古いオイルを排出し、ドレインプラグを元のように締付けます。
- ③給油口から0.5Lを給油します。



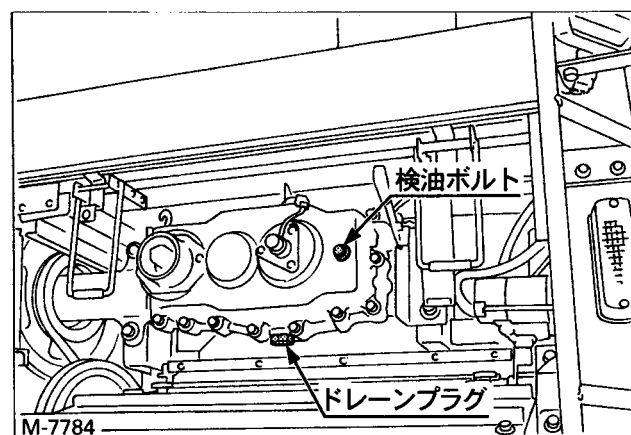
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW・UDT	0.5L

■脱こくギヤケースのオイル交換



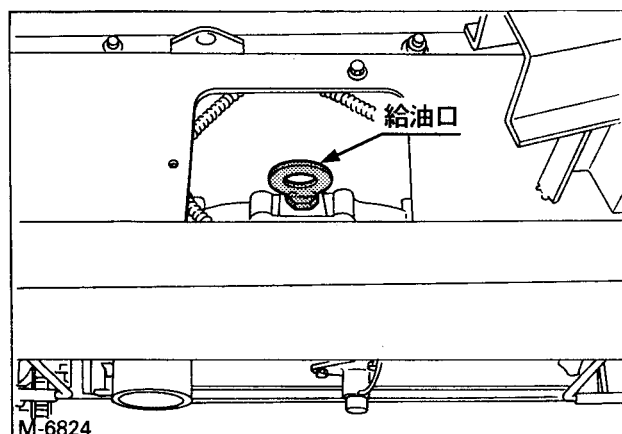
注意

*はしごに登るときは、エンジンを止めてください。



◆交換のしかた

- ①バックミラーを格納し、はしごからフィーダのすべり止めシール部へ渡ります。
- ②脱こく前カバーを外します。
- ③脱こくギヤケース底のドレインプラグを外して古いオイルを排出させ、ドレインプラグを元のように締付けます。
- ④その後、給油口カバーを外し、給油口から給油します。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW・UDT	6.5L

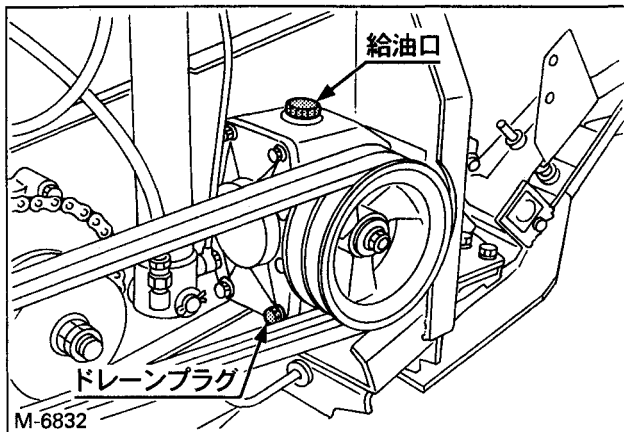
◆検油のしかた

- ①検油ボルトを外し、オイルが出てくれば適量です。
- ②不足のときは、給油口から補給します。

■刈刃駆動ケースのオイル交換

◆交換のしかた

- ① 刈取り右下カバーを外します。
- ② 刈刃駆動ケースのドレンプラグを外して古いオイルを排出させ、ドレンプラグを元のように締付けます。
- ③ 給油口から0.4Lを給油します。



オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルNEW・UDT	0.4L

■受刃の交換

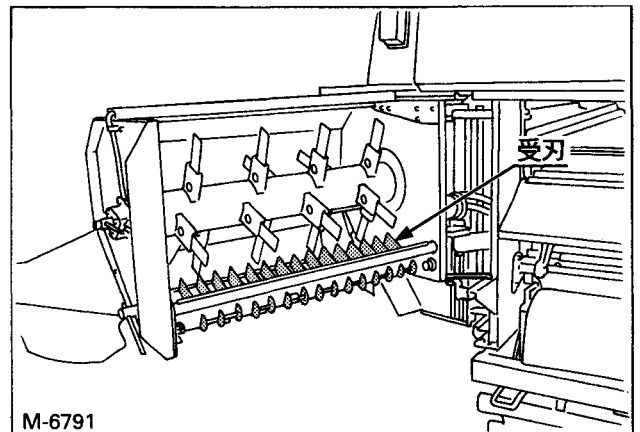


注意

- * 平坦な場所で、エンジンを止めて作業してください。
- * 軍手を着用し、刃先に注意してください。

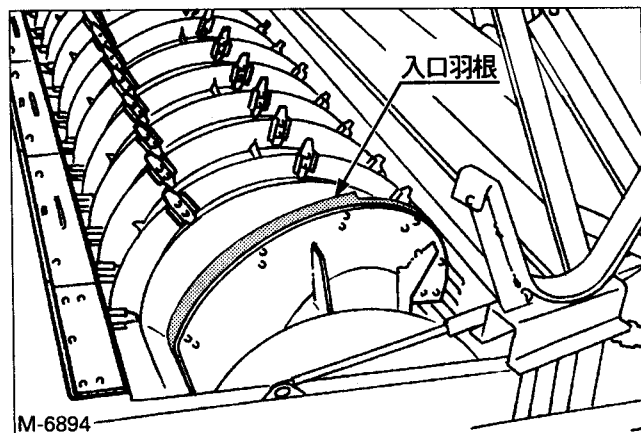
◆受刃の交換

- ① チョップパオープンをします。(46ページ参照)
- ② 受刃を新品と交換します。



■こぎ胴ドラム入口羽根の交換

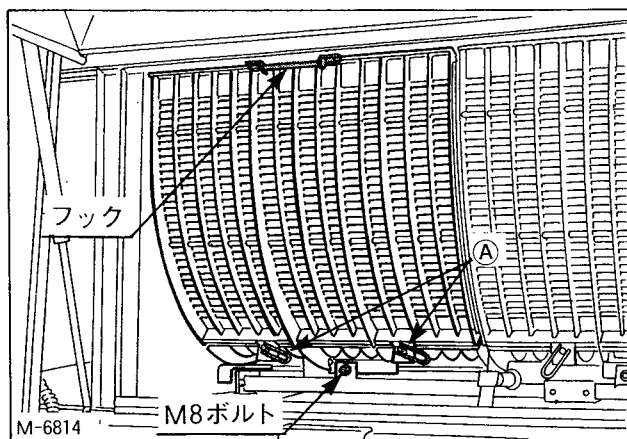
- ①こぎ胴天板オープンをします。(45ページ参照)
- ②こぎ胴ドラム入口羽根を交換します。



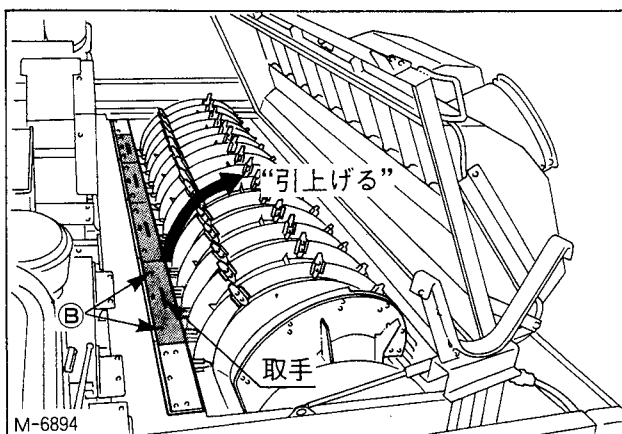
750時間ごとに行なう項目

■コンケーブの交換

- ①脱こく左サイドカバーオープンをします。(46ページ参照)
- ②Aのハンドル付きボルト2本を外します。



- ③手前に引上げフックから外します。
- ④同様に残りの3枚も外します。
- ⑤上図のM8ボルトを外します。
- ⑥こぎ胴天板オープンをします。(45ページ参照)
- ⑦Bのボルト2本を外し、取手を持ってコンケーブを引上げます。

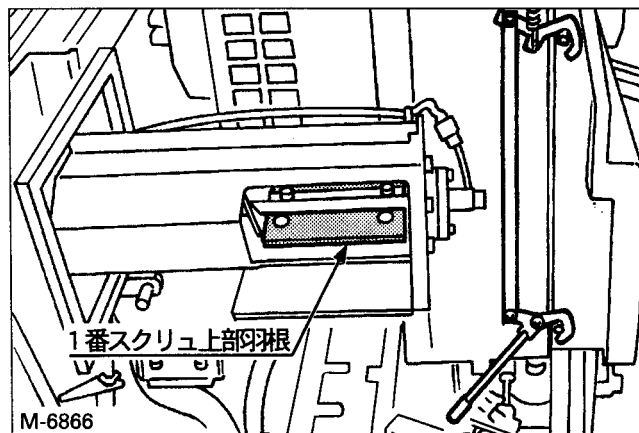


- ⑧同様に残りの3枚も外します。
- ⑨あみ目の組合せを下図のようにし、ガイドに沿わせて組付けます。

前	10	10	12	12	後
	ミ	ミ	ミ	ミ	
	リ	リ	リ	リ	
	目	目	目	目	

■ 1 番スクリュ上部羽根の交換

- ① グレンタンクオープンを行います。(44ページ参照)
- ② ナットを外し、羽根を交換します。



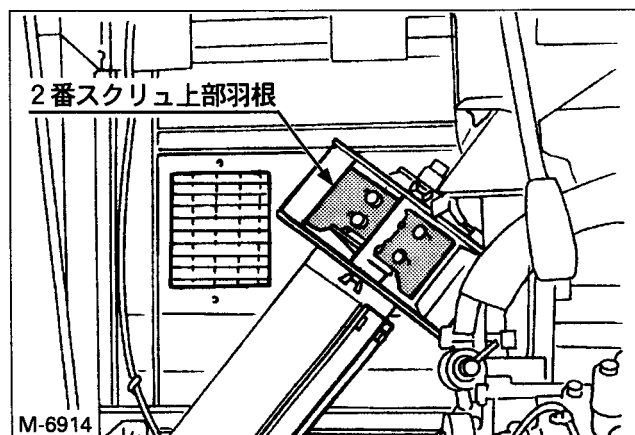
■ 2 番縦スクリュ上部羽根の交換



注意

* 2 番縦スクリュの掃除口の近くには、マフラなどの高温部があるので、温度が下がりヤケドのおそれがないことを確認してから作業をしてください。

- ① グレンタンクオープンを行います。(44ページ参照)
- ② 掃除口を外します。
- ③ ナットを外し、羽根を交換します。
- ④ 2 番スクリュ上部羽根は長穴になっているので、羽根先端のすき間を5～7mmに組付けます。



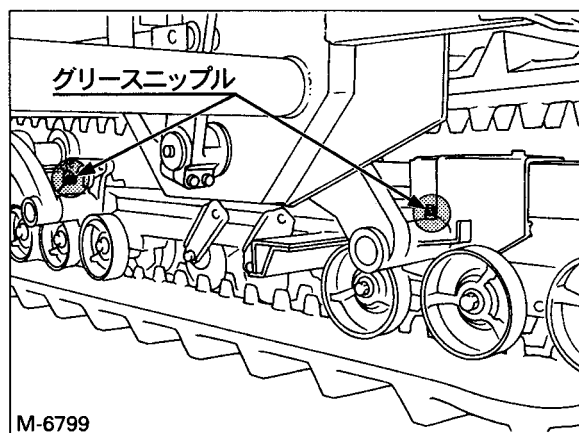
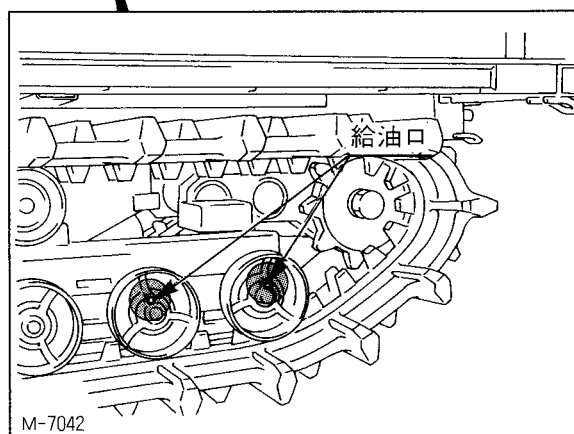
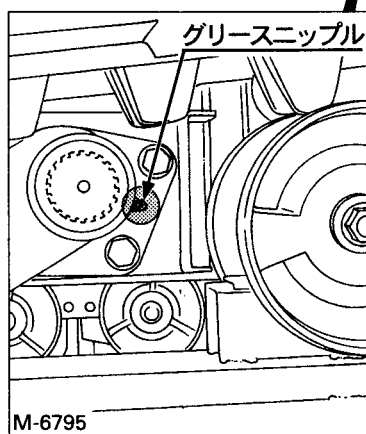
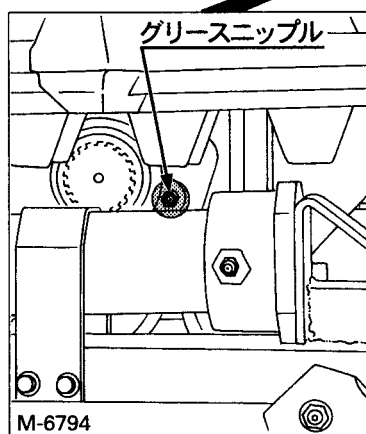
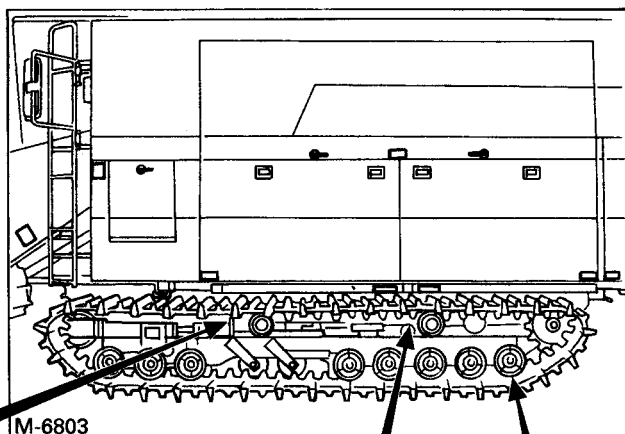
1年ごとに行なう項目

■グリースアップ・オイル補給

◆水平制御アーム軸受け部及びトラックローラ部

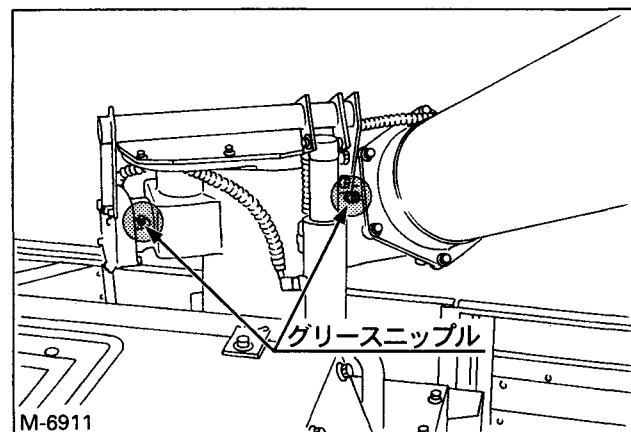
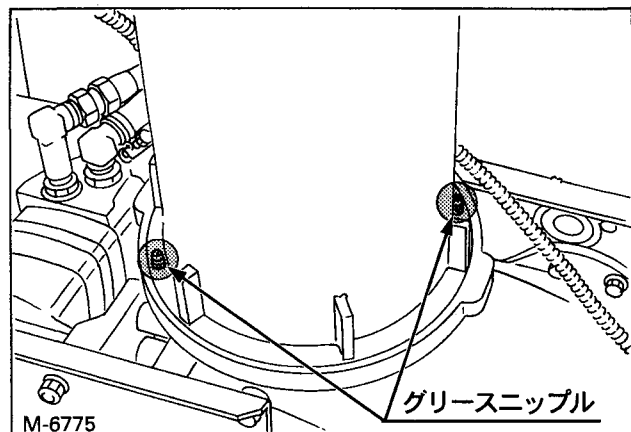
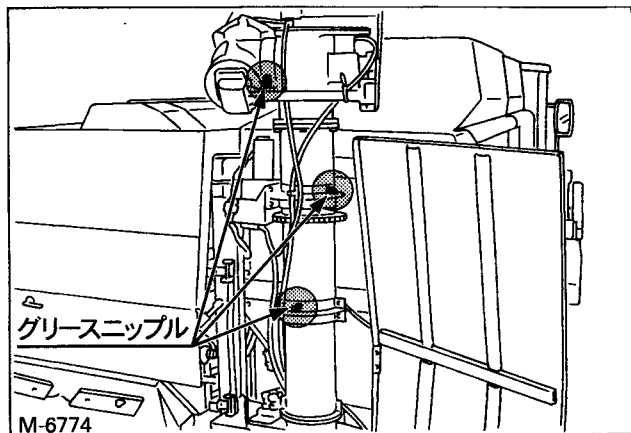
長期格納前又は分解時にグリースアップ及びオイル補給をします。

トラックローラ部は給油口を最上位置にし、オイル差しでオイルがあふれ出るまで補給します。このとき水や泥が出てきた場合は、購入先にご相談ください。補給栓は締付け時、ネジ部にシールテープを2～3巻、巻きます。



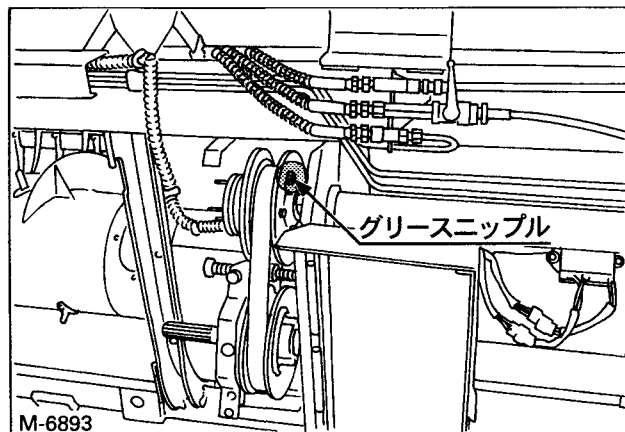
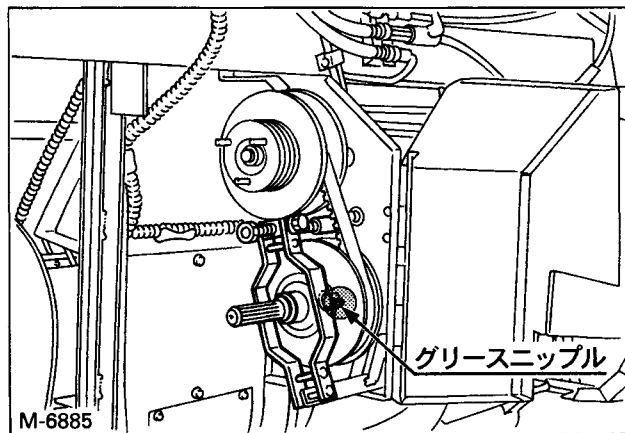
◆アンローダ回動部

長期格納前に、アンローダ回動部にグリースアップします。



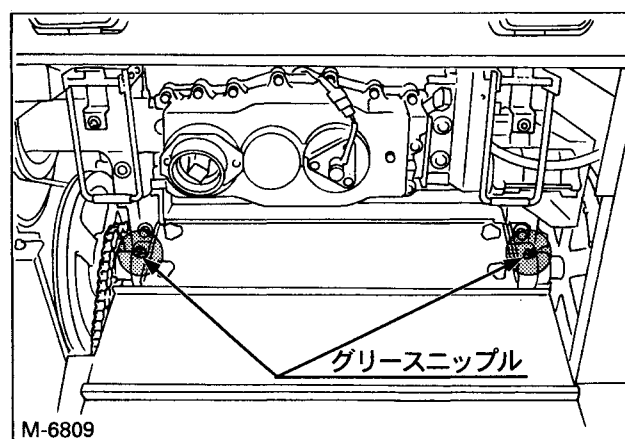
◆リール変速プーリ部

長期格納前に、リール変速プーリ部にグリースアップします。



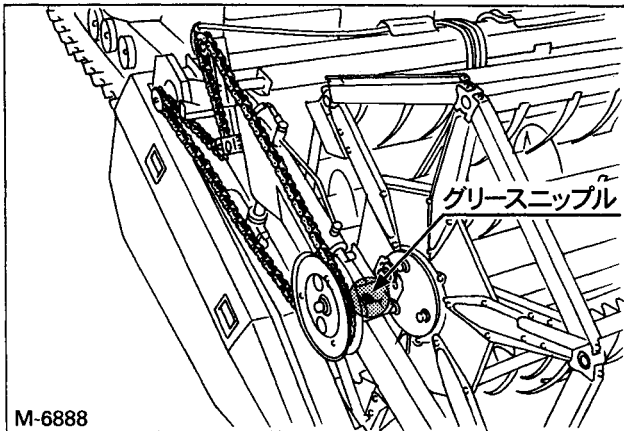
◆フィーダブラケット部

長期格納前に、フィーダブラケット部（左・右）にグリースアップします。

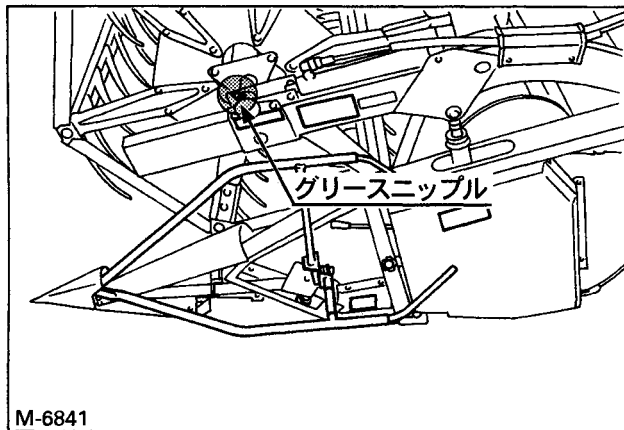


◆リールセンタシャフト部

長期格納前に、リールセンタシャフト部（左・右）にグリースアップします。



M-6888



M-6841

2年ごとに行なう項目

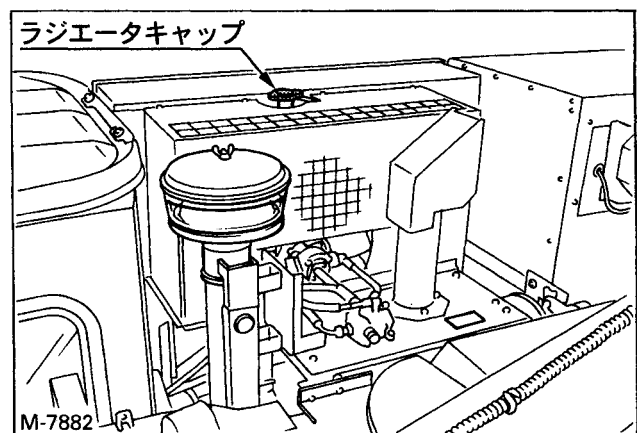
■冷却水の交換



注意

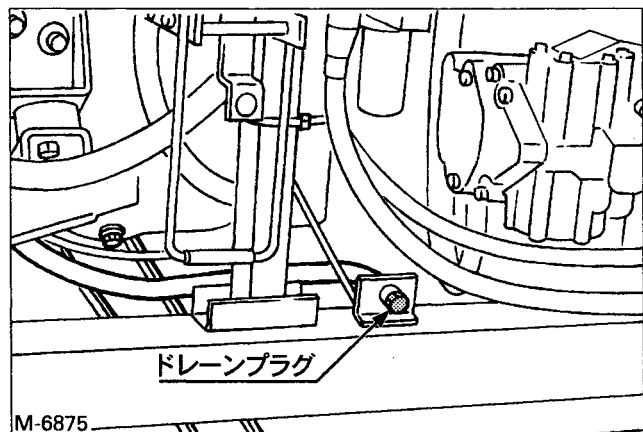
*ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出しやケドをすることがあります。停止後30分以上たって、冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてからキャップを外してください。

- ①ラジエータキャップを開きます。



M-7882

- ②排水用ドレーンプラグを外します。



M-6875

- ③リザーブタンクの排水は、ラジエータキャップのオーバーフローパイプを外し排水します。
- ④水道水又は洗剤でラジエータ内を洗浄し、ドレーンプラグを締めます。
- ⑤ラジエータに冷却水を注入したのち、ラジエータキャップを確実に締めてください。
- ⑥冷却水を循環させるため、しばらくエンジンを回してください。

エンジンを止め、不足していればリザーブタンクに冷却水を補充してください。

ラジエータ容量	18 L
リザーブタンク容量	1.1 L

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは、必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータに補給するか、又は冷却水を完全に排水してください。

〔工場出荷時は、不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕



Z-1007改

重 要

- * 不凍液量（ロングライフクーラント）は表に従い、よく水と混ぜ合せてからお使いください。
- * 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。
- * 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入すると沈積物が生成することとがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。
- * クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

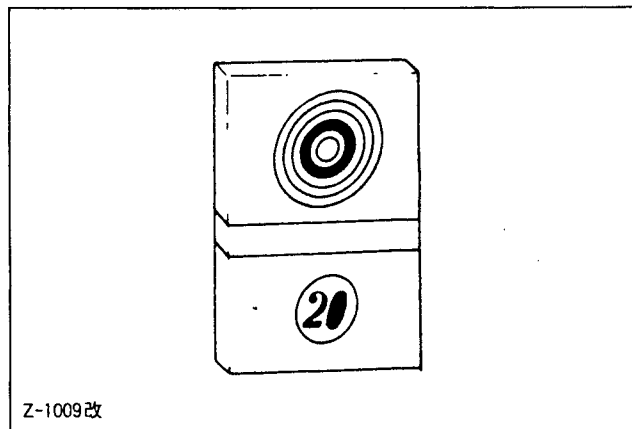
不凍液の保証不凍結温度

源液 混合比	%	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍 結温度	℃	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

◆ラジエータの洗浄

クボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すれば、水アカなどきれいに洗浄できます。

- 2年使用ごと
- 不凍液を混入するとき
- 不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。



Z-1009改

12. 格 納

長期格納時の手入れ



注 意

*シートをかける場合は火災を起こす原因になるので、マフラーやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。

■各部の清掃と補修

- (1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分をふき取ります。
- (2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを、完全に取除きます。
- (3)各回転部分や摩擦しゅう動部分には、じゅうぶん注油し、錆びないように配慮します。
- (4)各チェーンにもじゅうぶん注油して、錆びないように配慮します。
- (5)各部にこく粒やわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり配線部をかじられて、次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除きます。
- (6)塗料のはがれた所には補修塗料を塗って、錆びがでないようにします。
- (7)エンジン冷却水は抜いておきます。但し、クーラントが混入している場合は、抜かなくても構いません。
- (8)バッテリーをコンバインから取外し、風通しの良い冷暗所に保管します。また、コンバインに取付けたまま保管するときは、アース側(⊖側)を外します。バッテリーは保存中でも自然放電するので、夏は1カ月に1回、冬は2カ月に1回補充電する必要があります。(104ページ参照)
- (9)燃料は満タンにします。空にしておくと水滴がで、タンク内のサビの原因となります。
- (10)1～2カ月ごとに約1500min⁻¹(rpm)で5分程度の防錆のための運転をします。

重 要

*機体を洗う場合は、プレクリーナや電装部品に水がかからないようにしてください。

■各種レバー類とその他

- (1)エンジンは、アクセルレバーをいっぱい戻しておきます。
- (2)メインスイッチのキーは、抜取って保管します。
- (3)戸外に置く場合は、雨水がかからないようにシートでおおっておきます。
- (4)次の箇所にグリースを補充します。(120ページ参照)
 - *車体水平制御アーム軸受け部
 - *アンローダ回動部
 - *リール変速プーリ部
 - *リールセンタシャフト部(左・右)
 - *フィーダブラケット部

掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときあるいは収穫シーズンが終わったときには、掃除口を開き機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。



警告

*空運転するときにはこぎ胴天板をセットして、グレンタンク及びチョッパを閉じてください。

*刈取部のわらの巻付きやわらくずを取除くときには、エンジンを止めてください。



注意

*掃除をするときは、刈取部を一番下まで降ろしエンジンを停止させ、駐車ブレーキをロックしてください。

重要

*機体を洗う場合は、プレクリーナや電装品に水がかからないようにしてください。

*掃除口を閉じるときは、レバーを2～3回動かして掃除口にこく粒の付着がないことを確かめてから閉じてください。

*機内はよく乾燥させてから清掃してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。

*掃除の後、掃除口には確実にフタをしておいてください。フタを忘れるとこく粒が飛散します。

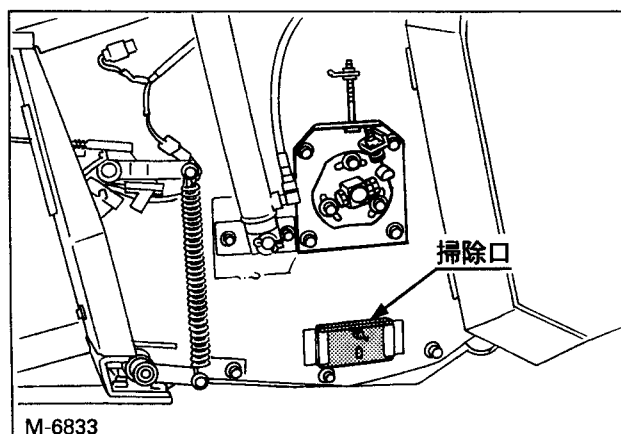
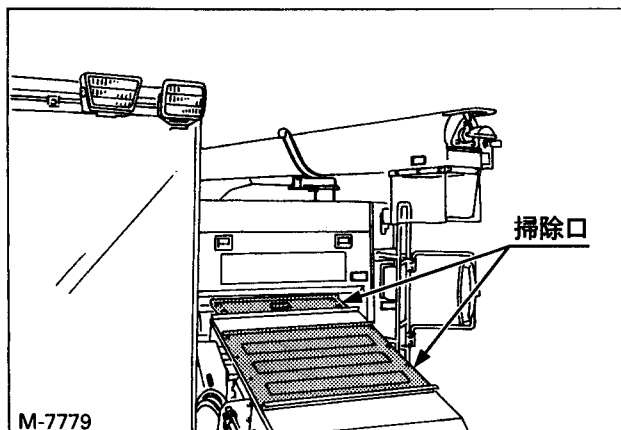
■空運転の手順

- ①自動脱こく制御切換えスイッチを“切”にし、チャフ・トウミの手動スイッチでそれぞれ全開と最強にセットします。
- ②エンジンを始動し、約3分間の空運転をします。
- ③グレンタンクオープンをし、内部にある掃除口を開きます。(44ページ参照)
- ④グレンタンクを閉じ、ロックします。
- ⑤脱こく左サイドカバーを開き、内部にある掃除口やフタを開きます。(46ページ参照)
- ⑥カバーを閉じます。
- ⑦この状態で、再度約3分間の空運転をします。
- ⑧空運転が終われば、コンプレッサやブロワなどを使ってこく粒を吹飛ばします。

■掃除口

掃除口は、以下の場所にあります。

◆刈取部



◆脱こく部

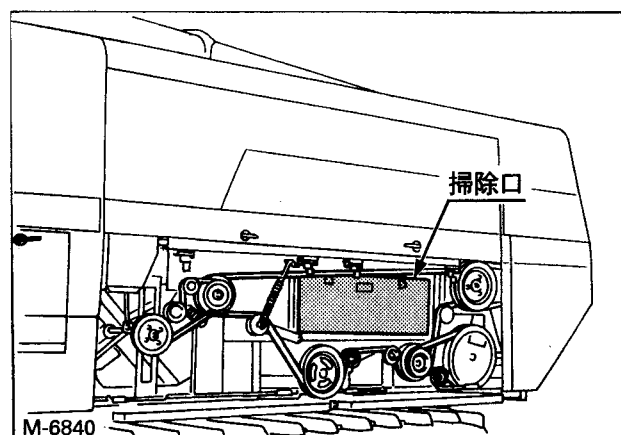


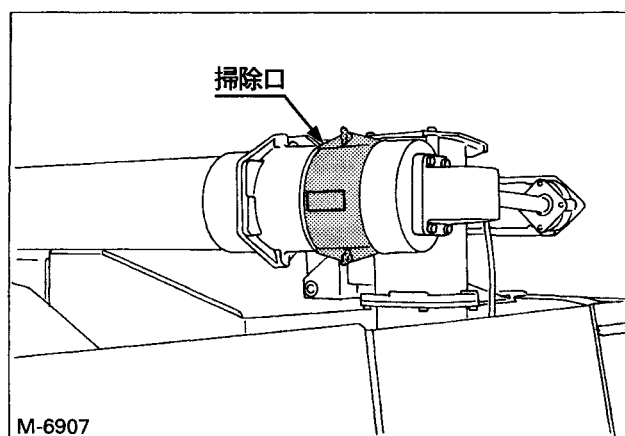
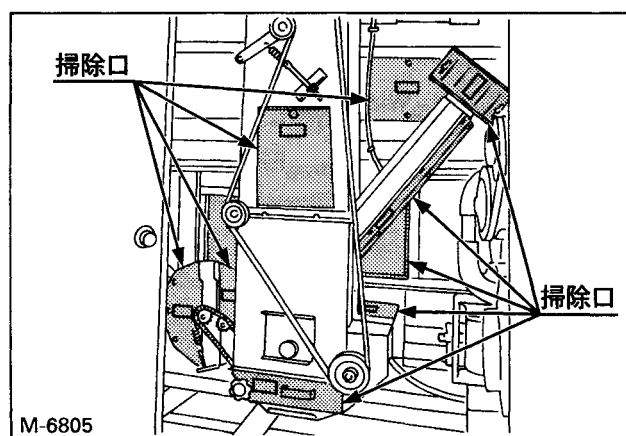
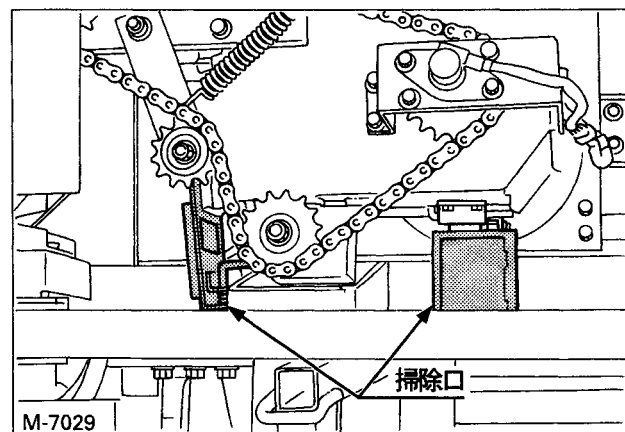
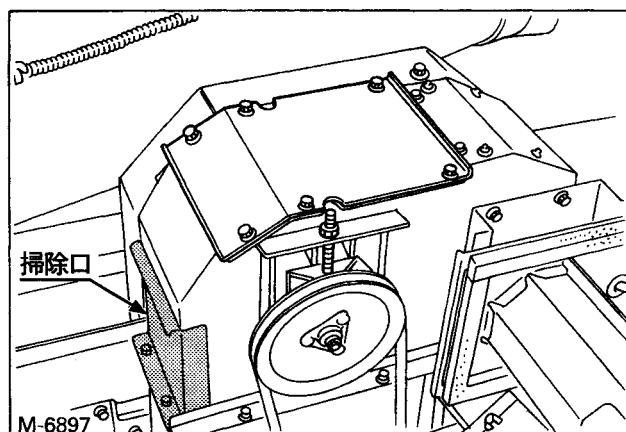
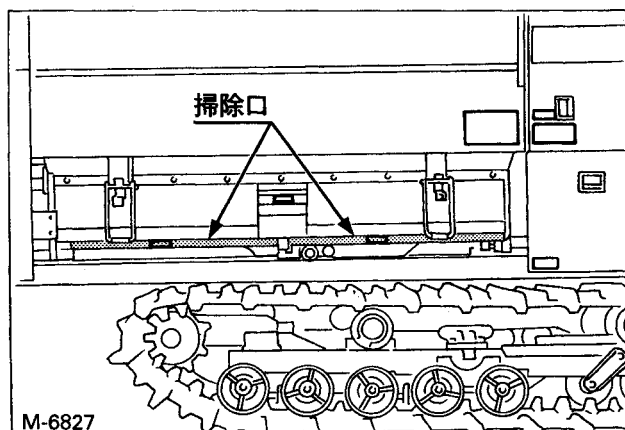
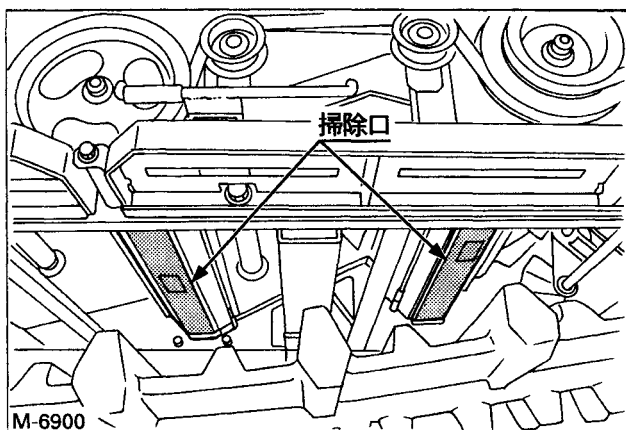
注意

*2番縦スクリュの掃除口の近くには、マフラなどの高温部があるので、温度が下がりヤケドのおそれがないことを確認してから作業をしてください。

重要

*トウミ軸のワらくずなども取除いてください。
*バケットコンベア下部は、高水分作物の作業を行った後には、必ず掃除をしてください。



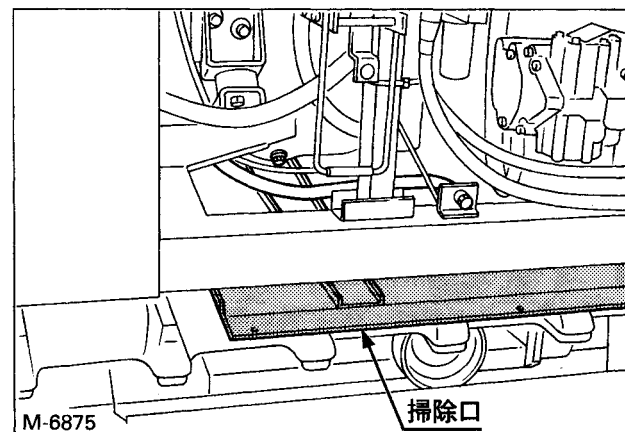


◆グレンタンク部

重要

*グレンタンク底の掃除口を開いたままで、グレンタンクオープンをしないでください。

◆エンジン部



各部の脱着のしかた

■刈取部



警告

- * 刈取部を昇降させるとき以外は、エンジンを必ず止めてください。
- * 刈取部の下で作業する場合は、刈取部の下降ロックをしてください。(42ページ参照)

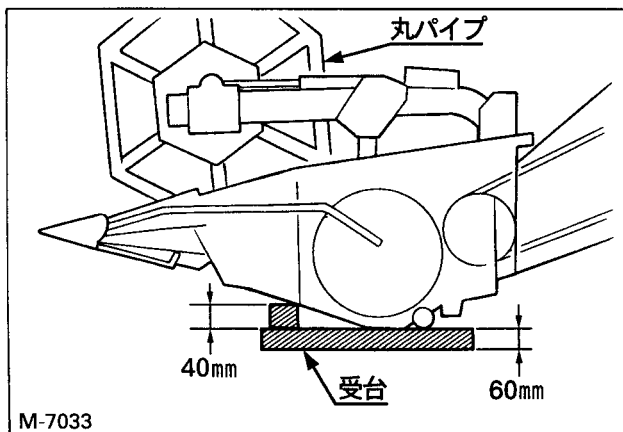


注意

- * リールは一番下まで降ろしてください。
 - * 受台が安定するように、なるべく平坦でかつ、地面が硬い場所で作業をしてください。
 - * 共同作業をするときは、ケガをするおそれがあるので合図をかけ合ってください。
 - * 脱着するときの車速は、最低速度で行なってください。
- また、刈取部を取外しての坂道走行は、登りは後進で、下りは前進で行なってください。

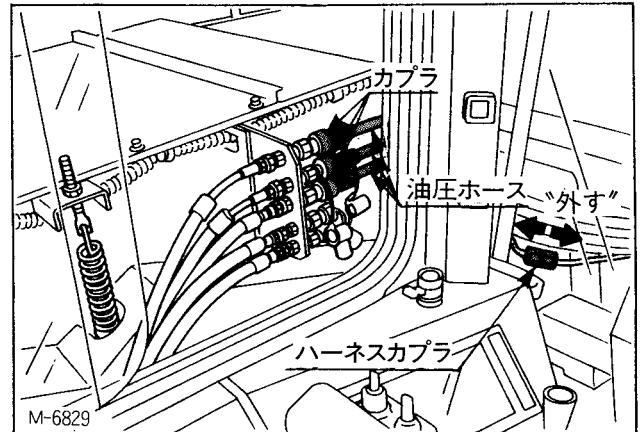
◆取外し方

- ① アクセルレバーでエンジン回転数を $2000\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以上にします。
副変速の標準と脱こくクラッチスイッチと刈取りクラッチが“切”であることを確認します。
- ② 刈取部を受台に降ろしたときの位置決めを行ないます。下図のような受台(角材や台車など)を準備して、刈取部をいったん降ろして、安定していることを確認します。(安定する位置になるまで行ないます。)

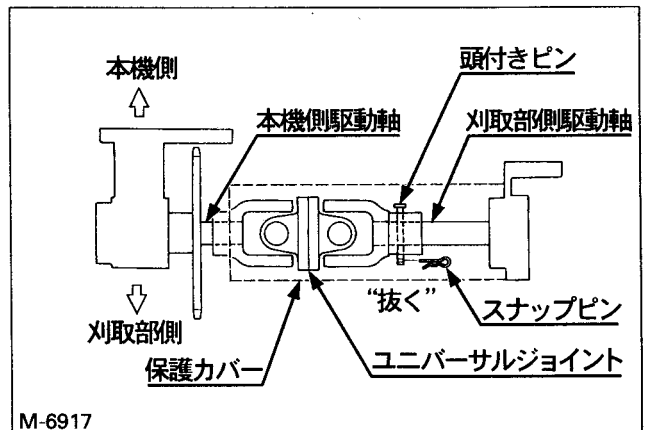
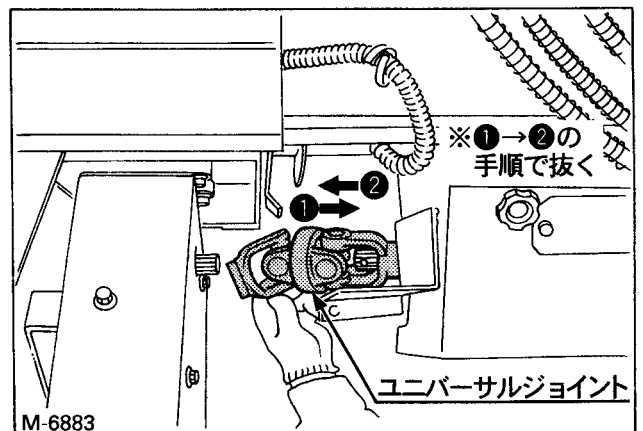


M-7033

- ③ 刈取部を一番上まで上げてエンジンを停止します。
- ④ 刈取部の下降ロック金具を刈取り昇降シリンダにセットします。(42ページ参照)
- ⑤ 運転席とフィーダの間にある油圧ホースのカプラ3本を取外します。取外したあとは、刈取部側へ油圧ホースを乗せます。そのあとハーネスのカプラを外します。



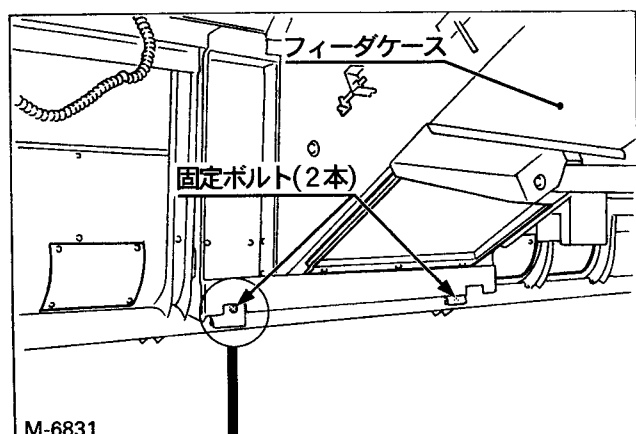
- ⑥ 刈取部駆動用のユニバーサルジョイントを取外します。このとき頭付きピンとスナップピンを取外して、ユニバーサルジョイントを右側へ寄せて抜取ります。



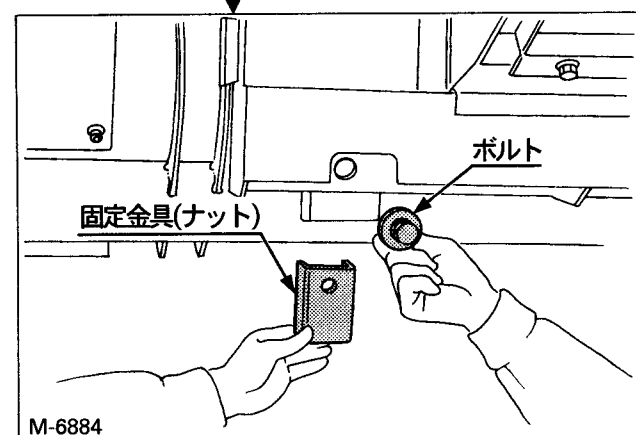
補足

- * 取外したユニバーサルジョイント、頭付きピンやスナップピンは大切に保管してください。

- ⑦フィーダケース下側の固定ボルト2本を取外します。



M-6831

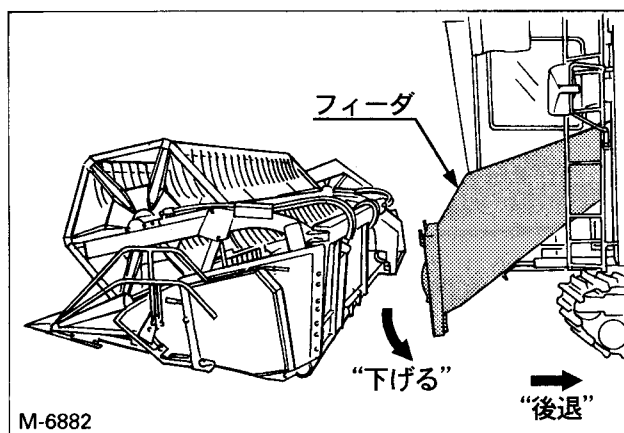


M-6884

補 足

*取外したボルトや平座金, ナット (固定金具) は大切に保管してください。

- ⑧刈取部の下降ロック金具を昇降シリンダから外して、ロック解除位置に引っ掛けます。
⑨エンジンを始動してフィーダを下げて、機体を後退させます。



M-6882

◆取付け方

“取外し方”の逆の手順で取付けを行ないます。

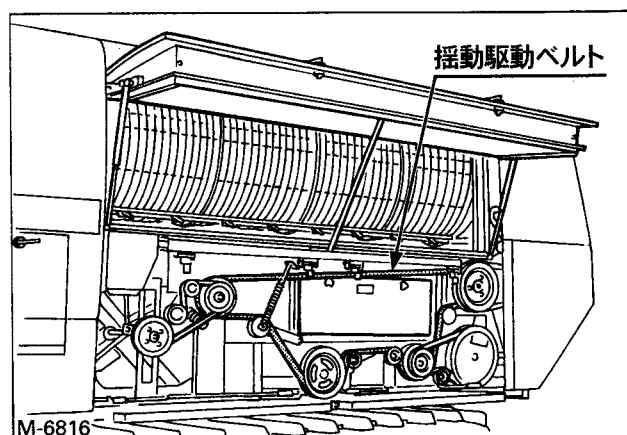
■シーブケース



注 意

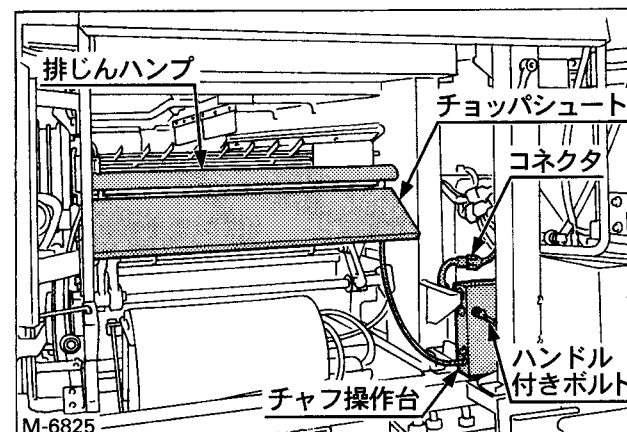
*シーブケースは重いので脱着作業は、3～4人で行ない“合図”を徹底してください。

- ①脱こくサイドカバーオープンをします。
(46ページ参照)
②脱こくサイドカバー前・後を外します。
③揺動駆動ベルトを外すか、又はプーリを回してシーブケースを最下位置にします。



M-6816

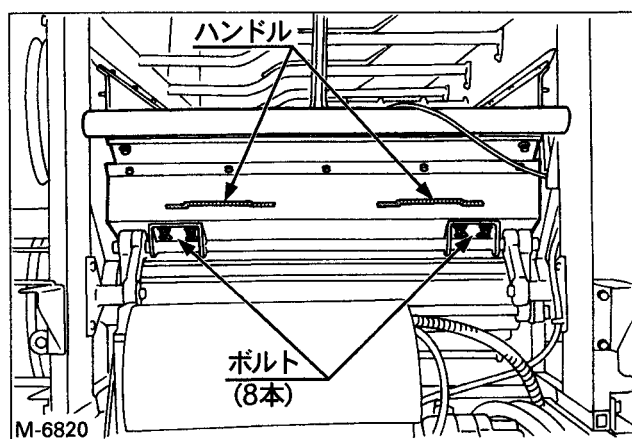
- ④チョップパオープンをします。(46ページ参照)
⑤排じんハンプをめくり上げます。
⑥チョップパシュートを外します。
⑦チャフ操作台のハンドル付きボルトをゆるめます。



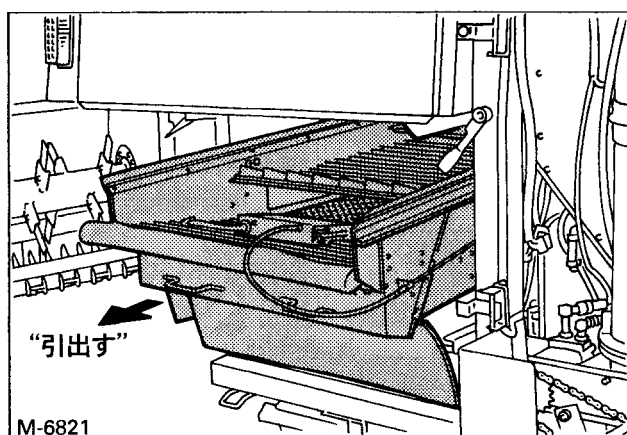
M-6825

- ⑧チャフハーネスのコネクタを外し、チャフ操作台をシーブケースの上に置きます。

- ⑨ シーブケース取付けボルト 8 本を外します。

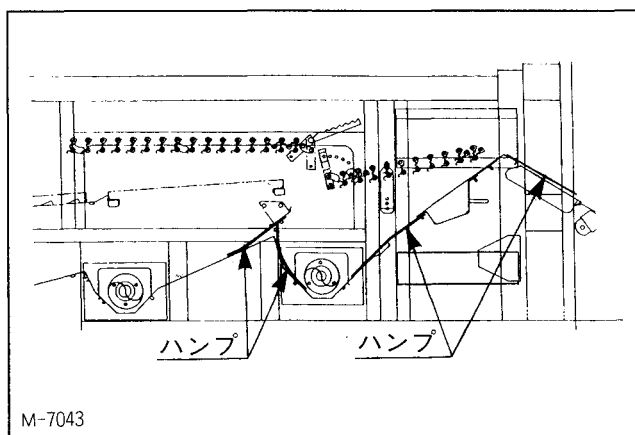


- ⑩ ハンドルを持ってシーブケースを引出します。



重 要

＊シーブケースを挿入したときには、脱こく左サイド
掃除口を開き、下図のようにハンブを修正してくだ
さい。



13. 付 表

主要諸元

●印=装備, △印=オプション, -印=なしを示します。

農 機 型 式 名				クボタSRH1400				
型 式				SRH1400				
区 分				CB	CBS	CBST	CBST3.0	CBRS
機 体 寸 法	全 長	mm		6900				
	全 幅	mm		3850		3250		3460
	全 高	mm		2690				
質 量		kg	6320	6400	6535	6450	6580	
エ ン ジ ン	名 称			カミンズB5.9-C				
	形 式			水冷4サイクル6気筒直噴ディーゼル(ターボ付)				
	総 排 気 量		L	5.883				
	出 力 / 回 転 速 度		kW/min ⁻¹ (PS/rpm)	103 / 2200 (140 / 2200)				
	使 用 燃 料			ディーゼル軽油				
	燃 料 タ ン ク 容 量		L	140				
	始 動 方 式			セルモータ式				
走 行 部	クローラ幅 × 接地長		mm	600 × 2500				
	クローラ 中心 距 離		mm	1600				
	平 均 接 地 圧		kPa(kg/cm ²)	20.6 (0.21)	20.9 (0.21)	21.3 (0.22)	21.1 (0.22)	21.5 (0.22)
	変 速 方 式			2 P/2 MHST, 副変速2段				
	走 行 速 度	前 進	m/s	標準：0～1.5 高速：0～2.5				
後 進		m/s	標準：0～1.3 高速：0～2.1					
刈 取 部	引 起 し 方 式			リール				自脱式
	刈 幅		mm	3580		2980		3275
	刈 取 り 条 数		条	—				10
	刃 幅		mm	3496		2896		3200
	刈 高 さ 範 囲		mm	-285～1320				-365～1270
	リール 変 速 方 式			車速同調制御				
脱 こ く 部	脱 こ く 方 式			軸流(スパイラルロータ)				
	こぎ胴径 × 長さ		mm	740 × 2750				
	こぎ胴 回 転 数		min ⁻¹ (rpm)	ギヤ変速3段(700,610,205)				
	コンケーブ 面 積		m ²	2.80				
	選 別 方 式			揺動・圧風				
こ く 粒 取 出 部	タ ン ク 容 量		L	2500				
	排 出 高 さ		mm	5900				
	排 出 長 さ		mm	4500				
	排 出 時 間		秒	120～200				
	こく粒 排 出 範 囲		度	270				
	排 出 昇 降 範 囲		度	50 (-2～48)				
	旋 回 方 式			レバー：電動モータ式				
	昇 降 方 式			レバー：油圧式				
	メ ン テ ナ ン ス			グレンタンクオープン				
	わ ら 処 理 機 構			△チョツパ	●チョツパ			
1 番	バ ケ ッ ト		●	●	●	●	●	
諸 装 置	マ イ コ ン		●	●	●	●	●	
	負 荷 表 示		●	●	●	●	●	
	ツ イ ン カ ッ タ		△	△	●	●(3.0)	—	
	自 動 化 装 置	自 動 刈 高 さ 制 御	●	●	●	●	●	
		自 動 脱 こ く 選 別 制 御	●	●	●	●	●	
		車 体 水 平 制 御	●	●	●	●	●	
		ア ン ロ ー ダ 自 動 旋 回	●	●	●	●	●	
	自 動 リール 回 転 数 制 御	●	●	●	●	—		
キ 型	ヤ ビ ン		●	●	●	●	●	
式 検 査			97054					

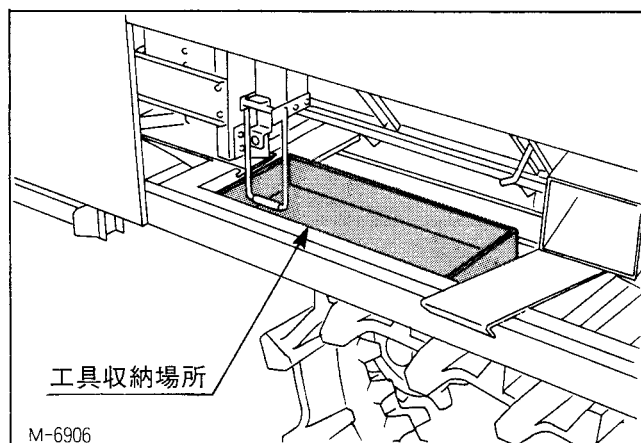
この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

標準付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

	数量
* サービスブック	1
* 取扱説明書	1
* カバー(角穴)	1
* カバー(受刃無し)	1
* スローブローヒューズ60A	1
* オイル差し	1
* ブラシ	1
* グレンシーブ13目	1
* グレンシーブ18目	1
* 工具	
工具袋	1
8 - 10スパナ	1
12 - 14スパナ	1
13 - 17スパナ	1
19 - 22スパナ	1
24 - 27スパナ	1
12 - 14メガネレンチ	1
17 - 19メガネレンチ	1
32スパナ	1
モンキレンチ	1
7ボックススパナ(4カク)	1
プライヤ	1
⊕⊖ドライバ(差し換え)	1

工具などは工具袋に入れて、下図の場所に収納しておきます。



オプション部品(別売品)

■3.6mリールヘッド

品 番	仕 様 ・ 用 途
51960-0000-0	刈幅 3580mm

■3.0mリールヘッド

品 番	仕 様 ・ 用 途
51963-0000-0	刈幅 2980mm

■3.6mリール用ツインカッタ

品 番	仕 様 ・ 用 途
51961-0000-0	3.6mリールヘッド

■3.0mリール用ツインカッタ

品 番	仕 様 ・ 用 途
51964-0000-0	3.0mリールヘッド

■チョツパ

品 番	仕 様 ・ 用 途
57697-0000-0	排わらを細断します

■大袋取りキット

品 番	仕 様 ・ 用 途
51977-0000-0	豆用大袋取り装置(タンク増量キット含む)

■ビーンキット

品 番	仕 様 ・ 用 途
51978-0000-0	大豆・小豆用コーンケーブ、ケース底板など

■タンク増量キット

品 番	仕 様 ・ 用 途
51976-0000-0	450 L 増量

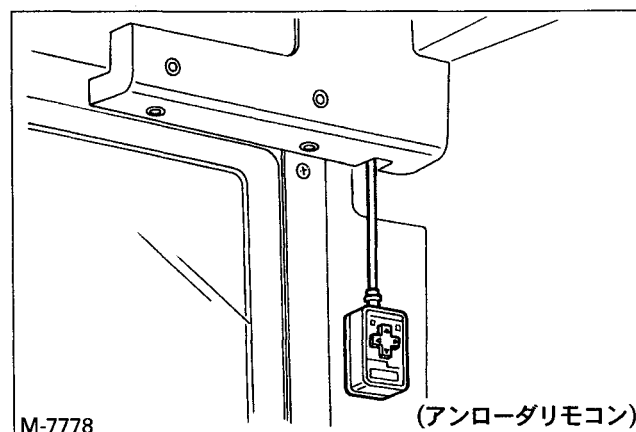
■排じんカバー

品 番	仕 様 ・ 用 途
51974-0000-0	チョツパを外した場合必要

■ヘッドキャリア

品 番	仕 様 ・ 用 途
51980-0000-0	刈取り部運搬用トレーラ

■アンローダリモコン



M-7778

(アンローダリモコン)

品 番	品 名
51950-9110-1	スイッチ、アッシ(アンローダ)

コンバイン(普通型)検査成績表

合格番号	97054	型式名	クボタ SRH1400	日	平成10年4月3日
依頼者名	株式会社クボタ	所	大阪府浪速区難津東1丁目2番47号	検査機関	生物系特定産業技術 研究推進機構
■ 刃幅：349.6cm (3.5m リールヘルツ仕様) ■ 全長：288.8cm (2.9m リールヘルツ仕様) ■ 機関出力：103.0kW [140PS] /2200rpm ■ 走行速度：前進 0~2.50m/s, 後進 0~2.30m/s ■ タンク容量：2500 l ■ 残荷処理装置、排荷細断装置、排荷拡散装置 ■ 自動水平制御装置、自動刈高さ制御装置、自動選別制御装置、自動リール高制御装置、自動リール回転速度同調制御装置、自動アローダ・張出・収納装置					



I 主要諸元・構造 (水稲収穫仕様)

- 機体の大きさ (作業時、3.5m リールヘルツ仕様)
 - 全長：698cm、全幅：419cm、全高：299cm
 - 質量：6722kg
- 燃費
 - 型式名：カミンズ B5.9-C
 - 種類：水冷4サイクル6気筒ディーゼル
 - 出力：103.0kW [140PS] /2200rpm
- 走行部
 - 形式：ゴムクローラ (幅60cm、接地長225cm)
 - 主変速：HST (無段)
 - 副変速：可変容量モータの斜板角変更 (2段)
 - 走行速度：前進 0~2.50m/s、後進 0~2.30m/s
- 脱穀・選別部
 - 脱穀形式：スクリーン型
 - ごき網：直径58cm、長さ275cm
 - コンケーブ：格子網
 - 選別方式：揺動板 (篩)、圧風ファン
- 穀粒処理部
 - タンク容量：2500 l
- 付属装置
 - 残荷処理装置、排荷細断装置、排荷拡散装置

注1 小麦収穫時の仕様は水稲収穫時と同一である。

注2 大豆収穫時はリールタイプ数の増加、コンケーブ、1番及び2番オーガ下部磨砕量、バケットコンベヤ下面などを交換する。

II 検査成績

供試作物		作業の性能		含水率 ²⁾ (%)		概略収量 ⁴⁾ (kg/10a)
		品	種	全長 (cm)	株間 (cm)	
水稲	あきたこまち	30	19	95	25.7-27.3	630
	チホクコムギ	14	89	89	17.5-18.7	530
	むらゆたか	73	73	73	14.2-14.7	390
				含水率 ²⁾ (%)		
				穀粒	わら(茎) ³⁾	
				25.7-27.3	65.3-66.8	
				17.5-18.7	43.7-58.2	
				14.2-14.7	27.5-36.4	
				25.9-28.0	16.2-16.6	

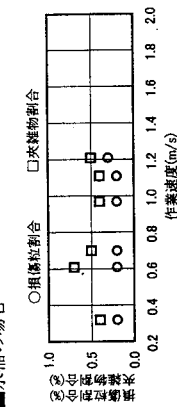
*1: 小麦及び大豆の穀粒様式は条播であった。

*2: 大豆の場合、上段は午前中に試験を行った時の水分範囲で、下段は午後の試験中の水分範囲である。

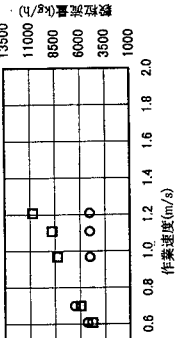
*3: わら(茎)の欄は、水稲及び小麦の場合はわらの含水率で、大豆の場合は茎の含水率である。

*4: 水稲及び大豆の場合は穀粒含水率が15%、小麦の場合は12.5%に換算したときの値である。

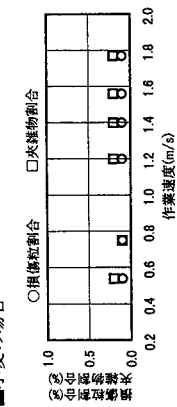
■ 水稲の場合



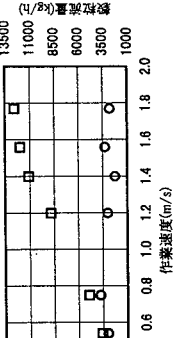
■ 小麦の場合



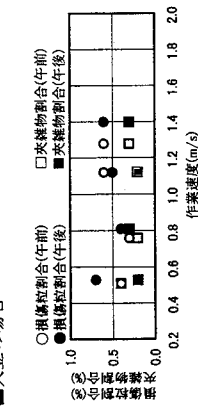
■ 大豆の場合



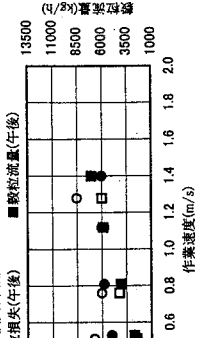
■ 小麦の場合



■ 大豆の場合



■ 小麦の場合



(2) 能率試験 (3.5m リールヘルツ仕様及び2.9m リールヘルツ仕様)

供試作物	品	種	条間 (cm)	株間 (cm)	全長 (cm)	含水率 (%)		概略収量 ²⁾ (kg/10a)
						穀粒	わら(茎)	
水稲	あきたこまち	29	13	105	25.4	65.7	(-)	540
	チホクコムギ	15	(17)	(94)	(26.0)	(63.1)	(-)	(620)
	むらゆたか	73	(15)	(88)	(24.5)	(59.5)	(-)	(300)
小麦	あきたこまち	29	13	105	25.4	65.7	(-)	540
	チホクコムギ	15	(17)	(94)	(26.0)	(63.1)	(-)	(620)
	むらゆたか	73	(15)	(88)	(24.5)	(59.5)	(-)	(300)
大豆	あきたこまち	29	13	105	25.4	65.7	(-)	540
	チホクコムギ	15	(17)	(94)	(26.0)	(63.1)	(-)	(620)
	むらゆたか	73	(15)	(88)	(24.5)	(59.5)	(-)	(300)

*1: 小麦及び大豆の穀粒様式は条播であった。

*2: 水稲及び大豆の場合は穀粒含水率が15%、小麦の場合は12.5%に換算したときの値である。

供試作物	品	種	条間 (cm)	株間 (cm)	全長 (cm)	含水率 (%)	穀粒 (kg/ha)	わら(茎) (kg/ha)	概略収量 ²⁾ (kg/10a)
水稲	あきたこまち	29	13	105	25.4	65.7	(-)	(-)	540
小麦	あきたこまち	29	13	105	25.4	65.7	(-)	(-)	540
大豆	あきたこまち	29	13	105	25.4	65.7	(-)	(-)	540

2. 運転者耳元の騒音：水稲収穫時 85dB(A)、小麦収穫時 87dB(A)、大豆収穫時 84dB(A)

3. 安全装置：可動部・高温部・突起部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置

4. その他：自動水平制御装置、自動刈高さ制御装置、自動選別制御装置、自動リール高制御装置、自動アローダ・張出・収納装置は円滑に動作した。

III 付 記

本機は、高性能農業機械等の試験研究、実用化の促進及び導入に関する基本方針(平成5年8月30日農林水産大臣公表)に定められたコンバインの第V類普通型に属するものである。

クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは、コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを、必ずお使いください。

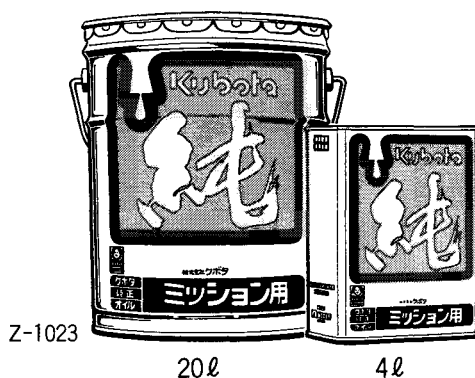
市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは、販売店又は J A 農協へご用命ください。

●脱こく機には…

■クボタ純オイル

M90



Z-1023

20ℓ

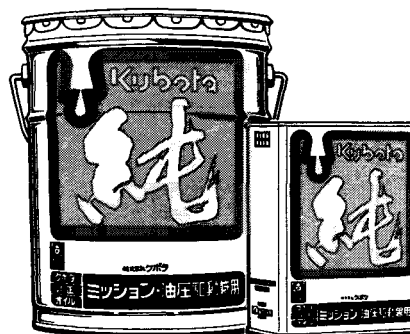
4ℓ

●オイルタンク (HST) には…

■クボタ純オイル

NEW・UDT

(ミッション・油圧兼用)



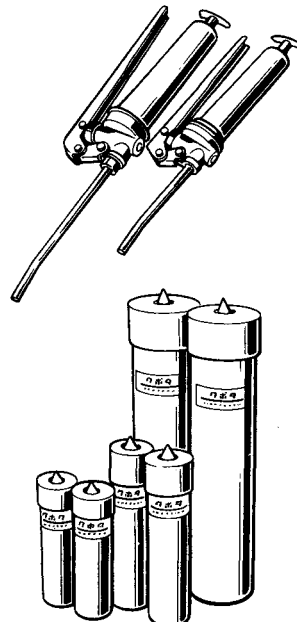
Z-1021

20ℓ

4ℓ

●グリースアップには…

■クボタスペアグリース



Z-1026

60

100

400

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区敷津東 1 丁目 2 番 47 号	〒556-8601	電(06)	648-2111
東 京 本 部	社：東京都中央区日本橋室町 3 丁目 1 番 3 号	〒103-8310	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 店	社：札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 番地 44(札幌富士ビル)	〒060-0003	電(011)	214-3111
東 北 支 店	社：仙台市青葉区本町 2 丁目 15 番 11 号	〒980-0014	電(022)	267-9000
中 部 支 店	社：名古屋市中村区名駅 3 丁目 22 番 8 号(大東海ビル)	〒450-0002	電(052)	564-5111
九 州 支 店	社：福岡市博多区博多駅前 3 丁目 2 番 8 号(住友生命博多ビル)	〒812-0011	電(092)	473-2401
札 幌 支 店	店：札幌市西区西町北 16 丁目 1 番 1 号	〒063-0061	電(011)	662-2121
仙 台 支 店	店：名取市田高字原 182 番地の 1	〒981-1221	電(022)	384-5151
東 京 支 店	店：浦和市西堀 5 丁目 2 番 36 号	〒338-0832	電(048)	862-1121
大 阪 支 店	店：大阪府堺市緑ヶ丘北町 1 丁目 1 番 36 号	〒590-0806	電(0722)	41-8506
岡 山 支 店	店：岡山市栄 275 番地	〒703-8216	電(0862)	79-4511
福 岡 支 店	店：福岡市東区和白丘 2 丁目 2 番 76 号	〒811-0213	電(092)	606-3161
堺 製 造 所	所：堺市石津北町 64 番地	〒590-0823	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	場：宇都宮市平出工業団地 22 番地 2	〒321-0905	電(0286)	61-1111
筑 波 工 場	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田 10 番地	〒300-2402	電(0297)	52-5112
枚 方 製 造 所	所：枚方市中宮大池 1 丁目 1 番 1 号	〒573-0004	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	：堺市築港新町 3 丁目 8 番	〒592-8331	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田 10 番地	〒300-2402	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	：北海道北広島市大曲工業団地 3 丁目 1 番地	〒061-1274	電(011)	376-2335
九州部品センター	：福岡市東区和白丘 2 丁目 2 番 76 号	〒811-0213	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
	秋 田事業所：秋田市寺内字大小路 207-54	〒011-0901	電(0188)	45-1601
	仙 台事業所：宮城県名取市田高字原 182 番地の 1	〒981-1221	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
	東 京事業所：浦和市西堀 5 丁目 2 番 36 号	〒338-0832	電(048)	862-1121
	新 潟事業所：新潟市上所上 1-14-15	〒950-0992	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
	金 沢事業所：石川県松任市下柏野町 956-1	〒924-0038	電(0762)	75-1121
	名古屋事業所：愛知県一宮市観音町 1 番地の 1	〒491-0031	電(0586)	24-5111
	大 阪事業所：大阪府堺市緑ヶ丘北町 1 丁目 1 番 36 号	〒590-0806	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
	米 子事業所：米子市米原 7 丁目 1 番 1 号	〒683-0804	電(0859)	33-5011
	岡 山事業所：岡山市栄 275 番地	〒703-8216	電(0862)	79-4511
	高 松事業所：香川県綾歌郡国分寺町国分字向 647-3	〒769-0102	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
	福 岡事業所：福岡市東区和白丘 2 丁目 2 番 76 号	〒811-0213	電(092)	606-3161
	熊 本事業所：熊本県下益城郡富合町大字廻江 846-1	〒861-4147	電(096)	357-6181

品番 51979-8511-2

Kubota